別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジンチュウオウダイガク 学校法人　中央大学	
フリガナ 大学の名称	チュウオウダイガク 中央大学（Chuo University）	
大学本部の位置	東京都八王子市東中野742番地１	
大学の目的	中央大学は、その伝統および私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もって個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。	
新設学部等の目的	経済学の多様な理論・政策・歴史・制度と一般教養に裏付けられた広い視野で現実を捉える力、統計や経営・会計の観点からデータを分析できる情報の収集・分析能力、多様な考えをもつ他者と新しい経済社会を共創することができる自律的な共創力、経済社会の新しい「当たり前」を創りだすことができる批判的な創造力を有した人材を養成することを目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人				
経済学部 （Faculty of Economics）	4年	520人	―	2,080人	学士 （経済学） 〔Bachelor of Economics〕	経済学関係	令和9年4月 第1年次	東京都八王子市東中野742番地１
社会経済学科 （Department of Society and Economics）								
計		520人	―	2,080人				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

令和8年3月　収容定員の変更に係る学則変更認可申請
　経済学部
　　経済学科〔定員増〕（542）（令和9年4月）
　　社会経済学科〔定員増〕（520）（令和9年4月）
　スポーツ情報学部
　　スポーツ情報学科〔定員増〕（295）（令和9年4月）

経済学部　経済学科（542）（令和8年4月届出予定）
スポーツ情報学部　スポーツ情報学科（295）（令和8年4月届出予定）

経済学部　経済学科（廃止）　（△467）
経済学部　経済情報システム学科（廃止）　（△180）
経済学部　国際経済学科（廃止）　（△265）
経済学部　公共・環境経済学科（廃止）　（△150）
※令和9年4月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
経済学部　社会経済学科	262科目	102科目	21科目	385科目	124単位

新設分

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）
	教授	准教授	講師	助教	計		
	人	人	人	人	人	人	人
経済学部　社会経済学科	21 (21)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	41 (41)	0 (0)	240 (162)
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	12 (12)	0 (0)	1 (1)	29 (29)		
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	12 (12)		
小計（ａ～ｂ）	21 (21)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	41 (41)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　17人

	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	21 (21)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	41 (41)			
経済学部　経済学科		20 (20)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	40 (40)	0 (0)	235 (164)	令和8年4月 届出予定 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　17人
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	17 (17)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	31 (31)			
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	小計（ａ～ｂ）	20 (20)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	40 (40)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	20 (20)	18 (18)	0 (0)	2 (2)	40 (40)			
スポーツ情報学部　スポーツ情報学科		18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)	0 (0)	71 (44)	令和8年4月 届出予定 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　15人
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)			
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	18 (16)	11 (10)	0 (0)	1 (1)	30 (27)			
計		59 (57)	47 (46)	0 (0)	5 (5)	111 (108)	0 (0)	－ (－)	
既設分		人	人	人	人	人	人	人	
法学部　法律学科		43 (43)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	58 (58)	0 (0)	485 (485)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	40 (40)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	55 (55)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　24人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)			
	小計（ａ～ｂ）	43 (43)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	58 (58)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	43 (43)	11 (11)	0 (0)	4 (4)	58 (58)			

法学部　政治学科	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	466 (466)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　14人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	18 (18)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	27 (27)			
法学部　国際企業関係法学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	435 (435)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
商学部　経営学科	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	340 (340)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	18 (18)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	26 (26)			
商学部　会計学科	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	345 (345)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			
商学部　国際マーケティング学科	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	343 (343)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	18 (18)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			
商学部　金融学科	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	347 (347)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)			
基幹理工学部　数学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	157 (144)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
基幹理工学部　物理学科	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	170 (154)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

小計（a～b）	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
基幹理工学部　応用化学科	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	166 (157)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	13 (13)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（a～d）	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)			
基幹理工学部　生命科学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	175 (155)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（a～b）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
社会理工学部　都市環境学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	172 (157)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			

社会理工学部 ビジネスデータサイエンス学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	176 (164)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (9)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
社会理工学部　人間総合理工学科	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	158 (154)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　６人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
先進理工学部　精密機械工学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	204 (175)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
先進理工学部　電気電子情報通信工学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	182 (146)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（ａ～ｄ）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)			
先進理工学部　情報工学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	172 (155)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　７人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
文学部　人文社会学科	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)	0 (0)	375 (375)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　28人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	70 (70)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	84 (84)			
総合政策学部　政策科学科	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	211 (211)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　11人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			
ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	17 (17)			
総合政策学部　国際政策文化学科	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	213 (213)	
ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　８人
ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

小計（a～b）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
国際経営学部　国際経営学科	16 (16)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	149 (149)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	16 (16)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	22 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　13人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（a～b）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	16 (16)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	23 (23)			
国際情報学部　国際情報学科	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	138 (138)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　12人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	14 (14)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	18 (18)			
法学部　通信教育課程	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	0 (0)	119 (119)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
小計（a～b）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
計（a～d）	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)			
計	359 (359)	108 108	(0) (0)	9 (9)	476 (476)	0 (0)	－ (－)	

合　　計	418 (416)	155 (154)	(0) (0)	14 (14)	587 (584)	0 (0)	－ (－)	

職　　種	専　属	その他	計
	人	人	人
事務職員	426 (426)	481 (481)	907 (907)
技術職員	13 (13)	33 (33)	46 (46)
図書館職員	5 (5)	8 (8)	13 (13)
その他の職員	3 (3)	0 (0)	3 (3)
指導補助者	0 (0)	535 (535)	535 (535)
計	447 (447)	1057 (1057)	1504 (1504)

校地等	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	511,673.77㎡	0㎡	0㎡	511,673.77㎡	借地面積：20,530.79㎡ 借用期間：20年～50年
	その他	51,505.26㎡	0㎡	0㎡	51,505.26㎡	
	合計	563,179.03㎡	0㎡	0㎡	563,179.03㎡	

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	
	311,502.43㎡ (　311,502.43㎡　)	0㎡ (　　0　㎡)	0㎡ (　　0　㎡)	311,502.43㎡ (　311,502.43㎡　)	

教室・教員研究室	教　室	908室	教員研究室	41室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	図書 電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	学術雑誌 電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	※① 左記電子図書、電子ジャーナルは学部等単位で特定不能なため、計は大学全体の数とし、図書、学術雑誌の計に含めている。 また、左記とは別に大学全体共用分は以下のとおり 図書 (1,965,955[691,427]) 学術雑誌 (28,143[12,873]) ※②機械・器具、標本は学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	経済学部 社会経済学科	255,828〔122,675〕 (248,412〔120,977〕)	－ (－)	707〔121〕 (707〔121〕)	－ (－)	※② 29,849 ※② (29,849)	※② 44 ※② (44)	
	計	255,828〔122,675〕 (248,412〔120,977〕)	※①1,555,801〔1,543,514〕 ※① (1,507,051〔1,496,264〕)	707〔121〕 (707〔121〕)	※①102,286〔102,134〕 ※① (102,286〔102,134〕)	※② 29,849 ※② (29,849)	※② 44 ※② (44)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	2,232.55㎡	0㎡	24,937.29㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		580千円	580千円	580千円	580千円	－千円	－千円	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	共同研究費等		12,981千円	12,981千円	12,981千円	12,981千円	－千円	－千円	
	図書購入費	48,594千円	48,594千円	48,594千円	48,594千円	48,594千円	－千円	－千円	
	設備購入費	1,352千円	1,352千円	1,352千円	1,352千円	1,352千円	－千円	－千円	
学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
			1,361千円	1,143千円	1,165千円	1,165千円	－千円	－千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			学生納付金以外の維持方法は、次のとおりです。 ①手数料収入（入学検定料収入、試験料収入、証明手数料収入等） ②補助金収入（国庫補助金収入等）						

大学等の名称	中央大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部						1.02 《0.98》		東京都文京区大塚1丁目4番1	
法律学科	4	882	—	3,528	学士 (法学)	1.01 《0.98》	昭和29年度		
政治学科	4	389	—	1,556	学士 (法学)	1.04 《1.00》	昭和29年度		
国際企業関係法学科	4	168	—	672	学士 (法学)	1.02 《0.98》	平成5年度		
経済学部						1.05 《1.01》		東京都八王子市東中野742番1	
経済学科	4	467	—	1,868	学士 (経済学)	1.04 《1.00》	昭和38年度		※令和9年4月より学生募集停止
経済情報システム学科	4	180	—	720	学士 (経済学)	1.13 《1.09》	昭和38年度		※令和9年4月より学生募集停止
国際経済学科	4	265	—	1,060	学士 (経済学)	1.03 《0.97》	昭和38年度		※令和9年4月より学生募集停止
公共・環境経済学科	4	150	—	600	学士 (経済学)	1.05 《1.00》	平成5年度		※令和9年4月より学生募集停止
商学部						1.07 《1.02》		東京都八王子市東中野742番1	
経営学科	4	300	—	1,200	学士 (商学)	1.06 《1.00》	昭和38年度		
会計学科	4	300	—	1,200	学士 (商学)	1.11 《1.06》	昭和38年度		
国際マーケティング学科	4	300	—	1,200	学士 (商学)	1.06 《0.01》	昭和38年度		
金融学科	4	120	—	480	学士 (商学)	1.07 《0.97》	平成6年度		
理工学部						—		東京都文京区春日1丁目13番27号	
数学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	昭和37年度		※令和8年4月より学生募集停止
物理学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	昭和37年度		※令和8年4月より学生募集停止
都市環境学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	昭和24年度		※令和8年4月より学生募集停止
精密機械工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	昭和24年度		※令和8年4月より学生募集停止
電気電子情報通信工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	昭和24年度		※令和8年4月より学生募集停止
応用化学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	昭和24年度		※令和8年4月より学生募集停止
ビジネスデータサイエンス学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	昭和37年度		※令和8年4月より学生募集停止
情報工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成4年度		※令和8年4月より学生募集停止
生命科学科	4	—	—	—	学士 (理学)	—	平成20年度		※令和8年4月より学生募集停止

	人間総合理工学科	4	―	―	―	学士 (工学)	―	平成25年度		※令和8年4月より 学生募集停止
	基幹理工学部						0.87 《0.87》		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	数学科	4	70	―	70	学士 (理学)	0.81 《0.81》	令和8年度		
	物理学科	4	70	―	70	学士 (理学)	0.92 《0.92》	令和8年度		
	応用化学科	4	145	―	145	学士 (工学)	0.89 《0.89》	令和8年度		
	生命科学科	4	75	―	75	学士 (理学)	0.85 《0.85》	令和8年度		
	社会理工学部						0.98 《0.98》		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	都市環境学科	4	90	―	90	学士 (工学)	0.96 《0.96》	令和8年度		
	ビジネスデータサイエンス学科	4	115	―	115	学士 (工学)	0.99 《0.99》	令和8年度		
	人間総合理工学科	4	75	―	75	学士 (工学)	1.00 《1.00》	令和8年度		
	先進理工学部						0.95 《0.95》		東京都文京区春日1丁目13番27号	
	精密機械工学科	4	145	―	145	学士 (工学)	0.98 《0.98》	令和8年度		
	電気電子情報通信工学科	4	135	―	135	学士 (工学)	0.91 《0.91》	令和8年度		
	情報工学科	4	100	―	100	学士 (工学)	0.95 《0.95》	令和8年度		
	文学部						1.05 《1.00》		東京都八王子市東中野742番1	
	人文社会学科	4	990	―	3,960	学士 (文学) 学士 (史学) 学士 (哲学) 学士 (社会学) 学士 (教育学)	1.05 《1.00》	平成18年度		
	総合政策学部						1.05 《1.01》		東京都八王子市東中野742番1	
	政策科学科	4	150	―	600	学士 (総合政策)	1.06 《1.02》	平成5年度		
	国際政策文化学科	4	150	―	600	学士 (総合政策)	1.05 《1.01》	平成5年度		

	国際経営学部						1.09 《1.02》		東京都八王子市東中野742番1	
	国際経営学科	4	300	—	1,200	学士 (国際経営学)	1.09 《1.02》	平成31年度		
	国際情報学部						1.07 《1.04》		東京都新宿区市谷田町1丁目18番	
	国際情報学科	4	150	—	600	学士 (国際情報)	1.07 《1.04》	平成31年度		
	通信教育部 (法学部通信教育課程)	4	3,000	—	12,000	学士 (法学)	0.43	昭和25年度	東京都八王子市東中野742番1	
	法学研究科 (博士課程前期課程)						0.23		東京都文京区大塚1丁目4番1	
	公法専攻 (博士課程前期課程)	2	8	—	16	修士 (法学)	0.50	昭和55年度		
	民事法専攻 (博士課程前期課程)	2	20	—	40	修士 (法学)	0.20	昭和26年度		
	刑事法専攻 (博士課程前期課程)	2	10	—	20	修士 (法学)	0.50	昭和26年度		
	国際企業関係法専攻 (博士課程前期課程)	2	20	—	40	修士 (法学)	0.02	平成9年度		
	政治学専攻 (博士課程前期課程)	2	15	—	30	修士 (政治学)	0.26	昭和26年度		
	法学研究科 (博士課程後期課程)						0.44		東京都文京区大塚1丁目4番1	
	公法専攻 (博士課程後期課程)	3	3	—	9	博士 (法学)	0.77	昭和55年度		
	民事法専攻 (博士課程後期課程)	3	7	—	21	博士 (法学)	0.28	昭和28年度		
	刑事法専攻 (博士課程後期課程)	3	5	—	15	博士 (法学)	1.06	昭和28年度		
	国際企業関係法専攻 (博士課程後期課程)	3	10	—	30	博士 (法学)	0.16	平成11年度		
	政治学専攻 (博士課程後期課程)	3	3	—	9	博士 (政治学)	0.33	昭和28年度		
	経済学研究科 (博士課程前期課程)						0.55		東京都八王子市東中野742番1	
	経済学専攻 (博士課程前期課程)	2	50	—	100	修士 (経済学)	0.55	昭和26年度		
既設大学等の状況	経済学研究科 (博士課程後期課程)						0.40		東京都八王子市東中野742番1	
	経済学専攻 (博士課程後期課程)	3	10	—	30	博士 (経済学) 博士 (会計学) 博士 (経営学)	0.40	昭和36年度		

商学研究科 （博士課程前期課程）							1.12		東京都八王子市東中野742番1
商学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 (商学)		1.12	昭和26年度	
商学研究科 （博士課程後期課程）							0.53		東京都八王子市東中野742番1
商学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	—	15	博士 (商学) 博士 (経営学) 博士 (会計学) 博士 (経済学) 博士 (金融学)		0.53	昭和29年度	
理工学研究科 （博士課程前期課程）							1.15		東京都文京区春日1丁目13番27号
数学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 (理学)		0.64	平成3年度	
物理学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 (理学)		0.78	昭和42年度	
都市人間環境学専攻 （博士課程前期課程）	2	60	—	120	修士 (工学)		1.39	昭和28年度	
精密工学専攻 （博士課程前期課程）	2	52	—	104	修士 (工学)		1.45	昭和30年度	
電気電子情報通信工学専攻 （博士課程前期課程）	2	45	—	90	修士 (工学)		1.53	昭和30年度	
応用化学専攻 （博士課程前期課程）	2	45	—	90	修士 (工学)		1.26	昭和30年度	
ビジネスデータサイエンス専攻 （博士課程前期課程）	2	30	—	60	修士 (工学)		1.05	平成3年度	
情報工学専攻 （博士課程前期課程）	2	40	—	80	修士 (工学)		0.83	平成8年度	
生命科学専攻 （博士課程前期課程）	2	25	—	50	修士 (理学) 修士 (工学)		0.58	平成24年度	
理工学研究科 （博士課程後期課程）							0.75		東京都文京区春日1丁目13番27号
数学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (理学)		0.11	平成6年度	
物理学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (理学)		0.22	平成3年度	
都市人間環境学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	—	15	博士 (工学)		1.20	昭和30年度	
精密工学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (工学)		1.33	昭和39年度	
応用化学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (工学)		0.77	昭和39年度	
ビジネスデータサイエンス専攻 （博士課程後期課程）	3	3	—	9	博士 (工学)		1.33	平成10年度	

	生命科学専攻 （博士課程後期課程）	3	2	―	6	博士 (理学) 博士 (工学)	0.33	平成25年度		
	電気・情報系専攻 （博士課程後期課程）	3	7	―	21	博士 (工学)	0.57	平成29年度		
	文学研究科 （博士課程前期課程）						0.68		東京都八王子市東中野742番1	
	国文学専攻 （博士課程前期課程）	2	10	―	20	修士 (文学)	0.75	昭和31年度		
	英文学専攻 （博士課程前期課程）	2	10	―	20	修士 (文学)	0.45	昭和31年度		
	独文学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (文学)	0.40	昭和31年度		
	仏文学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (文学)	0.70	昭和30年度		
	中国言語文化専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (文学)	0.40	平成18年度		
	日本史学専攻 （博士課程前期課程）	2	7	―	14	修士 (史学)	0.92	昭和38年度		
	東洋史学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (史学)	0.40	昭和38年度		
	西洋史学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (史学)	0.90	昭和37年度		
	哲学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (哲学)	0.50	昭和31年度		
	社会学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (社会学)	1.80	昭和37年度		
	社会情報学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (社会情報学)	0.40	平成7年度		
	教育学専攻 （博士課程前期課程）	2	5	―	10	修士 (教育学)	0.30	平成4年度		
	心理学専攻 （博士課程前期課程）	2	8	―	16	修士 (心理学)	0.87	平成12年度		
	文学研究科 （博士課程後期課程）						0.51		東京都八王子市東中野742番1	
	国文学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 (文学)	0.60	昭和38年度		
	英文学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 (文学)	0.06	昭和39年度		
	独文学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 (文学)	0.11	昭和37年度		
	仏文学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 (文学)	0.22	昭和37年度		
	中国言語文化専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 (文学)	0.22	平成20年度		
	日本史学専攻 （博士課程後期課程）	3	5	―	15	博士 (史学)	1.40	昭和37年度		

	東洋史学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （史学）	0.55	昭和38年度		
	西洋史学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （史学）	0.11	平成6年度		
	哲学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （哲学）	0.44	昭和37年度		
	社会学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （社会学）	1.00	昭和40年度		
	社会情報学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （社会情報学）	0.11	平成9年度		
	教育学専攻 （博士課程後期課程）	3	3	―	9	博士 （教育学）	0.22	平成6年度		
	心理学専攻 （博士課程後期課程）	3	4	―	12	博士 （心理学）	1.08	平成14年度		
	総合政策研究科 （博士課程前期課程）						0.20		東京都八王子市東中野742番1	
	総合政策専攻 （博士課程前期課程）	2	40	―	80	修士 （総合政策）	0.20	平成9年度		
	総合政策研究科 （博士課程後期課程）						0.23		東京都八王子市東中野742番1	
	総合政策専攻 （博士課程後期課程）	3	10	―	30	博士 （総合政策）	0.23	平成11年度		
	国際情報研究科 （修士課程）						0.40		東京都新宿区市谷田町1丁目18番	
	国際情報専攻 （修士課程）	2	25	―	50	修士 （国際情報）	0.40	令和5年度		
	法務研究科 （専門職学位課程）						0.64		東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5	
	法務専攻 （専門職学位課程）	3	160	―	520	法務博士 （専門職）	0.64	平成16年度		※令和7年度 入学定員減 （△40人）
	戦略経営研究科 （専門職学位課程）						1.09		東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5	
	戦略経営専攻 （専門職学位課程）	2	80	―	160	経営修士 （専門職）	1.09	平成20年度		
	戦略経営研究科 （博士課程後期課程）						0.05		東京都千代田区神田駿河台3丁目11番5	
	ビジネス科学専攻 （博士課程後期課程）	3	12	―	36	博士 （経営管理） 博士 （学術）	0.05	平成22年度		
附属施設の概要	該当なし									

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経済学部社会経済学科）

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
学科科目	学科導入科目	経済入門	1前	○	2			○			1	3				6	メディア
		現代経済学入門	1前	○	4			○			1	1					メディア
		基礎数学	1前			2		○								2	
		統計リテラシー	1後	○	2			○			2					4	メディア
		マルクス経済学	1後	○	4			○			1	1					メディア
		小計(5科目)	－	－	12	2	0	－			5	4	0	0	0	12	－
	学科基礎科目	独占資本主義論	2前	○		4		○			1					1	
		社会政策	2前	○		4		○				2					
		経営学	2前	○		4		○			1						
		人口分析	2前	○		4		○			1						
		財政学	2前	○		4		○				1					
		金融論	2後	○		4		○				1					
		小計(6科目)	－	－	0	24	0	－			3	4	0	0	0	1	－
	学科発展科目	財務会計論	2前	○		4		○			1						
		計量経済学	2前	○		4		○			1						
		ICTスキル	2前	○		4		○								4	
		管理会計論	2後	○		4		○			1						
		社会保障論	3前	○		4		○			1						
		労使関係論	3前	○		4		○			1						
		農業経済論	3前	○		4		○				1					
		地域システム	3前	○		4		○								1	
		地方財政論	3前	○		4		○				1					
		社会福祉論	3後	○		4		○			1						
		金融制度論	3後	○		4		○			1						
		中小企業論	3後	○		4		○						1			
		経済統計	3後	○		4		○			1						
		応用統計	3後	○		4		○			1						
		小計(14科目)	－	－	0	56	0	－			7	2	0	1	0	5	－
	学科関連科目	入門ICT演習	1前			2			○		1	1				5	
		国際関係論Ⅰ	2前			2		○								1	
		国際関係論Ⅱ	2前			2		○								1	
		データ分析演習	2前・後			2			○		1	1					
		ジェンダーと労働Ⅰ	3前			2		○				1					
		ジェンダーと労働Ⅱ	3後			2		○				1					
		流通システムⅠ	3後			2		○								1	
		流通システムⅡ	3後			2		○								1	
		経営戦略論Ⅰ	3前			2		○								1	
		経営戦略論Ⅱ	3後			2		○								1	
		経営組織論Ⅰ	3前			2		○								1	
		経営組織論Ⅱ	3後			2		○								1	
		アジア経営論	3前			2		○								1	
		システムデザイン	3前			4		○			1					1	
		国際経営論Ⅰ	3後			2		○								1	
		国際経営論Ⅱ	3後			2		○								1	
		ICT応用演習	3通			4			○			1					
		証券市場論	3後			2		○								1	
		生産システムⅠ	3前			2		○								1	
		生産システムⅡ	3後			2		○								1	
		監査論Ⅰ	3前			2		○								1	
		監査論Ⅱ	3後			2		○								1	
		税務会計論Ⅰ	3前			2		○								1	
		税務会計論Ⅱ	3後			2		○								1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
			先端産業論	3前			2		○								1	
			ベンチャー起業論	3後			2		○								1	
			小計(26科目)	－	－	0	56	0	－			2	2	0	0	0	18	－
		学部基礎科目	入門演習	1前	○		2			○		9	10		1		18	
			会計入門	1前	○		2		○			1					1	
			西洋経済史	1前	○		4		○			1	1					
			日本経済史	1前	○		4		○				2					
			簿記入門	1後	○		2		○			1					1	メディア
			経済学史	2前	○		4		○			1	1					
			社会思想史	2前	○		4		○			1						
			統計学	2前	○		4		○				1					
			情報科学	2前	○		4		○				1					
			国民経済計算論	2前			2		○								1	
			情報数学	2後	○		4		○				1					
			産業構造論	2後			4		○								1	
			小計(12科目)	－	－	0	40	0	－			10	10	0	1	0	19	－
		学部科目	国際経済学	2前			4		○								2	
			公共経済学	2前			4		○								2	
			国際金融論	2後			4		○								1	
			環境経済学	2後			4		○								1	
			公共政策	3･4前			4		○								1	
			交通経済論	3･4前			4		○								1	
			国際公共政策	3･4前			4		○								1	
			世界経済論	3･4前			4		○								1	
			国際経済政策	3･4前			4		○								1	
			労働経済学	3･4前			4		○								1	
			経済変動論	3･4前			2		○								1	
			数理経済学	3･4前			2		○								1	
			アジア経済論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			アジア経済論Ⅱ	3･4前			2		○								1	
			産業組織論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			産業組織論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
			費用便益分析	3･4後			2		○								1	
			開発と環境	3･4前			2		○								1	
			環境政策Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			環境政策Ⅱ	3･4前			2		○								1	
		学部発展科目	健康経済学Ⅰ	3･4後			2		○								1	
			健康経済学Ⅱ	3･4後			2		○								1	
			租税論	3･4後			2		○								1	
			国際投資論	3･4前			2		○								1	
			日本経済論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			日本経済論Ⅱ	3･4前			2		○								1	
			社会と環境	3･4前			2		○								1	
			企業と環境	3･4前			2		○								1	
			開発金融論	3･4前			2		○								1	
			環境リスク論	3･4後			2		○								1	
			中国経済論	3･4後			2		○								1	
			Economics SeminarⅡ	3･4後			2			○							1	
			EU経済論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			EU経済論Ⅱ	3･4前			2		○								1	
			米国経済論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			米国経済論Ⅱ	3･4前			2		○								1	
			多国籍企業論	3･4前			2		○								1	
			公益企業論	3･4後			4		○								1	
			環境会計論	3･4後			4		○								1	
			外国為替論	3･4後			4		○								1	
専門教育科目			演習１	2通			4			○		16	12		2		29	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
			演習２	3通			4			○		14	13		1		28	
			演習３	4通			6			○		14	13		1		27	
			小計(43科目)	－	－	0	120	0	－			16	13	0	2	0	40	－
		行政	行政学	2後			4		○								1	
			地方自治論	3前			2		○								1	
			小計(2科目)	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	2	－
		法律	憲法Ⅰ	1前			2		○								1	メディア
			憲法Ⅱ	1前			2		○								1	メディア
			民法Ⅰa	2前			2		○								1	メディア
			民法Ⅰb	2後			2		○								1	メディア
			商法Ⅰa	2後			2		○								1	
			商法Ⅰb	2後			2		○								1	
			行政法Ⅰ	3･4前			2		○								1	メディア
			行政法Ⅱ	3･4後			2		○								1	メディア
			商法Ⅱa	3･4前			2		○								1	メディア
			商法Ⅱb	3･4前			2		○								1	メディア
			国際法Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			国際法Ⅱ	3･4前			2		○								1	
			小計(12科目)	－	－	0	24	0	－			0	0	0	0	0	5	－
	自由選択科目	関連科目	総合講座Ⅰ	1･2･3･4後			4		○								1	
			総合講座Ⅱ	1･2･3･4前			4		○			1						
			総合講座Ⅲ	1･2･3･4前･後			2		○			2					3	
			総合講座Ⅳ	1･2･3･4後			2		○				2				3	
			キャリアデザイン	1前･後			2		○								1	
			ビジネス・プロジェクト講座	1前･後			2			○							1	
			グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1･2･3･4休			1				○	3	3				3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1･2･3･4休			1				○	3	3				3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1･2･3･4休			1				○	3	3				3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1･2･3･4休			1				○	3	3				3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1･2･3･4休			1				○	1	2		1		4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1･2･3･4休			1				○	1	2		1		4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1･2･3･4休			1				○	1	2		1		4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1･2･3･4休			1				○	1	2		1		4	標準外
			特別講義Ⅰ	2･3･4後			2		○								1	
			特別講義Ⅱ	2･3･4後			2		○			1						
			特別講義Ⅲ	2･3･4後			2		○								1	
			特別講義Ⅳ	2･3･4前			2		○								1	
			特別講義Ⅴ	2･3･4前			2		○				1					
			特別講義Ⅵ	2･3･4後			2		○								1	
			海外インターンシップ演習	2･3･4前			2			○							3	
			海外インターンシップ実習	2･3･4休			2				○						3	標準外
			インターンシップ	2･3･4通			4		○								2	標準外　※実験・実習
			特殊講義Ⅰ	3･4後			2		○			1						
			特殊講義Ⅱ	3･4前			2		○			1						
			特殊講義Ⅲ	3･4前			2		○				1					
			特殊講義Ⅳ	3･4前			2		○								1	
			小計(27科目)	－	－	0	52	0	－			7	7	0	1	0	19	－
		大学院科目	ポリティカルエコノミーⅠ	4前			2		○								1	
			ポリティカルエコノミーⅡ	4後			2		○								1	
			経済学史概論	4後			2		○			1						
			経済史概論	4前			2		○				1					
			小計(4科目)	－	－	0	8	0	－			1	1	0	0	0	1	－
			学術情報の探索・活用法	1・2前・後				2	○								1	メディア
			小計(1科目)	－	－	0	0	2	－			0	0	0	0	0	1	－
			ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○		1					20	メディア
			ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○		1					20	メディア
			ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		1					21	メディア

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	学部間共通科目	グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								1	
		専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						1	標準外
		グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								2	オムニバス・共同（一部）
		グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	標準外
		グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							1	メディア
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	
		短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○	1					3	標準外・メディア
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○	1					3	標準外・メディア
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○		1				7	標準外・メディア
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○		1				7	標準外・メディア
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前･後			2		○								3	オムニバス・メディア
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○								5	オムニバス・共同（一部）・メディア
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4後			2		○								2	オムニバス・メディア　※演習
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4前			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4後			2		○								2	オムニバス・共同（一部）・メディア ※演習
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							4	メディア
		大学生のための論文作成の技法（基礎編）	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		大学生のための論文作成の技法（発展編）	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		小計(27科目)	－	－	0	61	0	－			2	1	0	0	0	49	－
	I系	英語１ａ	1前			1		○			3	1				16	
		英語１ｂ	1後			1		○			3	1				16	
		英語２ａ	1前			1			○		3	2				19	
		英語２ｂ	1後			1			○		3	2				19	
		ドイツ語１ａ	1前			1		○			1					4	
		ドイツ語１ｂ	1後			1		○			1					4	
		ドイツ語２ａ	1前			1			○		1	1				5	
		ドイツ語２ｂ	1後			1			○		1	1				5	
		フランス語１ａ	1前			1		○			1					5	
		フランス語１ｂ	1後			1		○			1					5	
		フランス語２ａ	1前			1			○		1					4	
		フランス語２ｂ	1後			1			○		1					4	
		中国語１ａ	1前			1		○			1					13	
		中国語１ｂ	1後			1		○			1					13	
		中国語２ａ	1前			1			○		1					13	
		中国語２ｂ	1後			1			○		1					13	
		スペイン語１ａ	1前			1		○				1				5	
		スペイン語１ｂ	1後			1		○				1				5	
		スペイン語２ａ	1前			1			○			1				4	
		スペイン語２ｂ	1後			1			○			1				4	
		朝鮮語１ａ	1前			1		○								3	
		朝鮮語１ｂ	1後			1		○								3	
		朝鮮語２ａ	1前			1			○							2	
		朝鮮語２ｂ	1後			1			○							2	
		英語３ａ	2前			1		○			3	1				15	
		英語３ｂ	2後			1		○			3	1				15	
		英語４ａ	2前			1			○		3	2				18	
		英語４ｂ	2後			1			○		3	2				18	
		ドイツ語３ａ	2前			1		○			1	1				3	
		ドイツ語３ｂ	2後			1		○			1	1				3	
		ドイツ語４ａ	2前			1			○		1	1				5	
		ドイツ語４ｂ	2後			1			○		1	1				5	

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目		フランス語３ａ	2前			1		○								5	
		フランス語３ｂ	2後			1		○								5	
		フランス語４ａ	2前			1			○		1					4	
		フランス語４ｂ	2後			1			○		1					4	
		中国語３ａ	2前			1		○				1				13	
		中国語３ｂ	2後			1		○				1				13	
		中国語４ａ	2前			1			○							10	
		中国語４ｂ	2後			1			○							10	
		スペイン語３ａ	2前			1		○								5	
		スペイン語３ｂ	2後			1		○								5	
		スペイン語４ａ	2前			1			○			1				6	
		スペイン語４ｂ	2後			1			○			1				6	
		朝鮮語３ａ	2前			1		○								2	
		朝鮮語３ｂ	2後			1		○								2	
		朝鮮語４ａ	2前			1			○							3	
		朝鮮語４ｂ	2後			1			○							3	
		小計(48科目)	－	－	0	48	0	－			6	5	0	0	0	76	－
	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1･2･3･4前			1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1･2･3･4後			1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1･2･3･4前			1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1･2･3･4後			1			○			1				6	
		特設英語１ａ	1･2･3･4前			1		○				1				3	
		特設英語１ｂ	1･2･3･4後			1		○				1				3	
		特設英語２ａ	1･2･3･4前			1		○			1	1				3	
		特設英語２ｂ	1･2･3･4後			1		○			1	1				3	
		特設中国語１ａ	1前			1		○			1						
		特設中国語１ｂ	1後			1		○			1						
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	2･3･4前			1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	2･3･4後			1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	2･3･4前			1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	2･3･4後			1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		特設ドイツ語１ａ	2･3･4前			1		○				1					
		特設ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1		○				1					
		特設ドイツ語２ａ	2･3･4前			1		○				1					
		特設ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1		○				1					
		特設フランス語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設中国語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設中国語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		特設スペイン語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		小計(44科目)	－	－	0	44	0	－			2	3	0	0	0	20	－
	Ⅲ系	上級英語１	2･3･4前			2			○							1	
		上級英語２	2･3･4後			2			○							1	
		上級英語３	2･3･4前			2			○							1	
		上級英語４	2･3･4後			2			○							1	
		上級英語５	2･3･4前			2			○			1					
		上級英語６	2･3･4後			2			○			1					
		上級ドイツ語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級ドイツ語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級フランス語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級フランス語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級中国語１ａ	2･3･4前			1			○		1						
		上級中国語１ｂ	2･3･4後			1			○		1						
		上級中国語２ａ	2･3･4前			1			○			1					
		上級中国語２ｂ	2･3･4後			1			○			1					
		上級スペイン語１ａ	2･3･4前			1			○			1					
		上級スペイン語１ｂ	2･3･4後			1			○			1					
		上級スペイン語２ａ	2･3･4前			1			○			1					
		上級スペイン語２ｂ	2･3･4後			1			○			1					
		小計(22科目)	－	－	0	28	0	－			1	3	0	0	0	4	－
特別科目	各学部共通・日本語科目等	日本語ＡⅠ (1)	1前			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅡ (1)	1前			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ (1)	1前			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ (1)	1前			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅠ (2)	1後			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅡ (2)	1後			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ (2)	1後			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ (2)	1後			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅠ (3)	2前			1		○			1						※演習
		日本語ＡⅡ (3)	2前			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ (3)	2前			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ (3)	2前			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅠ (4)	2後			1		○			1						※演習
		日本語ＡⅡ (4)	2後			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ (4)	2後			1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ (4)	2後			1		○								1	※演習
		小計(16科目)	－	－	0	16	0	－			1	0	0	0	0	5	－
		日本語ＢⅠ (1)	1前			1		○								1	※演習
		日本語ＢⅡ (1)	1前			1		○								1	※演習
		日本語ＢⅠ (2)	1後			1		○								1	※演習
		日本語ＢⅡ (2)	1後			1		○								1	※演習
		日本語ＢⅠ (3)	2前			1		○								2	※演習
		日本語ＢⅡ (3)	2前			1		○			1						※演習
		日本語ＢⅠ (4)	2後			1		○								2	※演習
		日本語ＢⅡ (4)	2後			1		○			1						※演習
		小計(8科目)	－	－	0	8	0	－			1	0	0	0	0	2	－

区分	科目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
健康・スポーツ科目			健康・スポーツ科学論	1前・後		2			○				1		1		1	
			健康・スポーツ実習Ⅰa	1前		1					○		1				12	メディア
			健康・スポーツ実習Ⅰb	1後		1					○		1				12	メディア
			健康・スポーツ実習Ⅱa	2・3・4前			1				○						5	
			健康・スポーツ実習Ⅱb	2・3・4後			1				○		1				6	
			健康・スポーツ実習Ⅲa	2・3・4前			2				○		1				1	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅲb	2・3・4後			2				○		1				1	標準外
			小計(7科目)	－	－	4	6	0	－			0	1	0	1	0	14	－
総合教育科目	基本科目	人文科学	哲学概論	1・2・3・4前・後			4		○								1	
			日本史概論	1・2・3・4前・後			4		○								1	
			アジア史概論	1・2・3・4前			4		○				1					
			欧米史概論	1・2・3・4後			4		○								1	
			心理学概論	1・2・3・4前・後			4		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（人文）	1通			4			○							1	
			小計(6科目)	－	－	0	24	0	－			0	1	0	0	0	5	－
		社会科学	政治学概論	1・2・3・4前・後			4		○								1	
			社会学概論	1・2・3・4前・後			4		○				1					
			法学概論	1・2・3・4前・後			4		○								1	
			社会人類学概論	1・2・3・4前・後			4		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（社会）	1通			4			○			1				1	
			小計(5科目)	－	－	0	20	0	－			0	1	0	0	0	3	－
		自然科学	地球科学概論	1・2・3・4前・後			4		○			1						
			生命科学概論	1・2・3・4前・後			4		○			1						
			微分積分Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								2	
			微分積分Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								2	
			線形代数Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								3	
			線形代数Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								3	
			確率・統計Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								2	
			確率・統計Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								2	
			総合教育科目演習Ⅰ（自然）	1通			4			○		1					1	
			小計(9科目)	－	－	0	24	0	－			1	0	0	0	0	3	－
			倫理学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			日本史	1・2・3・4前			2		○								1	
			アジア史	1・2・3・4前・後			2		○				1					
			欧米史	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			心理学	1・2・3・4後			2		○								1	
			文学A	1・2・3・4前			2		○			1					2	
			文学B	1・2・3・4後			2		○			1					2	
			政治学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			社会学	1・2・3・4後			2		○								1	
			法学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			社会人類学	1・2・3・4後			2		○								1	
			人権論	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			地球科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			生命科学	1・2・3・4前・後			2		○			1						
			物理科学	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			地球環境論	1・2・3・4前・後			2		○								1	
			地誌学	1・2・3・4前			2		○								1	
			国際教養A	1・2・3・4後			2		○								1	
			国際教養B	1・2・3・4前			2		○			1					1	
			国際教養C	1・2・3・4前			2		○								1	
			国際教養D	1・2・3・4後			2		○			1						
			国際教養E	1・2・3・4後			2		○			1					1	
			言語と文化A	1・2・3・4後			2		○								1	
			言語と文化B	1・2・3・4前			2		○			1					1	
			言語と文化C	1・2・3・4後			2		○			1						
			言語と文化D	1・2・3・4後			2		○								1	

区科分目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	言語と文化E	1･2･3･4後			2		○			1					1	
	総合教育科目演習Ⅱ（人文）	2･3･4通			4			○							1	
	総合教育科目演習Ⅱ（社会）	2･3･4通			4			○			1				1	
	総合教育科目演習Ⅱ（自然）	2･3･4通			4			○		1					1	
	小計(30科目)	－	－	0	66	0	－			5	2	0	0	0	23	－
教職科目	外国史	1後				2	○								1	
	人文地理学	1前･後				2	○								1	
	自然地理学	1前･後				2	○								1	
	社会科・地理歴史科教育法1	3前				2		○							2	
	社会科・地理歴史科教育法2	3後				2		○							2	
	社会科・公民科教育法1	3前				2		○							3	
	社会科・公民科教育法2	3後				2		○							3	
	職業指導Ⅰ	3前				2	○								1	
	職業指導Ⅱ	3後				2	○								1	
	商業科教育法1	3前				2		○							1	
	商業科教育法2	3後				2		○							1	
	小計(11科目)	－	－	0	0	22	－			0	0	0	0	0	9	－
合計(385科目)		－	－	16	733	24	－			21	18	0	2	0	240	－

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門教育科目」区分から64単位以上修得 ・「学科導入科目」区分の「経済入門」「現代経済学入門」「統計リテラシー」「マルクス経済学」４科目12単位必修 ・「学科基礎科目」区分から３科目12単位以上修得 社会経済コースは、「独占資本主義論」「社会政策」から１科目４単位以上修得 地域・マネジメントコースは、「経営学」「人口分析」から１科目４単位以上修得 ・「学科発展科目」区分から３科目12単位以上修得 社会経済コースは、「社会保障論」「労使関係論」「農業経済論」「地域システム」「金融制度論」「中小企業論」から２科目８単位以上修得 地域・マネジメントコースは、「財務会計論」「計量経済学」「ＩＣＴスキル」「管理会計論」「農業経済論」「地域システム」「中小企業論」「経済統計」「応用統計」から２科目８単位以上修得 ・「学部基礎科目」区分の「会計入門」から「産業構造論」までの授業科目の中から12単位以上修得、ただし、「日本経済史」「西洋経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、選択必修の８単位に含めることができるのは４単位までとする。 ・「学部発展科目」区分の「国際経済学」から「環境経済学」までの授業科目の中から１科目４単位以上修得 ・「学部発展科目」区分は「公共政策」から「演習３」までの授業科目の中から12単位以上修得、ただし、学科発展科目及の３年次および４年次配当科目のうち12単位を超えて修得した単位数ならびに学科関連科目の３年次および４年次配当科目から修得した単位数を算入する。 ■「外国語科目」区分から14単位以上修得 ・英語６単位以上修得 ・Ｉ系から英語以外の１ヵ国語６単位以上修得 ・卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする ■「健康・スポーツ科目」区分から４単位以上修得 ・「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ⅰb」までの３科目４単位修得 ・卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする ■「総合教育科目」区分から24単位以上修得 ・「基本科目」区分のうち「人文科学」区分から４単位、「社会科学」区分から４単位、「自然科学」区分から４単位以上修得 ・卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする ■卒業単位として認める単位を124単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経済学部経済学科）※既設学部等

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	導入科目	入門演習	1前･後	○		2			○		5	7				29	
		経済入門	1前･後	○		2		○			2	3				12	オムニバス（一部）
		基礎数学Ａ１	1･2･3前			2		○								3	
		基礎数学Ｂ１	1･2･3前			2		○								2	
		基礎数学Ａ２	1･2･3後			2		○								3	
		基礎数学Ｂ２	1･2･3後			2		○								2	
		キャリアデザイン	1前･後			2		○								3	標準外（一部）
		ビジネス・プロジェクト講座	1前･後			2		○								3	
		小計(8科目)	－	－	0	16	0	－			6	7	0	0	0	41	－
	基礎科目	基礎マクロ経済学	1前･後	○	4			○			3					2	メディア（一部）
		基礎ミクロ経済学	1前･後	○	4			○			2	1				2	
		日本経済史	1前･後	○		4		○				2					
		西洋経済史	1前･後	○		4		○			1	1					
		マルクス経済学	2･3前	○		4		○			1	1					
		経済政策論	2･3前･後	○		4		○								3	
		経済学史	2･3前･後	○		4		○								2	
		小計(7科目)	－	－	8	20	0	－			6	5	0	0	0	6	－
	学科基本科目	財政学	2･3前･後	○		4		○								1	
		金融論Ⅰ	2･3前･後	○		4		○			1	1					
		社会政策	2･3前･後	○		4		○				2					
		社会思想史	2･3前･後	○		4		○			2						
		中級マクロ経済学	2後	○		4		○			2						
		中級ミクロ経済学	2前	○		4		○			1	1					
		独占資本主義論	3前･後	○		4		○			1					1	
		小計(7科目)	－	－	0	28	0	－			6	4	0	0	0	2	－
		統計学	1前･後	○		4		○								1	
		国際金融論	2後	○		4		○								1	
		国際経済学	2前･後	○		4		○								2	
		公共経済学	2前	○		4		○								2	
		経済数学	2前	○		4		○								1	
		経済変動論	3･4前	○		4		○			1						
		金融論Ⅱ	3･4後	○		4		○			1						
		マクロ会計論	3･4前	○		2		○								1	
		日本経済論	3･4前	○		4		○								1	
		産業組織論	3･4前	○		4		○								1	
		租税論	3･4後	○		4		○								1	
		計量経済学	3･4前	○		4		○								1	
		証券市場論	3･4後	○		4		○								1	
		地方財政論	3･4後	○		4		○								1	
		経済総合クラスター演習	3･4後	○		2			○			1					
		経済総合クラスター特殊講義	3･4後	○		2		○				1					
		人口論	2前	○		4		○								1	
		環境経済学	2後	○		4		○								1	
		産業社会学	2後	○		2		○								1	
		労働経済学	3･4前	○		4		○			1						
		労使関係論	3･4前	○		4		○			1						
		人口分析	3･4前	○		4		○			1						
		社会保障論	3･4前	○		4		○								1	
		社会福祉論	3･4後	○		4		○								1	
		健康経済学	3･4後	○		4		○								1	
		ジェンダーと労働	3･4前	○		4		○								1	
		空間経済学	3･4前･後	○		4		○								1	
		社会と環境	3･4前	○		2		○								1	
		ヒューマンエコノミークラスター演習	3･4前	○		2			○		1						
		ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	3･4前	○		2		○			1						
		小計(30科目)	－	－	0	106	0	－			5	1	0	0	0	22	－
		経営学	2前･後			4		○								1	
		産業構造論	2前			4		○								1	
		ＩＣＴスキル	3前･後			4		○								4	

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	経済学科科目	簿記論	1前･後			4		○								2	
		入門統計演習	1前･後			2			○							4	
		入門ＩＣＴ演習	1前･後			2			○							7	
		地域システム	2前			4		○								1	
		財務会計論	2前			4		○								1	
		管理会計論	2前			4		○								1	
		経営戦略論	3･4後			4		○								1	
		経営組織論	3･4前			4		○								1	
		交通経済論	3･4前			4		○								1	
		農業経済論	3･4後			4		○								1	
		中小企業論	3･4後			4		○								1	
		公益企業論	3･4後			4		○								1	
		生産システム	3･4前			4		○								1	
		流通システム	3･4後			4		○								1	
		環境会計論	3･4後			4		○								1	
		先端産業論	3･4後			2		○								1	
		ベンチャー起業論	3･4後			2		○								1	
		監査論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		監査論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
		税務会計論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		税務会計論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
		企業経済クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		情報数学	2後			4		○								1	
		情報科学	2前			4		○								1	
		応用統計	3･4後			4		○								1	
		経済統計	3･4後			4		○								1	
		システムデザイン	3･4後			4		○								1	
		ＩＣＴ応用演習	3･4通			4			○							1	
		データ分析演習	3･4前･後			2			○							1	
		経済情報クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		世界経済論	2後			4		○								1	
		国際経済政策	3前			4		○								1	
		国際開発論	3後			4		○								1	
		国際関係論	2前			4		○								1	
		Economics Seminar Ⅰ	2前			2			○			1					
		外国為替論	3･4前			4		○								1	
		国際経営論	3･4後			4		○								1	
		米国経済論	3･4前			4		○								1	
		ＥＵ経済論	3･4前			4		○								1	
		国際投資論	3･4前			2		○								1	
		地域経済統合論	3･4後			2		○								1	
		Economics Seminar Ⅱ	3･4後			2			○			1					
		資源論	3･4後			2		○								1	
	専門教育科目	貿易・国際金融クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		国際協力論	2前			2		○								1	
		アジア経済論	3･4前			4		○								1	
		開発と環境	3･4後			2		○								1	
		多国籍企業論	3･4前			2		○								1	
		中国経済論	3･4前			2		○								1	
		開発金融論	3･4前			2		○								1	
		アジア経営論	3･4前			2		○								1	
		経済開発クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		公共政策	3前			4		○								1	
		国際公共政策	3後			4		○								1	
		行政学	3後			4		○								1	
		地方自治論	3･4前			2		○								1	
		都市経営論	3･4後			2		○								1	
		非営利組織論	3･4前			2		○								1	
		地域ガバナンス論	3･4前			2		○								1	
		費用便益分析	3･4後			2		○								1	
		公共クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		環境科学Ⅰ	2前			2		○								1	
		環境科学Ⅱ	2後			2		○								1	
		環境倫理学	2後			2		○								1	

区科分目			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
			環境政策Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			環境政策Ⅱ	3･4前			2		○								1	
			企業と環境	3･4前			2		○								1	
			環境リスク論	3･4後			2		○								1	
			環境クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
			小計(72科目)	－	－	0	212	0	－			0	1	0	0	0	60	－
		法律プログラム	憲法	1前			4		○								1	
		法律プログラム	民法Ⅰ	2通			4		○								1	
		法律プログラム	商法Ⅰ	2後			4		○								1	
		法律プログラム	民法Ⅱ	3･4通			4		○								1	
		法律プログラム	商法Ⅱ	3･4前			4		○								1	
		法律プログラム	行政法	3･4通			4		○								1	
		法律プログラム	経済法	3･4後			4		○								1	
		法律プログラム	労働法	3･4通			4		○								1	
		法律プログラム	知的財産法	3･4後			4		○								1	
		法律プログラム	国際法	3･4前			4		○								1	
		法律プログラム	小計(10科目)	－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	10	－
		学部共通科目	外国書講読（英）	3･4前			4		○								1	
		学部共通科目	外国書講読（独）	3･4通			4		○			1						
		学部共通科目	外国書講読（仏）	3･4通			4		○				1					
		学部共通科目	外国書講読（中）	3･4通			4		○								1	
		学部共通科目	学部共通インターンシップⅠ	2前			2		○								1	標準外
		学部共通科目	学部共通インターンシップⅡ	2後			2		○								1	
		学部共通科目	インターンシップ	3･4通			4		○								7	標準外　※実験・実習
		学部共通科目	海外インターンシップ演習	2･3･4前			2			○							4	
		学部共通科目	海外インターンシップ実習	2･3･4休			2				○						4	標準外
		学部共通科目	特殊講義Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		学部共通科目	特殊講義Ⅱ	3･4後			2		○			1						
		学部共通科目	特殊講義Ⅲ	3･4前			2		○			1						
		学部共通科目	特殊講義Ⅳ	3･4前			2		○								1	
		学部共通科目	演習１	2通			4			○		13	9				37	
		学部共通科目	演習２	3通			4			○		13	9				34	
		学部共通科目	課題演習	3通			4			○							1	
		学部共通科目	演習３	4通･後			6			○		14	8				35	メディア（一部）
		学部共通科目	特別講義Ⅰ	2･3･4前･後			2		○								5	
		学部共通科目	特別講義Ⅱ	2･3･4後			2		○								4	オムニバス
		学部共通科目	特別講義Ⅲ	2･3･4後			2		○								1	
		学部共通科目	特別講義Ⅳ	2･3･4前･後			2		○								3	
		学部共通科目	特別講義Ⅴ	2･3･4前			2		○								1	
		学部共通科目	特別講義Ⅵ	2･3･4後			2		○								1	
		学部共通科目	総合講座Ⅰ	1･2･3･4後			4		○								1	
		学部共通科目	総合講座Ⅱ	1･2･3･4前			4		○								1	
		学部共通科目	総合講座Ⅲ	1･2･3･4前･後			2		○			3					1	
		学部共通科目	総合講座Ⅳ	1･2･3･4後			2		○				1				4	
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1･2･3･4休			1				○	1	1				3	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1･2･3･4休			1				○		1				7	標準外
		学部共通科目	短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	1後			6				○						1	標準外
		学部共通科目	キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								2	オムニバス
		学部共通科目	学術情報の探索・活用法	1･2前･後				2	○								1	メディア
		学部共通科目	小計(38科目)	－	－	0	92	4	－			14	9	0	0	0	70	－
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○							20	メディア
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○							26	メディア
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		1					26	メディア
		学部間共通科目	グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								6	
		学部間共通科目	専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						2	オムニバス・標準外
		学部間共通科目	グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								4	オムニバス
		学部間共通科目	グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	共同（一部）　標準外
		学部間共通科目	グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							2	オムニバス・メディア

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	標準外
		短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○		1				8	オムニバス（一部）・メディア 標準外
		短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○		1				8	オムニバス（一部）・メディア 標準外
		短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
		短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
		AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前･後			2		○								6	オムニバス・メディア
		AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○								11	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前･後			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
		AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
		AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							3	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							3	メディア
		大学生のための論文作成の技法(基礎編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		大学生のための論文作成の技法(発展編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		小計(27科目)	－	－	0	61	0	－			1	1	0	0	0	85	－
		英語１ａ	1前･後	○		1		○				1				20	
		英語１ｂ	1前･後	○		1		○				1				20	
		英語２ａ	1前･後	○		1			○			2				23	
		英語２ｂ	1前･後	○		1			○			2				23	
		英語３ａ	2前･後	○		1		○				1				21	
		英語３ｂ	2前･後	○		1		○				1				21	
		英語４ａ	2前･後	○		1			○			1				24	
		英語４ｂ	2前･後	○		1			○			1				24	
		ドイツ語１ａ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語１ｂ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語２ａ	1前･後	○		1		○				1				6	
		ドイツ語２ｂ	1前･後	○		1			○			1				6	
		ドイツ語３ａ	2前･後	○		1			○							5	
		ドイツ語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		ドイツ語４ａ	2前･後	○		1			○			1				7	
		ドイツ語４ｂ	2前･後	○		1			○			1				7	
		フランス語１ａ	1前･後	○		1		○			1					6	
		フランス語１ｂ	1前･後	○		1		○			1					6	
		フランス語２ａ	1前･後	○		1			○		1					6	
		フランス語２ｂ	1前･後	○		1			○		1					6	
		フランス語３ａ	2前･後	○		1		○			1					4	
		フランス語３ｂ	2前･後	○		1		○			1					4	
		フランス語４ａ	2前･後	○		1			○		1					4	
		フランス語４ｂ	2前･後	○		1			○		1					4	
	Ⅰ系	中国語１ａ	1前･後	○		1		○								17	
		中国語１ｂ	1前･後	○		1		○								17	
		中国語２ａ	1前･後	○		1			○							12	
		中国語２ｂ	1前･後	○		1			○							12	
		中国語３ａ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語３ｂ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語４ａ	2前･後	○		1			○							11	
		中国語４ｂ	2前･後	○		1			○							11	
		スペイン語１ａ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語１ｂ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語２ａ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語２ｂ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語３ａ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語４ａ	2前･後	○		1			○							7	
		スペイン語４ｂ	2前･後	○		1			○							7	
		朝鮮語１ａ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語１ｂ	1前･後	○		1		○								3	

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目		朝鮮語２ａ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語２ｂ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語３ａ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語３ｂ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語４ａ	2前･後	○		1			○							3	
		朝鮮語４ｂ	2前･後	○		1			○							3	
		小計(48科目)	－	－	0	48	0	－			1	3	0	0	0	97	－
	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1				8	
		オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1				8	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（英語３ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1					
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		特設英語１ａ	1･2･3･4前	○		1		○				1				4	
		特設英語１ｂ	1･2･3･4後	○		1		○				1				4	
		特設英語２ａ	1･2･3･4前	○		1		○				1				4	
		特設英語２ｂ	1･2･3･4後	○		1		○				1				4	
		特設ドイツ語１ａ	2･3･4前			1		○				1					
		特設ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1		○				1					
		特設ドイツ語２ａ	2･3･4前			1		○				1					
		特設ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1		○				1					
		特設フランス語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設中国語１ａ	1前			1		○								1	
		特設中国語１ｂ	1後			1		○								1	
		特設中国語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設中国語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		小計(46科目)	－	－	0	46	0	－			0	3	0	0	0	25	－
		上級英語１	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語２	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級英語３	2･3･4前	○		2			○			1					
		上級英語４	2･3･4後	○		2			○			1					
		上級英語５	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語６	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級ドイツ語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級ドイツ語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	Ⅲ系		上級フランス語１ａ	2･3･4前			1			○		1						
			上級フランス語１ｂ	2･3･4後			1			○		1						
			上級フランス語２ａ	2･3･4前			1			○		1						
			上級フランス語２ｂ	2･3･4後			1			○		1						
			上級中国語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級中国語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級中国語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級中国語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級スペイン語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級スペイン語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級スペイン語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級スペイン語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級朝鮮語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級朝鮮語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			上級朝鮮語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
			上級朝鮮語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
			小計(26科目)	－	－	0	32	0	－			1	1	0	0	0	6	－
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語ＡⅠ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（1）	1前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅠ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅠ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅠ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			小計(16科目)	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	6	－
		Bコース	日本語ＢⅠ（1）	1前	○		1		○								5	※演習
			日本語ＢⅡ（1）	1前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（2）	1後	○		1		○								5	※演習
			日本語ＢⅡ（2）	1後	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅡ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅡ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			小計(8科目)	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	12	－
		日本事情	日本事情	1前･後			2		○								1	
			小計(1科目)	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	1	－
健康・スポーツ科目			健康・スポーツ科学論	1前･後	○	2			○								2	
			健康・スポーツ実習Ⅰａ	1前	○	1					○						14	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅰｂ	1後	○	1					○						14	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅱａ	2･3･4前			1				○						5	
			健康・スポーツ実習Ⅱｂ	2･3･4後			1				○						7	
			健康・スポーツ実習Ⅲａ	2･3･4前			2				○						2	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅲｂ	2･3･4後			2				○						2	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅳ	2･3･4前			2				○						1	
			小計(8科目)	－	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	19	－
		人文科学	哲学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			倫理学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			日本史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			アジア史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			欧米史Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			社会心理学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			文学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			総合教育科目演習Ⅰ（人文）	1通	○		4			○							1	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	10	－
			政治学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
総合教育科目	基本科目	社会科学	政治学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			社会学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			法学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（社会）	1通	○		4			○							2	
			小計(7科目)	－	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	8	－
		自然科学	地球科学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			生命科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			地球科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			微分積分Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								4	
			線形代数Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			地球環境論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（自然）	1通	○		4			○							4	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	11	－
			日本史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			アジア史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			欧米史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会心理学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			文学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			地誌学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			政治学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			法学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅱ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			生命科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			地球科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			微分積分Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								4	
			線形代数Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			地球環境論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ａ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			国際教養Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			国際教養Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			言語と文化Ａ	1･2･3･4前	○		2		○			1						
			言語と文化Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○				1					
			言語と文化Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			言語と文化Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			言語と文化Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○				1					
			総合教育科目演習Ⅱ（人文）	2･3･4通	○		4			○							1	
			総合教育科目演習Ⅱ（社会）	2･3･4通	○		4			○							2	
			総合教育科目演習Ⅱ（自然）	2･3･4通	○		4			○							4	
			小計(30科目)	－	－	0	66	0	－			1	1	0	0	0	34	－
	教職科目		外国史	1後				2	○								1	
			人文地理学	1前･後				2	○								1	
			自然地理学	1前･後				2	○								1	
			社会科・地理歴史科教育法1	3前				2		○							3	
			社会科・地理歴史科教育法2	3後				2		○							3	
			社会科・公民科教育法1	3前				2		○							3	
			社会科・公民科教育法2	3後				2		○							3	
			職業指導Ⅰ	3前				2	○								1	
			職業指導Ⅱ	3後				2	○								1	
			商業科教育法1	3前				2		○							1	
			商業科教育法2	3後				2		○							1	
			小計(11科目)	－	－	0	0	22	－			0	0	0	0	0	11	－
合計(416科目)				－	－	12	859	26	－			14	11	0	0	0	363	－
学位又は称号				学士（経済学）		学位又は学科の分野			経済学関係									

区科分目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門教育科目」区分から62単位以上修得 ・「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」の２科目８単位修得 「日本経済史」から「経済学史」までの５科目から８単位以上修得、ただし「日本経済史」「西洋経済史」の２科目とも修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。 ・「財政学」から「社会思想史」までの４科目から８単位以上、「中級マクロ経済学」から「独占資本主義論」までの３科目から４単位以上、「統計学」から「ヒューマンエコノミークラスター特殊講義」までの30科目から12単位以上修得 ■「外国語科目」区分から14単位以上（外国人留学生については、16単位以上）修得 ・ 英語６単位以上、その他の外国語１カ国語６単位以上修得 ■「健康・スポーツ科目」区分から４単位以上修得 ・「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までの３科目４単位修得 ■「総合教育科目」区分から24単以上修得 ・「基本科目」区分のうち、「人文科学」区分から４単位以上、「社会科学」区分から４単位以上、「自然科学」区分から４単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を133単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（１）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（２）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（３）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経済学部経済情報システム学科）※既設学部等

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	導入科目	入門演習	1前･後	○		2			○		5	5				31	
		経済入門	1前･後	○		2		○			1	4				12	オムニバス（一部）
		基礎数学Ａ１	1･2･3前			2		○								3	
		基礎数学Ｂ１	1･2･3前			2		○								2	
		基礎数学Ａ２	1･2･3後			2		○								3	
		基礎数学Ｂ２	1･2･3後			2		○								2	
		キャリアデザイン	1前･後			2		○			1					2	標準外（一部）
		ビジネス・プロジェクト講座	1前･後			2		○								3	
		小計(8科目)	－	－	0	16	0	－			7	5	0	0	0	42	－
	基礎科目	基礎マクロ経済学	1前･後	○	4			○				1				4	メディア（一部）
		基礎ミクロ経済学	1前･後	○	4			○				1				4	
		日本経済史	1前･後	○		4		○								2	
		西洋経済史	1前･後	○		4		○								2	
		マルクス経済学	2･3前	○		4		○								2	
		経済政策論	2･3前･後	○		4		○			1	1				1	
		経済学史	2･3前･後	○		4		○			1	1					
		小計(7科目)	－	－	8	20	0	－			2	2	0	0	0	13	－
	学科基本科目	統計学	1前･後	○		4		○				1					
		経営学	2前･後	○		4		○			1						
		産業構造論	2前	○		4		○				1					
		ＩＣＴスキル	3前･後	○		4		○			1					3	
		空間経済学	3･4前･後	○		4		○				1					
		小計(5科目)	－	－	0	20	0	－			2	3	0	0	0	3	－
		簿記論	1前･後	○		4		○			2						
		入門統計演習	1前･後	○		2			○		1	1				2	
		入門ＩＣＴ演習	1前･後	○		2			○			1				6	
		地域システム	2前	○		4		○			1						
		財務会計論	2前	○		4		○			1						
		管理会計論	2前	○		4		○			1						
		産業社会学	2後	○		2		○								1	
		経営戦略論	3･4後	○		4		○								1	
		経営組織論	3･4前	○		4		○								1	
		産業組織論	3･4前	○		4		○								1	
		交通経済論	3･4前	○		4		○			1						
		農業経済論	3･4後	○		4		○								1	
		中小企業論	3･4後	○		4		○								1	
		公益企業論	3･4後	○		4		○			1						
		労働経済学	3･4前	○		4		○								1	
		生産システム	3･4前	○		4		○								1	
		流通システム	3･4後	○		4		○								1	
		環境会計論	3･4後	○		4		○			1						
		先端産業論	3･4後	○		2		○								1	
		ベンチャー起業論	3･4後	○		2		○								1	
		監査論Ⅰ	3･4前	○		2		○								1	
		監査論Ⅱ	3･4後	○		2		○								1	
		税務会計論Ⅰ	3･4前	○		2		○								1	
		税務会計論Ⅱ	3･4後	○		2		○								1	
		企業経済クラスター演習	3･4後	○		2			○		1						
		企業経済クラスター特殊講義	3･4後	○		2		○								1	
		情報数学	2後	○		4		○				1					
		情報科学	2前	○		4		○				1					
		計量経済学	3･4前	○		4		○			1						
		応用統計	3･4後	○		4		○			1						
		経済統計	3･4後	○		4		○			1						
		システムデザイン	3･4後	○		4		○			1						
		マクロ会計論	3･4前	○		2		○			1						
		ＩＣＴ応用演習	3･4通	○		4			○		1						
		データ分析演習	3･4前･後	○		2			○			1					
		経済情報クラスター演習	3･4前	○		2			○			1					
		経済情報クラスター特殊講義	3･4後	○		2		○			1						
		小計(37科目)	－	－	0	118	0	－			8	2	0	0	0	21	－
		財政学	2･3前･後			4		○								1	
		金融論Ⅰ	2･3前･後			4		○								2	
		社会政策	2･3前･後			4		○								2	

区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	経済情報システム学科科目	社会思想史	2･3前･後			4		○								2	
		中級マクロ経済学	2後			4		○								2	
		中級ミクロ経済学	2前			4		○								2	
		独占資本主義論	3前･後			4		○								2	
		経済数学	2前			4		○								1	
		経済変動論	3･4前			4		○								1	
		金融論Ⅱ	3･4後			4		○								1	
		日本経済論	3･4前			4		○								1	
		租税論	3･4後			4		○								1	
		証券市場論	3･4後			4		○								1	
		地方財政論	3･4後			4		○								1	
		経済総合クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		人口論	2前			4		○								1	
		環境経済学	2後			4		○								1	
		労使関係論	3･4前			4		○								1	
		人口分析	3･4前			4		○								1	
		社会保障論	3･4前			4		○								1	
		社会福祉論	3･4後			4		○								1	
		健康経済学	3･4後			4		○								1	
		ジェンダーと労働	3･4前			4		○								1	
		社会と環境	3･4前			2		○								1	
		ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		国際経済学	2前･後			4		○								2	
		国際金融論	2後			4		○								1	
		世界経済論	2後			4		○								1	
		国際経済政策	3前			4		○								1	
		国際開発論	3後			4		○								1	
		国際関係論	2前			4		○								1	
		Economics Seminar Ⅰ	2前			2			○							1	
		外国為替論	3･4前			4		○								1	
		国際経営論	3･4後			4		○								1	
		米国経済論	3･4前			4		○								1	
		ＥＵ経済論	3･4前			4		○								1	
		国際投資論	3･4前			2		○								1	
		地域経済統合論	3･4後			2		○								1	
		Economics Seminar Ⅱ	3･4後			2			○							1	
		資源論	3･4後			2		○								1	
		貿易・国際金融クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		国際協力論	2前			2		○								1	
		アジア経済論	3･4前			4		○								1	
		開発と環境	3･4後			2		○								1	
		多国籍企業論	3･4前			2		○								1	
		中国経済論	3･4前			2		○								1	
		開発金融論	3･4前			2		○								1	
		アジア経営論	3･4前			2		○								1	
		経済開発クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		公共経済学	2前			4		○								2	
		公共政策	3前			4		○								1	
		国際公共政策	3後			4		○								1	
		行政学	3後			4		○								1	
		地方自治論	3･4前			2		○								1	
		都市経営論	3･4後			2		○								1	
		非営利組織論	3･4前			2		○								1	
		地域ガバナンス論	3･4前			2		○								1	
		費用便益分析	3･4後			2		○								1	
		公共クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		環境科学Ⅰ	2前			2		○			1						
		環境科学Ⅱ	2後			2		○								1	
		環境倫理学	2後			2		○								1	
		環境政策Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		環境政策Ⅱ	3･4前			2		○								1	
		企業と環境	3･4前			2		○								1	
		環境リスク論	3･4後			2		○								1	
		環境クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		小計(67科目)	－	－	0	208	0	－			1	0	0	0	0	58	－
		憲法	1前			4		○								1	
		民法Ⅰ	2通			4		○								1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		法律プログラム	商法Ⅰ	2後			4		○								1	
			民法Ⅱ	3･4通			4		○								1	
			商法Ⅱ	3･4前			4		○								1	
			行政法	3･4通			4		○								1	
			経済法	3･4後			4		○								1	
			労働法	3･4通			4		○								1	
			知的財産法	3･4後			4		○								1	
			国際法	3･4前			4		○								1	
			小計(10科目)	－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	10	－
		学部共通科目	外国書講読（英）	3･4前			4		○			1						
			外国書講読（独）	3･4通			4		○								1	
			外国書講読（仏）	3･4通			4		○								1	
			外国書講読（中）	3･4通			4		○			1						
			学部共通インターンシップⅠ	2前			2		○								1	標準外
			学部共通インターンシップⅡ	2後			2		○								1	
			インターンシップ	3･4通			4		○								7	標準外　※実験・実習
			海外インターンシップ演習	2･3･4前			2			○			1				3	
			海外インターンシップ実習	2･3･4休			2				○		1				3	標準外
			特殊講義Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			特殊講義Ⅱ	3･4後			2		○								1	
			特殊講義Ⅲ	3･4前			2		○								1	
			特殊講義Ⅳ	3･4前			2		○								1	
			演習１	2通			4			○		10	7				42	
			演習２	3通			4			○		10	6				40	
			課題演習	3通			4			○							1	
			演習３	4通･後			6			○		11	5				41	メディア（一部）
			特別講義Ⅰ	2･3･4前･後			2		○				1				4	
			特別講義Ⅱ	2･3･4後			2		○								4	オムニバス
			特別講義Ⅲ	2･3･4後			2		○								1	
			特別講義Ⅳ	2･3･4前･後			2		○								3	
			特別講義Ⅴ	2･3･4前			2		○								1	
			特別講義Ⅵ	2･3･4後			2		○				1					
			総合講座Ⅰ	1･2･3･4後			4		○								1	
			総合講座Ⅱ	1･2･3･4前			4		○								1	
			総合講座Ⅲ	1･2･3･4前･後			2		○								4	
			総合講座Ⅳ	1･2･3･4後			2		○				1				4	
			グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1･2･3･4休			1				○						5	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1･2･3･4休			1				○						5	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1･2･3･4休			1				○						5	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1･2･3･4休			1				○						5	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1･2･3･4休			1				○	1	1				6	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1･2･3･4休			1				○	1	1				6	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1･2･3･4休			1				○	1	1				6	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1･2･3･4休			1				○	1	1				6	標準外
			短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	1後			6				○						1	標準外
			キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								2	オムニバス
			学術情報の探索・活用法	1･2前･後				2	○								1	メディア
			小計(38科目)	－	－	0	92	4	－			12	7	0	0	0	74	－
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○							21	メディア
			ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○		1	1				24	メディア
			ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		1	1				24	メディア
			グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								6	
			専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						2	オムニバス・標準外
			グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								4	オムニバス
			グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	共同（一部）　標準外
			グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							2	オムニバス・メディア
			グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	標準外
			短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○						9	オムニバス（一部）・メディア　標準外
			短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○						9	オムニバス（一部）・メディア　標準外
			短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
			短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
			AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前･後			2		○								6	オムニバス・メディア
			AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○			1					10	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前･後			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
			AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
			AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							3	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							3	メディア
		大学生のための論文作成の技法(基礎編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		大学生のための論文作成の技法(発展編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		小計(27科目)	－	－	0	61	0	－			2	1	0	0	0	83	－
		英語１ａ	1前･後	○		1		○			1					20	
		英語１ｂ	1前･後	○		1		○			1					20	
		英語２ａ	1前･後	○		1			○							25	
		英語２ｂ	1前･後	○		1			○							25	
		英語３ａ	2前･後	○		1		○			1					21	
		英語３ｂ	2前･後	○		1		○			1					21	
		英語４ａ	2前･後	○		1			○		1					24	
		英語４ｂ	2前･後	○		1			○		1					24	
		ドイツ語１ａ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語１ｂ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語２ａ	1前･後	○		1		○								7	
		ドイツ語２ｂ	1前･後	○		1			○							7	
		ドイツ語３ａ	2前･後	○		1			○							5	
		ドイツ語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		ドイツ語４ａ	2前･後	○		1			○							8	
		ドイツ語４ｂ	2前･後	○		1			○							8	
		フランス語１ａ	1前･後	○		1		○								7	
		フランス語１ｂ	1前･後	○		1		○								7	
		フランス語２ａ	1前･後	○		1			○							7	
		フランス語２ｂ	1前･後	○		1			○							7	
		フランス語３ａ	2前･後	○		1		○								5	
		フランス語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		フランス語４ａ	2前･後	○		1			○							5	
		フランス語４ｂ	2前･後	○		1			○							5	
	I系	中国語１ａ	1前･後	○		1		○			1					16	
		中国語１ｂ	1前･後	○		1		○			1					16	
		中国語２ａ	1前･後	○		1			○		1					11	
		中国語２ｂ	1前･後	○		1			○		1					11	
		中国語３ａ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語３ｂ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語４ａ	2前･後	○		1			○							11	
		中国語４ｂ	2前･後	○		1			○							11	
		スペイン語１ａ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語１ｂ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語２ａ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語２ｂ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語３ａ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語４ａ	2前･後	○		1			○							7	
		スペイン語４ｂ	2前･後	○		1			○							7	
		朝鮮語１ａ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語１ｂ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語２ａ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語２ｂ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語３ａ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語３ｂ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語４ａ	2前･後	○		1			○							3	
		朝鮮語４ｂ	2前･後	○		1			○							3	
		小計(48科目)	－	－	0	48	0	－			2	0	0	0	0	99	－
		オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1･2･3･4前	○		1			○							9	
		オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○							9	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1･2･3･4前	○		1			○							7	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○							7	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ａ）	1･2･3･4前	○		1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	

区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		特設英語１ａ	1･2･3･4前	○		1		○								5	
		特設英語１ｂ	1･2･3･4後	○		1		○								5	
		特設英語２ａ	1･2･3･4前	○		1		○			1					4	
		特設英語２ｂ	1･2･3･4後	○		1		○			1					4	
		特設ドイツ語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設ドイツ語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設中国語１ａ	1前			1		○								1	
		特設中国語１ｂ	1後			1		○								1	
		特設中国語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設中国語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		小計(46科目)	－	－	0	46	0	－			1	0	0	0	0	27	－
	Ⅲ系	上級英語１	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語２	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級英語３	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語４	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級英語５	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語６	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級ドイツ語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級ドイツ語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級フランス語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級フランス語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級中国語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級中国語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級中国語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級中国語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級スペイン語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級スペイン語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級スペイン語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級スペイン語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級朝鮮語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級朝鮮語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級朝鮮語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級朝鮮語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		小計(26科目)	－	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	8	－
		日本語ＡⅠ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅡ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅠ（２）	1後	○		1		○								1	※演習

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅡ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅢ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅣ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅠ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅡ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅢ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅣ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅠ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅡ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅢ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅣ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			小計(16科目)	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	6	－
		Bコース	日本語BⅠ（1）	1前	○		1		○								5	※演習
			日本語BⅡ（1）	1前	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅠ（2）	1後	○		1		○								5	※演習
			日本語BⅡ（2）	1後	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅠ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅡ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅠ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅡ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			小計(8科目)	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	12	－
		日本事情	日本事情	1前･後			2		○								1	
			小計(1科目)	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	1	－
	健康・スポーツ科目		健康・スポーツ科学論	1前･後	○	2			○								2	
			健康・スポーツ実習Ⅰa	1前	○	1					○		2				12	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅰb	1後	○	1					○		2				12	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅱa	2･3･4前			1				○						5	
			健康・スポーツ実習Ⅱb	2･3･4後			1				○		1				6	
			健康・スポーツ実習Ⅲa	2･3･4前			2				○		2					標準外
			健康・スポーツ実習Ⅲb	2･3･4後			2				○		1				1	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅳ	2･3･4前			2				○						1	
			小計(8科目)	－	－	4	8	0	－			0	2	0	0	0	17	－
	基本科目	人文科学	哲学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			倫理学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			日本史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			アジア史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○			1						
			欧米史Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			社会心理学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			文学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			総合教育科目演習Ⅰ（人文）	1通	○		4			○							1	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			1	0	0	0	0	9	－
		社会科学	政治学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			政治学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			社会学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			法学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（社会）	1通	○		4			○							2	
			小計(7科目)	－	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	8	－
		自然科学	地球科学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○			1						
			生命科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			地球科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			微分積分Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								4	
			線形代数Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			地球環境論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（自然）	1通	○		4			○		1					3	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			1	0	0	0	0	10	－
			日本史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			アジア史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○			1						
			欧米史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会心理学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			文学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			地誌学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			政治学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	

区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
総合教育科目	選択科目	法学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								2	
		社会人類学Ⅱ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
		人権論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		生命科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		地球科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		物理科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		微分積分Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								4	
		線形代数Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
		地球環境論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ａ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
		国際教養Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
		言語と文化Ａ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		言語と文化Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		言語と文化Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		言語と文化Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		言語と文化Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		総合教育科目演習Ⅱ（人文）	2･3･4通	○		4			○							1	
		総合教育科目演習Ⅱ（社会）	2･3･4通	○		4			○							2	
		総合教育科目演習Ⅱ（自然）	2･3･4通	○		4			○		1					3	
		小計(30科目)	－	－	0	66	0	－			2	0	0	0	0	34	－
	教職科目	日本史	1前				2	○								1	
		外国史	1後				2	○								1	
		人文地理学	1前･後				2	○								1	
		自然地理学	1前･後				2	○								1	
		地誌学(教職)	1前･後				2	○								2	
		社会科・地理歴史科教育法1	3前				2		○							3	
		社会科・地理歴史科教育法2	3後				2		○							3	
		社会科・公民科教育法1	3前				2		○							3	
		社会科・公民科教育法2	3後				2		○							3	
		職業指導Ⅰ	3前				2	○								1	
		職業指導Ⅱ	3後				2	○								1	
		商業科教育法1	3前				2		○							1	
		商業科教育法2	3後				2		○							1	
		小計(13科目)	－	－	0	0	26	－			0	0	0	0	0	12	－
合計(418科目)			－	－	12	859	30	－			13	8	0	0	0	367	－

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門教育科目」区分から62単位以上修得 ・「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」の２科目８単位修得 「日本経済史」から「経済学史」までの５科目から８単位以上修得、ただし「日本経済史」「西洋経済史」の２科目とも修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。 ・「統計学」から「空間経済学」までの５科目から12単位以上、「簿記論」から「経済情報クラスター特殊講義」までの37科目から12単位以上修得 ■「外国語科目」区分から14単位以上（外国人留学生については、16単位以上）修得 ・ 英語６単位以上、その他の外国語１カ国語６単位以上修得 ■「健康・スポーツ科目」区分から４単位以上修得 ・「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ⅰb」までの３科目４単位修得 ■「総合教育科目」区分から24単以上修得 ・「基本科目」区分のうち、「人文科学」区分から４単位以上、「社会科学」区分から４単位以上、「自然科学」区分から４単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を133単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経済学部国際経済学科）※既設学部等

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	導入科目	入門演習	1前･後	○		2			○		3	5		2		31	
		経済入門	1前･後	○		2		○				2				15	オムニバス（一部）
		基礎数学Ａ１	1･2･3前			2		○			2					1	
		基礎数学Ｂ１	1･2･3前			2		○			1					1	
		基礎数学Ａ２	1･2･3後			2		○			2					1	
		基礎数学Ｂ２	1･2･3後			2		○			1					1	
		キャリアデザイン	1前･後			2		○						1		2	標準外（一部）
		ビジネス・プロジェクト講座	1前･後			2		○								3	
		小計(8科目)	－	－	0	16	0	－			5	5	0	2	0	42	－
	基礎科目	基礎マクロ経済学	1前･後	○	4			○				1				4	メディア（一部）
		基礎ミクロ経済学	1前･後	○	4			○				1				4	
		日本経済史	1前･後	○		4		○								2	
		西洋経済史	1前･後	○		4		○								2	
		マルクス経済学	2･3前	○		4		○								2	
		経済政策論	2･3前･後	○		4		○								3	
		経済学史	2･3前･後	○		4		○								2	
		小計(7科目)	－	－	8	20	0	－			0	1	0	0	0	16	－
	学科基本科目	国際経済学	2前･後	○		4		○				1		1			
		国際金融論	2後	○		4		○				1					
		世界経済論	2後	○		4		○			1						
		国際経済政策	3前	○		4		○			1						
		国際開発論	3後	○		4		○			1						
		小計(5科目)	－	－	0	20	0	－			3	2	0	1	0	0	－
		国際関係論	2前	○		4		○								1	
		金融論Ⅰ	2･3前･後	○		4		○								2	
		Economics Seminar Ⅰ	2前	○		2			○							1	
		外国為替論	3･4前	○		4		○						1			
		国際経営論	3･4後	○		4		○								1	
		米国経済論	3･4前	○		4		○								1	
		ＥＵ経済論	3･4前	○		4		○								1	
		国際公共政策	3後	○		4		○								1	
		交通経済論	3･4前	○		4		○								1	
		国際投資論	3･4前	○		2		○								1	
		地域経済統合論	3･4後	○		2		○								1	
		Economics Seminar Ⅱ	3･4後	○		2			○							1	
		資源論	3･4後	○		2		○								1	
		貿易・国際金融クラスター演習	3･4後	○		2			○		1						
		貿易・国際金融クラスター特殊講義	3･4前	○		2		○				1					
		人口論	2前	○		4		○			1						
		産業構造論	2前	○		4		○								1	
		国際協力論	2前	○		2		○			1						
		アジア経済論	3･4前	○		4		○								1	
		日本経済論	3･4前	○		4		○								1	
		中小企業論	3･4後	○		4		○						1			
		農業経済論	3･4後	○		4		○				1					
		空間経済学	3･4前･後	○		4		○								1	
		開発と環境	3･4後	○		2		○								1	
		多国籍企業論	3･4前	○		2		○				1					
		中国経済論	3･4前	○		2		○			1						
		開発金融論	3･4前	○		2		○								1	
		アジア経営論	3･4前	○		2		○								1	
		経済開発クラスター演習	3･4後	○		2			○			1					
		経済開発クラスター特殊講義	3･4前	○		2		○			1						
		小計(30科目)	－	－	0	90	0	－			4	3	0	2	0	18	－
		財政学	2･3前･後			4		○								1	
		社会政策	2･3前･後			4		○								2	
		社会思想史	2･3前･後			4		○								2	
		中級マクロ経済学	2後			4		○								2	
		中級ミクロ経済学	2前			4		○								2	
		独占資本主義論	3前･後			4		○								2	
		経済数学	2前			4		○								1	
		経済変動論	3･4前			4		○								1	
		金融論Ⅱ	3･4後			4		○								1	
		マクロ会計論	3･4前			2		○								1	

区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	国際経済学科科目	産業組織論	3･4前			4		○								1	
		租税論	3･4後			4		○								1	
		計量経済学	3･4前			4		○								1	
		証券市場論	3･4後			4		○								1	
		地方財政論	3･4後			4		○								1	
		経済総合クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		環境経済学	2後			4		○								1	
		産業社会学	2後			2		○								1	
		労働経済学	3･4前			4		○								1	
		労使関係論	3･4前			4		○								1	
		人口分析	3･4前			4		○								1	
		社会保障論	3･4前			4		○								1	
		社会福祉論	3･4後			4		○								1	
		健康経済学	3･4後			4		○								1	
		ジェンダーと労働	3･4前			4		○								1	
		社会と環境	3･4前			2		○								1	
		ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		統計学	1前･後			4		○								1	
		経営学	2前･後			4		○								1	
		ＩＣＴスキル	3前･後			4		○								4	
		簿記論	1前･後			4		○								2	
		入門統計演習	1前･後			2			○							4	
		入門ＩＣＴ演習	1前･後			2			○							7	
		地域システム	2前			4		○								1	
		財務会計論	2前			4		○								1	
		管理会計論	2前			4		○								1	
		経営戦略論	3･4後			4		○								1	
		経営組織論	3･4前			4		○								1	
		公益企業論	3･4後			4		○								1	
		生産システム	3･4前			4		○								1	
		流通システム	3･4後			4		○								1	
		環境会計論	3･4後			4		○								1	
		先端産業論	3･4後			2		○								1	
		ベンチャー起業論	3･4後			2		○								1	
		監査論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		監査論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
		税務会計論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		税務会計論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
専門教育科目		企業経済クラスター特殊講義	3･4後			2		○				1					
		情報数学	2後			4		○								1	
		情報科学	2前			4		○								1	
		応用統計	3･4後			4		○								1	
		経済統計	3･4後			4		○								1	
		システムデザイン	3･4後			4		○								1	
		ＩＣＴ応用演習	3･4通			4			○							1	
		データ分析演習	3･4前･後			2			○							1	
		経済情報クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		公共経済学	2前			4		○								2	
		公共政策	3前			4		○								1	
		行政学	3後			4		○								1	
		地方自治論	3･4前			2		○								1	
		都市経営論	3･4後			2		○								1	
		非営利組織論	3･4前			2		○								1	
		地域ガバナンス論	3･4前			2		○								1	
		費用便益分析	3･4後			2		○								1	
		公共クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		環境科学Ⅰ	2前			2		○								1	
		環境科学Ⅱ	2後			2		○			1						
		環境倫理学	2後			2		○								1	
		環境政策Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		環境政策Ⅱ	3･4前			2		○								1	
		企業と環境	3･4前			2		○								1	
		環境リスク論	3･4後			2		○								1	
		環境クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		小計(74科目)	－	－	0	236	0	－			1	1	0	0	0	67	－
		憲法	1前			4		○								1	
		民法Ⅰ	2通			4		○								1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		法律プログラム	商法Ⅰ	2後			4		○								1	
			民法Ⅱ	3･4通			4		○								1	
			商法Ⅱ	3･4前			4		○								1	
			行政法	3･4通			4		○								1	
			経済法	3･4後			4		○								1	
			労働法	3･4通			4		○								1	
			知的財産法	3･4後			4		○								1	
			国際法	3･4前			4		○								1	
			小計(10科目)	－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	10	－
		学部共通科目	外国書講読（英）	3･4前			4		○								1	
			外国書講読（独）	3･4通			4		○								1	
			外国書講読（仏）	3･4通			4		○								1	
			外国書講読（中）	3･4通			4		○								1	
			学部共通インターンシップⅠ	2前			2		○								1	標準外
			学部共通インターンシップⅡ	2後			2		○								1	
			インターンシップ	3･4通			4		○								7	標準外　※実験・実習
			海外インターンシップ演習	2･3･4前			2			○							4	
			海外インターンシップ実習	2･3･4休			2				○						4	標準外
			特殊講義Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			特殊講義Ⅱ	3･4後			2		○								1	
			特殊講義Ⅲ	3･4前			2		○								1	
			特殊講義Ⅳ	3･4前			2		○								1	
			演習１	2通			4			○		5	4		1		49	
			演習２	3通			4			○		4	2		2		48	
			課題演習	3通			4			○							1	
			演習３	4通･後			6			○		5	2		1		49	メディア（一部）
			特別講義Ⅰ	2･3･4前･後			2		○			1					4	
			特別講義Ⅱ	2･3･4後			2		○			1	2				1	オムニバス
			特別講義Ⅲ	2･3･4後			2		○						1			
			特別講義Ⅳ	2･3･4前･後			2		○								3	
			特別講義Ⅴ	2･3･4前			2		○				1					
			特別講義Ⅵ	2･3･4後			2		○				1					
			総合講座Ⅰ	1･2･3･4後			4		○								1	
			総合講座Ⅱ	1･2･3･4前			4		○								1	
			総合講座Ⅲ	1･2･3･4前･後			2		○								4	
			総合講座Ⅳ	1･2･3･4後			2		○								5	
			グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1･2･3･4休			1				○	1					4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1･2･3･4休			1				○	1					4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1･2･3･4休			1				○	1					4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1･2･3･4休			1				○	1					4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1･2･3･4休			1				○	2	2				4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1･2･3･4休			1				○	2	2				4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1･2･3･4休			1				○	2	2				4	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1･2･3･4休			1				○	2	2				4	標準外
			短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	1後			6				○						1	標準外
			キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								2	オムニバス
			学術情報の探索・活用法	1･2前･後				2	○								1	メディア
			小計(38科目)	－	－	0	92	4	－			6	5	0	2	0	80	－
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○		2					19	メディア
			ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○		2					24	メディア
			ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		2					24	メディア
			グローバル・テュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								6	
			専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						2	オムニバス・標準外
			グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								4	オムニバス
			グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	共同（一部）　標準外
			グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							2	オムニバス・メディア
			グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	標準外
			短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○	1					8	オムニバス（一部）・メディア　標準外
			短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○	1					8	オムニバス（一部）・メディア　標準外
			短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
			短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○						8	標準外
			AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前･後			2		○								6	オムニバス・メディア
			AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○								11	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前･後			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
			AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
			AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							4	メディア
		大学生のための論文作成の技法(基礎編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		大学生のための論文作成の技法(発展編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		小計(27科目)	－	－	0	61	0	－			3	0	0	0	0	84	－
		英語１ａ	1前･後	○		1		○			1	2				18	
		英語１ｂ	1前･後	○		1		○			1	2				18	
		英語２ａ	1前･後	○		1			○		1	4				20	
		英語２ｂ	1前･後	○		1			○		1	4				20	
		英語３ａ	2前･後	○		1		○			1	2				19	
		英語３ｂ	2前･後	○		1		○			1	2				19	
		英語４ａ	2前･後	○		1			○		1	2				22	
		英語４ｂ	2前･後	○		1			○		1	2				22	
		ドイツ語１ａ	1前･後	○		1		○			1	1				4	
		ドイツ語１ｂ	1前･後	○		1		○			1	1				4	
		ドイツ語２ａ	1前･後	○		1		○				1				6	
		ドイツ語２ｂ	1前･後	○		1			○			1				6	
		ドイツ語３ａ	2前･後	○		1			○		1					4	
		ドイツ語３ｂ	2前･後	○		1		○			1					4	
		ドイツ語４ａ	2前･後	○		1			○		1	1				6	
		ドイツ語４ｂ	2前･後	○		1			○		1	1				6	
		フランス語１ａ	1前･後	○		1		○			1					6	
		フランス語１ｂ	1前･後	○		1		○			1					6	
		フランス語２ａ	1前･後	○		1			○		1					6	
		フランス語２ｂ	1前･後	○		1			○		1					6	
		フランス語３ａ	2前･後	○		1		○								5	
		フランス語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		フランス語４ａ	2前･後	○		1			○		1					4	
		フランス語４ｂ	2前･後	○		1			○		1					4	
	Ⅰ系	中国語１ａ	1前･後	○		1		○								17	
		中国語１ｂ	1前･後	○		1		○								17	
		中国語２ａ	1前･後	○		1			○							12	
		中国語２ｂ	1前･後	○		1			○							12	
		中国語３ａ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語３ｂ	2前･後	○		1		○								13	
		中国語４ａ	2前･後	○		1			○							11	
		中国語４ｂ	2前･後	○		1			○							11	
		スペイン語１ａ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語１ｂ	1前･後	○		1		○								7	
		スペイン語２ａ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語２ｂ	1前･後	○		1			○							5	
		スペイン語３ａ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語４ａ	2前･後	○		1			○							7	
		スペイン語４ｂ	2前･後	○		1			○							7	
		朝鮮語１ａ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語１ｂ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語２ａ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語２ｂ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語３ａ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語３ｂ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語４ａ	2前･後	○		1			○							3	
		朝鮮語４ｂ	2前･後	○		1			○							3	
		小計(48科目)	－		0	48	0	－			3	5	0	0	0	93	－
		オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1				8	
		オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1				8	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1･2･3･4前	○		1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○			1				6	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ａ）	1･2･3･4前	○		1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	

区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		特設英語１ａ	1･2･3･4前	○		1		○				3				2	
		特設英語１ｂ	1･2･3･4後	○		1		○				3				2	
		特設英語２ａ	1･2･3･4前	○		1		○				3				2	
		特設英語２ｂ	1･2･3･4後	○		1		○				3				2	
		特設ドイツ語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設ドイツ語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設中国語１ａ	1前			1		○								1	
		特設中国語１ｂ	1後			1		○								1	
		特設中国語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設中国語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		小計(46科目)	－	－	0	46	0	－			0	3	0	0	0	25	－
	Ⅲ系	上級英語１	2･3･4前	○		2			○			1					
		上級英語２	2･3･4後	○		2			○			1					
		上級英語３	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語４	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級英語５	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語６	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級ドイツ語１ａ	2･3･4前			1			○		1						
		上級ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1			○		1						
		上級ドイツ語２ａ	2･3･4前			1			○		1						
		上級ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1			○		1						
		上級フランス語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級フランス語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級中国語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級中国語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級中国語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級中国語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級スペイン語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級スペイン語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級スペイン語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級スペイン語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級朝鮮語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級朝鮮語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級朝鮮語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級朝鮮語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		小計(26科目)	－	－	0	32	0	－			1	1	0	0	0	6	－
	Aコース	日本語ＡⅠ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅡ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅠ（２）	1後	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅡ（２）	1後	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ（２）	1後	○		1		○								1	※演習

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
特別科目	各学部共通・日本語科目等		日本語AⅣ（2）	1後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅠ（3）	2前	○		1		○			1						※演習
			日本語AⅡ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅢ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅣ（3）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅠ（4）	2後	○		1		○			1						※演習
			日本語AⅡ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅢ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語AⅣ（4）	2後	○		1		○								1	※演習
			小計(16科目)	－	－	0	16	0	－			1	0	0	0	0	5	－
		Bコース	日本語BⅠ（1）	1前	○		1		○								5	※演習
			日本語BⅡ（1）	1前	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅠ（2）	1後	○		1		○								5	※演習
			日本語BⅡ（2）	1後	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅠ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅡ（3）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅠ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			日本語BⅡ（4）	2後	○		1		○								6	※演習
			小計(8科目)	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	12	－
		日本事情	日本事情	1前･後			2		○								1	
			小計(1科目)	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	1	－
健康・スポーツ科目			健康・スポーツ科学論	1前･後	○	2			○								2	
			健康・スポーツ実習Ⅰa	1前	○	1					○						14	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅰb	1後	○	1					○						14	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅱa	2･3･4前			1				○						5	
			健康・スポーツ実習Ⅱb	2･3･4後			1				○						7	
			健康・スポーツ実習Ⅲa	2･3･4前			2				○						2	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅲb	2･3･4後			2				○						2	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅳ	2･3･4前			2				○						1	
			小計(8科目)	－	－	4	8	0	－			0	0	0	0	0	19	－
総合教育科目	基本科目	人文科学	哲学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			倫理学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			日本史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			アジア史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			欧米史Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			社会心理学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			文学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			総合教育科目演習Ⅰ（人文）	1通	○		4			○							1	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	10	－
		社会科学	政治学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			政治学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			社会学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			法学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（社会）	1通	○		4			○							2	
			小計(7科目)	－	－	0	18	0	－			0	0	0	0	0	8	－
		自然科学	地球科学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			生命科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○			1					1	
			地球科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			微分積分Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○			2					2	
			線形代数Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○			1					2	
			地球環境論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（自然）	1通	○		4			○		3					1	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			3	0	0	0	0	8	－
			日本史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			アジア史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			欧米史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会心理学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			文学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
			地誌学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			政治学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			法学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅱ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			生命科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○			1						

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	選択科目	地球科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		物理科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		微分積分Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○			2					2	
		線形代数Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○			1					2	
		地球環境論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ａ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○			1	2					
		国際教養Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○			1						
		国際教養Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○			1	2					
		言語と文化Ａ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		言語と文化Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		言語と文化Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		言語と文化Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○				1					
		言語と文化Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		総合教育科目演習Ⅱ（人文）	2･3･4通	○		4			○							1	
		総合教育科目演習Ⅱ（社会）	2･3･4通	○		4			○							2	
		総合教育科目演習Ⅱ（自然）	2･3･4通	○		4			○		3					1	
		小計(30科目)	－	－	0	66	0	－			5	3	0	0	0	28	－
合計(405科目)			－	－	12	859	4	－			11	9	0	2	0	355	－

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門教育科目」区分から62単位以上修得 ・「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」の２科目８単位修得 「日本経済史」から「経済学史」までの５科目から８単位以上修得、ただし「日本経済史」「西洋経済史」の２科目とも修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。 ・「国際経済学」を必修とする。「国際金融論」から「国際開発論」 までの４科目の中から８単位以上 、「国際関係論」から「経済開発クラスター特殊講義」までの30科目から12単位以上修得 ■「外国語科目」区分から14単位以上（外国人留学生については、16単位以上）修得 ・ 英語６単位以上、その他の外国語１カ国語６単位以上修得 ■「健康・スポーツ科目」区分から４単位以上修得 ・「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ⅰb」までの３科目４単位修得 ■「総合教育科目」区分から24単以上修得 ・「基本科目」区分のうち、「人文科学」区分から４単位以上、「社会科学」区分から４単位以上、「自然科学」区分から４単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を133単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（経済学部公共・環境経済学科）※既設学部等

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	導入科目	入門演習	1前･後	○		2			○		5	4		1		31	
		経済入門	1前･後	○		2		○			3	2				12	オムニバス（一部）
		基礎数学Ａ１	1･2･3前			2		○								3	
		基礎数学Ｂ１	1･2･3前			2		○								2	
		基礎数学Ａ２	1･2･3後			2		○								3	
		基礎数学Ｂ２	1･2･3後			2		○								2	
		キャリアデザイン	1前･後			2		○								3	標準外（一部）
		ビジネス・プロジェクト講座	1前･後			2		○								3	
		小計(8科目)	－	－	0	16	0	－			7	4	0	1	0	42	－
	基礎科目	基礎マクロ経済学	1前･後	○	4			○								5	メディア（一部）
		基礎ミクロ経済学	1前･後	○	4			○								5	
		日本経済史	1前･後	○		4		○								2	
		西洋経済史	1前･後	○		4		○								2	
		マルクス経済学	2･3前	○		4		○								2	
		経済政策論	2･3前･後	○		4		○			1					2	
		経済学史	2･3前･後	○		4		○								2	
		小計(7科目)	－	－	8	20	0	－			1	0	0	0	0	16	－
	学科基本科目	公共経済学	2前	○		4		○			1					1	
		財政学	2･3前･後	○		4		○				1					
		環境経済学	2後	○		4		○				1					
		公共政策	3前	○		4		○				1					
		国際公共政策	3後	○		4		○			1						
		行政学	3後	○		4		○			1						
		小計(6科目)	－	－	0	24	0	－			3	3	0	0	0	1	－
		地域システム	2前	○		4		○								1	
		国際関係論	2前	○		4		○								1	
		租税論	3･4後	○		4		○								1	
		地方財政論	3･4後	○		4		○			1						
		社会保障論	3･4前	○		4		○			1						
		健康経済学	3･4後	○		4		○								1	
		地方自治論	3･4前	○		2		○								1	
		都市経営論	3･4後	○		2		○			1						
		非営利組織論	3･4前	○		2		○								1	
		地域ガバナンス論	3･4前	○		2		○								1	
		費用便益分析	3･4後	○		2		○								1	
		公共クラスター演習	3･4前	○		2			○		1						
		公共クラスター特殊講義	3･4前	○		2		○								1	
		人口論	2前	○		4		○								1	
		環境科学Ⅰ	2前	○		2		○								1	
		環境科学Ⅱ	2後	○		2		○								1	
		環境倫理学	2後	○		2		○			1						
		環境会計論	3･4後	○		4		○								1	
		環境政策Ⅰ	3･4前	○		2		○								1	
		環境政策Ⅱ	3･4前	○		2		○								1	
		開発と環境	3･4後	○		2		○								1	
		社会と環境	3･4前	○		2		○								1	
		企業と環境	3･4前			2		○								1	
		環境リスク論	3･4後	○		2		○								1	
		環境クラスター演習	3･4前	○		2			○			1					
		環境クラスター特殊講義	3･4前	○		2		○								1	
		小計(26科目)	－	－	0	68	0	－			4	1	0	0	0	16	－
		金融論Ⅰ	2･3前･後			4		○								2	
		社会政策	2･3前･後			4		○								2	
		社会思想史	2･3前･後			4		○								2	
		中級マクロ経済学	2後			4		○								2	
		中級ミクロ経済学	2前			4		○								2	
		独占資本主義論	3前･後			4		○								2	
		経済数学	2前			4		○								1	
		経済変動論	3･4前			4		○								1	
		金融論Ⅱ	3･4後			4		○								1	
		マクロ会計論	3･4前			2		○								1	
		日本経済論	3･4前			4		○								1	
		産業組織論	3･4前			4		○								1	
		計量経済学	3･4前			4		○								1	

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
専門教育科目	公共・環境経済学科科目	証券市場論	3･4後			4		○								1	
		経済総合クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		産業社会学	2後			2		○								1	
		労働経済学	3･4前			4		○								1	
		労使関係論	3･4前			4		○								1	
		人口分析	3･4前			4		○								1	
		社会福祉論	3･4後			4		○			1						
		ジェンダーと労働	3･4前			4		○								1	
		ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		統計学	1前･後			4		○								1	
		経営学	2前･後			4		○								1	
		産業構造論	2前			4		○								1	
		ＩＣＴスキル	3前･後			4		○								4	
		空間経済学	3･4前･後			4		○								1	
		簿記論	1前･後			4		○								2	
		入門統計演習	1前･後			2			○							4	
		入門ＩＣＴ演習	1前･後			2			○							7	
		財務会計論	2前			4		○								1	
		管理会計論	2前			4		○								1	
		経営戦略論	3･4後			4		○								1	
		経営組織論	3･4前			4		○								1	
		交通経済論	3･4前			4		○								1	
		農業経済論	3･4後			4		○								1	
		中小企業論	3･4後			4		○								1	
		公益企業論	3･4後			4		○								1	
		生産システム	3･4前			4		○								1	
		流通システム	3･4後			4		○								1	
		先端産業論	3･4後			2		○								1	
		ベンチャー起業論	3･4後			2		○								1	
		監査論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		監査論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
		税務会計論Ⅰ	3･4前			2		○								1	
		税務会計論Ⅱ	3･4後			2		○								1	
		企業経済クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		情報数学	2後			4		○								1	
		情報科学	2前			4		○								1	
		応用統計	3･4後			4		○								1	
		経済統計	3･4後			4		○								1	
		システムデザイン	3･4後			4		○								1	
		ＩＣＴ応用演習	3･4通			4			○							1	
		データ分析演習	3･4前･後			2			○							1	
		経済情報クラスター特殊講義	3･4後			2		○								1	
		国際経済学	2前･後			4		○								2	
		国際金融論	2後			4		○								1	
		世界経済論	2後			4		○								1	
		国際経済政策	3前			4		○								1	
		国際開発論	3後			4		○								1	
		Economics Seminar Ⅰ	2前			2			○							1	
		外国為替論	3･4前			4		○								1	
		国際経営論	3･4後			4		○								1	
		米国経済論	3･4前			4		○								1	
		ＥＵ経済論	3･4前			4		○								1	
		国際投資論	3･4前			2		○								1	
		地域経済統合論	3･4後			2		○								1	
		Economics Seminar Ⅱ	3･4後			2			○							1	
		資源論	3･4後			2		○								1	
		貿易・国際金融クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		国際協力論	2前			2		○								1	
		アジア経済論	3･4前			4		○								1	
		多国籍企業論	3･4前			2		○								1	
		中国経済論	3･4前			2		○								1	
		開発金融論	3･4前			2		○								1	
		アジア経営論	3･4前			2		○								1	
		経済開発クラスター特殊講義	3･4前			2		○								1	
		小計(77科目)	－	－	0	254	0	－			1	0	0	0	0	68	－
		憲法	1前			4		○								1	
		民法Ⅰ	2通			4		○								1	

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		法律プログラム	商法Ⅰ	2後			4		○								1	
			民法Ⅱ	3･4通			4		○								1	
			商法Ⅱ	3･4前			4		○								1	
			行政法	3･4通			4		○								1	
			経済法	3･4後			4		○								1	
			労働法	3･4通			4		○								1	
			知的財産法	3･4後			4		○								1	
			国際法	3･4前			4		○								1	
			小計(10科目)	－	－	0	40	0	－			0	0	0	0	0	10	－
		学部共通科目	外国書講読（英）	3･4前			4		○								1	
			外国書講読（独）	3･4通			4		○								1	
			外国書講読（仏）	3･4通			4		○								1	
			外国書講読（中）	3･4通			4		○								1	
			学部共通インターンシップⅠ	2前			2		○								1	標準外
			学部共通インターンシップⅡ	2後			2		○								1	
			インターンシップ	3･4通			4		○								7	標準外　※実験・実習
			海外インターンシップ演習	2･3･4前			2			○							4	
			海外インターンシップ実習	2･3･4休			2				○						4	標準外
			特殊講義Ⅰ	3･4前			2		○								1	
			特殊講義Ⅱ	3･4後			2		○								1	
			特殊講義Ⅲ	3･4前			2		○								1	
			特殊講義Ⅳ	3･4前			2		○								1	
			演習１	2通			4			○		4	5		1		49	
			演習２	3通			4			○		6	4				46	
			課題演習	3通			4			○							1	
			演習３	4通･後			6			○		6	3				48	メディア（一部）
			特別講義Ⅰ	2･3･4前･後			2		○			1	2				2	
			特別講義Ⅱ	2･3･4後			2		○						1		3	オムニバス
			特別講義Ⅲ	2･3･4後			2		○								1	
			特別講義Ⅳ	2･3･4前･後			2		○			1					2	
			特別講義Ⅴ	2･3･4前			2		○								1	
			特別講義Ⅵ	2･3･4後			2		○								1	
			総合講座Ⅰ	1･2･3･4後			4		○								1	
			総合講座Ⅱ	1･2･3･4前			4		○								1	
			総合講座Ⅲ	1･2･3･4前･後			2		○								4	
			総合講座Ⅳ	1･2･3･4後			2		○								5	
			グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1･2･3･4休			1				○	2					3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1･2･3･4休			1				○	2					3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1･2･3･4休			1				○	2					3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1･2･3･4休			1				○	2					3	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1･2･3･4休			1				○	1					7	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1･2･3･4休			1				○	1					7	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1･2･3･4休			1				○	1					7	標準外
			グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1･2･3･4休			1				○	1					7	標準外
			短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	1後			6				○						1	標準外
			キャリア・デザイン・ワークショップ	1前				2	○								2	オムニバス
			学術情報の探索・活用法	1･2前･後				2	○								1	メディア
			小計(38科目)	－	－	0	92	4	－			7	5	0	1	0	80	－
		学部間共通科目	ＦＬＰ演習Ａ	2通			4			○			2				19	メディア
			ＦＬＰ演習Ｂ	3通			4			○			1				25	メディア
			ＦＬＰ演習Ｃ	4通			4			○		1					25	メディア
			グローバル・チュートリアル	1･2･3･4前･後			2		○								6	
			専門インターンシップ	1･2･3･4休			1				○						2	オムニバス・標準外
			グローバル総合講座	2･3･4前･後			2		○								4	オムニバス
			グローバル集中講義	2･3･4休			1		○								2	共同（一部）　標準外
			グローバル遠隔ラーニング	2･3･4後			2			○							2	オムニバス・メディア
			グローバルアクティブラーニング	2･3･4前			1				○						1	標準外
			短期留学プログラムⅠ	1･2･3･4前			4				○						9	オムニバス（一部）・メディア　標準外
			短期留学プログラムⅡ	1･2･3･4前			4				○						9	オムニバス（一部）・メディア　標準外
			短期留学プログラムⅢ	1･2･3･4前･後			2				○		1				7	標準外
			短期留学プログラムⅣ	1･2･3･4前･後			2				○		1				7	標準外
			AI・データサイエンスと現代社会	1･2･3･4前･後			2		○								6	オムニバス・メディア
			AI・データサイエンス総合	1･2･3･4前･後			2		○								11	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅠ	1･2･3･4前･後			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅡ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
			AI・データサイエンスツールⅢ	1･2･3･4前			2		○								2	オムニバス・メディア 共同（一部）
			AI・データサイエンスツールⅣ	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
			AI・データサイエンス演習A(1)	2前			2			○							4	メディア

区科分目		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		AI・データサイエンス演習A(2)	2後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(1)	3前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習B(2)	3後			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(1)	4前			2			○							4	メディア
		AI・データサイエンス演習C(2)	4後			2			○							4	メディア
		大学生のための論文作成の技法(基礎編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		大学生のための論文作成の技法(発展編)	1･2･3･4前･後			2		○								1	メディア
		小計(27科目)	－	－	0	61	0	－			1	3	0	0	0	83	－
		英語１ａ	1前･後	○		1		○			1					20	
		英語１ｂ	1前･後	○		1		○			1					20	
		英語２ａ	1前･後	○		1			○		1					24	
		英語２ｂ	1前･後	○		1			○		1					24	
		英語３ａ	2前･後	○		1		○			1					21	
		英語３ｂ	2前･後	○		1		○			1					21	
		英語４ａ	2前･後	○		1			○		1					24	
		英語４ｂ	2前･後	○		1			○		1					24	
		ドイツ語１ａ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語１ｂ	1前･後	○		1		○								6	
		ドイツ語２ａ	1前･後	○		1		○								7	
		ドイツ語２ｂ	1前･後	○		1			○							7	
		ドイツ語３ａ	2前･後	○		1			○							5	
		ドイツ語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		ドイツ語４ａ	2前･後	○		1			○							8	
		ドイツ語４ｂ	2前･後	○		1			○							8	
		フランス語１ａ	1前･後	○		1		○				1				6	
		フランス語１ｂ	1前･後	○		1		○				1				6	
		フランス語２ａ	1前･後	○		1			○			1				6	
		フランス語２ｂ	1前･後	○		1			○			1				6	
		フランス語３ａ	2前･後	○		1		○				1				4	
		フランス語３ｂ	2前･後	○		1		○				1				4	
		フランス語４ａ	2前･後	○		1			○			1				4	
		フランス語４ｂ	2前･後	○		1			○			1				4	
	Ⅰ系	中国語１ａ	1前･後	○		1		○			2			1		14	
		中国語１ｂ	1前･後	○		1		○			2			1		14	
		中国語２ａ	1前･後	○		1			○		2			1		9	
		中国語２ｂ	1前･後	○		1			○		2			1		9	
		中国語３ａ	2前･後	○		1		○			1					12	
		中国語３ｂ	2前･後	○		1		○			1					12	
		中国語４ａ	2前･後	○		1			○		1					10	
		中国語４ｂ	2前･後	○		1			○		1					10	
		スペイン語１ａ	1前･後	○		1		○				1				6	
		スペイン語１ｂ	1前･後	○		1		○				1				6	
		スペイン語２ａ	1前･後	○		1			○			1				4	
		スペイン語２ｂ	1前･後	○		1			○			1				4	
		スペイン語３ａ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語３ｂ	2前･後	○		1		○								5	
		スペイン語４ａ	2前･後	○		1			○							7	
		スペイン語４ｂ	2前･後	○		1			○							7	
		朝鮮語１ａ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語１ｂ	1前･後	○		1		○								3	
		朝鮮語２ａ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語２ｂ	1前･後	○		1			○							2	
		朝鮮語３ａ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語３ｂ	2前･後	○		1		○								2	
		朝鮮語４ａ	2前･後	○		1			○							3	
		朝鮮語４ｂ	2前･後	○		1			○							3	
		小計(48科目)	－	－	0	48	0	－			3	2	0	1	0	95	－
		オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1･2･3･4前	○		1			○							9	
		オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○							9	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1･2･3･4前	○		1			○							7	
		オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○							7	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ａ）	1･2･3･4前	○		1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（英語３ｂ）	1･2･3･4後	○		1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	

区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	2･3･4前			1			○							1	
		オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	2･3･4後			1			○							1	
		特設英語１ａ	1･2･3･4前	○		1		○			1					4	
		特設英語１ｂ	1･2･3･4後	○		1		○			1					4	
		特設英語２ａ	1･2･3･4前	○		1		○								5	
		特設英語２ｂ	1･2･3･4後	○		1		○								5	
		特設ドイツ語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設ドイツ語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設フランス語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設フランス語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設中国語１ａ	1前			1		○			1						
		特設中国語１ｂ	1後			1		○			1						
		特設中国語２ａ	2･3･4前			1		○						1			
		特設中国語２ｂ	2･3･4後			1		○						1			
		特設スペイン語１ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語１ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		特設スペイン語２ａ	2･3･4前			1		○								1	
		特設スペイン語２ｂ	2･3･4後			1		○								1	
		小計(46科目)	－	－	0	46	0	－			2	0	0	1	0	25	－
	Ⅲ系	上級英語１	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語２	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級英語３	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語４	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級英語５	2･3･4前	○		2			○							1	
		上級英語６	2･3･4後	○		2			○							1	
		上級ドイツ語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級ドイツ語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級ドイツ語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級フランス語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級フランス語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級フランス語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級中国語１ａ	2･3･4前			1			○		1						
		上級中国語１ｂ	2･3･4後			1			○		1						
		上級中国語２ａ	2･3･4前			1			○		1						
		上級中国語２ｂ	2･3･4後			1			○		1						
		上級スペイン語１ａ	2･3･4前			1			○			1					
		上級スペイン語１ｂ	2･3･4後			1			○			1					
		上級スペイン語２ａ	2･3･4前			1			○			1					
		上級スペイン語２ｂ	2･3･4後			1			○			1					
		上級朝鮮語１ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級朝鮮語１ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		上級朝鮮語２ａ	2･3･4前			1			○							1	
		上級朝鮮語２ｂ	2･3･4後			1			○							1	
		小計(26科目)	－	－	0	32	0	－			1	1	0	0	0	6	－
	Aコース	日本語ＡⅠ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅡ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ（１）	1前	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅠ（２）	1後	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅡ（２）	1後	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅢ（２）	1後	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅣ（２）	1後	○		1		○								1	※演習
		日本語ＡⅠ（３）	2前	○		1		○								1	※演習

区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
特別科目	各学部共通・日本語科目等		日本語ＡⅡ（３）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（３）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（３）	2前	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅠ（４）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅡ（４）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅢ（４）	2後	○		1		○								1	※演習
			日本語ＡⅣ（４）	2後	○		1		○								1	※演習
			小計(16科目)	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	6	－
		Bコース	日本語ＢⅠ（１）	1前	○		1		○								5	※演習
			日本語ＢⅡ（１）	1前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（２）	1後	○		1		○								5	※演習
			日本語ＢⅡ（２）	1後	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（３）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅡ（３）	2前	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅠ（４）	2後	○		1		○								6	※演習
			日本語ＢⅡ（４）	2後	○		1		○								6	※演習
			小計(8科目)	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	12	－
		日本事情	日本事情	1前･後			2		○								1	
			小計(1科目)	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	1	－
健康・スポーツ科目			健康・スポーツ科学論	1前･後	○	2			○				1		1			
			健康・スポーツ実習Ⅰａ	1前	○	1					○		1				13	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅰｂ	1後	○	1					○		1				13	メディア（一部）
			健康・スポーツ実習Ⅱａ	2･3･4前			1				○						5	
			健康・スポーツ実習Ⅱｂ	2･3･4後			1				○				1		6	
			健康・スポーツ実習Ⅲａ	2･3･4前			2				○						2	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅲｂ	2･3･4後			2				○		1				1	標準外
			健康・スポーツ実習Ⅳ	2･3･4前			2				○						1	
			小計(8科目)	－	－	4	8	0	－			0	1	0	1	0	17	－
総合教育科目	基本科目	人文科学	哲学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○			1						
			倫理学	1･2･3･4前	○		2		○			1						
			日本史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			アジア史Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			欧米史Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			社会心理学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			文学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○			2					1	
			総合教育科目演習Ⅰ（人文）	1通	○		4			○		1						
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			3	0	0	0	0	7	－
		社会科学	政治学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○			1						
			政治学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			社会学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○				1				1	
			法学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（社会）	1通	○		4			○		1	1					
			小計(7科目)	－	－	0	18	0	－			1	1	0	0	0	6	－
		自然科学	地球科学概論	1･2･3･4前･後	○		4		○								1	
			生命科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								2	
			地球科学Ⅰ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			微分積分Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								4	
			線形代数Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
			地球環境論Ⅰ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			総合教育科目演習Ⅰ（自然）	1通	○		4			○							4	
			小計(8科目)	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	11	－
			日本史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			アジア史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			欧米史Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会心理学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			文学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○			2					1	
			地誌学	1･2･3･4前	○		2		○								1	
			政治学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			社会学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○				1					
			法学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								2	
			社会人類学Ⅱ	1･2･3･4前･後	○		2		○								1	
			人権論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			生命科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			地球科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
			物理科学Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	

区分	科目	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	選択科目	微分積分Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								4	
		線形代数Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
		地球環境論Ⅱ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ａ	1･2･3･4後	○		2		○				1					
		国際教養Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○								3	
		国際教養Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		国際教養Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○								3	
		言語と文化Ａ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		言語と文化Ｂ	1･2･3･4前	○		2		○								1	
		言語と文化Ｃ	1･2･3･4後	○		2		○			1						
		言語と文化Ｄ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		言語と文化Ｅ	1･2･3･4後	○		2		○								1	
		総合教育科目演習Ⅱ（人文）	2･3･4通	○		4			○		1						
		総合教育科目演習Ⅱ（社会）	2･3･4通	○		4			○		1	1					
		総合教育科目演習Ⅱ（自然）	2･3･4通	○		4			○							4	
		小計(30科目)	－	－	0	66	0	－			4	2	0	0	0	30	－
	教職科目	日本史	1前				2									1	
		外国史	1後				2	○								1	
		人文地理学	1前･後				2	○								1	
		自然地理学	1前･後				2	○								1	
		地誌学(教職)	1前･後				2									2	
		社会科・地理歴史科教育法1	3前				2		○							3	
		社会科・地理歴史科教育法2	3後				2		○							3	
		社会科・公民科教育法1	3前				2		○							3	
		社会科・公民科教育法2	3後				2		○							3	
		小計(9科目)	－	－	0	0	18	－			0	0	0	0	0	11	－
合計(414科目)			－	－	12	859	22	－			11	7	0	2	0	366	－

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
■「専門教育科目」区分から62単位以上修得 ・「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」の２科目８単位修得 「日本経済史」から「経済学史」までの５科目から８単位以上修得、ただし「日本経済史」「西洋経済史」の２科目とも修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。 ・「公共経済学」から「行政学」までの６科目の中から16単位以上、「地域システム」から「環境クラスター特殊講義」までの26科目の中から８単位以上修得 ■「外国語科目」区分から14単位以上（外国人留学生については、16単位以上）修得 ・ 英語６単位以上、その他の外国語１カ国語６単位以上修得 ■「健康・スポーツ科目」区分から４単位以上修得 ・「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までの３科目４単位修得 ■「総合教育科目」区分から24単以上修得 ・「基本科目」区分のうち、「人文科学」区分から４単位以上、「社会科学」区分から４単位以上、「自然科学」区分から４単位以上修得 ■卒業単位として認める単位を133単位以上修得 （履修科目の登録上限（年間）：49単位）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（経済学部社会経済学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科導入科目	経済入門	○	本科目では、講義形式にて、経済や経済学の面白さを発見し、経済学にはどのような各専門分野があるのかを知ることを通じて、日本経済の問題点や課題を学ぶ。具体的には、経済学部での学びの入り口として、経済学的な思考の基礎を習得するため、経済学を学ぶための問題意識を高めること及び、経済学の基本的な考え方や用語等を理解するために、身近で具体的な事例等を取り扱う。本科目における学習を通じて、どのような経済学的問題があるのかを理解し、物事を経済学的な考え方や用語を用いて説明できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科導入科目	現代経済学入門	○	本科目では、講義形式にて、生活や社会で起こる経済現象を、理論的に理解するための基礎を築き、物価や景気、雇用といった問題の背景にある仕組みを把握し、個人や企業、政府の意思決定を合理的に捉える力を養う術を、そして、経済政策や社会制度に対して主体的に考え、判断する姿勢を培う術を学ぶ。具体的には、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な理論を中心とし、前者では、需要と供給、消費者や企業の行動、市場構造や市場の失敗など個別の経済主体に関する分析を、後者では、GDPや失業率、金利などの指標、景気変動と政策対応といった経済全体の動きを理解する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済理論を使って現実の問題を論理的に説明し、資料に基づいて自分の考えを表現できる力を養うこと、また社会課題に接した際に合理的な判断をするための経済学的な考え方を習得できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科導入科目	基礎数学		本科目では、講義形式にて、高校数学Ⅰ・Ⅱの内容から必要な部分を抽出して復習をし、経済学部で本格的に微分積分を学ぶための準備として、多項式の微分法とその応用を学ぶ。具体的には、多項式の計算、分数式の計算、 2次方程式ならびに2次不等式の問題の解法、 2次関数、指数関数、対数関数、微分の定義とその応用等を取り扱う。本科目における学習を通じて、高校数学Ⅱの微分とその応用に関する内容を確実に理解し、経済学の専門科目を学ぶための基礎力をつけられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科導入科目	統計リテラシー	○	本科目では、講義形式にて、統計データ分析の基礎知識を学習するだけでなく、社会経済に関するデータを用いて実証分析を行うための基本的な分析手法を身につけることによって、ビジネス社会に役立つデータ分析のスキルを学ぶ。具体的には、Excelの分析ツールやExcel関数等を用いて、社会・経済の分野に関するデータを対象にした処理・加工の方法を習得し、ビジネス社会で求められているデータ分析能力のさらなる向上を目指す取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、データの処理・加工する上で必要な統計学の基礎を学習すること、Excelを用いて、データの処理・加工の方法、さらにはデータ分析に必要な分析手法の基礎を習得することを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科導入科目	マルクス経済学	○	本科目では、講義形式にて、資本主義経済の基本的な仕組みである、商品・貨幣・資本、労働力の商品化、市場競争、技術革新、資本蓄積、価格の変動、好況と不況といった資本主義の運動法則の基礎を学ぶ。具体的には、現代の諸課題を読み解くための基礎理論としてのマルクス経済学を展開する。また、一つひとつの概念を、ミクロ・マクロ経済学と比較しながら説明することで、ミクロ・マクロ経済学自体の理解を深める活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、マルクス経済学の基礎が理解できるようになること、マルクス経済学と他の経済学との関連がわかるようになること、現代社会を見る基礎的な見方を理解できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科基礎科目	独占資本主義論	○	本科目では、講義形式にて、現代の資本主義において生じている諸問題について、マルクス経済学の応用領域である独占資本主義論を用いて、理論的に捉え、その本質が何であるのかを学ぶ。具体的には、自由競争ではなく独占ないし寡占が支配する現代の資本主義を直接の対象とする。独占資本主義の時代では、市場競争や価格、利潤、企業の形態、好不況、雇用・失業、財政・金融政策、対外関係、サービス経済化や金融化といった経済構造の変化、ITやAIといった技術変化に、どのような違いが生じていて、それが私たちの生活にどのような影響を及ぼすか等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現代の資本主義において生じている具体的な経済問題について、マルクス経済学の応用領域である独占資本主義の理論を用いて、理論的に捉え、その本質が何であるのかを理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科基礎科目	社会政策	○	本科目では、講義形式にて、社会政策という学問の基本的枠組みを理解し、労働政策と社会保障政策の大まかなシステムを理解することと、日本の雇用と労働市場の特徴、現代日本経済についての構造的特質と問題点を理解し、生活・福祉に関わる問題と経済的背景との関連性について理解を深める術を学ぶ。具体的には、社会政策の理念を歴史的・理論的に検討すること、日本の社会政策がどのような歴史を経て現代に至っているか、労働市場や産業構造のあり方との関係を踏まえて歴史的に検討すること、社会政策が対象としている人々の働き方や生活を営むなかで直面する問題について、日本の現状を理解する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、人生の局面や、福祉を必要とする人々に関わる問題の現状を知り基礎的な知識をつけ、社会の中で自分と異なる境遇におかれた人間の多様な生き方や価値観に対する理解と共感を持てるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科基礎科目	経営学	○	本科目では、講義形式にて、主に大企業を例にとり、諸制度、戦略、構造、人の側面から体系的に組織の運営を学ぶ。具体的には、組織をどのように運営するのかを大きく３つの領域で構成し学ぶ。「制度の選択と戦略の形成」では、企業の制度（法律）に基づく企業形態、コーポレート・ガバナンス、CSRを学習し、自社の経営理念のもとでどのような戦略をとるかを考え、「組織のデザインと人への対応」では、組織構造の体系および組織文化を学習し、企業で働く人のリーダーシップ、モチベーションの考え方を理解すること、「現代の経営を取り巻く視点」では、グローバル化／ICT化のマネジメントや、ダイバーシティ、健康、環境、イノベーションの視点を、昨今の社会的価値観や認識の変化を踏まえながら経営学で考える活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、身の回りで起こっている現象を経営学の視点から考えられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科基礎科目	人口分析	○	本科目では、講義形式にて、人口の動態、すなわち出生、死亡などの変化を数量的に捉え、人間集団の構造や変化を客観的に理解する術、さらに高齢化、少子化、人口減少といった現代社会の重要課題に対して実証的・理論的に分析し、政策立案にも貢献できる能力を培う術を学ぶ。具体的には、人口の構造と変動に関する統計的な記述と分析手法を中心とし、出生率、死亡率、平均寿命、再生産率などの基本指標の理解と計算、ならびにコーホート分析、生命表、人口推計などの応用的な分析技法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、人口に関する基本指標を正確に理解し、実際のデータから人口構造や変動の実態を分析できる力を養うこと、さらに、人口変動が社会・経済・政策に与える影響を論理的に説明し、人口問題に対して理論的かつ数量的根拠に基づいた思考力を育めるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科基礎科目	財政学	○	本科目では、講義形式にて、政府や地方自治体の経済活動を適切に理解し、現実の財政制度の実態や役割を説明できると共に、財政に関連する課題について議論できるようになる術を学ぶ。具体的には、政府が提供する公教育や社会的インフラは、生活にとって不可欠であるが、政府が生活に無制限に介入することは危険であるため、その活動をコントロールする手段の一つである、予算制度や、予算に体現される活動のありかたを学ぶ。財政を理解するために必要な理論、歴史、制度の基礎知識等を取り扱う。本科目における学習を通じて、財政学の基本的な知識を用いての公共部門の役割、 財政学と財政史の知識を用いての予算制度の仕組みと役割、日本の財政史と財政制度の知識を用いての地方交付税や国庫支出金の仕組みと役割の3点を説明できるようになること、そして、特定の経済・社会問題に対処する財政の役割について議論できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科基礎科目	金融論	○	本科目では、講義形式にて、金利計算、金融機関のビジネスモデル、貨幣供給のチャネル、金融政策などの知識と理論を修得し、理論と現実の両側面からアプローチすることで、経済社会、特に政策論の矛盾を発見する方法を学ぶ。具体的には、金利計算や投資判断に必要な知識の解説と演習を行い、預金取扱金融機関などのビジネスモデルを解説し、その動きをバランスシートの動きから読み取る能力を得る。伝統的な銀行のビジネスモデルに対して新しい銀行のビジネスモデルを発想の観点から捉える活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、金融用語を理解し金融商品の利回りと借入利息等の計算に慣れること、金融経済に関わるトピックスについて読解でき巷の解説等のミニリーディングに気付き論理的な思考による自らの解説できるようになること、企業活動と金融機関との関係を理解し会計情報やデータを使って資料作成ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	財務会計論	○	本科目では、講義形式にて、財務会計の基本的な考え方を学習するとともに、わが国の企業会計制度の概要を学ぶ。具体的には、企業会計は、企業外部の利害関係者（例として株主、銀行）に対する報告を目的とする財務会計と、企業内部で経営管理に役立てることを目的とする管理会計に分類されるが、この授業では財務会計の分野、特に会計の理論面に重点を置いた内容等を取り扱う。本科目における学習を通じて、実際に企業の財務諸表をみて、その内容を理解できるようになること、会計に関する記事を読んで、その内容を理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	計量経済学	○	本科目では、講義形式にて、計量経済学を通じて、データから社会経済を把握する視点を学ぶ。具体的には、確率や統計学の基礎を学んだ上で、計量経済学の概念や分析手法を理解することを目的とし、アクティブラーニングを取り入れ、実際の経済データを対象とした分析を行う活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、計量経済学を理解することによって、変数間の関係を推定することができるようになること、計量経済学に関するソフトウェアの操作方法を習得することができるようになること、モデルによる実証分析研究を行うことができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	ICTスキル	○	本科目では、講義形式にて、大学での学修活動、企業での業務活動、その他社会におけるさまざまな活動で必要となるICTスキルを修得し、それらの活動の有効性を向上させる術を学ぶ。具体的には、我々の生活においてもはや不可欠となったICTを、いろいろな場面で有効活用するために、オフィススイート（表計算、ワープロ、プレゼンテーション等）を活用したデータ分析とプログラミングに関する基本的な能力をつけるための学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、表計算ソフトを中心としたオフィススイートの機能を理解し、実践的に活用できるようになること、データ分析の基本的な方法論やプロセス、手法等を理解し、実践的に活用できるようになること、プログラミングの基本的な考え方やプロセス等を理解し、実践的に活用できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	管理会計論	○	本科目では、講義形式にて、組織の内部管理に役立つために、原価計算の基礎的な知識を身につけた上で、いかなる管理会計が設計・利用されているのかに基づき、意思決定と業績評価に関わる知識を学ぶ。具体的には、財務会計目的および管理会計目的のどちらにも用いられる、主に製品原価に関する会計技法である原価計算の学習と、組織の内部管理を目的とした会計技法である管理会計の学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、原価情報の計算技法および管理について理解できるようになること、企業の財務分析および利益管理について理解できるようになること、意思決定および業績評価に役立つ管理会計の技法および理論を理解できるようになること、管理会計が人の行動にどのような影響を与えるのかを考察し議論できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	社会保障論	○	本科目では、講義形式にて、資本主義社会における社会保障政策・制度についての、理論・歴史・現状を学ぶ。具体的には、前半を社会保障論の基礎固めと位置づけ、資本制社会保障の歴史的展開を検討したうえで、社会保障理論の学問的蓄積を紹介する。後半では、歴史的・理論的視点から、わが国の社会保障政策・制度に関する特質と課題の解説等を取り扱う。本科目における学習を通じて、資本制社会保障の一般理論を理解できるようになること、わが国の社会保障政策・制度に対する批判的分析能力を向上することができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	労使関係論	○	本科目では、講義形式にて、「労使関係」に関する基本的な知識を習得し、「労使関係」の歴史的経緯や現状の理解を深める術を学ぶ。具体的には、日本における雇用・労働の現状について、労使関係の枠組みを用いながら概観する。その際、適宜、時事問題等を取り上げながら、現在の日本が抱える雇用・労働問題を政労使それぞれがどのように捉え、利害調整を行おうとしているのかを考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、講義で学んだ内容を踏まえながら、自らに密接にかかわる問題として「日本における働き方・働かせ方」を、理論的に考察できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	農業経済論	○	本科目では、講義形式にて、わが国の食料・農業・農村にかかわる諸問題を生産・消費・流通・貿易・農村・環境の側面からとらえ、その基礎的な知識や理論、政策動向を学ぶ。具体的には、農学部での技術中心の農業教育とは異なり、「誰が作るか」という観点から農業を捉える。担い手や経営、生産環境に加え、農村・環境・資源・貿易といった課題について理論的に学び、多様な主体による農業の構造等を取り扱う。本科目における学習を通じて、消費・流通・貿易の構造、食品産業の動向、卸売市場の機能、貿易協定の仕組みを学ぶとともに、農業経営、農地制度、都市・中山間地域の農業、環境保全型農業などの知識を通じ、現代の食料・農業・農村問題への理解を深められるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	地域システム	○	本科目では、講義形式にて、経済と空間の関係について理解を深め、産業クラスター、CSV、新しい公共、デジタル田園都市、都市の木質化、金融地域創生など、地域に関する新しい概念を学ぶ。具体的には、地域政策の歴史的変遷、地域政策の目的・手段・効果について、多面的に講義をし、国土構造や地域システムを形成する基本的な理論及び政策や、人口減少やグローバル化、クリエイティブクラスの台頭などに対する地域的対応策等を取り扱う。本科目における学習を通じて、産業構造の変化と地域構造の変化の関係性を理解できるようになること、経済活動における空間の役割（空間障壁）の意義を理解し、立地やイノベーションと空間の関りを理解できるようになること、日本経済新聞やダイヤモンドオンライン、東洋経済オンラインの地域に関する記事を深く理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	地方財政論	○	本科目では、講義形式にて、地方財政の制度的仕組み、運営の現状と問題点、改革の課題について客観的に理解する術を学ぶ。具体的には、わが国の経済システムは、市場経済が中心となり、政府の経済活動がそれを補完する混合経済であること、予算システムを通じた政府の経済活動は「財政」と呼ばれ、国民経済における役割は大きく、「国家財政」と「地方財政」は国民の生活に深く関わることを学び、その中でも「地方財政」にフォーカスした内容等を取り扱う。本科目における学習を通じて、国家財政と地方財政の繋がりと違いが分かるようになること、地方財政の役割を説明できるようになること、地方政府の歳入および歳出の状況を把握し、問題点を指摘できるようになること、自治体経営に関して、公共事業および地方公営企業の現状と問題点を把握できるようになること、 地方財政改革の課題について説明できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	社会福祉論	○	本科目では、講義形式にて、資本主義社会における貧困・生活不安問題の特質を学ぶ。具体的には、社会福祉分野において最も古い社会課題である貧困問題を中心に据え、総論篇・各論篇に分けて講義を進めていく。総論篇では、社会問題としての貧困の諸相を歴史的に跡づけた上で主要な貧困理論を紹介・検討する活動等を取り扱い、各論篇では、多様な形で表出される貧困問題に対処するわが国の社会福祉政策・制度について歴史的・理論的分析を進め、その日本的特質を検討・考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、資本制的特徴を有する貧困問題の理解を深めること、わが国の社会福祉政策・制度に対する批判的分析能力を向上できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	金融制度論	○	本科目では、講義形式にて、前半は「金融仲介とその展開」を、後半はそれを基礎に進展する「金融化（financialization）」を学ぶ。具体的には、金融・金融仲介に関する基本的・発展的知識とそれらの最新の状況、それらと密接な関連を持つ新しい学術的アプローチである「金融化」論の概要、そして両者を通じて示される、経済・社会において金融が果たしている、あるいは今後果たしていくべき役割等を取り扱う。本科目における学習を通じて、金融・金融仲介に関する基本的・発展的知識を理解できるようになること、わが国及び米国等、世界の金融業界・金融ビジネスに関する最新状況を理解できるようになること、「金融化」、特にそれが社会に持つ含意について多角的に理解できるようになること、経済・社会における金融の多面的役割について自ら考え、自身の意見を持つことができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	中小企業論	○	本科目では、講義形式にて、中小企業の実態を多面的かつ総合的に把握し、中小企業がどのような経済的・社会的役割を果たしているかを学ぶ。具体的には、日本経済の発展過程における中小企業のあり方について理解を深め、中小企業の役割や意義、中小企業が抱える諸問題について歴史的、理論的に考察する。中小企業と深く結びついている地域経済や産業集積、下請システムについて事例を交えながら検討するとともに、持続可能な社会の実現に向けた中小企業の役割や中小企業を支える制度等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中小企業の役割や意義、中小企業が抱える課題、日本経済の発展と中小企業の展開との関連性、下請システム、産業集積、地域経済と中小企業のつながりと役割、中小企業政策、中小企業金融の変遷および特徴について理解を深め、説明できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	経済統計	○	本科目では、講義形式にて、社会経済現象を数量的に把握する上で必要な経済統計の基礎的な知識や、統計・データに対する考え方を身につけ、Excelといったソフトウェアを用いて経済統計データの処理・加工の方法を学ぶ。具体的には、経済統計に関する基本事項について解説し、経済統計の作成および利用に対する基礎的な知識を学習することによって、ビジネス社会に役立つ、経済統計の見方・使い方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、各種の経済統計の探し方や経済統計の見方等、経済統計の基礎的な知識を養うこと、経済統計データの処理と加工の方法に関する考え方を養うこと、Excelによる経済統計データを用いた分析技術を習得できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科発展科目	応用統計	○	本科目では、講義形式にて、社会経済に関する統計情報を実践的に活用できるようにするために、統計の作成と利用に関する応用面での知識・考え方やスキルを学ぶ。具体的には、統計の作成と利用の応用分野に関連する事項について具体的に解説した上で、統計情報に関する専門的な知識や考え方を身につけるだけでなく、それを社会経済の分析において実践的に活用するためのスキルを習得することを目指すために、アクティブラーニングを用いて、Excel、SPSSやRといったソフトウェアに実際に触れてみる活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、統計の作成と利用の応用分野に関連する事項について専門的な知識を養うこと、統計データの処理と加工に関する応用面でのスキルを養うこと、ExcelやSPSS、Rといったソフトウェアを用いて統計データの分析技法を習得できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	入門ICT演習		本科目では、演習形式にて、情報通信技術の基本知識とその利用方法を学び、プログラミングやIoTデバイスにも触れることで、身の回りでどのようにICTが利用されているかを学ぶ。具体的には、ICTの進展の歴史、基本的な操作方法、利用方法を学習しつつ、演習により知識を深め、様々な場面で応用できるようにする。Excelの関数から、HTML、Python、C++などの言語を用いた簡単なプログラミングやIoTデバイス構築、AIによる画像認識などの演習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、情報通信技術の基本知識を得るとともに、簡単なプログラムやデバイスを作成できるようになり、1次産業、2次産業、3次産業におけるICTの利用をイメージできるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	国際関係論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、20世紀から冷戦までの国際関係史を概観した上で、21世紀国際関係の現状と課題を学ぶ。具体的には、2度の世界大戦、冷戦期国際関係、核兵器と原子力の平和利用、世界の統合と分裂、地球環境問題、世界の資源とエネルギーをめぐる問題、貧困・格差・SDGs等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済学の専門知識及び社会・人文・自然科学の知識教養に裏付けられた広い視野に立った柔軟な知性に基き、現実の経済現象を的確に把握する力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	国際関係論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、グローバリゼーションの弊害が露呈してきた激動の21世紀世界が抱える諸問題に、我々がどのように取り組んでいくべきなのかを学ぶ。具体的には、冷戦後の日本と世界、国際統合・自由貿易協定、民族紛争・テロとの戦い、戦争・感染症との戦いの行方、温暖化対策と国際交渉、気候安全保障、経済安全保障、開発援助とグローバル・ガバナンス等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済学の専門知識及び社会・人文・自然科学の知識教養に裏付けられた広い視野に立った柔軟な知性に基き、現実の経済現象を的確に把握する力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	データ分析演習		本科目では、演習形式にて、コンピュータを用いた実データ等の分析方法を学ぶ。具体的には、経済・社会・政治等に関するさまざまな実データやシミュレーションデータを題材として、Excel・R・Pythonなどを用いた統計的データ分析の方法を扱う。たとえば、データの要約や縮約、データからの知識の探索、未知のデータの値の予測、データからの因果効果の検証などに関する方法論等を取り扱う。本科目における学習を通じて、社会の諸課題を統計学の考え方と手法に基づき多角的に分析し、課題解決や価値創造を図ることができるようになること、データ分析手法の背後にある前提とその限界、データの種類や背景に応じて使用する統計手法が変わることを把握しつつ、適切なデータ分析手法を選択できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	ジェンダーと労働Ⅰ		本科目では、講義形式にて、「働くこと」をジェンダーの視点から分析し、そこから明らかになる労働分野におけるさまざまな事実や諸問題についての基本的知識を習得し、多様な生き方に対する理解を深める術を学ぶ。具体的には、男性の働き方の変容を視野に入れつつ、労働におけるジェンダー平等を実現するための、働く女性の歴史やジェンダー政策、ジェンダーとキャリア形成や就職活動といった諸課題を、統計資料や映像資料を用いながら多面的に検討し、考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、労働分野における諸問題について、ジェンダーの視点から課題を発見する力を習得できるようになること、ジェンダー視点に立ち、解決の方向性を考察することができるようになること、自らがジェンダー・センシティブに考察できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	ジェンダーと労働Ⅱ		本科目では、講義形式にて、「働くこと」をジェンダーの視点から分析し、そこから明らかになる労働分野におけるさまざまな事実や諸問題についての基本的知識を習得し、多様な生き方に対する理解を深める術を学ぶ。具体的には、男性の働き方の変容を視野に入れつつ、労働におけるジェンダー平等を実現するための、ジェンダーと労働問題や貧困、ハラスメントや非正規労働といった諸課題を、統計資料や映像資料を用いながら多面的に検討し、考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、労働分野における諸問題について、ジェンダーの視点から課題を発見する力を習得できるようになること、ジェンダー視点に立ち、解決の方向性を考察することができるようになること、自らがジェンダー・センシティブに考察できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	流通システムⅠ		本科目では、講義形式にて、流通現象の基礎理論を学び、商業・貿易、国際マーケティングに関する基礎知識を学ぶ。具体的には、流通の役割や機能を理論的に理解し、その歴史的な展開を踏まえつつ、現代流通の課題と変革の方向性を探る。また、流通機能や市場のメカニズムを紐解きながら、商業資本の発展過程や利潤構造、さらに流通業態の革新やICTの影響、物流の変革の動向等を取り扱う。本科目における学習を通じて、変化の激しい現代流通の多様な局面を客観的に把握し、代表的な流通理論を理解する力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	流通システムⅡ		本科目では、講義形式にて、流通現象の基礎理論を学び、商業・貿易、国際マーケティングに関する基礎知識を学ぶ。具体的には、小売業の発展と業態の革新に注目し、百貨店やチェーンストア、スーパーマーケット、コンビニエンスストア（CVS）などの進化を理解するとともに、日本における流通の近代化やデジタル化の進展を学ぶ。さらに、サプライチェーン・マネジメントや地域流通の課題、街づくりとの関係、SDGsの視点からみた流通の持続可能性等を取り扱う。本科目における学習を通じて、変化の激しい現代流通の多様な局面を客観的に把握し、代表的な流通理論を理解する力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	経営戦略論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、企業の経営目標を達成するのに必要な基本的意思決定である、経営戦略のロジックを体系的に学習し、そのロジックを用いて経営だけではなく、身の回りの日常的な出来事を分析・考察する術を学ぶ。具体的には、経営戦略の基礎として、マーケティングミックスの4P、セグメンテーション、プロダクトライフサイクル、企業の市場地位に応じた戦略を学ぶ。また、競争戦略の出発点としてポジショニングビューの基本や既存企業・新規参入者との競争関係、買い手・売り手の交渉力等を取り扱う。本科目における学習を通じて、専門用語の意味について理解した上で、現実の出来事をその用語を使って説明することができ、現実の出来事を分析し、問題点や改善点の指摘ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	経営戦略論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、企業の経営目標を達成するのに必要な基本的意思決定である、経営戦略のロジックを体系的に学習し、そのロジックを用いて経営だけでなく身の回りの日常的な出来事を分析・考察する術を学ぶ。具体的には、ポジショニングビューの補足に加え、業界構造分析やリソースベースドビュー、SWOT分析を通じて戦略立案の多角的視点を養う。さらにゲーム理論や多角化戦略、PPM、事業の定義といった全社的な視点からの戦略策定等を取り扱う。本科目における学習を通じて、専門用語の意味について理解した上で、現実の出来事をその用語を使って説明することができ、現実の出来事を分析し、問題点や改善点の指摘ができるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	経営組織論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、経営組織論についての基礎と最新動向を踏まえた考え方を習得し、組織の中での多様性を創造的活動に活かしてイノベーションを実現していくために必要となる組織マネジメントについてを学ぶ。具体的には、経営組織論の基礎を学ぶために、組織形態の歴史的変遷や古典的理論、ホーソン実験を通じた人間関係論、バーナードの理論などを扱い、組織と人間行動の関係を理解する。さらに、動機づけやリーダーシップ、組織文化、変革、異文化への適応等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経営組織の基本や最新動向を踏まえて理解できるようになること、組織における多様性と創造性、イノベーション実現に必要なマネジメントについて説明できるようになること、現代の経営組織の課題について自らの意見を述べられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	経営組織論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、経営組織論についての基礎と最新動向を踏まえた考え方を習得し、組織の中での多様性を創造的活動に活かしてイノベーションを実現していくために必要となる組織マネジメントについてを学ぶ。具体的には、経営組織論の応用・最新動向を扱い、組織コミュニケーションや学習する組織、知識創造、高信頼性組織、イノベーション、組織文化を活かしたマネジメント、物語やポジティブ・アプローチ、日本的経営の国際化など、多様な視点から組織の発展等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経営組織の基本や最新動向を踏まえて理解できるようになること、組織における多様性と創造性、イノベーション実現に必要なマネジメントについて説明できるようになること、現代の経営組織の課題について自らの意見を述べられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	アジア経営論		本科目では、講義形式にて、アジアを中心に異文化における企業経営の特徴を理解し、日本企業の経営が必ずしもスタンダードではなく、ビジネスのグローバル化においては様々な文化に直面しながら企業活動をしなければならないこと、併せて、そのような状況で実際に具体的な活動を行っている日本企業の事例を学ぶ。具体的には、アジア新興国や主要発展途上国において、急速に発展する現地企業等と、日本企業の相違と競争・連携関係について、異文化環境下での経営問題を論じる。企業の事例を示しながら、アジア企業についての理解を深め、直接投資やグローバルアウトソーシング等、国際経営にかかわる知識等を取り扱う。本科目における学習を通じて、アジア企業の経営の特徴と日本企業のアジア展開について比較しながら、異文化経営問題を実践的に理解し、国際経営に関する知識と事例に取り上げられた企業の業界に関する理解を深めることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	システムデザイン		本科目では、講義形式にて、ICT（Information and Communication Technology ： 情報通信技術）の活用と意義に関する基礎的・実務的な知識・技術を学ぶ。具体的には、ビジネスに利用できるWEBサーバシステムの構築の知識を得るための、具体的なコンピュータの操作から活用までの範囲で重点項目を絞り理解を深める。特に、WEBサーバの動作原理、記述言語、システム構築手法の他、ソフトウェア開発手法、デザイン思考に関する講義とアクティブラーニングを取り入れた活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、WEBサーバを利用したシステムの構築及び活用ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	国際経営論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、世界的に経営活動を行なう企業の動向及び、国際経営論の理論的基盤である経営学の諸理論や現代の企業を取り巻く環境についてを学ぶ。具体的には、国際経営の基本概念を学び、近代企業の形成と日本企業の海外進出の歴史を概観する。次に、ホンダのアメリカ進出戦略やその後の戦略を事例に国際経営戦略を考察する。また、ポジショニング論や経営資源論、ゲーム理論的発想に基づく戦略立案や、企業競争力を高めるための理論と実践等を取り扱う。本科目における学習を通じて、国際経営に関する知識を深め、経営学の理論や研究を理解できるようになること、さらに国際経営を取り巻く諸情勢について理解を深めることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	国際経営論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、世界的に経営活動を行なう企業の動向及び、国際経営論の理論的基盤である経営学の諸理論や現代の企業を取り巻く環境についてを学ぶ。具体的には、国際経営組織の特徴と、多国籍企業の事例（アメリカ、ヨーロッパ）を取り上げ、各国企業の戦略や経営手法を比較する。さらに、イノベーションと競争力、組織能力の研究を通じて、戦略と組織の関係を深堀りする。企業の競争力を支える製品アーキテクチャやトヨタ生産方式の事例を通じ、組織能力の深さと広さを探る活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、国際経営に関する知識について理解を深めること、経営学の理論や諸研究について理解を深めること、国際経営を取り巻く諸情勢について理解を深めることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	ICT応用演習		本科目では、演習形式にて、モバイル通信技術の基礎と、Androidアプリの開発についてを学ぶ。具体的には、ビジネスに利用できるモバイルアプリの構築の知識を得るための、モバイルデバイスの操作から活用までの範囲で重点項目を絞り理解を深める。特に、モバイルアプリの動作原理、システム構築手法の他、ソフトウェア開発手法に関する演習を行う。さらに、最新の利用状況についての学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ICT（Information and Communication Technology ： 情報通信技術）の活用と意義に関する基礎的・実務的の知識・技術を獲得できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	証券市場論		本科目では、講義形式にて、日本における金融システムの市場型間接金融への変貌、自由化の進展、近年の金融緩和による証券市場環境の変化によって、金融仲介者としての銀行、証券会社を取り巻く環境の変化及びその背景を学ぶ。具体的には、証券市場を理解する基礎となる有価証券、株式会社、有価証券発行市場、流通市場、株式価格形成の理論、証券会社を取り巻く環境変化、新たな金融商品などを取り上げ、証券市場をめぐる近年の変化と証券市場が果たす役割、位置づけに関する事項等を取り扱う。本科目における学習を通じて、証券市場に関する基本的な知識を修得し、証券市場が果たす機能を説明できるようになること、証券会社を取り巻く環境変化ならびに新たに登場した商品の概要、さらにはそれに伴って重要となる証券規制について説明できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	生産システムⅠ		本科目では、講義形式にて、ビジネスをはじめとする多様な分野において、柔軟な適応力や判断力を高め、企業活動を分析するための基礎知識を学ぶ。具体的には、生産管理の基礎を学び、VE（バリューエンジニアリング）とIE（工業工学）の関係、管理と設計の役割、生産方式について理解する。また、効率的な生産計画と生産ライン設計、設備管理やJIT（ジャストインタイム）の実践的な内容も扱う。さらに、在庫管理や物流管理、工場レイアウト計画についても学び、実際の業務に必要な知識等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学生が日本の製造業の現状と課題に対する理解を深め、生産システムや改善手法に関する基礎的な知識を習得できるようになり、実践的なスキルを養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	生産システムⅡ		本科目では、講義形式にて、ビジネスをはじめとする多様な分野において、柔軟な適応力や判断力を高め、企業活動を分析するための基礎知識を学ぶ。具体的には、物流コストとグローバル生産の関係を探り、SCM（サプライチェーンマネジメント）の基本やグローバル流通について学ぶ。また、稼働分析や標準時間、動作研究など、効率向上のための手法を学ぶ。さらに、サービス業務の改善や新QC（品質管理）7つ道具、PERT（プログラム評価レビュー技法）などの技術を活用し、目標創造法を通じて実務に役立つ手法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学生が日本の製造業の現状と課題に対する理解を深め、生産システムや改善手法に関する基礎的な知識を習得できるようになり、実践的なスキルを養うことを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	監査論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査、および会社法に基づく監査役、あるいは監査委員等による監査制度についてを学ぶ。具体的には、「監査」という行為の原理原則について学習するとともに、監査の基本的な考え方が法制度上の監査と、どのように結びつき、経済社会にどのように貢献しているか、あるいは貢献すべきかについての基本的な考え方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済社会の中で監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するために必要な知見を得られるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	監査論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、金融商品取引法に基づく公認会計士監査（財務諸表監査）の基本的枠組みと、財務諸表監査の基礎理論についてを学ぶ。具体的には、財務諸表監査の実施と報告に関する基礎知識を習得するために、監査基準における主要な論点について説明するとともに、各論点の理論的基盤に関する視座等を取り扱う。本科目における学習を通じて、財務諸表監査の方法論を理解することによって、企業内容開示制度における現代的課題について、監査の視点から考察するために必要な知見を得られるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	税務会計論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、法人の税務問題として必ず直面する事項を取り上げ、その基礎的な取扱いを法令及び通達から正確に理解し、制度の在り方を考察するための基礎力を学ぶ。具体的には、法人税を中心に、税務において直面することとなる様々な問題について、会計及び法律面から解き明かし、実践力を踏まえた基礎知識を培う活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、法人税の所得計算に必要な税務会計上の取扱いを理解できるようになること、法人税に係る申告実務に係る基本的イメージを描くことができるようになること、納税者と課税当局との立場の違いについて理解を深めることで、課税リスクを把握する力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	税務会計論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、法人税における課税上の問題を法律面と、会計を踏まえた実務面の双方から考察する力を養い、課税当局との軋轢やその解決策に焦点を当てることで、企業の租税戦略の構築に必要不可欠な課税リスクに対する正確な評価と、法人税務への高い実践手法を学ぶ。具体的には、企業において直面することとなる様々な課税問題を、特に納税者と課税当局との軋轢及び、その解決策に重点を充てて考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、法人税務の高度な専門知識を養うこと、企業の税務リスクを正確に把握し、対応することができるようになること、納税者である企業と課税当局との立場の違いを通して法人税務の本質を理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	先端産業論		本科目では、講義形式にて、現代の産業と企業を取り巻く構造的変化を理解し、産業競争力強化に向けた課題を多角的に考察する術を学ぶ。具体的には、第4次産業革命、カーボンニュートラル、生成AIの進展など、グローバルなビジネス環境の激変を背景に、日本の企業・産業が直面する現状と将来像について、担当教員の企業経験に基づく豊富な事例等を取り扱う。本科目における学習を通じて、技術と価値創造の関係、産業構造の変化、ビジネスモデルの進化について主体的に思考し、自らの言葉で説明できる力を養うことを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科科目	学科関連科目	ベンチャー起業論		本科目では、講義形式にて、ビジネス開発プロセスを実践的に習得し、そのプロセスを加速するシステムについてを学ぶ。具体的には、ビジネスモデルをデザインし、持続的に成長を遂げるためのプロセス（ビジネス開発プロセス）を、そのダイナミズムを理解しながら実践的に習得し、目紛しく変化する今日の事業環境下で、そのプロセスを加速する仕組みの解説等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ビジネス開発プロセスについて、説明できるようになること、実践できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	入門演習	○	本科目では、演習形式にて、大学で経済学を修めるために必要かつ基本的なスキルを身につける術を学ぶ。具体的には、全員で共通のテキストを読んで討論を行い、文章の論理的構造を理解し、論理的な筋道を立てて説明する機会を持ち、アカデミックな文章の読み方、議論の仕方について実践的に学ぶ。また各種講習の受講により、基本的な資料作成のスキルを学び、これまでに学んだ内容を踏まえて、プレゼンテーションとレポート作成を行い、身につけたスキルを実際に活用する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文章執筆や議論の技法や、他者に伝える基礎的なスキルを養うこと、物事に意欲的に関わり、問題意識をもてるようになること、人間の多様な生き方や価値観に対する理解を深められるようになること、科学的・合理的批判には率直に耳を傾けられる姿勢を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	会計入門	○	本科目では、講義形式にて、企業等の経済活動を測定・報告する会計の意義と機能を学ぶ。具体的には、複式簿記の基本的な仕組み、複式簿記によって記録された取引から財務諸表（貸借対照表・損益計算書等）を作成する方法、財務諸表を活用した基礎的な企業分析の方法、および会計に関する基礎知識等を取り扱う。本科目における学習を通じて、会計情報を用いて経営状況を把握する力や、数値に基づいた思考力を養うことを目指し、現代的な会計リテラシーの基礎を育むこと、財務諸表の作成能力、会計数値を用いた基礎的な財務分析の力、および会計に関する基礎知識を習得できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	西洋経済史	○	本科目では、講義形式にて、古代から現代にいたるまで一貫した視点から理解し、現代経済社会を歴史の中に位置づけて、ヨーロッパの経済史的発展過程を学ぶ。具体的には、西洋哲学の基本事項を学びながら、マルクスの独自な弁証法を概観し、この授業の基本視角を習得した後、古代から現代にいたるまでのヨーロッパを中心とした経済史的発展過程等を取り扱う。本科目における学習を通じて、西洋哲学史の基礎知識を取得し、それを基にマルクスの弁証法・価値形態論・階級存在論の基礎を理解することで、この授業の基本視角を学び、古代から現代までの経済史的発展過程を体系的に理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	日本経済史	○	本科目では、講義形式にて、経済学・経済史の基本的な用語の理解や、時期区分した各時代の経済システムの特徴、経済学の考え方や用語を用いて、歴史現象を理解する術を学ぶ。具体的には、近世から現代までの約400年にわたる日本経済の歴史について、各時代の経済システムの特徴をつかまえながら講義する。また、経済学の基本的な考え方や用語も丁寧に解説し、DVD等によるビジュアル・レクチャーの実施等を取り扱う。本科目における学習を通じて、今日の経済問題をその歴史的生成過程から考えられるようになること、歴史現象について、経済学の考え方や用語を用いて理解、説明できるようになること、経済学の考え方の汎用性の広さに気づけるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	簿記入門	○	本科目では、講義形式にて、複式簿記の基本的な仕組み及び、帳簿の記入や財務諸表を作成する術を学ぶ。具体的には、仕訳の記入、総勘定元帳への転記、補助簿（補助記入帳・補助元帳）の記入、試算表や精算表の作成、財務諸表（貸借対照表・損益計算書等）の作成、決算の一連の手続き等を取り扱う。本科目における学習を通じて、帳簿の記録から財務諸表の作成までの一連の流れを体系的に理解を深め、記録技術の基礎及び、日商簿記検定3級程度の知識と技能を習得できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	経済学史	○	本科目では、講義形式にて、経済学の歴史を通じて市場経済の機能と限界を学ぶ。具体的には、経済学の母国ともいわれるイギリスに主に焦点をあわせながら、18世紀後半から20世紀後半までの経済学の歴史を講義する。18世紀の重商主義・重農主義、18世紀から19世紀前半のアダム・スミスらの古典派経済学とその批判、19世紀後半以降のミクロ経済学と20世紀前半以降のマクロ経済学、19世紀後半から現在までの異端派経済学の諸潮流等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済学の歴史を通じて市場経済の機能と限界を学ぶとともに、現在の経済学および経済問題に対する各自の理解を深められるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	社会思想史	○	本科目では、講義形式にて、イギリスにおける社会・経済思想がどのようにして形成され、時代の変化にともなって、それが如何に修正されていったのかということを学ぶ。具体的には、市民革命と産業革命を世界でいちはやく成し遂げるとともに、他のヨーロッパ諸国に先駆けて資本主義・自由市場経済システムと議会制民主主義システムとを築き挙げたイギリスという国の社会・経済思想や、イギリスにおける自由主義や功利主義、ケインズ主義やネオ・リベラリズムといった様々な社会・経済思想がどのようにして形づくられ、時代背景の変化にともなって、それらがどのように修正されていったのか等を取り扱う。本科目における学習を通じて、イギリスにおける社会・経済思想の形成と展開・修正に関して論理的に説明することができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	統計学	○	本科目では、講義形式にて、さまざまな経済・社会現象の分析に必要なデータ解析方法である、統計学に関する基礎的知識を学ぶ。具体的には、統計的な思考能力が必要不可欠となった現代社会において、統計学の基礎力を身につけることを目的とし、基本的な用語や考え方を解説後、問題演習にて日本統計学会が「大学基礎科目としての統計学の知識と問題解決能力」として認定している統計検定2級の過去の試験問題の演習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、データの記述と要約、確率と確率分布、統計的推定、統計的仮説検定、線形モデルの理解を目標とし、日本統計学会が公式認定している統計検定2級レベルの「大学基礎科目としての統計学の知識と問題解決能力」の修得ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	情報科学	○	本科目では、講義形式にて、情報が１つの状態から他の状態への変化の組合せで構成されていく本質を理解し、急速な技術革新とともに多面的な様相を呈していることについてを学ぶ。具体的には、情報の意味と表現方法、情報の定量化およびメッセージの伝達方法、具体的な問題解決手法としての情報処理技術、計算機アーキテクチャー、情報環境や人間と情報システムの関わり合いなど、情報科学の体系的な学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、情報社会における課題にも着目しながら科学的にとらえる力を養うことを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	国民経済計算論		本科目では、講義形式にて、GDP・国民所得を始め経済指標の推計方法と日常生活への関わりを理解し、国民経済計算を中心に、マクロ会計学の基礎概念と体系を学ぶ。具体的には、国民経済における所得循環と国富の変動を、ケインズ経済学に基づき概念化し、複式簿記の方法を用いて理解を深める。国民経済計算体系（SNA）に基づく勘定表および主要な経済指標、産業連関表、資金循環統計および国際収支統計等を取り扱う。本科目における学習を通じて、SNAにおける主要な勘定表に基づき日本の経済循環を理解し、GDP・国民所得を始め主要なマクロ経済指標を説明できるようになること、また、産業連関分析による経済波及効果分析および資金循環統計に基づく金融構造分析ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	情報数学	○	本科目では、講義形式にて、情報処理やコンピューターの基礎として情報数学を学ぶ。具体的には、情報処理技術は日常生活からグローバルな社会活動に至るまで経済社会の基盤として活用されており、その基盤を支えるコンピューター機器や情報システムは数学を基盤に構築されていることを学ぶ。離散数学を学び、ビッグデータの分類や情報抽出における数学の役割を理解するために、テキストを用いた練習課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、情報処理やコンピューターの基礎として情報数学を学ぶことにより、高度に情報化された現代社会の基盤技術に親しみ、情報を論理的かつ能動的に活用できる力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部基礎科目	産業構造論		本科目では、講義形式にて、国内外の経済環境の変化によって産業構造はどう変化して行くのか、その大きなうねりと構造変化のメカニズムを理解し論じる術を学ぶ。具体的には、戦後から現在までの日本の産業構造の変遷とそのメカニズムを、企業の技術革新、国際分業の進展、産業政策を中心とした政府の政策に焦点を当てて考察する。近年については、グローバル化、デジタル化の進展という大きな国際経済環境の変化の中で、Society 5.0というデジタル技術を駆使した豊かで便利な社会の実現に向けて、日本の産業構造はどのように変化すべきか、日本企業や政府はどのような改革を行うべきか等を取り扱う。本科目における学習を通じて、産業構造の変化とその要因および、関わる市場メカニズムと政府の政策の役割を理解し、 産業構造の変化にかかわる各産業の技術革新や企業の戦略について多面的に論じることができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	国際経済学		本科目では、講義形式にて、経済学を用いて現実の国際経済に関する様々な問題点を考え、その解決策の提言をするための基礎を学ぶ。具体的には、国際貿易論の基礎を扱い、貿易がなぜ起こるのか、貿易によってどのような利益が生じるのかなどを理解し、国際金融論の基礎を扱い、どのように為替レートが決まるのか、マクロ経済政策と為替相場制度はどのような関係にあるのかを理解する。さらに国際貿易論の発展的な内容や近年重要になっているトピック等を取り扱う。本科目における学習を通じて、既存の貿易理論に基づいて、貿易が生じる理由や貿易利益について説明できるようになること、為替レートの決まり方や、開放経済下のマクロ経済政策の効果、貿易政策の効果について説明できるようになること、国際貿易において近年重要なトピックについて１つは話せるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	公共経済学		本科目では、講義形式にて、公共経済学がどのような視点から社会を分析するかを学ぶ。具体的には、実際の政策を例に挙げながら公共経済学の諸概念を例に、市場機構の資源配分機能について理解するために、市場が効率的な資源配分を導かないケースをカテゴライズし、項目ごとにその理論背景と政策による具体的な補正方法や、資源配分の効率性以外の公正面からの政策の在り方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、どのような場合に政府が市場取引に介入する方が良いのか、どのような政策が市場で得られる成果をより良い状態にするかを理解・習得できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	国際金融論		本科目では、講義形式にて、国際金融の理論を体系的に理解し、その考え方を身につける術を学ぶ。具体的には、多国間の相互関係を考慮に入れた、マクロ経済学の応用分野である国際金融論を、とりわけ、為替相場などの金融的な側面に焦点を当てた基礎理論や、国際金融経済の現状や制度等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現実の国際金融経済における事象や制度について、国際金融理論を用いて理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	環境経済学		本科目では、講義形式にて、人間の経済活動による環境問題を理解し、課題解決のための方策について経済学的な視点から論じる術を学ぶ。具体的には、経済活動の結果として生じている気候変動や生物多様性の劣化などの問題を理解し、これらへの経済学的な対策として実施されている環境経済政策と環境評価について、環境と経済の繋がりをより深く理解するためのテーマ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、環境問題の現状を認識し、その原因について述べることができるようになること、環境経済の理論を理解し、環境経済政策の必要性を説明できるようになること、環境の価値評価の意義を理解し、その手法や課題について論じられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	公共政策		本科目では、講義形式にて、現代社会が抱える多様な諸問題を把握することを通じて、公共政策の背景となる制度や、公共政策の役割についてを学ぶ。具体的には、公共政策を経済学の視点から観察・学修することで、公共政策の知識を学ぶとともに、関連する制度や背景を踏まえて、その課題を解決するための今後の政策の在り方の考察等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現代社会が抱える多様な諸問題について経済学の視点から理解できるようになること、それらの諸問題について、なぜ公的部門が関与する必要があるのかを理解できるようになること、それらの諸問題を解決するための政策の役割を理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	交通経済論		本科目では、講義形式にて、実際の交通政策あるいは現実に生じている交通問題を取り上げて分析することで、望ましい交通政策のあり方を学ぶ。具体的には、多様化している国内外での交通問題に対応する取り組みおよび交通政策のあり方について、伝統的なミクロ経済学の知見を用いて解説する。そして、ミクロ経済学に基づいた交通分野の分析への理解を深めるために、主に市場の失敗要因と交通分野を照らし合わせて、理論と現実の関連を意識できるようにし、具体的な交通問題を分析する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現在の交通問題や交通政策のメリット・デメリットを客観的に、そして定量的に評価判断できるようになること、ミクロ経済学を用いて身近な交通分野を分析することで、1つの「ものの見方・考え方」としてのミクロ経済学分析の考え方を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	国際公共政策		本科目では、講義形式にて、現在の国際公共問題について、自ら課題を設定し、解決策となる政策やビジネス案などを経済学思考を用いて、論理的に表現する方法を学ぶ。具体的には、グローバルな世界における国際公共政策課題について、多種多様なアクター間の相互作用に着目し、政策が決定されるプロセスについて、経済学を中心として学際的に考察し、決定プロセスで活用される経済学の有効性と課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、国際公共政策研究の分析枠組みについて経済学を中心に、政策学、行政学、法学などの学際的に理解できるようになること、多種多様な問題領域における国際公共政策決定プロセスにおいて活用されている経済学の有効性と課題について体系的に理解できるようになること、多種多様な国際公共問題から自ら課題を設定が出来るようになり、その解決策を提案できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	世界経済論		本科目では、講義形式にて、グローバリゼーションや近年の新たなグローバル経済構造の光と影の両面を正しく理解し、国際経済学や国際金融に関する基礎を身につけ、世界経済の分析視点を学ぶ。具体的には、世界経済の歴史的変遷と現代における主要な経済課題について理解を深める。テーマとしては、「グローバル経済の歴史と構造」、「地域経済と発展の課題」、「主要先進国の経済動向とグローバルな課題」等を取り扱う。本科目における学習を通じて、東アジア経済を中心に、アメリカ、ヨーロッパ、グローバルサウスなど、世界経済の基本状況を理解し、グローバル問題の原因や背景、そして近年のグローバルリスクについての理解をより一層深められるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	国際経済政策		本科目では、講義形式にて、国際経済取引に関わる種々な経済政策が、国内経済や世界経済に与える影響を考察し、経済学的な視点からそれらの政策を評価する術を学ぶ。具体的には、商品やサービスの国際取引に直接的、間接的に影響を与える様々な経済政策を扱う。国際経済取引の種類と推移や貿易自由化の流れ、関税の種類や保護指標、および経済的効果、関税以外の政策がもたらす経済的効果、地域貿易協定の動向、特徴、経済学的な評価、直接投資、多国籍企業、日本の農業の自由化問題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、グローバル化が進展する中で、日本がどのような貿易に関する政策や間接的に影響を与える他の政策をとってきたのかを理解できるようになること、それらの政策が経済に与える影響や効果を経済学の手法を用いて説明できるようになること、その考察をもとにどのような政策が望ましいのか評価できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	労働経済学		本科目では、講義形式にて、労働市場のメカニズムについて理解すると同時に、人々の働き方や企業内の人事労務管理制度などについてを学ぶ。具体的には、家計部門の労働供給、企業部門の労働需要、労働者と企業のマッチングについて学んだ後に、賃金決定メカニズムと賃金格差発生の構造、失業発生のメカニズム等を取り扱う。本科目における学習を通じて、労働市場で生じる諸問題、つまり賃金格差の発生や失業の発生がなぜ生じるのかを理解し、それらを解決するための具体的な政策ツールを理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	経済変動論		本科目では、講義形式にて、データ、事例、歴史、経済モデルを学習しながら、 現実に起こっている経済変動への理解を深め、自分なりの経済分析・予測するスキルを学ぶ。具体的には、経済は「生き物」に例えられるように常に動いており、物価やGDP、株価、為替のようなマクロ指標が日々変化・変動していること、またミクロレベルにおいても、学術の発展や科学技術の進歩とともに、経済主体を取り巻く環境も日々進化し、人々の意思決定・行動のあり方を変化させつづけていることを学び、データと経済理論から考える「経済≒モノづくりシステムの変化・変動」のパターン等を取り扱う。本科目における学習を通じて、データから読み取れる内容を理解できるようになること、経済変動に関する事実、歴史、事例を理解し、分析できるようになること、経済変動に関する経済理論、現実の経済変動に関して分析・予測できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	数理経済学		本科目では、講義形式にて、経済学の数理分析手法を学ぶ。具体的には、数学を用いた、経済理論の分析手法について、学部上級以上の経済学で用いられる数学の知識について学び、それらの知識を用いて、経済学の概念がいかに記述されるか、理論的結果がいかに導かれるかを理解するための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学部上級以上の経済学における、数理分析手法に親しむことができるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	アジア経済論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、日本企業、日本経済にとって重要性を増しているアジア経済に関する事項を学ぶ。具体的には、アジアの主要国である韓国、タイを中心に、経済発展の歩み、その特徴、現在の課題などについて、地域の経済統合や貧困削減など地域全体に関わるテーマ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、東アジア諸国の経済発展がどのように実現したのか、現在直面する課題は何か、日本との経済関係はどのようなものかなどに関して、基本的な知識を習得し、理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	アジア経済論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、日本企業、日本経済にとって重要性を増しているアジア経済に関する事項を学ぶ。具体的には、アジアの主要国である中国、インドを中心に、経済発展の歩み、その特徴、現在の課題などについて、また中国の影響力増大ならびに米中対立のアジア各国への影響、地域の経済統合や貧困削減など地域全体に関わるテーマ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、東アジア諸国の経済発展がどのように実現したのか、現在直面する課題は何か、日本との経済関係はどのようなものかなどに関して、基本的な知識を習得し、理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	産業組織論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、産業組織論の基本および応用的な分析枠組みを理解し、企業行動や企業間競争、競争政策を理論的に検討・分析する力を身につける術を学ぶ。具体的には、産業組織論における基本的な理論分析の枠組みを学習し、独占や寡占など、市場構造による競争の違いを理解するための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現実の企業行動や企業間競争を、本科目で学んだ枠組みを用いて理論的に分析する力を養い、実際にモデルを構築して分析を行えるスキルを養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	産業組織論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、産業組織論の基本および応用的な分析枠組みを理解し、企業行動や企業間競争、競争政策を理論的に検討・分析する力を身につける術を学ぶ。具体的には、垂直関係やサプライチェーン、プラットフォーム市場、消費者の情報探索行動などの発展的なトピック、およびそれらを実際の企業行動や企業間競争の分析に応用するための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現実の企業行動や企業間競争を、本科目で学んだ枠組みを用いて理論的に分析する力を養い、実際にモデルを構築して分析を行えるスキルを養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	費用便益分析		本科目では、講義形式にて、費用便益分析の理論と実際の方法を学ぶ。具体的には、消費者の理論や財の価格変化・財の環境変化などの費用便益分析の基礎と、ヘドニック価格法やトラベルコスト法などの費用便益分析の手法、および社会調査・統計学や費用効果分析・費用効用分析などの政策評価におけるその他の基礎と手法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、費用便益分析の基礎、同分析の手法、および政策評価におけるその他の基礎と手法を理解できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	開発と環境		本科目では、講義形式にて、環境と開発に関する基礎知識を学び、国内外で深刻化する環境問題の実状と、国際社会の動きについてを学ぶ。具体的には、環境問題はグローバルリスクとして認識され、気候変動、水、食糧危機、資源枯渇などの脅威は現実のものとなっていることを学ぶ。国内外の動向から深刻化する環境問題の実状とその背景を理解し、持続可能な世界をどう実現していくか、多様な社会経済の背景の中で利害関係が絡み合う開発と環境の問題の複雑さを具体的に理解する取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、環境と開発の問題に関する知識を具体的に学び、自らのものとして理解できるようになること、 この問題にまつわる国内外の動きに関心を持ち自ら学びを深められるようになること、疑問を探求し、自ら、又はグループ意見をまとめ、その根拠を他者に伝えるとともに、他者の意見についても理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	環境政策Ⅰ		本科目では、講義形式にて、開発途上国の貧困解消、南北格差、社会開発、環境保全に関連して、経済の視点から、森林減少の要因を再検討し、地球温暖化対策の一環ともなるバイオマスエネルギーの利用をグローバルな視点で検討する手法を学ぶ。具体的には、経済発展と環境保全を両立させ、現在世代の発展を目指す持続可能な開発、特に地球温暖化とも関連する森林破壊・熱帯林減少の要因と対策、世界の再生可能エネルギーの大半を占めている固形木質バイオマスエネルギーの開発途上国における利用、里山の意義、アグロフォレストリーなどを、先進工業国と開発途上国との南北比較をし、南北関係、南北格差に関する内容等を取り扱う。本科目における学習を通じて、持続可能な開発やSDGsについて、自発性を伸ばすとともに、自らの関心を高め、ローカルとグローバルに応用対処できる能力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	環境政策Ⅱ		本科目では、講義形式にて、地球温暖化対策に関する環境政策の検討課題として、総合的、具体的に分析する。そして、経済インセンティブに配慮した環境政策として、原子力発電を含むエネルギー政策、原子力発電に伴う核廃棄物適正処理・廃炉の処分、炭素税を中心とした環境税、少子高齢化と人口増加に対する人口政策、意図せざる環境保全を検討する手法を学ぶ。具体的には、経済発展と環境保全を両立するような持続可能な開発、特に地球温暖化対策、再生可能エネルギー、原子力エネルギー、政府が推進してきた廃棄物発電を中心とした「新エネルギー」という誤解に関して、開発途上国と先進工業国の南北格差に関する内容等を取り扱う。本科目における学習を通じて、持続可能な開発やSDGsについて、自発性を伸ばすとともに、自らの関心を高めて、ローカルとグローバルに応用対処できる能力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	健康経済学Ⅰ		本科目では、講義形式にて、医療サービスの特性や供給体制の特徴を理解し、健康や医療に関わる諸問題を経済との関係、経済学的な視点からも考察し、安心して医療や介護サービスを受けられるためには、どのような改革が必要かを学ぶ。具体的には、医療サービスの持つ特性、医療の需要と供給サイド、それらを結びつける医療サービスの供給システムについて学ぶ。どのような医療・介護・健康政策が必要か等を取り扱う。本科目における学習を通じて、医療サービスの特性を理解し、保健・医療や介護分野の問題を見極め、医療・介護・健康政策を分析し、政策のあり方等について、論理的に述べられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	健康経済学Ⅱ		本科目では、講義形式にて、医療保険制度や介護保険制度の基本的なしくみやその特徴を理解し、健康や医療、介護に関わる諸問題を経済との関係、経済学的な視点からも考察し、安心して医療や介護サービスを受けられるためには、どのような改革が必要かを学ぶ。具体的には、医療保険制度について学ぶとともに、介護保険制度のしくみと制度の問題点についても学び、どのような医療・介護・健康政策が必要か等を取り扱う。本科目における学習を通じて、医療保険制度や介護保険制度の基本的なしくみ、制度の特徴・問題点を説明できるようになること、保健・医療や介護分野の問題の本質を見極め、医療・介護・健康政策を分析し、政策のあり方等について、論理的に述べられるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	租税論		本科目では、講義形式にて、租税制度の詳細とその歴史的背景、税制をめぐる学説・理論、租税の経済的な諸作用、租税体系のあり方等について多面的に検討することで、現代経済において租税が果たしている役割を理解し、併せてその果たすべき役割についてを学ぶ。具体的には、望ましい租税制度とは本来どのようなものかを考察し、そうした理論的枠組みにもとづき現行税制の問題点と改革の方向性を検討する。租税制度そのものの詳細よりも、そうした税制が形成される要因となった「理論」、「思想」、「歴史的・社会的背景」が重要であることから、諸外国の税制改革の事例、学術的・政治的論議、歴史的経緯等を取り扱う。本科目における学習を通じて、租税に対する認識と理解を深め、現実のわが国における税制問題を考えるにあたって必要となる理論的基礎と背景知識を習得できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	国際投資論		本科目では、講義形式にて、国際証券投資や国際直接投資の基礎知識を習得し、国際投資フローの全体像を俯瞰する力を身につける手法を学ぶ。具体的には、国際投資は、株式や債券などの国境を越えた投資を指すが、果たしてどのようなプレイヤーが、どのような意図をもって、どこで行っているのか、投資に関するリスクはないのか、世界経済や金融市場にこれまでどのような影響を与えてきたのか等を取り扱う。本科目における学習を通じて、株式や債券、為替レートの変動要因が理解できるようになること、国際投資フローが拡大してきた背景が理解できるようになること、国際投資フローの拡大が引き起こしてきた諸問題が理解できるようになること、国際投資フローの最近の潮流について理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	日本経済論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、日本経済の歴史的編成をたどり、構造的問題と現代のグローバル化した経済市場における日本経済の進むべき方向性を検討する。また、行動経済学の観点から「経済人」と「人間」との差異に言及し、なぜ歴史的経済事象が生じたのかを学ぶ。具体的には、日本経済が戦後の復興から、経済成長期を経験してきた歴史的変遷を概観することで、日本経済の発展の要因を挙げ、課題に対する解決策を検討すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日本が戦後の復興から経済成長を果すことができた諸要因について、キャッチアップ型の経済から、フロントランナー型経済へ移行するために必要となった経済構造・産業構造の改革の必要性について概説できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	日本経済論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、日本経済の歴史的編成をたどり、構造的問題と現代のグローバル化した経済市場における日本経済の進むべき方向性を検討する。また、行動経済学の観点から「経済人」と「人間」との差異に言及し、なぜ歴史的経済事象が生じたのかを学ぶ。具体的には、日本経済がバブル経済と崩壊、経済構造・産業構造の変革、経済のグローバル化・デジタル化を経験してきた歴史的変遷を概観することで、日本経済の発展の要因を挙げ、課題に対する解決策を検討すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済のグローバル化・デジタル化がもたらす日本経済の成長の可能性と課題について概説できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	社会と環境		本科目では、講義形式にて、社会構成主義の立場から、環境問題を巡り何故社会論争が続くのか、環境政策の実践が何故困難なのかを学ぶ。具体的には、社会の発展に従い環境制約が発生する構造、そしてそれを社会問題として扱う結果となる構造を学ぶ。また、環境問題解決に向け、トレード・オフ関係が生じること、合意形成を要すること、リソースの動員に様々なスキームを活用することを体系的に理解すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、基本的な環境問題についてその内容を理解できるようになること、基本的な環境対策についてその内容を理解できるようになること、環境問題とその対策を巡る社会的な利害対立について理解できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	企業と環境		本科目では、講義形式にて、経済主体としての企業という視座を形成しつつ、環境問題と企業活動・経済活動の関係、社会と企業との間に生じている齟齬についてを学ぶ。具体的には、社会の環境意識が高まり、企業には環境対応の圧力がかかっている中、経済主体として私益を追求すべき企業は、どのような論理で環境という公益とバランスをとるのか、環境問題の定義とその解決へのアプローチの変遷、グローバル競争下での企業の具体的な環境活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、環境問題とその構造を理解し、経済学によるアプローチを理解できるようになること、環境政策とその構造を理解し、代表的な経済学的アプローチである「市場の失敗」モデルについて理解できるようになること、経済主体としての企業の特徴を理解できるようになること、企業が経済活動の一環として取り組んでいる環境対策について理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	開発金融論		本科目では、講義形式にて、途上国における公的部門、民間部門等の各アクターの資金調達とその利用という角度から、1990年代から現在に至る、途上国、新興国経済開発における金融の役割についてを学ぶ。具体的には、開発金融システムの構造的課題を理論的に解説した上で、各国が採用した政策とその効果を検討する。また、債務危機、インフレ、気候変動対策などのグローバルな課題と開発金融の関係等を取り扱う。本科目における学習を通じて、開発政策における金融政策の役割を、理論・事例・影響の観点から説明できるようになること、ミクロレベルでは、民間部門や公的部門による資金調達とその活用を、開発の観点から説明できるようになること、マクロレベルでは、途上国・新興国開発における資金調達の方法と過程を理解し、現代の途上国・新興国が直面する課題を金融の側面から説明できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	環境リスク論		本科目では、講義形式にて、国際的行動規範や金融資本市場などの影響から、政府の制度づくり、企業の自主的取組と新しい生活様式の提案をはじめグローバル市場で活動する企業の行動について、環境に関するリスク対応の事例や手法を確認し、経済学の果たすべき役割についてを学ぶ。具体的には、環境に関するリスク対応について、政府・企業・個人の3種類の主体における環境負荷の管理方法をもとに、環境に関するリスク対応の事例や手法を確認し、経済学の果たすべき役割について理解を深めるために必要な経緯などの情報と理論を確認する。さらに、市場等を使ったリスク対応事例と、新しい市場をめざして環境保全に取り組む企業の自発的取組みの事例等を取り扱う。本科目における学習を通じて、企業が制度など国の環境保全政策に加え、自主的に環境保存に結び付く新たな事業活動を行っていることと、その意味を理解できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	中国経済論		本科目では、講義形式にて、なぜ1978年以降の中国経済は30年以上にわたってうまく成長できたか、また、中国経済はなぜ2010年代以降高度成長が終わったのか、今後の持続的な経済成長の課題は何か、などを学ぶ。具体的には、歴史的・制度的・マクロ経済の視点から、中国経済成長の軌跡、計画経済から市場経済への制度移行、そして高度成長期と、その後の経済構造転換期に関して等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中国経済に関しては、マクロとミクロの視点から、経済成長の実態および問題点を把握した上で、経済学の諸理論を応用し、各種の集計データを活用し、多様な側面から中国の経済成長の要因や問題点を分析できる能力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	Economics SeminarⅡ		本科目では、演習形式にて、アクティブラーニング手法を取り入れながら、経済、国際関係、貿易に関するトピックについて調査し、効果的なプレゼンテーションを英語で行うために、多様な情報源から適切な資料を調査・収集する能力や、それらのトピックについて議論すること、聴衆として他者のプレゼンテーションを分析し、批評する能力や、専門的な話題について、自身の知識や考えをもとに英語で他者と議論する術を学ぶ。具体的には、本授業はすべてを英語で実施し、日本の世界経済における立ち位置、世界経済が環境に及ぼす影響、再生可能エネルギーと従来型エネルギーの比較等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済、国際関係、貿易のテーマについて、英語で深く議論できるようになること、プレゼンテーション用に構成の整った原稿を調査・執筆できるようになること、英語で効果的なアカデミック・プレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	EU経済論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、ヨーロッパ経済を理解するためにEU（European Union＝欧州連合）の基本的な仕組みを学び、経済活動がEUという独自の地域統合が生み出した単一市場と単一通貨の下で営まれていることを学ぶ。具体的には、EUという統治機構の基本的な仕組みや成り立ちの歴史を理解しておく必要があるため、EUの経済統合（単一市場）と通貨統合（単一通貨ユーロ）の、主として第2次大戦後の歴史・制度の発展と現状等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ヨーロッパ経済を支えるEU統合の経緯とともに、その制度的な仕組み・役割について学び、EUへの理解を通じて、現在のヨーロッパ経済に関するニュースを解釈できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	EU経済論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、EU（European Union＝欧州連合）経済と構造的不均衡及び、東方拡大、難民問題、財政統合の課題等を学ぶ。具体的には、ギリシャの財政危機や英国のEU離脱はどこに問題があったのか、なぜ解決に時間がかかるのかを考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ヨーロッパ経済を支えるEU統合の経緯とともに、その制度的な仕組み・役割について学び、EUへの理解を通じて、現在のヨーロッパ経済に関するニュースを解釈できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	米国経済論Ⅰ		本科目では、講義形式にて、種々のメディア資料等を使いながら、現代アメリカ経済の構造と特徴、そして直近動向とその理解を学ぶ。具体的には、現代アメリカ経済の特質を表徴する分野として軍事、外交、財政、金融、教育、医療、交通、都市政策などの各分野に焦点をあてて詳しく学習する。19世紀中葉以降の歴史も踏まえながら、1960年代以降のアメリカ経済を中心に学習する。なかでも1980年代以降の各政権の政策や課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、第一にアメリカ経済社会を貫徹する普遍理念としての個人の「自由」や「自立」の意味を理解し、自分の言葉で説明できるようになること、第二に経済格差の構造的な原因を経済学の視点から理解し、説明できるようになること、そして第三に教育や福祉や交通といった内政分野、公共性の強い分野における政府の役割や課題を理解し、自分の考えを論述できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	米国経済論Ⅱ		本科目では、講義形式にて、現代アメリカ経済の構造と特徴を理解するために、大都市の事例を通じて貧困や格差、自治と再分配をめぐる諸問題を学ぶ。具体的には、日米経済の関係を学習するため、トヨタ、ホンダ、川崎重工等を事例にしてアメリカに進出する日本企業の現状と戦略、またボーイング社の生産管理体制、グローバルなサプライチェーンとその戦略性等を取り扱う。本科目における学習を通じて、第一にアメリカの地方自治の普遍価値とそれに伴う財政格差への上位政府の基本的な姿勢、財政調整なきアメリカ社会の本質を自分の言葉で説明できるようになること、第二に大都市における貧困問題、人種問題、住宅問題、分断社会の発生要因を理解し、説明できるようになること、そして第三に自由貿易・FTAに逆行する政権の経済政策、保護貿易が継続した場合の国際経済の抱えるリスクを含めて自分の考えを論述できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	多国籍企業論		本科目では、講義形式にて、グローバルな環境における企業を、経済学的に考えられるようになる術を学ぶ。具体的には、貿易理論と内部化理論をもとに、多国籍企業の国際的な立地選択、ライセンシング、アウトソーシング、租税回避行動などの企業行動を経済学的に考察する。また、多国籍企業に対する政府の対応や、グローバル・バリュー・チェーンの実態と課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、多国籍企業の実際の行動を把握できるようになること、多国籍化するという企業行動の中から最低１つは経済学を用いて適切に説明できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	公益企業論		本科目では、講義形式にて、現在の公益事業が抱えている課題を取り上げて分析することで、今後の望ましい公益事業のあり方を学ぶ。具体的には、公益事業・公益企業と呼ばれる、電力事業、水道事業、電気通信事業、放送事業、郵便事業および交通事業といった具体的な事業について、ミクロ経済学の基礎的な知見を用いて課題を分析・解説する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、公益事業の現状や課題について、客観的に、そして定量的に履修者が評価判断できるようになること、あわせてミクロ経済学を用いて身近な公益事業を分析することで、応用ミクロ経済学分析の考え方を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	環境会計論		本科目では、講義形式にて、企業とSDGs・サステナビリティの関係を理解できるように、企業を始めとする組織の環境会計（ミクロ環境会計）および関連事項に関して、基本的な概念や手法を学ぶ。具体的には、外部報告用途の環境会計として、企業によるサステナビリティ情報の開示を、内部管理用途の環境会計として、エコバンス・製品LCA・マテリアルフローコスト会計等を取り扱う。また、環境会計に関連する事項として、CSR・CSV、持続可能な調達、ESG投資・サステナブル投資等を取り扱う。本科目における学習を通じて、企業等のSDGs活動・サステナビリティ活動、サプライチェーン（SC）を通じた生態系の保全、機関投資家によるESG投資等を、ミクロ環境会計の手法を用いて分析できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	外国為替論		本科目では、講義形式にて、経済活動や社会生活に深くかかわる外国為替・国際金融の基礎知識や分析方法について学習し、国際金融市場の動向を通じて世界経済の様子を学ぶ。具体的には、理論と事例を結びながら、デリバティブやＩＴを活用した最新の外為取引から為替リスク管理、為替レートの決定理論、国際通貨制度、国際金融問題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、外国為替市場の仕組みを説明できるようになること、為替リスク対策を述べられること、為替レートの決定要因を説明できるようになること、為替レートがマクロ経済に及ぼす影響を説明できるようになること、国際通貨・為替制度がどのような問題点を抱えているのかを説明できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	演習１		本科目では、演習形式にて、担当教員によって予め提示されているゼミのテーマをベースに、学生自身が実際に研究の対象を定め、探求していく術を学ぶ。具体的には、文献や資料・調査手法に関する学習に加え、学生自身が主体的に行動し、また、学生同士の話し合いに基づいて活動していくことを促すため、合宿や国内外でのフィールドワーク、学内外のプレゼンテーション大会、討論大会や他大学ゼミとの交流、懸賞論文への投稿、そして演習論文の執筆等を取り扱う。本科目における学習を通じて、また、「演習１」、「演習２」、「演習３」における複数年度にまたがる活動を通じて、学生自身が考え、話し合いながら物事を進められるようになること、学術的・人間的な両側面において成長を感じられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	演習２		本科目では、演習形式にて、担当教員によって予め提示されているゼミのテーマをベースに、学生自身が実際に研究の対象を定め、探求していく術を学ぶ。具体的には、文献や資料・調査手法に関する学習に加え、学生自身が主体的に行動し、また、学生同士の話し合いに基づいて活動していくことを促すため、合宿や国内外でのフィールドワーク、学内外のプレゼンテーション大会、討論大会や他大学ゼミとの交流、懸賞論文への投稿、そして演習論文の執筆等を取り扱う。本科目における学習を通じて、また、「演習１」、「演習２」、「演習３」における複数年度にまたがる活動を通じて、学生自身が考え、話し合いながら物事を進められるようになること、学術的・人間的な両側面において成長を感じられるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部科目	学部発展科目	演習３		本科目では、演習形式にて、担当教員によって予め提示されているゼミのテーマをベースに、学生自身が実際に研究の対象を定め、探求していく術を学ぶ。具体的には、文献や資料・調査手法に関する学習に加え、学生自身が主体的に行動し、また、学生同士の話し合いに基づいて活動していくことを促すため、合宿や国内外でのフィールドワーク、学内外のプレゼンテーション大会、討論大会や他大学ゼミとの交流、懸賞論文への投稿、そして演習論文の執筆等を取り扱う。本科目における学習を通じて、また、「演習１」、「演習２」、「演習３」における複数年度にまたがる活動を通じて、学生自身が考え、話し合いながら物事を進められるようになること、学術的・人間的な両側面において成長を感じられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	行政	行政学		本科目では、講義形式にて、今日における行政の存在意義から話をはじめ、行政の制度やその運営の在り方を通じて、今日の行政をめぐる課題についてを学ぶ。具体的には、行政とは何かを考えながら、公共性を担う主体としての行政の役割が、今日のように大きくなったのはなぜかについて考える。次いで、行政の仕組みや官僚制、公務員制度、政策過程などについて論じ、さらに現代の行政の変容について考える。そこでは、規制緩和、民営化、ニュー・パブリック・マネジメント（NPM）、地方分権等、今日行政改革として話題に挙がる事柄等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現代社会において行政が果たしている役割と問題点等は何なのか、また行政はどうあるべきなのか、自らはどうかかわるべきなのか等について、自ら考えることができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	行政	地方自治論		本科目では、講義形式にて、「地方自治は民主主義の学校である」という言葉のとおり、地方自治は現代デモクラシーの基礎となっており、学生が主体的に自治体に関わり、その問題解決に尽力できるようになる術を学ぶ。具体的には、地方自治について、その制度や運用を中心に考察する。地方自治は、住民登録や戸籍、保育園や学校、ごみの収集・運搬や処理、上下水道など、生活のあらゆる事柄に関わっていること、また、選挙を通じて首長や議員の動向に影響を与える主体でもあること、地方自治の歴史や制度を概観し、地方分権や市町村合併、道州制などの課題についての議論等を取り扱う。本科目における学習を通じて、自治体に関する理論的知識を深め、自治体の変化に対する考えを自ら理論的に述べることができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	憲法Ⅰ		本科目では、講義形式にて、近・現代の国家観を支配する基本原理である「立憲主義」を正しく理解するとともに、日本の憲法である「日本国憲法」の規範内容と運用実態を学ぶ。具体的には、憲法に関する基本的な知識と日本憲法の歴史を学ぶ。統治機構論では、国民主権や平和主義、国会・内閣・裁判所の役割、地方自治、財政、憲法改正など、憲法における国家機関の構造を理解する。また、日本国憲法が持つ最高法規性についての学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、憲法の規範内容と運用実態を理解することに留まらず、国家と現実の経済現象とが、どうかかわっているのか、あるいはどこまでかかわることが許されるのか、を考察し、自分の学問的関心との関連の中で憲法を考えることができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	憲法Ⅱ		本科目では、講義形式にて、近・現代の国家観を支配する基本原理である「立憲主義」を正しく理解するとともに、日本の憲法である「日本国憲法」の規範内容と運用実態を学ぶ。具体的には、基本権論（人権論）を中心に学び、憲法が保障する基本的人権について理解を深める。幸福追求権、思想・良心の自由、学問の自由、信教の自由、表現の自由、人身の自由など、個人の自由を守るための憲法上の枠組みと、法の下の平等や経済的自由権、社会権など現代国家に特有の基本権の保障等を取り扱う。本科目における学習を通じて、憲法の規範内容と運用実態を理解することに留まらず、国家と現実の経済現象とが、どうかかわっているのか、あるいはどこまでかかわることが許されるのか、を考察し、自分の学問的関心との関連の中で憲法を考えることができるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	法律	民法Ⅰa		本科目では、講義形式にて、社会生活を営み、社会活動を行っていく上で、民法総則や契約、損害賠償、家族・相続などに関する処理が求められたり、それに関するトラブルに巻き込まれた際に必要となる、基礎的な知識と考察力を身につけるために、総則・債権総論・債権各論、家族法の分野を学ぶ。具体的には、民法の基本的な知識を学び、民法全体の枠組みを理解する。民法の構成要素として、契約や物権変動、債務の履行、家族法（結婚・離婚・相続など）、そして個人の法的地位や権利能力、行為能力などを学習する。また、意思表示や代理行為、時効などの基本概念等を取り扱う。本科目における学習を通じて、将来何らかの紛争に直面したときに、自分なりにどのような条文があるのか、どういう解決がありそうかについて考察できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	民法Ⅰb		本科目では、講義形式にて、社会生活を営み、社会活動を行っていく上で、民法総則や契約、損害賠償、家族・相続などに関する処理が求められたり、それに関するトラブルに巻き込まれた際に必要となる、基礎的な知識と考察力を身につけるために、総則・債権総論・債権各論、家族法の分野を学ぶ。具体的には、債権法を中心に、債務不履行や契約の成立要件、契約の効力、そして契約の種類（売買、賃貸借など）について深堀りする。不法行為に関する知識も学び、不法行為の成立要件や特殊な事例についての議論等を取り扱う。本科目における学習を通じて、将来何らかの紛争に直面したときに、自分なりにどのような条文があるのか、どういう解決がありそうかについて考察できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	商法Ⅰa		本科目では、講義形式にて、企業に関する法律についての知識を学ぶ。具体的には、会社の基本的な構造と設立に関する法律を学ぶ。株式会社の設立手続きや発起人の権限、設立に関与する者の責任などを取り扱い、株式に関連する、種類株式、株主名簿、株券、自己株式といった基本概念についても学習する。さらに、株式の譲渡や募集株式の発行、新株予約権や社債に関する内容等を取り扱う。本科目における学習を通じて、株式会社の設立、構成単位、資金調達、運営機関、組織再編についての理解を深めることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	商法Ⅰb		本科目では、講義形式にて、企業に関する法律についての知識を学ぶ。具体的には、株式会社の内部機構や経営に関する詳細を学習する。株主総会の権限、取締役の義務や責任、株主代表訴訟について取り扱う。さらに、監査役、会計参与、指名委員会設置会社などの会社の経営体制を学び、会社の合併や分割、解散・清算の手続き等を取り扱う。本科目における学習を通じて、株式会社の設立、構成単位、資金調達、運営機関、組織再編についての理解を深めることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	行政法Ⅰ		本科目では、講義形式にて、「行政法」関係に共通する法理論や法制度についてを学ぶ。具体的には、行政法の基本的な原理と行政の活動を学ぶ。行政法の考察対象や「法律による行政の原理」、行政裁量とその統制に関する理論を学ぶ。続いて、行政行為の意義や効力について、さらに瑕疵ある行政行為の取り扱いや行政手続法の基本的な内容を取り上げ、行政の義務履行確保に関する行政強制や行政罰についても学習する。最後に行政立法や行政計画等を取り扱う。本科目における学習を通じて、行政法の全体像を把握し、基本的な概念や法理論、行政作用法の領域における主要な法制度、行政救済法の領域における主要な法制度に対する理解を深めることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	法律	行政法Ⅱ		本科目では、講義形式にて、「行政法」関係に共通する法理論や法制度についてを学ぶ。具体的には、行政争訟による救済制度と国家補償法制度に関する内容を学ぶ。行政不服審査制度や行政事件訴訟法の訴訟要件を詳しく学び、取消訴訟、無効確認訴訟、義務付け訴訟などについて学ぶ。最後に、国家賠償法に基づく公権力責任や営造物責任、国家賠償と損失補償の違いについて等を取り扱う。本科目における学習を通じて、行政法の全体像を把握し、基本的な概念や法理論、行政作用法の領域における主要な法制度、行政救済法の領域における主要な法制度に対する理解を深めることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	商法Ⅱa		本科目では、講義形式にて、金融商品取引法における開示規制や業者規制等に関する基本的な制度的枠組み及び解釈上の論点及び、金融商品取引法が前提とする法令（特に会社法及び民法）についてを学ぶ。具体的には、金融商品取引法の全体像を把握し、その基本的な構造と法的性質について学び、有価証券の概念や特徴を理解し、デリバティブ取引や金融商品・金融指標についても詳しく取り扱う。発行開示制度では、法定開示と任意開示、発行開示と継続開示の違いを学び、有価証券の募集や売出しに関する規制についても理解する。また、公開買付けの制度設計と手続き、実体的規制に関する詳細な内容等を取り扱う。本科目における学習を通じて、金融商品取引法の条文を読み、その内容や基本的構造を自分で抽出できるようになること、金融商品取引法に違反する行為に対する法的責任を具体的事例を通じて判断できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	商法Ⅱb		本科目では、講義形式にて、商法第一編総則及び第二編に関する基本的な制度的枠組み、及び解釈上の論点とその考え方を理解し、民法や会社法、その他の関連法令との関係についてを学ぶ。具体的には、商法第一編総則及び第二編において規定される制度の基本的構造を学習する。問題演習を通じて、条文を事例に当てはめて、必要な法律関係を特定する能力を涵養する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、商法第一編総則及び第二編の条文を読み、その内容や基本的構造を自分で抽出できるようになること、金融商品取引法に違反する行為に対する法的責任を具体的事例を通じて判断できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	国際法Ⅰ		本科目では、講義形式にて、国際法の主要な制度に対する基礎的な知識を習得して、現代の国際社会に生起する諸問題に関わる国家の政策課題について自ら判断するための「現実把握力」を学ぶ。具体的には、国際法の基本構造と原理を学ぶため、国際法の特徴と規則の存在形態を概観し、条約法や国内法との関係を整理し、現代国際法の基本法原則を確認し、国家の成立要件、承認、国家継承、主権免除に関する法理を学ぶ。さらに、国家領域、領土紛争、海洋、宇宙、環境といった地球空間の法的地位に関する問題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、国際法の基本原則、国際法と国内法との関係および相違点を理解し説明できるようになること、現代社会に生起する国際問題を理解し、主な国際裁判所判例の背景を含めて判旨を説明できるようになること、国際問題を法的視点から分析・検討し、自らの見解を論理的に提示できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	法律	国際法Ⅱ		本科目では、講義形式にて、国際法の主要な制度に対する基礎的な知識を習得して、現代の国際社会に生起する諸問題に関わる国家の政策課題について自ら判断するための「現実把握力」を学ぶ。具体的には、個人の国際法上の地位と人権保障、国家責任と平和維持の法的枠組みを学ぶ。国籍、犯罪人引き渡し、国際人権法の発展と実施制度を取り上げ、外交・領事関係法、国家責任法を学び、国際社会における紛争の平和的解決、国際安全保障、自衛権を検討する。武力紛争法と戦争犯罪の裁判制度を学び、国際法の主要制度等を取り扱う。本科目における学習を通じて、国際法の基本原則や現代社会に生起する国際問題に関する理解を深め、国際法と国内法との関係および相違点や、主な国際裁判所判例の背景を含めて判旨を説明できるようになること、国際問題を法的視点から分析・検討し、自らの見解を論理的に提示できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	総合講座Ⅰ		本科目では、講義形式にて、基礎的・普遍的なレベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目は、ゲーム理論の基本及びその応用例を学ぶ。具体的には、人間の相互依存関係が形作るもの（社会・人間関係・組織）への現代的な統一的表現・分析方法であるゲーム理論の基本と、心理学・経営学等の社会科学、さらには生物学やネットワーク分析への応用例も紹介する。本科目における学習を通じて、ゲーム理論は経済理論全般と相互に影響し合い発展していることを理解するとともに、自らの関心のある人間関係（いじめ、上下関係）から、経済、政治等について、シンプルなゲーム理論を用いて分析するこで、文理の偏りを待たない、現代人に必須の科学リテラシーを身に付けることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	総合講座Ⅱ		本科目では、講義形式にて、基礎的・普遍的なレベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目ではミクロ経済学・マクロ経済学を理解するうえで必要な関数解析と最適化の基礎的知識に加えて、データによる実証分析をするうえで必須の知識である統計学の基礎を学ぶ。具体的には、インフレーション、格差、失業、税制、貿易など、現実の経済現象を科学的に、客観的な視点に立って分析するための数学の基礎知識を習得する。本科目における学習を通じて、関数解析と最適化の基礎的知識を身につけ、関連する問題を解けるようになること、統計学の基礎を理解し、関連する問題を解けるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	総合講座Ⅲ		本科目では、講義形式にて、基礎的・普遍的なレベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では現代の経済学に必須である数学的知識を学ぶ。具体的には、現代の経済理論を勉強するにあたって必要な、数学知識を補充するために、基礎解析や位相数学を重視し、応用としての消費者理論と最適成長理論、解析学の基礎として、体系的に実数の性質・収束・連続性・微分・級数・複素関数等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現代の経済理論のうち、学部3年生向けのテキストブックに書かれている内容を、自主学習できる程度の数学力が養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	総合講座Ⅳ		本科目では、講義形式にて、基礎的・普遍的なレベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では日本の工業化の過程とその経済発展の特徴について学ぶ。具体的には近代以降の日本経済発展の流れや特徴、開発経済学の理論や他の先進国の現状等を取り扱う。また、近代日本の社会経済を知ることで、現在の日本社会や経済構造がどのように形成されたのかを学ぶと共に、現代日本およびその国際関係を理解するために、開発経済学の理論や他の先進国の現状等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日本社会の過去と現在を理解すること、近代以降の日本経済発展の流れや特徴を理解し、国際的な視点からも考察する力を身に付けることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	キャリアデザイン		本科目では、講義形式にて、社会的な組織で求められる「企画」、「事業開発」などに不可欠な論理的かつ科学的な思考力、問題解決力を養う術を学ぶ。具体的には、将来、多様な課題を抱える企業組織などで課題解決やプロジェクト推進にあたることを前提に、企業の社会的意義、そして昨今グローバルレベルで重要視されている「SDGs」にも触れ、企業や行政組織における社会課題解決に必要なプロジェクト的な学び合い等を取り扱う。本科目における学習を通じて、実際の企業組織などの現場で必要とされる実践的なプロジェクトマネジメント或いはプロデュースの一端に触れ、その後のゼミナールや実際の企業組織などで必要となるコンセプト創造能力、協働的な実践活動能力、そしてソリューション開発・提案能力を養うことを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	ビジネス・プロジェクト講座		本科目では、演習形式にて、大学での学びが社会とどう結びつくのかを考え、企業人との対話や協働を通じて、自らの知識や姿勢を見つめ直し、主体的な学びへの第一歩を踏み出す術を学ぶ。具体的には、企業人が提示する課題に対し、班で調査・討議・企画・発表を行う産学連携プログラムを展開する。実社会の視点に触れることで、主体性・協働性・論理的思考力の育成を図るための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、情報を効果的に収集・分析し、自己の意見を的確に伝える力とともに、周囲と建設的に対話し、他者の意見に耳を傾けて理解しようとする姿勢を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅠ		本科目では、実習形式にて、国内におけるフィールドワーク(1回目)を実施し、現場との直接的な接触を通じて、自らの知識や認識を問い直し、今後の問題意識の持ち方や研究に対する姿勢を学ぶ。具体的には、グループごとに調査先を選定し、事前学習・実地調査・インタビューを経て、得られた知見をまとめるプロセスを通じて、現実社会の複雑さと向き合う体験型実習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現場から得た事象を科学的に分析する力、目的に応じた計画を立てる力、協働して課題に取り組む組織力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅡ		本科目では、実習形式にて、「グローカル・フィールド・スタディーズⅠ」履修済みの学生を対象として、国内におけるフィールドワーク(2回目)を実施し、現場との直接的な接触を通じて、自らの知識や認識を問い直し、今後の問題意識の持ち方や研究に対する姿勢を学ぶ。具体的には、グループごとに調査先を選定し、事前学習・実地調査・インタビューを経て、得られた知見をまとめるプロセスを通じて、現実社会の複雑さと向き合う体験型実習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現場から得た事象を科学的に分析する力、目的に応じた計画を立てる力、協働して課題に取り組む組織力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅢ		本科目では、実習形式にて、「グローカル・フィールド・スタディーズⅡ」履修済みの学生と対象として、国内におけるフィールドワーク(3回目)を実施し、現場との直接的な接触を通じて、自らの知識や認識を問い直し、今後の問題意識の持ち方や研究に対する姿勢を学ぶ。具体的には、グループごとに調査先を選定し、事前学習・実地調査・インタビューを経て、得られた知見をまとめるプロセスを通じて、現実社会の複雑さと向き合う体験型実習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現場から得た事象を科学的に分析する力、目的に応じた計画を立てる力、協働して課題に取り組む組織力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅣ		本科目では、実習形式にて、「グローカル・フィールド・スタディーズⅢ」履修済みの学生と対象として、国内におけるフィールドワーク(4回目)を実施し、現場との直接的な接触を通じて、自らの知識や認識を問い直し、今後の問題意識の持ち方や研究に対する姿勢を学ぶ。具体的には、グループごとに調査先を選定し、事前学習・実地調査・インタビューを経て、得られた知見をまとめるプロセスを通じて、現実社会の複雑さと向き合う体験型実習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、現場から得た事象を科学的に分析する力、目的に応じた計画を立てる力、協働して課題に取り組む組織力を養うことを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅤ		本科目では、実習形式にて、国外におけるフィールドワーク(1回目)を実施し、異国語による調査・発表を体験し、異文化環境下での研究・コミュニケーション力を学ぶ。具体的には、国外調査に向けた事前学習、現地訪問計画の立案を経て、インタビュー調査を実施し、その成果をレポートにまとめる活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、異国語でのプレゼンテーション能力や調査・研究スキルを養う契機とし、さらに国際的な人的ネットワークの構築ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅥ		本科目では、実習形式にて、「グローカル・フィールド・スタディーズⅤ」履修済みの学生と対象として、国外におけるフィールドワーク(2回目)を実施し、異国語による調査・発表を体験し、異文化環境下での研究・コミュニケーション力を学ぶ。具体的には、国外調査に向けた事前学習、現地訪問計画の立案を経て、インタビュー調査を実施し、その成果をレポートにまとめる活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、異国語でのプレゼンテーション能力や調査・研究スキルを養う契機とし、さらに国際的な人的ネットワークの構築ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅦ		本科目では、実習形式にて、「グローカル・フィールド・スタディーズⅥ」履修済みの学生と対象として、国外におけるフィールドワーク(3回目)を実施し、異国語による調査・発表を体験し、異文化環境下での研究・コミュニケーション力を学ぶ。具体的には、国外調査に向けた事前学習、現地訪問計画の立案を経て、インタビュー調査を実施し、その成果をレポートにまとめる活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、異国語でのプレゼンテーション能力や調査・研究スキルを養う契機とし、さらに国際的な人的ネットワークの構築ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	グローカル・フィールド・スタディーズⅧ		本科目では、実習形式にて、「グローカル・フィールド・スタディーズⅦ」履修済みの学生と対象として、国外におけるフィールドワーク(4回目)を実施し、異国語による調査・発表を体験し、異文化環境下での研究・コミュニケーション力を学ぶ。具体的には、国外調査に向けた事前学習、現地訪問計画の立案を経て、インタビュー調査を実施し、その成果をレポートにまとめる活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、異国語でのプレゼンテーション能力や調査・研究スキルを養う契機とし、さらに国際的な人的ネットワークの構築ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特別講義Ⅰ		本科目では、講義形式にて、学部中級レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では経済の知識を実際のデータで確認すること、入手したデータを使い図表を作成すること、仮説を自分で立てて適切な手法で検証する術を学ぶ。具体的には、Excelを用いてのデータ整理、統計分析の基礎となる標本や検定などを理論と実践の両面から理解し、Rの基本的な操作を、回帰分析のテクニックを習得する。さらに、パネルデータを用いた因果推論分析等を取り扱う。本科目における学習を通じて、e-Statなどの集計データをExcelとRという計量ツールを用いて、統計分析ができるようになること、統計量を理解したうえで説明ができるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特別講義Ⅱ		本科目では、講義形式にて、学部中級レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では世界の各地域における諸問題や様々な課題についての議論を通して、グローバルな視点での情報収集能力、分析力や問題発見・解決能力を高めるための、総合的な知見を学ぶ。具体的には、各授業回のテーマに基づいて、グローバル・リーダーとしての資質を高めるための話題提供等を取り扱う。本科目における学習を通じて、TOEIC700点以上を獲得するための英語能力の向上等をめざすとともに、ゼミ活動等のあらゆる場面でリーダーシップを発揮できる力を身に付けることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特別講義Ⅲ		本科目では、講義形式にて、学部中級レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では為替レート決定のさまざまな理論モデルや、開放経済マクロモデルの理論とその応用について学ぶ。具体的には、経済学の中級レベルの内容である、為替レートの基礎から多様な決定モデル、国際収支、開放経済におけるマクロ経済モデル（マンデル＝フレミング・モデル）等を取り扱う。本科目における学習を通じて、国際収支の仕組みや構成要素について説明できるようになること、為替レートの短期的・長期的な変動要因を理論に基づいて説明できるようになること、開放経済における財政・金融政策の効果と選択肢について評価できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特別講義Ⅳ		本科目は、講義形式にて、学部中級レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では、ミクロ経済学とその応用についての基本的な考え方を学ぶ。具体的には、学生が主体的に経済学というツールを使う経験を通じて、公共経済学の概念を学ぶ。アクティブラーニングを取り入れることで、講義した概念を基にグループ議論を行い、最終的に、各学生が自由に選んだトピックについてのプレゼンテーション等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済学の基礎的な概念への理解を深め、経済学の基礎的なツールを用いて、現実の市場を分析する力を身に付けることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特別講義Ⅴ		本科目は、講義形式にて、学部中級レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では「ゲーム的状況」を分析するために必要な知識を習得した上で、ゲーム理論の枠組みを用いて現実の経済問題やその解決方法を説明する術を学ぶ。具体的には、ゲーム理論は自分以外の経済主体がどのような行動を取るのかによって自分にとっての最適な行動が変わってしまう「ゲーム的状況」を分析する理論であることを学び、抽象的なモデルを中心とする具体的な応用例等を取り扱う。本科目における学習を通じて、完備情報静学ゲーム、完備情報動学ゲームなどの基礎的なモデルや解概念と解の求め方を理解できるようになること、そしてゲーム理論を用いた会話ができるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特別講義Ⅵ		本科目は、講義形式にて、学部中級レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では日本の雇用と労働市場の特徴、現代日本経済についての構造的特質と問題点を理解し、労働・生活にかかわる問題と、経済的背景との関連性を学ぶ。具体的には、「日本的雇用」を中心として広がる日本の雇用システムを３部構成で取り扱う。第一に、日本の雇用制度の中核に位置している正社員の働き方、第二に、非正規雇用の働き方、第三に、雇用システムの周辺に位置する労働者の働き方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、自らに密接にかかわる問題として「日本における働き方・働かせ方」に関する現状を、統計資料と制度という二つの側面から把握できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	海外インターンシップ演習		本科目では、演習形式にて、「コミュニケーション能力」、「対人関係構築能力」、「良い質問を組み立てるスキル」を習得し、インターンシップ体験を通じて自らの能力を把握し、将来の方向性を見出す術を学ぶ。具体的には、夏季休暇中にロサンゼルス在住の中央大学の卒業生たる学員および、現地企業を訪問し、インタビュー形式で社会の仕組みや仕事観に関するヒアリングを行う。ヒアリングスキルを培うべく、渡航前の授業では、インタビュースキル、傾聴・質問技術、対人関係構築力、プレゼンテーション力を身につけるための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ロサンゼルスでの交流体験から、グローバルな視点と社会人基礎力を身につけるとともに、信頼される人物となるための心構えを実践できるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	海外インターンシップ実習		本科目では、実習形式にて、海外インターンシップLAコース演習で学んだ「コミュニケーションスキル」、「ビジネスマナー」、「対人関係構築能力」、「質問スキル」を実践的に活用する術を学ぶ。具体的には、ロサンゼルス白門会に所属する中央大学の卒業生たる学員が組み立てた訪問スケジュールに沿い、現地企業や施設（航空会社、アニメ制作会社、会計事務所、博物館など）を訪問し、インタビュー形式で多くの方々と対話する。これにより、グローバルな舞台で仕事や生活を営むイメージを具体化し、将来に役立つ気づきを得るための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、インタビューから得たさまざまな気づきをもとに、自らの能力を把握し、将来の方向性を見出せるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	インターンシップ		本科目では、講義形式にて、夏季休業期間に行う企業研修に向けた事前学習により社会人として人の中で働くことの意義を学ぶとともに、夏季休業期間中に行う企業研修を通じて、準備に位置づける講義で学んだことを実感し、さらに事後学習でその意義を掴み取る糸口を見出す術を学ぶ。具体的には、キャリアデザイン、基本的なビジネス文書、情報管理等ビジネスマンとしての基本を講義形式で学ぶとともに、PBLを通じて、ビジネス現場において実際に働く上で重要となる要素を学ぶ。そして、企業実習を通じて得た知見を実習後に他者に共有し多角的な視座を身に付けるとともに、PBLを通じて企業への提案などの検討を行うことで、年間を通じて「働く」への解像度を深める。本科目における学習を通じて、企業における一般的な業務の進め方の基礎を理解し、調査に基づく根拠やその後の展開スケジュール等について説明ができるようになることを到達目標とする。	講義56時間 実習21時間
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特殊講義Ⅰ		本科目は、講義形式にて、発展・応用レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では、現代経済の構造や変化を多角的に理解する術を学ぶ。具体的には、経済理論を基盤としつつ、マクロおよびミクロの観点から経済現象を読み解く視点を提供する。いずれも今日的な経済課題を取り上げ、理論的枠組みと現実との接点を意識するような活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、複雑な経済事象に対して論理的に考察する能力を身につけるとともに、経済学的な知見を応用し、自らの視点を構築できる力を養うことを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特殊講義Ⅱ		本科目は、講義形式にて、発展・応用レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では経済学の理論的知見を応用する力を高める術を学ぶ。具体的には、従来の理論的枠組みを確認しながら、現代経済に関わる多様な課題を取り上げ、経済的な意思決定や制度設計に対する分析的視点を育む。各回の講義では、特定の事例や仮想的なシナリオを用いながら、論理的な考察と柔軟な発想の両立を促す活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、理論と現実の接続を意識した経済的思考力を養い、実社会の課題に対して主体的にアプローチできる力を養うことを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特殊講義Ⅲ		本科目は、講義形式にて、発展・応用レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では経済学の探究を通じて論理的思考力と柔軟な視野を養う術を学ぶ。具体的には、各回に設定する経済的テーマに基づき、理論と実例の双方を用いて講義を行う。社会的・経済的関心に応じて調整するが、いずれも経済学の基礎知識を前提に発展的な理解を促す活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、既存の知識を再構成しながら、自らの考察を深める姿勢を育成し、将来的に応用可能な経済的視座と表現力を育むことを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	関連科目	特殊講義Ⅳ		本科目は、講義形式にて、発展・応用レベルの教養または経済学のトレンド・最新のトピック等を取り扱うことで、広く教養や経済学に関する視座を身に付けることを目的とする。毎年テーマの見直しを行い開講しているため、そのうちの一つを記載する。 本科目では自身の特性を客観的に把握しながら、目指すべきグローバル・リーダー像を学ぶ。具体的には、コンサルティング企業のコンサルタントの指導の下、情報感度を上げる環境作りやインタラクティブコミュニケーション、プレゼンテーションの理論を学ぶとともに、アクティブラーニングによる実践も行う。本科目における学習を通じて、シナリオ構築を行う力、また、こうした分析を行う過程でのコミュニケーション機会を通じて、自らのグローバルリーダーとしての資質を客観的に把握し、どのようなグローバルリーダーを目指すのか、自身に問いかけられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	大学院科目	ポリティカルエコノミーⅠ		本科目では、講義形式にて、資本主義の歴史的な発展・変化を哲学的手法も踏まえて解明するとともに、ポリティカル・エコノミーの基礎理論に基づいて、現代資本主義の諸問題を解明するための基盤を学ぶ。具体的には、マルクス経済学を中心とするポリティカル・エコノミーの見地から、資本主義における経済的運動とその法則性の解明を試み、資本主義の発生・発展・変化の必然性を明らかにする。より高度な次元において、『資本論』でいえば第１巻に相当する諸概念や諸項目、すなわち、商品・貨幣、資本主義的生産、資本蓄積の歴史的傾向等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学問的裏付けを伴う歴史観や哲学的方法に基づいて、経済の動きを分析し、その運動法則を明らかにし、資本主義の理論自体の妥当性を吟味し、現代資本主義における具体的な諸問題の解決策を導き出せるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	大学院科目	ポリティカルエコノミーⅡ		本科目では、講義形式にて、資本主義の歴史的な発展・変化を哲学的手法も踏まえて解明するとともに、ポリティカル・エコノミーの基礎理論に基づいて、現代資本主義の諸問題を解明するための基盤を学ぶ。具体的には、マルクス経済学を中心とするポリティカル・エコノミーの見地から、資本主義における経済的運動とその法則性の解明を試み、資本主義の発生・発展・変化の必然性を明らかにする。より高度な次元において、『資本論』でいえば第２・３巻に相当する諸概念や諸項目、すなわち、資本主義的再生産、市場と利潤率、流通・金融、資本主義から未来の共同体社会への歴史的移行等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学問的裏付けを伴う歴史観や哲学的方法に基づいて、経済の動きを分析し、その運動法則を明らかにし、資本主義の理論自体の妥当性を吟味し、現代資本主義における具体的な諸問題の解決策を導き出せるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目	大学院科目	経済学史概論		本科目では、講義形式にて、アダム・スミスを起点としながら経済学の理論がどのように発展してきたかについてを学ぶ。具体的には、アダム・スミス「国富論」を中心に、経済学史の基本的な歴史を学ぶ。同時にスミス以前・以後の経済学者たちの思想等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学生が論文を作成する際に依拠する経済理論が歴史的にどのような流れで形成されたのかを掘り下げることによって、経済分析の基礎にある理論に対する理解を深めることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	自由選択科目	大学院科目	経済史概論		本科目では、講義形式にて、日本経済史を中心とした近現代経済史の概観を学ぶ。具体的には、各学生が教科書各章を担当し、要約だけでなく独自の調査も含めて発表することで、近代以降の日本経済発展の流れや特徴を理解し、国際的な視点からも考察する力を養う。現在の日本社会や経済構造が近現代を通じてどのように形成されたのか、また、他の先進国・途上国の現状等を取り扱う。本科目における学習を通じて、経済史の分析手法、実証手法、調査手法を知り報告を重ねることで、実践的な論文執筆方法を学び、実際の執筆に繋げられるようになることを到達目標とする。	
専門教育科目	自由選択科目		学術情報の探索・活用法		本科目では、図書館の蔵書や提供しているデータベースおよび外部のウェブサイトに掲載された「学術情報」を使いながら、信頼性を備えた学術的価値のある資料へ効率よくアプローチする手法を体系的に修得し、その活用法を学ぶ。具体的には、情報リテラシーの必要性や「学術情報」についての基礎知識を学んだ上で、本学図書館が所蔵する紙媒体の蔵書や各種データベースの使い分けを覚えながら、図書・学術雑誌・レファレンスブックの検索等の実習を行う。さらに、著作権や引用、アカデミックリーディング・ライティングの一例も取り扱うことにより、関連したアカデミックスキルの向上も目指す。本科目を通じて身につけた学術情報リテラシーにより、目的に沿った有用な情報を効率よく入手し、大学における学修活動をより円滑に行えるようになることを目指す。	
専門教育科目	学部間共通科目		ＦＬＰ演習Ａ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は2年次に履修する。	
専門教育科目	学部間共通科目		ＦＬＰ演習Ｂ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は3年次に履修する。	
専門教育科目	学部間共通科目		ＦＬＰ演習Ｃ		人類の課題であり、多元価値社会における学問としても未開拓である「環境・社会・ガバナンス」「メディア・ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」という5つのプログラムを定め、プログラムごとに定める学びのシステムにより体系づけられた授業科目を履修するFaculty-Linkage Program（FLP）のために開設した演習科目である。複数用意される研究テーマについて専門的に学びつつ、学部を越えたゼミナール活動を行うことにより、複数の専門知識を持った学際的な視点を身につけることを目標とする。本科目は4年次に履修する。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部間共通科目	グローバル・テュートリアル		グローバル化が急速に進展する時代の要請に応えていくため、学部学生（日本人学生・学部留学生）、選科生が、テューター（教員）の助言のもとで、小人数グループ討論を行う。英語または中国語を使用言語として、アクティブな討論を行うことにより、国際的に活躍するための実践的素養を身につけることを目標とする。 討論を指導する担当教員（テューター役）は、海外で実務家として働いた経験を有し、一定の要件を備えた者である。	
専門教育科目	学部間共通科目	専門インターンシップ		本科目では、海外の特定の企業・機関で2週間のインターンシップを行う。物理的・文化的環境の異なる職場で働くために学ぶべき知識、身につけるべきスキル、海外で通用する仕事をするための姿勢（態度）を、自ら目標を設定しながら身につけることを目的とする。インターンシップ実施前に2回の事前学習を、実施後にレポートまたはプレゼンテーションを行うことにより、インターンシップで得た知識を自身の中で体系化することも目的である。	
専門教育科目	学部間共通科目	グローバル総合講座		本科目では、ジェンダー、経済、社会、政治的格差をテーマとし、世界的・地域的な不平等に焦点を当てる。毎週、世界で生じる様々な問題について研究や活動を行う専門家が講義を行うことにより、グローバルとローカル双方の視点から多角的な視点から不平等を理解する。さらに、ローカルな不平等とグローバルな不平等の関連性を確認し、多様な視点から包括的に理解する。講義とディスカッションを通して、様々な不平等を批判的に学修することを目的としている。テーマに応じて最新のトピックを取り扱うことにより理解を深めるため、ゲストスピーカーを招聘する予定である。 （オムニバス形式　全14回） （215 ティン　ティン　トゥン/13回） グローバル・ジェンダーギャップ、ジェンダーと職場の不平等、国境を越えた移民と不平等、気候変動と不平等のテーマの他、リサーチ・プレゼンテーションの指導および授業の振り返り （64 武石　智香子、215 ティン　ティン　トゥン、/1回）（共同） 韓国と日本の関係	オムニバス方式・共同（一部）
専門教育科目	学部間共通科目	グローバル集中講義		投資・開発プロジェクトによる環境および社会への影響を特定のうえ、評価、最小化、緩和する方法について基本的な事項を理解することを目的とする。履修者は、地球環境保全とそれに対処するための国際戦略、環境・社会政策、欧州復興開発銀行（EBRD）等の国際機関の実践活動に触れて学習する。また、環境要因がビジネスの意思決定上にどのように影響するかについて学習する。更に、英語で環境知識を身につける実践的な方法を学ぶ。	
専門教育科目	学部間共通科目	グローバル遠隔ラーニング		本科目では、演習形式にて、「グローバルアクティブラーニング」で決定したSDGsに関連するテーマについて、海外の大学に所属する学生と遠隔で毎週グループワークを行い、英語によるプレゼンテーションの準備と発表を行う。 異なる文化背景を持つ海外学生とのグループワークを重ね、相互に心を通わせる体験を重ねることを通じて、本科目のルーブリックで定義する異文化コミュニケーションのKSA力を身につけることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部間共通科目	グローバルアクティブラーニング		本科目は、「グローバル遠隔ラーニング」で海外の学生と充実したグループワークを行うことを前提として、英語で自分自身を表現し、地球規模課題についてコミュニケーションをとれるようになるために、SDGsの目標について学び、その中で自分が関心を持つ分野について英語で表現し、海外大学の学生の関心のあり方を理解しながら議論を行い、海外大学との共同プロジェクトのテーマを決めることを目的とする。授業は2回のプロジェクトマネジメントを行うことに加えて、海外の大学に対面形式で約1週間参加し、現地の学生との共同プロジェクトについて話し合い、内容や方法を調整する。	
専門教育科目	学部間共通科目	短期留学プログラムⅠ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。	
専門教育科目	学部間共通科目	短期留学プログラムⅡ		本学協定校において実施される3～4週間の夏季研修と、その準備過程として本学で実施される週1回の講義で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 講義では基礎語学力や、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。夏季研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	
専門教育科目	学部間共通科目	短期留学プログラムⅢ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。	
専門教育科目	学部間共通科目	短期留学プログラムⅣ		本学協定校において実施される3～4週間の春季もしくは夏季研修と、その準備過程として本学で実施される事前研修3回、事後研修1回で構成される。外国の文化・言語・自然・社会などに関する知識を習得させ、あわせて外国の市民や学生との親交を通じて豊かな国際感覚を養わせることを主な目的とする。 事前研修ではプログラム参加のための手続きや、危機管理、訪問先国の文化・社会に関する事前知識、渡航や現地での生活に関する実践的な知識を付与することを主眼とする。現地研修では語学研修と、協定校独自のプログラム(現地の文化やスポーツを体験するものや、ボランティア活動を組み込んだもの、日本文化を現地の人々に紹介するイベント組み込んだもの等）を実施する。事後研修では留学体験の報告会やグループ・ワークを実施し、留学を通して得たことを再確認することに主眼を置いている。本科目は、既に別の短期留学プログラムを修得した者に適用される。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンスと現代社会		本科目は講義形式にて、「AIやデータサイエンスがもたらす価値」、「デジタル技術が行き渡った社会における課題」という大きく分けて2つのテーマについて学ぶ。前者では技術的な作業も体験する。後者では講義の中でどのような課題がありうるのか身近に考えていく。この科目はAI・データサイエンス領域におけるリテラシー科目として位置付けられており、この科目での学習を通じて、学生がAIやデータサイエンスに関連する課題に対する認識を深めるとともに、AI・データサイエンス領域の基礎的な知識を習得することを目的としている。AI・データサイエンスに関する最新のトピックを取り扱うため、テーマに応じてゲストスピーカーを招聘し、専任教員と共に講義を展開する。 （オムニバス方式／全14回） （101 大草　孝介／8回） 講義の導入、社会で起きている変化、データの可視化と集約、相関と因果の考え方、データ利用の最新動向、社会で活用されているデータ、AI やデータサイエンスの活用領域、AI やデータサイエンス活用の現場、AIの基礎 （84 松崎　和賢／3回） 情報セキュリティ、倫理の問題や関連する議論の動向等 （50 岡嶋　裕史／3回） 個人情報保護と関連する問題、講義のまとめ	オムニバス方式
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンス総合		本科目では、講義形式にて、現代社会で解決が試みられている様々な課題に対して、AI・データサイエンスの手法が効果的に用いられた実践例と意義を、複数名の実務家から学ぶ。各講師1～2回目の授業では、対象とする業務や課題、およびそこで用いられている技術的な背景について解説を受ける。最後の3回目の授業では、講師と学生で、テーマにおけるAI・データサイエンスの適用について、在籍する学部で学ぶ学問的背景もふまえた、多角的な視野からの討論を行う。各授業においては最新のトピックを適宜取り扱い、ゲストスピーカーを招聘のうえ本学専任教員がサポート役を務める。本科目を通じて、実務におけるAI・データサイエンスの効果的な活用と展開について、実践的な理解を深めることを目的とする。 （オムニバス方式／全14回） （51 岡田　大士、77 樋口　知之／1回）（共同） 全体の概要と用語説明 （102 大野　航太／6回） 生成 AI（Generative AI）及びデジタルツイン（Digital Twin）の基礎と活用事例の紹介、生成AI・デジタルツインによる課題解決に関する議論、AI・データ活用による課題解決、AI・データサイエンスの活用事例の紹介、課題解決に向けたAI・データサイエンスの導入の進め方に関する議論をゲストスピーカーを招聘して多角的に説明する。 （77　樋口　知之／3回） AI・ロボットの普及に伴う職業の変化とキャリア形成の考え方、データ活用人材の育成について、ゲストスピーカーを招聘して具体的に説明する。 （51 岡田　大士／1回） AI・データサイエンスの標準化の取り組みについて （114 中村　周史／2回） デジタルトランスフォーメーションの導入と開発に関する議論、デジタルトランスフォーメーションの導入事例、デジタルトランスフォーメーションの開発と技術に関する議論を、ゲストスピーカーを招聘して行う。 （59　斎藤　正武／1回） 授業まとめと今後の学修について	オムニバス方式・共同（一部）
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅠ		本科目では、ExcelやPythonを用いたデータ操作の基礎から、可視化、簡単なデータ分析までを、講義と演習を組み合わせた形で学習する。具体的には、前半のExcelを使ったパートでは、関数やフィルタ、ピボットテーブルを活用した集計・抽出、クエリによる変換、グラフやチャートによる可視化、統計的手法による分析までを学習し、実務的演習を通じて理解を深めていく。中盤以降では、Python環境を用い、pandasによるデータ加工やmatplotlib／seabornによる可視化、scikit-learnを使った簡易的な機械学習モデル構築に触れ、実践的なデータサイエンスの流れを体験する。テーマに応じてゲストスピーカーを招聘し、専任教員と共に講義を展開する。これらを通じて、あらゆる業務の基盤となるExcelのスキルを確実に身につけ、さらに、現代的なPythonを用いたデータ処理や分析への理解を深めることを到達目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （64 武石　智香子／13回） Excelから入るデータ整備、分析、集計、Pythonによるプログラミング、Excelの自動化、データベース入門、SQL、Pythonによる探索的データ分析、最適化の考え方を用いた分析、統計的推定と仮説検定、AI体験学習（画像認識、自然言語処理）、講義まとめ （114 中村　周史／1回） Excelによる探索的データ分析（可視化）	オムニバス方式 講義17時間 演習13時間

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅡ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをなるべく少ない操作で自動化して分析するツールが不可欠である。また、昨今はウェブサービスとして各種のAPI（Application Programming Interface）が整備されており、インターネット上のデータをAPI等を用いて自動的に収集するための環境が整っている。 本科目では、プログラミングを用いてスクリプトによるデータ分析を実現するために適しているプログラミング言語であるRubyを習得することとに加え、Rubyを用いてウェブアプリケーションを簡単に作成し得るRuby on Railsについて理解することである。到達目標は、Rubyを用いて簡単なデータ分析を自身でできるようになることと、簡単なウェブアプリケーションを構築できるようになることである。	
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅢ		データサイエンスを各専門分野やビジネスで活用していくには、ビッグデータをラングリングし、視覚化・分析するツールが不可欠である。 本科目では、講義形式にて、プログラム的な基礎知識を要することなくこれらを行うことができるBI（ビジネス・インテリジェンス）ツールと、データサイエンスにおける基礎言語の一つであるRの基礎、そしてデータ加工、可視化、データ分析の基本的な考え方を学び、理解することを目的とする。また、到達目標は、数万件程度までの比較的小規模のデータについて、データ加工、可視化、基本的なデータ分析を自身で行えるようになることである。 （オムニバス形式　全14回） （102 大野　航太/7回） データの読み込みとサマリー、データラングリング、ダッシュボードやノートによるレポーティング、R、グラフ作成とカスタマイズ、Rでのデータ・アナリティクス、Rmarkdownによるレポーティング （60 酒折　文武、102 大野　航太/7回）（共同） AIとBI、データサイエンスとツール、グラフや表による可視化と分析、統計と機械学習、Exploratoryのさらなる活用、データの読み込みと操作、データラングリングの詳細、Shinyでウェブアプリ構築	オムニバス方式・共同（一部） 講義17時間 演習13時間
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンスツールⅣ		AI・データサイエンスにおいて、データ分析・機械学習や可視化をウェブアプリと連動させたり、音声認識・画像認識などのタスクを行ったり、さらには深層学習や強化学習を含む人工知能を開発したりするためには、汎用的なプログラミング言語が不可欠である。また、格納されているデータベースの操作を行うにはデータベース言語が必要となる。 本科目では、汎用的プログラミング言語の中でデータサイエンスにおける中心的な役割を演じているPythonと、データベース言語SQLを学び、基本的な事項理解することを目的とする。到達目標は、Pythonを用いて数十行程度のプログラムを読んで理解・修正できること、そして簡単なプログラムを自分で作成できること、およびSQLiteを用いてデータベースからのデータ抽出や基本的な処理を行えることとする。	
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(1)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。受講者がどのようなことに興味を持つかでグループを作り、グループ単位でデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたる。なお、本演習で分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会でもどちらでも構わない。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 コンピュータの基礎原理を理解し、データサイエンスやAIを実装するための基礎となるコンピュータ操作のスキルを身に着けることを科目の目的とし、AI・データサイエンス演習A(2)以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンス演習A(2)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会でのどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習A(1)で学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習B以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(1)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会のどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習Aで学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習B(2)以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンス演習B(2)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会のどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習AおよびAI・データサイエンス演習B(1)で学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習C以降の演習実施に必要な基礎スキルの習得を目標とする。	
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(1)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会のどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習AおよびAI・データサイエンス演習Bで学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習A・Bで学んだスキルを踏まえてデータ分析としてまとまった成果を出すスキルの習得を目標とする。	
専門教育科目	学部間共通科目	AI・データサイエンス演習C(2)		本演習では、人間の個人の行動や、その集合体である社会の動向に関するデータを対象として、統計学や機械学習によるデータ分析を行い、何らかの新たな知見を得る演習を行う。本演習はグループでデータサイエンスとAIを活用した問題解決にあたることとし、分析の対象とする社会は、リアル社会でもサイバー社会でもどちらも対象とする。それぞれのグループが取り組むべきプロジェクトとして、いくつかの課題を用意しているが、それらに限るものではなく自由な発想での課題解決を期待する。 AI・データサイエンス演習A・BおよびAI・データサイエンス演習C(1)で学んだことを踏まえ、データサイエンスやAIを実装するための基礎、および、実践的なコンピュータ操作のスキルを身に着けることを目的とし、AI・データサイエンス演習A・BおよびC(1)で学んだスキルを踏まえてデータ分析としてまとまった成果を出すスキルの習得を目標とする。	
専門教育科目	学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（基礎編）		本科目は、大学生として学術的文章作成に必要な知識・技能・態度を基礎から学ぶことで、大学での学びの基礎となる学術的リテラシー（読み書き能力）を身につけることを目的とする。大学生として身につけておくべき学術的な基礎知識を理解し、大学での学修に必要な〈知る／読む／考える〉ことに習熟しながら〈書く〉ことを中心に学ぶ。大学で学ぶ人の心得と大学での学修について理解すること、分かりやすい文章を書くための表記、語彙・語句、文の書き方について理解すること、思考が整理された文章を書くための文章の構造と特徴について理解すること、そして科学的な文章を書くための論証と引用の方法について理解することを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部間共通科目	大学生のための論文作成の技法（発展編）		レポート作成や卒業論文の執筆のためには、①自分が立てた問いに対して必要な資料や文献を適切に選び、その内容を正確に理解するスキル、②そこで得た知見に基づいて自分と他者の考えを整理し、さらに思考を深め、自分の意見を確立するスキル、③その内容を他者と共有できるよう、きちんとした文章として書きあげるスキルが必要である。 本科目では、上記①～③のスキルを実践的かつ総合的に学び、大学における記述式テストやレポート作成等の場面で必須となる「書く力」を身につけることを目的とする。到達目標は、レポートや論文の執筆に必要な情報収集力を身につけると同時に、専門領域に関する知識を深めること、データや資料を用いて具体的な論拠を示し、論理的に他者に伝える能力を身につけること、自律的に文章を作成するための基礎知識を学び、自己評価のストラテジーを身につけることである。	
外国語科目	Ｉ系	英語１ａ		本科目では、講義形式にて、「英語1b」へ発展的に続く基礎を養うべく、主として英語の正確な読解力の基本を身につけ、併せて基本的な作文力、聴解力等を向上させる技能を学ぶ。具体的には、現代の文化、社会等を主題とする教材を使い、より速く、正確に英文を読む力を高めるとともに、英語による基本的な表現能力向上のための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確な文法知識に基づいた読解力、作文力、聴解力の基本を身につけ、大学生としての標準レベルの英文について概ね十分な読解ができるようになること、および英語による基本的な文章作成ができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	英語１ｂ		本科目では、講義形式にて、「英語1a」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、主として英語の正確な読解力の基本を身につけ、併せて基本的な作文力、聴解力等を向上させる技能を学ぶ。具体的には、科学技術、ビジネスの諸問題、歴史的素材等を主題とする教材を使い、より速く、正確に英文を読む力を高めるとともに、英語による基本的な表現能力向上のための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確な文法知識に基づいた読解力、作文力、聴解力の基本を身につけ、大学生としての標準レベルの英文について概ね十分な読解ができるようになること、および英語による基本的な文章作成ができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	英語２ａ		本科目では、演習形式にて、「英語2b」へ発展的に続く基礎を養うべく、主として正確な英語の聴解力、会話力の基本を身につけ、併せて英語による意見表明に必要な語彙学習を行い作文力等を向上させる技能を学ぶ。具体的には、日常的な会話や基本的なプレゼンテーション能力向上のための教材や視聴覚教材を使い、英語による1対1の応答、グループ・議論、ノートテイキング等を取り扱う。本科目における学習を通じて、会話力、聴解力、作文力の基本を身につけて、身近なトピックについて英語による基本的な会話、簡単な意見表明を口頭および書面によって行うことが特に問題なくできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	英語２ｂ		本科目では、演習形式にて、「英語2a」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、主として正確な英語の聴解力、会話力の基本を身につけ、併せて英語による意見表明に必要な語彙学習を行い作文力等を向上させる技能を学ぶ。具体的には、日常的な会話や基本的なプレゼンテーション能力向上のための教材や視聴覚教材を使い、英語によるアカデミックな語彙学習、ライティングの課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、会話力、聴解力、作文力の基本を身につけて、身近なトピックについて英語による基本的な会話、簡単な意見表明を口頭および書面によって行うことが特に問題なくできるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語１ａ		本科目では、講義形式にて、「ドイツ語１ｂ」へと発展的に続く基礎を養うべく、ドイツ語という外国語の習得を通じて、国際的な知識と視野を広げる術を学ぶ。具体的には、一億人以上の母語話者を擁する「大言語」であるるドイツ語は、ヨーロッパの中で通用範囲が広く、ドイツ語圏以外の国々でも多くの人によって選択され学ばれている外国語であること、また、世界的に見て、経済言語としての力も、学術言語としての地位も極めて高い言語であることを学ぶ。文字や発音から始まり、動詞の現在人称変化、名詞の性・格、冠詞や不規則動詞の変化、人称代名詞、前置詞の格支配、名詞の複数形、形容詞の格変化等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文法の基礎力を身につけるだけではなく、文法を使いながら会話の練習を行うことで、ドイツ語の読解力と、正確な発音を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語１ｂ		本科目では、講義形式にて、「ドイツ語１ａ」で培った基礎の上に、より発展的に学習内容を展開すると同時に、ドイツ語という外国語の習得を通じて、国際的な知識と視野を広げる術を学ぶ。具体的には、一億人以上の母語話者を擁する「大言語」であるドイツ語は、ヨーロッパの中で通用範囲が広く、ドイツ語圏以外の国々でも多くの人によって選択され学ばれている外国語であること、また、世界的に見て、経済言語としての力も、学術言語としての地位も極めて高い言語であることを学ぶ。話法の助動詞や分離動詞、zu不定詞、従属接続詞、再帰代名詞、動詞の基本形、過去形・現在完了形・受動態・非人称表現・関係代名詞、比較表現、接続法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文法の基礎力を身につけるだけではなく、文法を使いながら会話の練習を行うことで、ドイツ語の読解力と、正確な発音を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語２ａ		本科目では、演習形式にて、「ドイツ語２ｂ」へと発展的に続く基礎を養うべく、平易なドイツ語テクストを読解する力と、ドイツ語によるライティング力を学ぶ。具体的には、ドイツ語で「読む、聞く、書く、話す」の基本となる文法知識の獲得を目指し、教科書に沿って段階的に文法事項を学習していく。ドイツ語のアルファベットと発音、動詞の現在人称変化、名詞の性と格、名詞と人称代名詞の格変化、定冠詞（類）と不定冠詞（類）の格変化、不規則変化動詞、命令文、前置詞、形容詞、話法の助動詞、未来時制等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語の初級文法を習得できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語２ｂ		本科目では、演習形式にて、「ドイツ語２ａ」で培った基礎の上に、より発展的に学習内容を広げ、ドイツ語テクストを読解する力と、ドイツ語によるライティング力を学ぶ。具体的には、ドイツ語で「読む、聞く、書く、話す」の基本となる文法知識の獲得を目指し、教科書に沿って段階的に文法事項を学習していく。数詞、分離動詞／非分離動詞、接続詞、zu不定詞、再帰表現、動詞の3基本形、過去時制、現在完了時制、受動態、関係代名詞、接続法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語の初級文法を習得できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	フランス語１ａ		本科目では、講義形式にて、「フランス語１ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、実践的な能力を重視しながらフランス語の基礎力を身につけることを学ぶ。具体的には、アルファベ（アルファベット）の発音から始まり、挨拶、名前・国籍・職業の表現、年齢や家族について話すこと、好きなものの言い方、持ち物や友達について話すこと、尋ね方、近い未来や過去の表現、時間・天候の言い方、フランス文化や食事や数量の表現等を取り扱う。本科目における学習を通じて、綴りと発音の関係を理解し、初見の文でもきちんと発音できるようになること、基本的な語彙をその実際の使用のなかで覚えること、フランス語会話の基本的なフレーズを身につけること、初級文法をその実践的側面を重視しながら身につけることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅰ系	フランス語１ｂ		本科目では、講義形式にて、「フランス語１ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、実践的な能力を重視しながらフランス語の基礎力を身につけることを学ぶ。具体的には、一日を語る方法、フランス人の一日や文化について学び、頼む・命令する表現、未来・過去の話し方、複合過去や半過去・大過去、物や人について語る方法を学ぶ。また、比較、受動態、仮定法、感情表現等を取り扱う。本科目における学習を通じて、綴りと発音の関係を理解し、初見の文でもきちんと発音できるようになること、基本的な語彙をその実際の使用のなかで覚えること、フランス語会話の基本的なフレーズを身につけること、初級文法をその実践的側面を重視しながら身につけることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅰ系	フランス語２ａ		本科目では、演習形式にて、「フランス語２ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、フランス語初級文法を学び、フランス語を継続するうえでの基礎を学ぶ。具体的には、アルファベ（アルファベット）の発音や綴り字と発音の規則、名詞の性・数・冠詞、主語人称代名詞、動詞「etre」「avoir」の活用、形容詞の性・数・位置、規則動詞の活用、否定形、疑問形、所有形容詞、指示形容詞、形容詞の特殊な変化、動詞「aller」「venir」の活用、近接未来・過去の表現、疑問代名詞・副詞・形容詞、比較級と最上級等を取り扱う。本科目における学習を通じて、フランス語の音に馴れ、直説法現在の文を様々な動詞で作成し、フランス語のアルファベのつづりを発音できるようになること、文法や発音に関してフランス語が英語に比べてどのような特徴を持っているかに対する理解を深めることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅰ系	フランス語２ｂ		本科目では、演習形式にて、「フランス語２ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、フランス語初級文法を学び、フランス語を継続するうえでの基礎を学ぶ。具体的には、命令法や非人称構文、過去分詞と複合過去、人称代名詞の目的補語形、複合過去と過去分詞の一致、関係代名詞や強調構文、代名動詞、単純未来、中性代名詞、半過去、受動態、現在分詞、ジェロンディフ、条件法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、辞書を用いてひとりでも簡単な文章の読み書きができるようになること、ある程度の量のフランス語を正確に発音し暗誦できるようになること、暗誦したフランス語を正確にフランス語で書けるようになること、複数ある動詞の時制に対する理解を深めることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅰ系	中国語１ａ		本科目では、講義形式にて、「中国語１ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、中国語の発音と基礎文法を学ぶ。具体的には、導入から始まり、発音（声調・母音・軽声・声調変化）を学び、疑問文（“吗”、疑問詞、省略疑問文、反復疑問文）や比較文を学ぶ。さらに、所在・存在の表現、語気助詞“吧”、介詞（“在”、“从”、“到”、“离”）や助動詞（“想”、“要”）を学び、最後に動詞の重ね型や選択疑問文等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確な発音を身につけること、ピンインの規則を理解すること、基本的な単語や文法に対する理解を深めることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅰ系	中国語１ｂ		本科目では、講義形式にて、「中国語１ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、中国語の発音と基礎文法を学ぶ。具体的には、文法復習（形容詞述語文、”在”所在、”有”存在、所有）から始まり、連動文、助動詞“会”“能”、経験態・回数表現、二重目的語文、進行形、さまざまな助動詞、主述述語文、持続を表す“着”、４つの補語、受け身構文、近接未来表現、強調構文・副詞等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確な発音を身につけること、ピンインの規則を理解すること、基本的な単語や文法に対する理解を深めることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ｉ系	中国語２ａ		本科目では、演習形式にて、「中国語２ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、中国語の発音と基礎文法の習得、自然な中国語表現（会話・作文）習得、中国の社会と文化に対する理解を学ぶ。具体的には、中国語の発音を重視し、文法ポイントをしかっりと抑えた上で、ペア会話、個人スピーチ、グループロールプレイなどの授業活動を通して、初級レベルの聴解力、会話力を養う。一つの話題ごとに、関連する中国文化も触れていて、発音、聴く、話す、読む、書く、訳すという総合的な語学力と共に、文化理解力をも深める題材等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確かつきれいに中国語を発音できるようになること、初級レベルの中国語で身近な話題を聞き取り話せるようになること、中国文化を少しずつ理解できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	中国語２ｂ		本科目では、演習形式にて、「中国語２ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、中国語の発音と基礎文法を身につけ、平易な中国語表現（会話・作文）を身につけることを目的とする。合わせて、中国の社会と文化に対する理解を深める。を学ぶ。具体的には、会話文を短文にまとめて、書いたり、プレゼンテーションをしたりすることによって、読解力、作文力、訳す力も育む。一つの話題ごとに、関連する中国文化も触れていて、発音、聴く、話す、読む、書く、訳すという総合的な語学力と共に、文化理解力をも深める題材等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確かつきれいに中国語を発音できるようになること、初級レベルの中国語で身近な話題を聞き取り話せるようになること、中国文化を少しずつ理解できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	スペイン語１ａ		本科目では、講義形式にて、「スペイン語１ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、スペイン語の初級文法を習得することを目指し、コミュニケーションを支える言語の仕組みの基礎を学ぶ。具体的には、名詞の性・数、冠詞、人称代名詞、動詞ser・estar・hay、指示形容詞、所有形容詞、規則動詞と目的語表現、不規則動詞、不定詞表現、時刻・天候表現、語幹母音変化動詞、目的格代名詞等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語の発音と表記の仕組みを理解し、身近な内容の文を読み上げたり、聴き取って文字で表したりできるようになること、身近な話題をスペイン語で表現し、やり取りができるようになること、スペイン語圏の文化について知り、興味や関心を持てるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	スペイン語１ｂ		本科目では、講義形式にて、「スペイン語１ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、スペイン語の初級文法を習得することを目指し、コミュニケーションを支える言語の仕組みの基礎を学ぶ。具体的には、前置詞格人称代名詞、gustar型動詞、再帰動詞、現在分詞と進行形、副詞、不定語・否定語、過去分詞と現在完了、点過去・線過去・未来形を扱い、好きなことや経験、今年度の出来事・将来についてのやり取り等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語の発音と表記の仕組みを理解し、身近な内容の文を読み上げたり、聴き取って文字で表したりできるようになること、身近な話題をスペイン語で表現し、やり取りができるようになること、スペイン語圏の文化について知り、興味や関心を持てるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	スペイン語２ａ		本科目では、演習形式にて、「スペイン語２ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、スペイン語でコミュニケーション（会話・作文・聴き取り）ができるようになるための練習を行い、コミュニケーションを支える言語の仕組みの基礎を学ぶ。具体的には、基本的な挨拶、飲食店や売店での注文、出身地や特徴の紹介、居場所や感情の表現、交通手段、身体感覚、未来の予定に関する表現、時刻や天候、許可や依頼表現等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語の基礎的な語彙力を身につけること、スペイン語の簡単な文章の読み書きができるようになること、スペイン語で簡単な聴き取りや正確な発音による会話ができるようになること、スペイン語圏の文化について知り、興味や関心を持てるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ｉ系	スペイン語２ｂ		本科目では、演習形式にて、「スペイン語２ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、スペイン語でコミュニケーション（会話・作文・聴き取り）ができるようになるための練習を行い、コミュニケーションを支える言語の仕組みの基礎を学ぶ。具体的には、好みや身体の不調、所有や比較表現、日常生活のルーティン、現在進行中の行動についての表現、これまでに経験したこと、過去の出来事・行為や状況、伝聞表現等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語の基礎的な語彙力を身につけること、スペイン語の簡単な文章の読み書きができるようになること、スペイン語で簡単な聴き取りや正確な発音による会話ができるようになること、スペイン語圏の文化について知り、興味や関心を持てるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	朝鮮語１ａ		本科目では、講義形式にて、「朝鮮語１ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、ハングル文字や基本文法の特質を学ぶ。具体的には、文法構造について理解を深めることから始め、基本母音・子音字、合成母音、激音・濃音、パッチムとその発音変化を習得する。その後、主格助詞や基本文型を学び、自己紹介や誕生日について会話練習を行う。さらに、否定表現や各種助詞、用言の丁寧形等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ハングルの子音・母音を正確に読み書きできるようになること、発音変化の仕組みを熟知し文を正しく読めるようになること、基本文型を習得して韓国語の文法の構造を理解できるようになること、簡単な自己紹介ができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	朝鮮語１ｂ		本科目では、講義形式にて、「朝鮮語１ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、基本文法を理解し簡単な会話を学ぶ。具体的には、用言の丁寧形、否定文、固有語数詞の読み方を学び、時刻や予定に関する会話表現を習得する。続いて連用形と「～て」表現、縮約形、変則活用を学び、移動や所要時間の表現方法を学ぶ。さらに過去形や好き嫌い、得意不得意の表現を修得し、日常会話力を高める。総括では、学んだ文法と会話表現等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ハングルの子音・母音を正確に読み書きできるようになること、発音変化の仕組みを熟知し文を正しく読めるようになること、基本文型を習得して韓国語の文法の構造を理解できるようになること、簡単な自己紹介ができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	朝鮮語２ａ		本科目では、演習形式にて、「朝鮮語２ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、韓国語の発音に馴染んで、簡単な自己紹介などの会話ができるように韓国語の基礎を学び、韓国語の発音と文字、語彙、文法の基礎を学ぶ。具体的には、スマホのハングル入力方法。簡単な挨拶会話、K-popを学習に取り入れる。母音と子音、パッチムの発音を学び、会話練習とK-popで実践を行う。基本的な会話表現である「～です」や「～なんですか」などを学び、韓国の挨拶や貨幣に触れる、家族や位置を表す文法や会話等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日本語との対照的な観点からの面白さも楽しみ、「聞く、話す、読む、書く」の4技能の総合的な学習活動を通じて、会話能力を育むことを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	朝鮮語２ｂ		本科目では、演習形式にて、「朝鮮語２ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、韓国語の実用会話としての応用を学ぶ。具体的には、K-popを授業に取り入れながら、曜日や日常の動作を表現、動詞の否定形や助詞「～を」「～に」の使い方を学ぶ。過去形や頻度副詞を使い、動作の場所や時間に関する表現を学ぶ。予定や意志を表す表現を学び、韓国の干支についても触れ、時間や交通手段、距離に関する表現等を取り扱う。本科目における学習を通じて、数字を習い、電話をかけたり、買い物をしたりできて、一人でソウル旅行ができるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ｉ系	英語３ａ		本科目では、講義形式にて、「英語3b」へ発展的に続く基礎を養うべく、主として英語のより正確な読解力を発展させ、併せて作文力、聴解力等をさらに向上させる技能を学ぶ。具体的には、現代の文化、社会、科学技術等、様々な教材を使い、より速く、正確に英文を読む力をさらに高めるとともに、英語による表現能力をさらに向上させるための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確な文法知識に基づいた読解力、ライティング、聴解力を身につけ、英語を母語とする者にとって標準レベルの英文について十分な読解ができるようになること、および英語による文章作成ができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	英語３ｂ		本科目では、講義形式にて、「英語3a」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、主として英語のより正確な読解力を発展させ、併せて作文力、聴解力等をさらに向上させる技能を学ぶ。具体的には、ビジネスの諸問題、ニュースメディアによる報道、TOEIC等の英語試験等、様々な教材を使い、より速く、正確に英文を読む力をさらに高めるとともに、英語による表現能力をさらに向上させるための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、正確な文法知識に基づいた読解力、作文力、聴解力を身につけ、英語を母語とする者にとって標準レベルの英文について十分な読解ができるようになること、および英語による文章作成ができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	英語４ａ		本科目では、演習形式にて、「英語4b」へ発展的に続く基礎を養うべく、主としてより正確な英語の聴解力、会話力を向上させ、併せて英語による意見表明に必要な語彙学習を行い作文力等をさらに向上させる技能を学ぶ。具体的には、アカデミックな会話やプレゼンテーション能力をさらに向上させるための教材や視聴覚教材を使い、英語による1対1の応答、グループ・議論、ノートテイキング等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英語による会話と討論を通じて、標準的なレベルで会話力、聴解力、作文力を身につけて、英語による会話、意見表明を口頭および書面によって行うことが十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	英語４ｂ		本科目では、演習形式にて、「英語4a」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、主としてより正確な英語の聴解力、会話力を向上させ、併せて英語による意見表明に必要な語彙学習を行い作文力等をさらに向上させる技能を学ぶ。具体的には、アカデミックな会話やプレゼンテーション能力をさらに向上させるための教材や視聴覚教材を使い、英語によるアカデミックな語彙学習、ライティングの課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英語による会話と討論を通じて、標準的なレベルで会話力、聴解力、作文力を身につけて、英語による会話、意見表明を口頭および書面によって行うことが十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語３ａ		本科目では、講義形式にて、「ドイツ語３ｂ」へと発展的に続く基礎を養うべく、ドイツ語のステップアップに必要な、ドイツ語初級から中級レベルに至るための文法、語彙と表現、そして読解力を学ぶ。具体的には、主にドイツ語テクストの読解を行うが、各話法の助動詞や接続詞、動詞の活用、形容詞の用法など、基礎文法の学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級文法を修得し、初級から中級レベルのドイツ語で書かれた、ある程度の長さと複雑さを持った文を、辞書を引きながら正しく理解することができるようになること、および、ドイツ語テクストを正しく音読することができるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語３ｂ		本科目では、講義形式にて、「ドイツ語３ａ」で培った基礎の上に、ドイツ語のステップアップに必要な、ドイツ語初級から中級レベルに至るための文法、語彙と表現、そして読解力を学ぶ。具体的には、ドイツ語テクスト読解を中心に進めるが、不定詞句、関係文、受動、接続法など発展的な文法事項等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級文法を修得し、初級から中級レベルのドイツ語で書かれた、ある程度の長さと複雑さを持った文を、辞書を引きながら正しく理解することができるようになること、ドイツ語テクストを正しく音読することができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語４ａ		本科目では、演習形式にて、「ドイツ語４ｂ」へと発展的に続く基礎を養うべく、１年次に学習したドイツ語の文法を全面的に復習し、それを確実に定着させると共に、ドイツ語の語彙や文法知識の拡充を図り、それらを用いて簡単なドイツ語の文を読みこなす技術を身につける術を学ぶ。具体的には、練習問題を中心に初等文法事項の復習を行い、必要に応じて再解説や追加文法事項の説明も行う。内容は文字と発音、数詞、動詞の現在形、冠詞と名詞の格変化、人称代名詞、命令形、前置詞、接続詞等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語の基礎文法と語彙の知識を確実なものとすると同時に、１年次の学習より詳しい文法知識も身につけ、広い領域における社会的、文化的な関心を培い、国際的な理解の能力を高められるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	ドイツ語４ｂ		本科目では、演習形式にて、「ドイツ語４ａ」で培った基礎の上に、１年次に学習したドイツ語の文法を全面的に復習し、それを確実に定着させると共に、ドイツ語の語彙や文法知識の拡充を図り、それらを用いて簡単なドイツ語の文を読みこなす技術を身につける術を学ぶ。具体的には、練習問題を中心に文法事項を復習し、必要に応じて初等文法の再解説や追加事項の説明も行う。内容は数詞、話法の助動詞、動詞の基本形、完了形、形容詞の格変化、比較、分離動詞、再帰代名詞・動詞、受動態、zu不定詞、関係代名詞、非人称表現、接続法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語の基礎文法と語彙の知識を確実なものとすると同時に、１年次の学習より詳しい文法知識も身につけ、広い領域における社会的、文化的な関心を培い、国際的な理解の能力を高められるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	フランス語３ａ		本科目では、講義形式にて、「フランス語３ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、１年次に学んだフランス語の初級文法の復習を行い、中級レベルの文法事項を学ぶとともに、現代フランスへの関心を持つことを学ぶ。具体的には、フランス語で書かれた最近のニュースを読み進めながら、初級文法の仕上げを行うとともに、多くの語彙を習得し文法の理解を深め、フランス語の読解力を高める。時事的なトピックとして、フランスの歴史、社会、文学、政治、文化、エコロジー等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中級レベルの文法事項の知識をつけること、現代フランスの社会や文化に関心を持つようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	フランス語３ｂ		本科目では、講義形式にて、「フランス語３ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、フランス語の中級レベルの文法事項を学ぶとともに、現代フランスへの関心の持つことを学ぶ。具体的には、フランス語で書かれた最近のニュースを読み進めながら、多くの語彙を習得し文法の理解を深め、フランス語の読解力を高める。時事的なトピックとして、社会・歴史・文化・地理・健康・生物多様性などの多角的なテーマ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中級レベルの文法事項の知識をつけること、現代フランスの社会や文化に関心を持つようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ｉ系	フランス語４ａ		本科目では、演習形式にて、「フランス語４ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、テキストを読み進めながら、フランス語の綴り字の読み方を復習して文章を正しく発音できるようにし、単語や熟語を覚え、文法を復習しながら、フランス語の文章を独力で読む能力を身につけるを学ぶ。具体的には、時事フランス語をテーマにした教科書を使い、フランス語の綴り字の読み方を継続的に復習しつつ、直説法現在、複合過去、大過去などの時制や現在分詞、中性代名詞、関係代名詞などの文法事項を取り上げる。科学・ガストロノミー・経済に関するテキストを読みながら、語彙や表現等を取り扱う。本科目における学習を通じて、フランス語文法の理解を深めるとともに、平易なフランス語の文章を読めるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	フランス語４ｂ		本科目では、演習形式にて、「フランス語４ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、テキストを読み進めながら、フランス語の綴り字の読み方を復習して文章を正しく発音できるようにし、単語や熟語を覚え、文法を復習しながら、フランス語の文章を独力で読む能力を身につけるを学ぶ。具体的には、時事フランス語をテーマにした教科書を使い、フランス語の綴り字の読み方を継続的に復習しつつ、直説法半過去・単純未来・受動態・人称代名詞・関係代名詞などの文法事項を取り上げる。科学・ガストロノミー・経済に関するテキストを読みながら、語彙や文法の定着を図り、フランス語の表現力の深化を図ること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、フランス語文法の理解を深めるとともに、平易なフランス語の文章を読めるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	中国語３ａ		本科目では、講義形式にて、「中国語３ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、中国語の基礎的会話ができ、まとまった文章を読解する術を学ぶ。具体的には、中国語の初級から中級にかけて必要な文法を段階的に学ぶ。動作量補語・助動詞・結果補語・方向補語などの主要構文や表現を取り上げ、練習を通じて表現の幅を広げる。語彙・構文の基礎を固めつつ、自然な会話表現を修得するための学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、基礎的な文法を修得し、応用的な表現力と読解力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	中国語３ｂ		本科目では、講義形式にて、「中国語３ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、中国語の基礎的会話ができ、まとまった文章を読解する術を学ぶ。具体的には、“是～的”構文や比較・処置文・離合動詞・存現文など、より複雑な文法を習得する。副詞や疑問詞の多様な用法も扱い、意味や語順の違いを意識した運用力を養う。表現の精度を高め、実践的な運用能力の定着を目指す学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、基礎的な文法を修得し、応用的な表現力と読解力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	中国語４ａ		本科目では、演習形式にて、「中国語４ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、中級レベルの中国語力、特に会話力と読解力を強化し、言語習得に不可欠な文化と社会への理解を深め、総合的な中国語コニュニケーションを学ぶ。具体的には、初級文法の復習を起点に、日常的なテーマを通じて、中国語の語彙と構文等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級レベルの中国語力をおさえながら、中級レベルの語彙ならびに文法を習得すること、適切な語句を使って、自然な中国語で自己表現でき、実用的なコニュニケーション能力を確実に身につけること、ある程度長さのある文章を理解でき、またその内容について口頭で説明できるようになること、中国の社会と文化への理解も豊かになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ｉ系	中国語４ｂ		本科目では、演習形式にて、「中国語４ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、中級レベルの中国語力、特に会話力と読解力を強化し、言語習得に不可欠な文化と社会への理解を深め、総合的な中国語コニュニケーションを学ぶ。具体的には、実社会に関する課題を通じて、中級レベルの語彙・文法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級レベルの中国語力をおさえながら、中級レベルの語彙ならびに文法を習得すること、適切な語句を使って、自然な中国語で自己表現でき、実用的なコニュニケーション能力を確実に身につけること、ある程度長さのある文章を理解でき、またその内容について口頭で説明できるようになること、中国の社会と文化への理解も豊かになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	スペイン語３ａ		本科目では、講義形式にて、「スペイン語３ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、自分（相手）についての情報や自分（相手）の考えをめぐるやりとり、身近なことがらに関する日常的な会話、およびそれらを支える文法や語彙を学ぶ。具体的には、動詞serやestar、基本的なAR・ER・IR動詞の活用、近未来表現や進行形、gustar型動詞など、スペイン語の基礎的な文法事項の復習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語らしい発音や自然なイントネーションの習得及び、基礎的な文法を使いこなせるようになり、スペイン語で会話する力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	スペイン語３ｂ		本科目では、講義形式にて、「スペイン語３ａ」で培った基礎の上に、自分（相手）についての情報や自分（相手）の考えをめぐるやりとり、身近なことがらに関する日常的な会話、およびそれらを支える文法や語彙を学ぶ。具体的には、語根母音変化動詞や線過去、さまざまな再帰動詞表現、主観表現、受け身構文等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語らしい発音や自然なイントネーションの習得及び、中級文法を身につけ、スペイン語で会話する力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	スペイン語４ａ		本科目では、演習形式にて、「スペイン語４ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、スペイン語圏各地の現状を反映したニュースを通じて、文法項目の復習をするとともに、語彙やスペイン語圏の社会や文化に関する知識を増やし、スペイン語力の拡充、特に聞き取りの能力を涵養する術を学ぶ。具体的には、文法としては現在形・再帰動詞・gustar型動詞、過去時制の使い分け、未来・過去未来、比較級、助動詞的表現等を、テーマとしてはSNS、スポーツ、食、ファッション、電力等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語のテレビやラジオで日常的に流される情報を聞いて、およそ理解できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ｉ系	スペイン語４ｂ		本科目では、演習形式にて、「スペイン語４ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開する。スペイン語圏各地の現状を反映したニュースを通じて、文法項目の復習をするとともに、語彙やスペイン語圏の社会や文化に関する知識を増やし、スペイン語力の拡充、特に聞き取りの能力を涵養する術を学ぶ。具体的には、文法としては接続法現在・過去を用いた仮定や非現実的状況の表現、条件文等を、テーマとしては留学プログラム、家庭と職場におけるジェンダー平等、警察、安楽死等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語のテレビやラジオで日常的に流される情報を聞いて、およそ理解できるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅰ系	朝鮮語３ａ		本科目では、講義形式にて、「朝鮮語３ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、中級レベルの会話力を習得するため、特に、使用頻度の高い文法や間違いやすい文法を学ぶ。具体的には、インタビュー形式の会話練習を導入とし、伝聞表現や意志・経験・許可・禁止など多様な表現を学ぶ。加えて、「～たら」や「～ことにする」などの文型を取り上げ、意思決定や仮定条件の伝達方法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中級レベルの文法の運用能力と会話能力を修得することを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅰ系	朝鮮語３ｂ		本科目では、講義形式にて、「朝鮮語３ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、中級レベルの会話力を習得するため、特に、使用頻度の高い文法や間違いやすい文法を学ぶ。具体的には、連体形・推測・可能・助言・様態などの中級文型を系統的に学ぶ。特に「～ようだ」「～そうだ」などの推量表現や、複数の理由表現（～길래、～느라、～니까等）を用いた発話の幅を広げる。さらに回想や間接話法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中級レベルの文法の運用能力と会話能力を修得することを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅰ系	朝鮮語４ａ		本科目では、演習形式にて、「朝鮮語４ｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、基本文型を使って簡単な日常会話を行うための術を学ぶ。具体的には、「～ください」「～たい」「～してから」など、初級の基本的な文型を中心に学習する。会話練習では自己紹介や誘いかけを通じ、自然な表現の運用を図る。「～ので」「～つもりです」など理由や意志を表す文型等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常会話レベルの文法の運用能力と会話能力を修得することを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅰ系	朝鮮語４ｂ		本科目では、演習形式にて、「朝鮮語４ａ」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、基本文型を使って簡単な日常会話を行うための術を学ぶ。具体的には、動詞や形容詞の連体・連用形を学び、文の構造理解を深める。旅行経験を題材にした会話練習に加え、新聞記事やエッセイ、歌詞などを用いた長文読解を行う。後半では作文と発表を通して表現力を高め、より実践的で発信力のある韓国語運用能力を養う学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常会話レベルの文法の運用能力と会話能力を修得することを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）		本科目では、演習形式にて、「オーラル・コミュニケーション(英語1b）」へ発展的に続く基礎を養うべく、日常的な英語による会話から、身近なトピックについて議論を行い、質問を即座に理解して自然な応答ができるために必要な語彙学習、聴解力、会話力の基本を身につける技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて日常会話をスムーズに行い、さまざまな話題についてのプレゼンテーション能力をさらに向上させるための教材や視聴覚教材を使い、英語による1対1の応答、グループ・議論等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英語による会話と討論の集中的な練習を通じて、会話力、聴解力、作文力をより高いレベルで身につけて、英語による会話、さまざまな問題についての意見表明が十分にできるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）		本科目では、演習形式にて、「オーラル・コミュニケーション(英語1a）」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、日常的な英語による会話から、身近なトピックについて議論を行い、質問を即座に理解して自然な応答ができるために必要な語彙学習、聴解力、会話力の基本を身につける技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて日常会話をスムーズに行い、さまざまな話題についてのプレゼンテーション能力をさらに向上させるための教材や視聴覚教材を使い、英語によるアカデミックな語彙学習、ライティングの課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英語による会話と討論の集中的な練習を通じて、会話力、聴解力、作文力をより高いレベルで身につけて、英語による会話、さまざまな問題についての意見表明が十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）		本科目では、演習形式にて、「オーラル・コミュニケーション(英語2b）」へ発展的に続く基礎を養うべく、一般的なトピックに関する議論に加えて、アカデミックなトピックについてのプレゼンテーションができるようにするために必要な語彙学習、聴解力、会話力の基本を身につける技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて英語による一般的な会話、一般的なトピックに関する議論、さらにはアカデミックなプレゼンテーションを行うために必要なアカデミックな語彙学習、素材の準備方法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英語による会話と討論の集中的な練習を通じて、会話力、聴解力、作文力をより高いレベルで身につけて、様々な問題についての英語による議論、プレゼンテーションが十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）		本科目では、演習形式にて、「オーラル・コミュニケーション(英語2a）」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、一般的なトピックに関する議論に加えて、アカデミックなトピックについてのプレゼンテーションができるようにするために必要な語彙学習、聴解力、会話力の基本を身につける技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて英語による一般的な会話、一般的なトピックに関する議論、さらにはアカデミックなプレゼンテーションを行うために必要な英文の構成のための課題、素材の準備方法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英語による会話と討論の集中的な練習を通じて、会話力、聴解力、作文力をより高いレベルで身につけて、様々な問題についての英語による議論、プレゼンテーションが十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設英語１ａ		本科目では、講義形式にて、「特設英語1b」へ発展的に続く基礎を養うべく、さまざまな問題についての英文をアカデミックな視点から読解し、考え、自分の意見に基づいた議論をすることにより、英語4技能の総合的な技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、現代の文化、社会、科学技術などを扱った専門書などを教材に、英文の内容を速読し、その内容を深く理解し、意見表明し、議論するための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、より正確な文法知識に基づいた会話力、聴解力、作文力を身につけ、さまざまな英文について内容にまで踏み込んだ十分な読解ができるようになること、およびそれについて英語による意見表明ができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設英語１ｂ		本科目では、講義形式にて、「特設英語1a」で培った基礎の上に、さまざまな問題についての英文をアカデミックな視点から読解し、考え、自分の意見に基づいた議論をすることにより、英語4技能の総合的な技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、ニュースメディアの報道による国際問題、政治、ビジネスなどを教材に、英文の内容を速読し、その内容を深く理解し、意見表明し、議論するための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、より正確な文法知識に基づいた読解力、作文力、聴解力を身につけ、さまざまな英文について内容にまで踏み込んだ十分な読解ができるようになること、およびそれについて英語による意見表明ができるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	特設英語２ａ		本科目では、講義形式にて、「特設英語2b」へ発展的に続く基礎を養うべく、主として聴解力、読解力を高め、TOEIC L&R TEST、TOEFL、IELTS等の英語能力試験を念頭に、そうした試験で十分な英語能力を発揮できるような英語の総合的技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、TOEIC L&R TEST等を主題とした教材を使い、実際の試験を意識した演習課題に取り組むとともに、単なる試験対策の授業にとどまらないように、日常生活において必要な語彙の増強、文法事項の確認、聴解力、一般的なトピックについての英会話の練習、読解力を高めるためのさまざまな課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、一般的な日常生活や、ビジネスの話題における基本的な応答を自然にできるような聴解力、読解力を十分に身につけることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設英語２ｂ		本科目では、講義形式にて、「特設英語2a」で培った基礎の上に、より発展的な内容を展開し、主として聴解力、読解力を高め、TOEIC L&R TEST、TOEFL、IELTS等の英語能力試験を念頭に、十分な英語能力を発揮できるような英語の総合的技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、TOEIC L&R TEST等を主題とした教材を使い、実際の試験を意識した演習課題に取り組むとともに、単なる試験対策の授業にとどまらないように、ビジネスにおいて必要な語彙の増強、文法事項の確認、聴解力、一般的なトピックについての英会話の練習、読解力を高めるためのさまざまな課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、一般的な日常生活や、ビジネスの話題における基本的な応答を自然にできるような聴解力、読解力を十分に身につけることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設中国語１ａ		本科目では、講義形式にて、中国語の基礎を学ぶ。具体的には、中国語の発音と文の基本構造に焦点を当てる。四声、母音、子音、ピンインなどの発音体系を学び、動詞文・形容詞文・存在文といった基本文型を習得することで、初歩的な表現力の土台を築く取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中国語の音声を聞き取りピンインで書き取ることができるようになること、ピンインを正確に発音することができるようになること、基礎文法項目40、基礎単語200をマスターできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設中国語１ｂ		本科目では、講義形式にて、中国語の基礎を学ぶ。具体的には、完了・進行・経験などのアスペクト表現や補語構文を学び、より複雑な文を組み立てる力を養う。中検対策や副詞の連鎖表現にも取り組み、実践的な運用力の向上を図る取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中国語の音声を聞き取りピンインで書き取ることができるようになること、ピンインを正確に発音することができるようになること、基礎文法項目40、基礎単語200をマスターできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）		本科目では、演習形式にて、さまざまなテーマに沿ってドイツ語で会話をすることを通じ、ドイツ語で自分の意見、立場を表明できるようになる術を学ぶ。具体的には、ドイツ語圏の文化や日常生活に関するテーマを中心にドイツ語を学習する。祝祭や服飾、金銭感覚などの話題を通じて、語彙や表現を広げる。年代や単位、貨幣に関する数値表現の理解も扱い、基礎的な会話力と文化知識の習得をするための取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、キーワードを探して必要な情報を取り出しながら短いドイツ語テクストを読み、その上で、ドイツ語で自分のコメントを出したり、意見を言えるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）		本科目では、演習形式にて、さまざまなテーマに沿ってドイツ語で会話をすることを通じ、ドイツ語で自分の意見、立場を表明できるようになる術を学ぶ。具体的には、日常的な話題から歴史、建築、芸術へと学習内容を発展させる。スモールトークや旅行、環境問題、著名人物の紹介などを通して、多様なドイツ語表現を実践的に学ぶ活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、キーワードを探して必要な情報を取り出しながら短いドイツ語テクストを読み、その上で、ドイツ語で自分のコメントを出したり、意見を言えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）		本科目では、演習形式にて、ドイツ語の運用能力を高め、ドイツ語圏の社会と文化についての知見を深め、さまざまなテーマにそったドイツ語会話を行う術を学ぶ。具体的には、基本的には読解と会話中心の授業であり、毎週違うテーマを課題にして、テクストを読み、他の国と日本を比較する。授業の前半は読解、後半は会話の練習となる。文法が欠かせない時は文法を説明してからドイツ語で進めるため、教員のジェスチャーや表情を見て学ぶ。表現力を高めるために単語帳を作成し、同義語や、類似した単語およびフレーズを収録する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、キーワードを探しつつ短いテクストを読み、必要な情報を取り出しながら、それらについて、ドイツ語で自分のコメントを出したり、意見を言えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）		本科目では、演習形式にて、ドイツ語の運用能力を高め、ドイツ語圏の社会と文化についての知見を深め、さまざまなテーマにそったドイツ語会話を行う術を学ぶ。具体的には、基本的には会話中心の授業であり、３名程度のグループを作成し、いろいろなテーマに沿った、さまざまな場面による会話をを行う。日常的なやり取りや、自分の意見、立場の表明をドイツ語でできるようにする練習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、キーワードを探しながら短いテクストを読み、必要な情報を取り出しながら、それらについて、ドイツ語で自分のコメントを出したり、意見を言えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）		本科目では、演習形式にて、フランス語コミュニケーションと会話を学ぶ。具体的には、旅行や日常生活に関する基礎的なフランス語表現を学ぶ。自己紹介や故郷、家族、趣味などをテーマに、フランス語を聞く力と話す力の向上を図る。ビデオ教材やドキュメントを用い、基本的な語彙を習得すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で必要かつ便利な言い回しを身につけること、間違いを恐れず積極的にフランス語で発言できるようになること、フランスへのイメージを広げられることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）		本科目では、演習形式にて、フランス語コミュニケーションと会話を学ぶ。具体的には、フランス語による謝罪、意見の述べ方などを通じ、基本的な表現力を養う。フランス語圏の文化の理解を深めつつ、言葉遊びなどの活動によりフランス語の基礎力を強化すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で必要かつ便利な言い回しを身につけること、間違いを恐れず積極的にフランス語で発言できるようになること、フランスへのイメージを広げられることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）		本科目では、演習形式にて、フランス語コミュニケーションと会話を学ぶ。具体的には、旅行や日常生活に関するより高度なフランス語表現を学ぶ。天気、買い物、宿泊などをテーマに、フランス語を聞く力と話す力の向上を図る。ビデオ教材やドキュメントを用い、実践的な語彙を習得すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で必要かつ便利な言い回しを身につけること、間違いを恐れず積極的にフランス語で発言できるようになること、フランスへのイメージを広げられることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）		本科目では、演習形式にて、フランス語コミュニケーションと会話を学ぶ。具体的には、レシピの紹介や映画批評などを通じ、より高度な表現力を養う。フランス語圏の文化の理解を深めつつ、計画の立案などの活動によりフランス語の応用力を強化すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で必要かつ便利な言い回しを身につけること、間違いを恐れず積極的にフランス語で発言できるようになること、フランスへのイメージを広げられることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）		本科目では、演習形式にて、目、口、耳を使った、実践的な中国語によるコミュニケーション力を学ぶ。具体的には、基本的な語彙や文法事項を習得することを目的とし、「自分・家族」や「家」、「すきなこと」など身近なテーマを扱う。各課の本文音読やドリル練習、書き取りを通して、正確な発音と文構造の理解を深める取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級中国語からさらにレベルアップし、より豊かな表現で、中国人とコミュニケーションができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）		本科目では、演習形式にて、目、口、耳を使った、実践的な中国語によるコミュニケーション力を学ぶ。具体的には、「SNS」「休日」「旅行の思い出」など日常生活の具体的な場面に関する語彙や表現を学習する。前半と同様に音読、復習、ドリル・書き取りを重ねることで、実践的な運用能力を高める取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級中国語からさらにレベルアップし、より豊かな表現で、中国人とコミュニケーションができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）		本科目では、演習形式にて、目、口、耳を使った、実践的な中国語によるコミュニケーション力を学ぶ。具体的には、課題文において、語釈と文法の確認を行いながら、本文の精読、音読、リスニング練習、トレーニング問題を通じて総合的な運用力を養成する。取り上げる話題は、旅行、青春、ユーモア、結婚、農村経済、ネット新語など多岐にわたる。社会的・文化的背景に触れつつ語学力を高める構成とし、各課の内容理解を深めながら、語句の定着と表現力の向上を目指す取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級中国語からさらにレベルアップし、より豊かな表現で、中国人とコミュニケーションができるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）		本科目では、演習形式にて、目、口、耳を使った、実践的な中国語によるコミュニケーション力を学ぶ。具体的には、各課では、語釈や文法事項の整理に始まり、本文の精読やリスニング、応用トレーニングを行い、段階的に理解を深める構成である。取り扱う内容は、「爆買い」から「爆入学」への変化、ローテクとハイテクの共存、地方文化や高齢化社会、技術革新、政策と消費行動、地域間交流など、現代中国社会の多様な現象を題材としている。各回の学習を通じて、現代中国の社会状況に対する理解を深めつつ、実践的な読解力と聴解力の定着を目指す取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、初級中国語からさらにレベルアップし、より豊かな表現で、中国人とコミュニケーションができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）		本科目では、演習形式にて、スペイン語の初級から中級レベルの文法や語彙を用いたコミュニケーションを学ぶ。具体的には、友人との会話や電話でのやり取り、進行中の動作、居住地や料理、買い物、健康に関する表現、命令形や過去の習慣、未来の予定、スペイン語圏の文化や生活様式等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で使えるスペイン語会話の基礎及び、A1-A2 レベルのスペイン語を身に着けることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）		本科目では、演習形式にて、スペイン語の初級から中級レベルの文法や語彙を用いたコミュニケーションを学ぶ。具体的には、現在分詞や点過去・線過去の用法、比較級や代名詞などの文法事項、外見や性格の描写、感情や好みの表現、装い、痛み、住居、習慣などの日常的話題、スペイン語圏の祭りや都市、古代文明などの文化的テーマ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で使えるスペイン語会話の基礎及び、A1-A2レベルのスペイン語を身に着けることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）		本科目では、演習形式にて、スペイン語の中級レベルの文法や語彙を用いて、コミュニケーションをとる術を学ぶ。具体的には、趣味や特技などの話題や、買い物に必要な表現、健康状態に関する表現をする術を学び、スペイン語でコミュニケーションをとることができるようになるための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で使えるスペイン語会話の基礎及び、A2-B1 レベルのスペイン語運用能力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）		本科目では、演習形式にて、スペイン語の中級レベルの文法や語彙を用いて、コミュニケーションをとる術を学ぶ。具体的には、過去の出来事やその背景、イベントへの招待と参加、社会的な規範、感情表現や命令表現、将来の計画を伝える術を学び、スペイン語でコミュニケーションをとることができるようになるための活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常生活で使えるスペイン語会話の基礎及び、A2-B1 レベルのスペイン語運用能力を養うことを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）		本科目では、演習形式にて、朝鮮語学習、両言語の様々な類似点と相違点を発見することで、言語に対する理解を深め、両国の文化や関心事を題材に的確な情報を理解し、積極的にコミュニケーションを図る術を学ぶ。具体的には、韓国のトップニュースや文章を読んで、中上級レベルの会話能力と作文、読解力・聴解力を学ぶ。朝鮮語の語彙の7割が漢字語だと言われているため、漢字語の暗記と使用頻度の多い文法、間違いやすい文法を中心に学ぶ。ことわざや四字熟語を暗記する取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常会話の定着と自分の関心事をテーマについて自分の意見が話せることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）		本科目では、演習形式にて、多様な語彙を増やす術を学ぶ。具体的には、語彙の宝庫であるMBTIの質問文を用い、インタビュー形式で会話の練習をする。語彙や表現において、日韓の意味の相違、使用と不使用、ものの考え方などのについて意識しながら定着を図り、様々な文化や関心事を題材にコミュニケーション場面を設定し、言葉や文化に理解を深める。日常的な話題や自分の関心事、日本についての紹介、韓国事情などをテーマに会話能力を高め、中級レベルの文法、語彙を定着させ、ロールプレイ練習を強化する。特に、パートナー練習を通して、授業中に会話文をしっかり覚える取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日常会話の定着と自分の関心事をテーマについて自分の意見が話せることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）		本科目では、演習形式にて、朝鮮語で自信をもって発言し、積極的にコミュニケーションを図るために必要な語彙や表現を学ぶ。具体的には、日常の様々な場面設定を念頭に、自身の関心事や異国の文化、歴史などに関する短い文章を読み、実践的な話題について説明するための表現を扱う。また、クラスメイトとの活発な議論を通じ、適切な表現で自分を表現することと、批判的な観点を身につけることの重要性等を取り扱う。本科目における学習を通じて、汎用性の高い実践的な語彙を習得し、自身の見解を適切な言葉で論理的に説明できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）		本科目では、演習形式にて、大学生として重要なテーマについて、高度な朝鮮語で説明し、発表する方法を学ぶ。具体的には、身近な話題を離れた、より抽象的なテーマについて、理解・応答できるレベルの語彙や表現を取り扱う。また、発表準備のための情報収集やノート・テイキングの手法、クラスメイトと互いに評価し合う批判的な観点を身につけるアクティビティ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、大学という場にふさわしい文体を扱えるようになること、適切な言葉で論理的に内容を伝えるだけではなく、表現の仕方まで意識できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設ドイツ語１ａ		本科目では、講義形式にて、ドイツ語初級文法を復習し、それを補強する術を学ぶ。具体的には、少人数制授業のため、取り扱う題材は履修者の要望に応じてカスタマイズする。過去の授業例としては、ドイツ語検定対策や旅行、留学のための日常会話、グリム童話をドイツ語で読むことなどがあり、発音の復習、冠詞や名詞の語形変化、動詞の活用、時制や接続法の理解、語彙やイディオムの増強の取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語初級文法の復習、補強しながら、中級ドイツ語のレベルへの到達の橋渡しのできる知識を養うことを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	特設ドイツ語１ｂ		本科目では、講義形式にて、ドイツ語初級文法を復習してそれをさらに補強して、習得を確実なものとする術を学ぶ。具体的には、少人数制授業のため、取り扱う題材は履修者の要望に応じてカスタマイズする。過去の授業例としては、ドイツ語検定対策、旅行や留学のための日常ドイツ語会話、グリム童話をドイツ語で読むこと、日本映画のドイツ語吹き替え鑑賞、日独比較文化論などが含まれている。ドイツ語検定３級受験希望者向けの授業では、発音や冠詞・名詞の語形変化、動詞の活用、時制、接続法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語初級文法の復習、補強しながら、中級ドイツ語のレベルに到達することができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設ドイツ語２ａ		本科目では、講義形式にて、ドイツ語初級文法の復習、補強を通じて、ドイツ語の運用能力を総合的に高める術を学ぶ。具体的には、ドイツ語の発音、名詞（代名詞）の格変化、動詞の語形変化、ドイツ語の時制、「助動詞＋本動詞」からなる構文、等を丁寧に復習し、ドイツ語初級文法の理解を深める。また、中級ドイツ語レベルへの到達を目指し、ドイツ語検定の過去問題集、ドイツ語のテクスト、視聴覚教材等の教材を基に、学習へ取り組む活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語初級文法の復習、補強しながら、中級ドイツ語のレベルへの到達の橋渡しをする知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設ドイツ語２ｂ		本科目では、講義形式にて、ドイツ語初級文法の復習、補強を通じて中級レベルの確実な習得を目指し、ドイツ語の運用能力を総合的に高める術を学ぶ。具体的には、ドイツ語の発音と基礎文法を全般的に復習し、ドイツ語文法に対する理解を高める。また、中級ドイツ語レベルへの到達を目指し、ドイツ語検定の過去問題集、ドイツ語のテクスト、視聴覚教材等の教材を基に、学習へ取り組む活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語初級文法の知識を強化し、中級ドイツ語のレベルに到達できるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設フランス語１ａ		本科目では、講義形式にて、筆記問題と聞き取り問題を中心に、フランス語文法に関する事項を学ぶ。具体的には、仏検４級の概要について説明し、冠詞や代名詞、動詞の活用、単語配列、前置詞などに関する問題を扱い、文法や語彙に関する基礎的な項目を一つ一つ、順番に学ぶ。各回では筆記問題と聞き取り問題を通じて、基礎的な知識を身につけること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、仏検４級などに挑戦できるレベルの語学力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設フランス語１ｂ		本科目では、講義形式にて、筆記問題と聞き取り問題を中心に、フランス語文法に関する事項を学ぶ。具体的には、仏検3級の概要について説明し、文法や語彙に関する各項目を順に学ぶ。具体的には、定型表現、動詞の活用、代名詞、前置詞、単語配列、応答文、語彙、長文、会話文を扱う。また、聞き取り問題として書き取り、会話文なども学び、実践的な試験対策等を取り扱う。本科目における学習を通じて、仏検3級などに挑戦できるレベルの語学力を養うことを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	特設フランス語２ａ		本科目では、講義形式にて、筆記問題と聞き取り問題を中心に、フランス語文法に関する事項を学ぶ。具体的には、仏検４級の概要について説明し、文法や語彙に関するより高度な項目を順に学ぶ。具体的には、絵を使った問題、会話文、数字などに関する問題を扱う。各回では筆記問題と聞き取り問題を通じて、より高度な知識を身につけること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、仏検４級などに挑戦できるレベルの語学力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設フランス語２ｂ		本科目では、講義形式にて、筆記問題と聞き取り問題を中心に、フランス語文法に関する事項を学ぶ。具体的には、仏検３級の概要について説明し、文法や語彙に関するより高度な項目を順に学ぶ。具体的には、単語配列、応答文、語彙、長文、会話文などを扱う。また、聞き取り問題として書き取りや絵を使った問題、会話文なども学び、実践的な試験対策等を取り扱う。本科目における学習を通じて、仏検3級などに挑戦できるレベルの語学力を養うことを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設中国語２ａ		本科目では、講義形式にて、映像資料を利用して、中級程度の中国語運用力（読む、書く、聞く、話す）を確実に身につけ、文字資料や音声資料を用いて、現地で話されているスピードの中国語や表現を学ぶ。具体的には、中国語の初級文法を学びながら、実践的な会話力を養う。各回で新しい文法ポイントと単語を学習し、読解や会話を通じて応用力を高める。具体的には、毎回新出単語と文法の学習後、課題として読解文や会話文を取り上げ、実際の場面で使える力を養う取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、1年生で学んだ中国語の発音、語彙、文法を土台にし、中国語検定試験3級に合格することのできる語学力を修得できるようになること、現地で話されている中国語を学びながら、中国語の応用能力を高められることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設中国語２b		本科目では、講義形式にて、映像資料を利用して、中級程度の中国語運用力（読む、書く、聞く、話す）を確実に身につけ、文字資料や音声資料を用いて、現地で話されているスピードの中国語や表現を学ぶ。具体的には、主に中国語の中級文法と語彙を学び、実践的な会話力を高める。各回では、特定のテーマに基づいた新出単語や文法ポイントを学び、その後、読解文や会話文を用いて理解を深める。具体的には、各課で新しい文法と表現を習得し、応用練習としての会話等を取り扱う。本科目における学習を通じて、1年生で学んだ中国語の発音、語彙、文法を土台にし、中国語検定試験3級に合格することのできる語学力を修得できるようになること、現地で話されている中国語を学びながら、中国語の応用能力を高められることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設スペイン語１ａ		本科目では、講義形式にて、スペイン語検定試験DELE A1レベルに即した、スペイン語の基礎知識、試験の形式、試験に合格するために必要なスキルを学ぶ。具体的には、第一フェーズでは、「ひと」「家族」「近所」に関するテーマを学び、模擬試験を受験する。第二フェーズでは、「町」「大学」「買物」に関するテーマを学び、模擬試験を受験する。第三フェーズでは、「スパー」「職場」「レジャー・旅」に関するテーマを学び、模擬試験を受験する。これら３つのフェーズに分けて学びを深める取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、DELE A1の検定試験の問題を見た際にすぐに解き方がわかるようになること、リスニング問題を理解できるようになり、提示されたイラストに対してコメントや質問ができるようになること、簡単なプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅱ系	特設スペイン語１ｂ		本科目では、講義形式にて、スペイン語検定試験DELE A1レベルに即した、スペイン語の基礎知識、試験の形式、試験に合格するために必要なスキルを学ぶ。具体的には、「家族や友人」「住居や大学生活」「食生活や買物」「仕事や職業」「健康や予定」「旅行や経験」などの身近なテーマを扱いながら、隔回で確認テスト（Prueba）の実施等を取り扱う。本科目における学習を通じて、DELE A1の検定試験の問題を見た際にすぐに解き方がわかるようになること、リスニング問題を理解できるようになり、提示されたイラストに対してコメントや質問ができるようになること、簡単なプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設スペイン語２ａ		本科目では、講義形式にて、スペイン語検定試験DELE A2レベルに即した、スペイン語の基礎知識、試験の形式、試験に合格するために必要なスキルを学ぶ。具体的には、人物描写、場所の説明、文化の紹介、人物や企業の歴史等を取り扱う。本科目における学習を通じて、DELE A2の検定試験に向けて、検定試験の問題を見た際にすぐに解き方がわかるようになること、リスニング問題を理解できるようになり、提示されたイラストに対してコメントや質問ができるようになること、簡単なプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅱ系	特設スペイン語２ｂ		本科目では、講義形式にて、スペイン語検定試験DELE A2レベルに即した、スペイン語の基礎知識、試験の形式、試験に合格するために必要なスキルを学ぶ。具体的には、行事や習慣、将来の展望、自分の経験、身近な環境等を取り扱う。本科目における学習を通じて、DELE A2の検定試験に向けて、検定試験の問題を見た際にすぐに解き方がわかるようになること、リスニング問題を理解できるようになり、提示されたイラストに対してコメントや質問ができるようになること、簡単なプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級英語１		本科目では、演習形式にて、現代社会におけるさまざまな重要トピックについて本格的な議論、プレゼンテーションを行うために必要な会話力、聴解力に加えて、議論に必要な知識を得るための資料読解のための読解力、自分の意見を表現する作文力を発展させる技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、標準レベルの論説文、専門記事等を正確に読みこなし、内容を正確に把握した上で英語で議論を行い、自分の意見を簡潔に英語でまとめ、それについてプレゼンテーションを行う訓練を続けることによって、論理的で事実に基づいた意見発表を英語で行えるようにするための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英文の正確な読解と英語による議論、プレゼンテーションの集中的な練習を通じて、英語4技能を高度なレベルで身につけて、事実に基づいた説得力のあるプレゼンテーションが十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級英語２		本科目では、演習形式にて、現代社会における重要トピックについて本格的な議論、プレゼンテーションを行うために必要な会話力、聴解力に加えて、議論に必要な知識を得るための資料読解のための読解力、自分の意見を表現する作文力をより高度に発展させる技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、やや難度の高い論説文、専門記事等を正確に読みこなし、内容を正確に把握した上で英語で議論を行い、自分の意見を簡潔に英語でまとめ、それについてプレゼンテーションを行う訓練を続けることで、論理的で事実に基づいた意見発表をより高度に英語で行えるようにするための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英文の正確な読解と英語による議論、プレゼンテーションの集中的な練習を通じて、英語4技能をより高度なレベルで身につけて、事実に基づいた説得力のあるプレゼンテーションが高いレベルでできるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅲ系	上級英語３		本科目では、演習形式にて、現代社会におけるさまざまな問題、ビジネス、学術的なトピックについて、適切な資料を探して内容を理解し、自分の考えをまとめて、英語で効果的なプレゼンテーションを行うために必要な英語4技能を高める技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、自分が関心のあるトピックについて、ニュースメディア、ネット記事、学術記事から資料を集め、英語による原稿を作成した上でプレゼンテーションを行い、その長所・短所について相互に批評をするとともに、説明、説得、デモンストレーションなどさまざまなタイプのプレゼンテーションを行うことで、英語による表現力を発展させるための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英文を短時間で的確に把握する読解力、発表原稿作成のための作文力、効果的な発表を行うための会話力を高めて、優れたプレゼンテーションが十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級英語４		本科目では、演習形式にて、現代社会における問題、ビジネス、学術的なトピックについて、適切な資料を探して内容を理解し、自分の考えをまとめて、英語で効果的なプレゼンテーションを行うために必要な英語4技能をより高度に高める技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、自分が関心のあるトピックについて、ニュースメディア、ネット記事、学術記事から資料を集め、英語による原稿を作成した上でプレゼンテーションを行い、その長所・短所について相互に批評をするとともに、説明、説得、デモンストレーションなどのプレゼンテーションを行うことで、英語による表現力をより高度に発展させるための課題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英文を短時間で的確に把握する読解力、発表原稿作成のための作文力、効果的な発表を行うための会話力を高めて、優れたプレゼンテーションが高いレベルでできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級英語５		本科目では、演習形式にて、現代の社会、経済、国際問題について、専門書、学術的記事、各種ニュースメディアによる報道記事等を読んで内容を把握して、自分の考えをまとめて文にまとめ、英語で議論を行うことで、英語4技能を発展させる技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、専門書、新聞・雑誌等を題材にしたテキストを読み、内容を正確に把握して自分の意見を英文にまとめ、それに基づいた議論を行うことで、説得力のある意見発表の方法を身につけ、他者の意見を批判・評価する視点を養い、現代社会の様々な問題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英文の内容を的確に把握する読解力、自分の考えを英文で表現するための成のための作文力、説得力のある意見発表のための会話力、他者の意見を聞くための聴解力を高めて、英語による議論が十分にできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級英語６		本科目では、演習形式にて、現代の社会、経済、国際問題について、専門書、学術的記事、各種ニュースメディアによる報道記事等を読んで内容を把握して、自分の考えをまとめて文にまとめ、英語で議論を行うことで、英語4技能をより高度に発展させる技能を学ぶ。具体的には、少人数のクラスにおいて、テレビ・ラジオの報道、インターネットに掲載された記事等を読み、内容を正確に把握して意見を英文にまとめ、それに基づいた議論を行うことで、説得力のある意見発表の方法を身につけ、他者の意見を批判・評価する視点を養い、現代社会の様々な問題等を取り扱う。本科目における学習を通じて、英文の内容を的確に把握する読解力、自分の考えを英文で表現するための成のための作文力、説得力のある意見発表のための会話力、他者の意見を聞くための聴解力を高めて、英語による議論が高いレベルでできるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級ドイツ語１ａ		本科目では、演習形式にて、参加学生のリクエストに応じた内容のテクストを題材にして、ドイツ語の読解力を向上する術を学ぶ。具体的には、各回の授業内容は履修者の希望に基づき柔軟に構成する。発音・文法・語彙・作文・聴解など、各自の課題に即した教材を用いて段階的に力を養い、ドイツ語運用力の総合的向上を図る。スポーツや音楽といった、自分の興味がある分野について、ドイツでの現状がどうなっているのかを学び、それらに「ドイツ語で触れてみたい」という気持ちを養う取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、自分の興味のある分野に簡単なドイツ語で触れて「ドイツ語が少しできる私」を実感できるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅲ系	上級ドイツ語１ｂ		本科目では、演習形式にて、参加学生のリクエストに応じた内容のテクストを題材にして、ドイツ語の読解力を向上する術を学ぶ。具体的には、各回の授業内容は履修者の希望に基づき柔軟に構成する。文法、発音、語彙、作文、聴解などの力を、希望に沿った教材を用いて段階的に強化し、各自の課題に応じたドイツ語能力の向上を目指す。自分の興味がある分野について、ドイツでの現状がどうなっているのかを学び、それらに「ドイツ語で触れてみたい」という気持ちを養う取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、自力で辞書を引いて大抵のドイツ語の文章が読めるという自信が持てるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級ドイツ語２ａ		本科目では、演習形式にて、習得した語学に対する理解を深めるには、その言語の歴史的、文化的背景を学び、その言語圏の新しい話題について知ることが有効であるため、ドイツ語のテクストを講読することで、ドイツ語とドイツ語圏の文化への深い知見を学ぶ。具体的には、２年次までに習得したドイツ語文法を復習すると同時に、それらを用いて、高度なドイツ語テクストを読みこなす技術を身につけるとともに、専門用語を含め、多くのドイツ語単語を習得する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語を読解する力を強化するとともに、ドイツ語を通じて、広く多彩な領域への社会的、文化的な関心を培い、諸外国に対する国際的理解の能力を高められるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級ドイツ語２ｂ		本科目では、演習形式にて、習得した語学に対する理解を深めるには、その言語の歴史的、文化的背景を学び、その言語圏の最近の話題について知ることが有効であるため、ドイツ語のテクストを講読することで、ドイツ語とドイツ語圏の文化へのより深い知見を学ぶ。具体的には、これまでに習得したドイツ語文法を全面的に再確認すると同時に、それらを用いて、より高度なドイツ語テクストを読みこなす技術を身につけるとともに、専門用語を含め、さらに多くのドイツ語単語を習得する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ドイツ語を読解する力を強化するとともに、ドイツ語を通じて、専門領域のみならず、さらに広い領域への社会的、文化的な関心を培い、諸外国に対する国際的理解の能力を高められるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級フランス語１ａ		本科目では、演習形式にて、外国語科目Ⅰ系区分に設置されたフランス語科目の授業で扱いきれなかった、日常で実践的に使われるフランス語を学ぶ。具体的には、中・上級者を対象とする教科書に沿ってこれまでの学習内容の理解を固め、同時並行で半期で600語（毎週50語程度）の語彙力強化を図る。それらの基礎力を培った上で、シンプルなフランス語が用いられた文献・映像・音楽などのコンテンツ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、辞書や参考書の補助があれば、やや複雑なフランス語を読解することができるようになること、実際のフランス語を聞き取ることができるようになること、語彙を確実に増やすこと、フランス語を読んだり聴いたりすることを楽しいと思えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級フランス語１ｂ		本科目では、演習形式にて、外国語科目Ⅰ系区分に設置されたフランス語科目の授業で扱いきれなかった、日常で実践的に使われるフランス語を学ぶ。具体的には、中・上級者を対象とする教科書にのっとり履修者各自の文法知識を確かなものとし、フランス語の基本語彙（600語程度）を獲得する。それらの基礎力を培った上で、シンプルなフランス語が用いられた文献・映像・音楽などのコンテンツ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、辞書や参考書の補助があれば、やや複雑なフランス語を読解することができるようになること、実際のフランス語を聞き取ることができるようになること、語彙を確実に増やすこと、フランス語を読んだり聴いたりすることを楽しいと思えるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅲ系	上級フランス語２ａ		本科目では、演習形式にて、外国語科目Ⅰ系区分に設置されたフランス語科目の授業で扱いきれなかった、日常で実践的に使われるフランス語を学ぶ。具体的には、中・上級で扱う文法項目の総仕上げを行い、同時並行で半期でより抽象的な語彙を300語（毎週25語程度）の語彙力強化を図る。それらの基礎力を培った上で、フランス語話者が日常的に用いるより高度なフランス語が用いられた文献・映像・音楽などのコンテンツ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、辞書や参考書の補助があれば、やや複雑なフランス語を読解することができるようになること、実際のフランス語を聞き取ることができるようになること、語彙を確実に増やすこと、フランス語を読んだり聴いたりすることを楽しいと思えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級フランス語２ｂ		本科目では、演習形式にて、外国語科目Ⅰ系区分に設置されたフランス語科目の授業で扱いきれなかった、日常で実践的に使われるフランス語を学ぶ。具体的には、中・上級で扱う文法項目の総仕上げを行い、同時並行で半期でより抽象的な語彙を300語（毎週25語程度）の語彙力強化を図る。それらの基礎力を培った上で、フランス語話者が日常的に用いるより高度なフランス語が用いられた文献・映像・音楽などのコンテンツ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、辞書や参考書の補助があれば、やや複雑なフランス語を読解することができるようになること、実際のフランス語を聞き取ることができるようになること、語彙を確実に増やすこと、フランス語を読んだり聴いたりすることを楽しいと思えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級中国語１ａ		本科目では、演習形式にて、漢語水平考試（HSK）5級以上・中国語検定試験2級以上に相当する中国語力を学ぶ。具体的には、HSK合格を目指し、読解・語彙・聴解・作文の4技能を段階的に強化する。授業では毎回配布する教材を用い、読解力・語彙力・聴解力・作文力のバランスを重視しながら実践的な演習を行う。進度や学生の要望に応じて柔軟に対応し、確実なスコアアップを図る取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、漢語水平考試（HSK）5級以上・中国語検定試験2級以上の合格を目指せる語学力を身に着けられることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級中国語１ｂ		本科目では、演習形式にて、漢語水平考試（HSK）5級以上・中国語検定試験2級以上に相当する中国語力を学ぶ。具体的には、中国語検定合格を目指し、読解・語彙・聴解・作文の各技能を段階的に強化する。毎回配布する教材を用いて、速読・文法・類語・ピンインなど多面的に対策を行う。進度や学生の要望に応じて柔軟に対応し、HSK対策も一部取り入れながら実践力の向上を図る取り組み等を取り扱う。本科目における学習を通じて、漢語水平考試（HSK）5級以上・中国語検定試験2級以上の合格を目指せる語学力を身に着けられることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級中国語２ａ		本科目では、演習形式にて、漢語水平考試（HSK）6級以上・中国語検定試験準1級以上に相当する中国語力を学ぶ。具体的には、中国語各種検定試験の最上位合格を目指し、読解・語彙・聴解・作文の各技能を徹底的に強化する。毎回配布する教材を用いて、読解力・語彙力・聴解力・作文力のバランスを重視しながら実践的な演習を通じた多面的な対策等を取り扱う。本科目における学習を通じて、漢語水平考試（HSK）5級以上・中国語検定試験2級以上の合格を目指せる語学力を身に着けられることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目	Ⅲ系	上級中国語２ｂ		本科目では、演習形式にて、漢語水平考試（HSK）5級以上・中国語検定試験2級以上に相当する中国語力を学ぶ。具体的には、中国語各種検定試験の最上位合格を目指し、読解・語彙・聴解・作文の各技能を徹底的に強化する。毎回配布する教材を用いて、長文の聴解、要約・作文の練習、故事成語の学習といった多面的な対策等を取り扱う。本科目における学習を通じて、漢語水平考試（HSK）5級以上・中国語検定試験2級以上の合格を目指せる語学力を身に着けられることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級スペイン語１ａ		本科目では、演習形式にて、スペイン語の聴解、読解、文章表現、口頭発表の方策およびスペイン語圏の経済や社会についての知識を学ぶ。具体的には、スペイン語圏の様々な有名企業、スペイン語圏の国々における働き方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語で書かれたA2-B1レベルの文章の要点を理解できるようになること、会話や発表を、少しスピードを落として繰り返し聞けばその内容を理解できるようになること、辞書を使いながら短い文章を作成できるようになること、そして、スペイン語で短いプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級スペイン語１ｂ		本科目では、演習形式にて、スペイン語の聴解、読解、文章表現、口頭発表の方策およびスペイン語圏の経済や社会についての知識を学ぶ。具体的には、スペイン語圏の大手企業や有名な経済人の経歴、スタートアップ企業等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語で書かれたA2-B1レベルの文章の要点を理解できるようになること、会話や発表を、少しスピードを落として繰り返し聞けばその内容を理解できるようになること、辞書を使いながら短い文章を作成できるようになること、そして、スペイン語で短いプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級スペイン語２ａ		本科目では、演習形式にて、スペイン語の聴解、読解、文章表現、口頭発表の方策およびスペイン語圏の経済や社会についての知識を学ぶ。具体的には、スペイン語圏の展示会、商品やサービスの描写の仕方、スペイン語圏の国々において効果的なプレゼンテーションの仕方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語で書かれたA2-B2レベルの文章をおよそ理解できるようになること、会話や発表を、少しスピードを落として繰り返し聞けばその内容を理解できるようになること、辞書を使いながら短い文章を作成できるようになること、そして、短いプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。	
外国語科目	Ⅲ系	上級スペイン語２ｂ		本科目では、演習形式にて、スペイン語の聴解、読解、文章表現、口頭発表の方策およびスペイン語圏の経済や社会についての知識を学ぶ。具体的には、様々な産業の歴史、現代世界における諸産業の利点と課題、サスティナビリティ等を取り扱う。本科目における学習を通じて、スペイン語で書かれたA2-B2レベルの文章を粗方理解できるようになること、会話や発表を、少しスピードを落として繰り返し聞けばその内容を理解できるようになること、辞書を使いながら短い文章を作成できるようになること、そして、短いプレゼンテーションを行えるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅠ（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。講義・演習を併用した形式にて、日本語読解を中心に学び、日本語の語彙や日本語表現を身につけることにより、大学の教科書や専門書が読めるようになることを目的とする。 具体的には、教員の準備した一般的な様々な文章を読解し、理解した内容について自分で分析・考察することや、その内容についてクラスメートとディスカッションを行う。本科目を通じて、日本で記述される文章を誤解なく理解すること、自分の言葉で要約すること、わかりやすく第三者に説明できることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅡ（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、講義と演習を併用した形式で行い、日本語で意見を伝えるために必要な知識・技術を習得することを目的とする。 具体的には、日本語での身近な事象を文章表現（作文）すること、そしてそれを口頭表現する演習を中心に構成する。 目的に合う文章を日本語で作成するための知識・技術を学ぶとともに、文章表現と口頭表現との違いについて学ぶことを通じて、日本語での身近な文章を作成する力、そして口頭で人に伝える力を身につけることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅢ（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、講義と演習を併用した形式で行い、大学の講義やテレビのニュース・ドキュメンタリー番組などを聞き取ることができる聴解力の他、口頭力・読解力・文章表現力など総合的な日本語運用力を身につけることを目的とする。 具体的には、幅広い分野における発話のある教材を聞き、聞き取った内容を要約すること、意見・感想を加えて発信（口頭・文章で）することを中心に構成する。 本科目を通じて、日本語による話を聞いて理解する力、自律的に学習を進めていく力、クラスメートと協働する力、自律的に学習に取り組んでいく力を身につける。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅣ（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、講義と演習を併用した形式にて、読解力にフォーカスを当てて、大学の授業で必要なアカデミックな語彙・文法をおさえながら総合的な日本語の運用力を身につけることを目指す。 具体的には、日本語の書き言葉の文体と表現の理解からはじめ複文、名詞節、語・節の名詞化、そして大学生活で重要なレポート・論文での語彙の使い分けなどを取り扱う。 本科目を通じて、レポートや論文に必要な語彙や文法を理解し、読解した内容の要約や、それをわかりやすく発表することができるようになることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅠ（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。「日本語AⅠ（2）」に引き続き、講義・演習を併用した形式にて、日本語読解を中心に学ぶ。日本語の語彙や日本語表現を身につけることにより、大学の教科書や専門書が読めるようになることを目的とする。 具体的には、日本文学の一部分における文章を読解し、理解した内容について自分で分析・考察することや、その内容にクラスメートとディスカッションを行う。 本科目を通じて、日本文学のあらすじを理解することに加えて、背景となる文化的な知識を得ると同時に、登場人物の心情や言動の意味を誤解なく理解し、他人に話の筋を説明したり、感想を伝えることができるようになることも目指す。	講義15時間 演習15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅡ（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は「日本語AⅡ（１）」に引き続き、講義と演習を併用した形式にて、日本語で意見を伝えるために必要な知識・技術を習得することを目的とする。 具体的には、日本語での身近な事象を文章表現（作文）すること、そしてそれを口頭表現（プレゼンテーション）することを中心に構成する。 目的に合う文章を日本語で作成するための知識・技術を学ぶとともに、文章表現と口頭表現との違いについて、講義と演習を交えて学ぶことを通じて、大学の授業で必要な表現の基礎力、及びプレゼンテーションにて人に伝える力を身につけることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅢ（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、講義と演習を併用した形式にて、日本語の聴解力を身につけるほか、自ら聴解力育成のためのプランを作成し、その実行・修正・内省を通じて自己調整学習力も身につける。 前半では、自ら聴解力を身につけるための課題設定、現状の自己分析、学習計画の作成および実行を行う。また、テレビドラマの視聴及びグループ討論・意見交換を通じて、日本語の聴解力の現状を確認する。後半では、ペアワークを中心に行い、資料収集や発表スライドの準備等を行う。本科目を通じて、自律的に学習を管理できるようになるために、学習の意識化を行う力、課題・目標を設定し、学習リソース及びその使い方を確定する学習計画を立てる力を身につけることを到達目標とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅣ（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語AⅣ（1）」に引き続き、講義と演習を併用した形式にて、大学の授業で必要なアカデミックな語彙・文法をおさえながら、総合的な日本語の運用力を身につけることを目指す。 具体的には、日本語の助詞相当語、指示詞、接続詞・接続表現の使い分けや、「のだ文」について、それぞれ実践練習も交えながら学ぶことを通じて、日本語の運用能力を身につける。 本科目を通じて、レポートや論文に必要な語彙や文法を理解し、読解した内容の要約や、それをわかりやすく発表することができるようになることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅠ（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は講義と演習を併用した形式にて、担当教員の専門分野または留学生の関心事をテーマに据え、日本語を主体的・自律的に学ぶ力を身につける。 具体的には、文学作品や説明的文章の読解をするとともに、文章の内容に関する議論やプレゼンテーションを行う。本科目で取り扱う作品・文章のテーマを読み進める過程で、読解力や論理的思考を養うと共に、文化や社会にかかる諸問題を学問的に自ら探究し、一定の答えを自ら見い出す力を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅡ（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、講義と演習を併用した形式で行い、大学において求められる日本語による文章表現（作文・レポート）の力を身につけることを目的とする。 具体的には、語彙や表現を増やしながら文法力を身につけ、レポートの構成やルールを学ぶ。また、最終的には自分の関心があることについてテーマを設定し、実際にレポートを執筆する。そのプロセスとして、情報検索の方法、参考文献の引用の仕方を学ぶ。最終的に、レポートの執筆内容について、聞き手に理解してもらえるように工夫して発表する。 本科目を通じて、語彙や表現を増やしながら文法力を身につけること、正しい構成で比較的短いレポートを執筆できるようになることを目指す。	講義15時間 演習15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅢ（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語AⅢ（2）」に引き続き、講義と演習を併用した形式にて、日本語の聴解力を身につけるほか、自ら聴解力育成のためのプランを作成し、その実行・修正・内省を通し自己調整学習力も身につける。 前半では、聴解力向上に向けた個人プロジェクトを中心に行い、自律課題の立案、プランの発表・共有、実施・記録・内省等について、発表による共有も交えながら行う。後半ではディスカッションや個人プロジェクトの内省・プランの修正などを行う。また、映像視聴およびその概要および細部の理解を目標とする回を設け、聴解力の向上もねらう。 本科目を通じて、学習の意識化をさらに高めること、上達したい日本語能力の学習計画を立てられるようになること、計画に従った実行・自己内省を通して、自分に合った調整方法を編み出すことができるようになることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅣ（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、講義と演習を併用した形式にて、大学の授業で必要な読み、書き、調査発表能力の向上を目的とする。 具体的には、教員が準備したテキストについて、その内容を読解するとともに、文中で使用される語彙・文法や本文について学ぶ。さらに、自身で関連する調査課題を設定し、調査結果の発表を行う。これらのサイクルを２つのテーマで行うことを通じて、語彙や文法等の日本語の基礎的な能力の向上と共に、総合的な日本語読解力を身につける。 本科目を通じて、語彙や文法能力を向上させ、まとまりのある文章を読めるようになること、そして自ら設定した調査課題について調査を実行し、聞き手に伝わる発表をすることを到達目標とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅠ（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は講義と演習を併用した形式にて、「日本語AⅠ(3)」に引き続き、担当教員の専門分野または留学生の関心事をテーマに据え、日本語を主体的・自律的に学ぶ力を身につける。 具体的には、説明的文章や論説的文章の読解をするとともに、文章の内容に関する議論やプレゼンテーションを行う。本科目で取り扱う作品・文章のテーマを読み進める過程で、読解力や論理的思考を養うと共に、文化や社会にかかる諸問題を学問的に自ら探究すること、自ら一定の答えを見い出す力を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅡ（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語AⅡ（3）」に引き続き、講義と演習を併用した形式にて、大学において求められる日本語による文章表現（作文・レポート）の力を身につけることを目的とする。 具体的には、語彙や表現を増やしながら文法力を身につけ、レポートの構成やルールを学ぶ。また、最終的には自分の関心があることについてテーマを設定し、実際にレポートを執筆する。そのプロセスとして、情報検索の方法、参考文献の引用の仕方を学ぶ。最終的に、レポートの執筆内容について、聞き手に理解してもらえるように工夫して発表する。 本科目を通じて、「日本語AⅡ（3）」で学んだことを発展させ、自分でテーマを設定し、問い・答え・論証が揃ったレポートを、正しい構成でルールに則って自律的に執筆できる力を身につけることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅢ（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、講義と演習を併用した形式にて、大学の講義やテレビのニュース・ドキュメンタリー番組などを正確に細部まで聞きとる力を身につけることを目的とする。 前半では日本語AⅢ（3）に引き続き個別プロジェクトのによる聴解力向上にむけた計画の検討をしつつ、映像の視聴およびその理解・説明の練習を重ねることで、聴解力の向上を目指す。後半では個別プロジェクトの他、学期末発表としてペアワークを行い、聴解力育成のための自律学習プランを前期の内省を生かし改善し、その実行・修正・内省を通し自己調整学習力も前期よりさらに向上させる。 本科目を通じて、上達したい日本語能力や解決したいことに関して計画を立てることのほか、自らの動機づけについても観察し、自己調整を行い、モチベーションが高い状態を保つ自分なりのコツを見つけることを目指す。	講義15時間 演習15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Aコース	日本語AⅣ（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語AⅣ(3)」に引き続き、講義と演習を併用した形式にて、大学の授業で必要な読み、書き、調査発表能力の向上を目的とする。 具体的には、教員が準備したテキストについて、その内容を読解するとともに、文中で使用される語彙・文法や本文について学ぶ。さらに、自身で関連する調査課題を設定し、調査結果の発表を行う。これらのサイクルを２つのテーマで行うことを通じて、語彙や文法等の日本語の基礎的な能力の向上と共に、総合的な日本語読解力を身につける。 本科目を通じて、語彙や文法能力の更なる向上と、まとまりのある文章を正しく読めるようになること、そして自ら設定した調査課題について調査を実行し、聞き手により伝わる発表をすることを到達目標とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅠ（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心として四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。具体的には、講義・演習を併用し、個人あるいはグループごとに関心を持つテーマ（ニュースや社会問題等）について問いを立て、インタビュー等を通じた調査を行うなど様々な情報収集を行い、個人で発表あるいはグループで話し合う活動を中心に行う。本科目による実践的な活動を通じて、日本語能力を向上させると共に、社会的なテーマを探求し、成果を発表することを通じて自分なりの見解を深め、課題発見解決能力、社会に参加する力を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅡ（1）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視するが、「書く」技能のみならず、情報を自分の言葉でわかりやすく伝えるための「話す」技能等、四技能をそれぞれバランスよく身につける。具体的には、日本語文法やよく使われる表現・指示語・接続詞等を講義形式で学びつつ、要約文や説明文、意見文等を実際に書き、それをグループワークやディスカッションを通じて専門科目を日本語で学習できるアカデミックな日本語能力や、主体的に学びを進める力等を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅠ（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心として四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。本科目では、「日本語BⅠ（1）」に引き続き、日本語を通して自らが関心を持つテーマについて、問いを立て、自ら調査し、個人で発表あるいはグループで話し合う活動を中心に行う。具体的には、講義・演習を併用し、グループ毎に関心のあるニュースや社会問題に関するテーマを定め、グループでの話し合いやインタビュー調査など日本語を用いて情報を集め、整理し、グループ発表、ディスカッション、そして個人によるポスター発表等を行う。本科目を通じて、日本語能力の向上と共に、自己・他者との対話を通して社会的なテーマを探求し、成果の発表を通じて自分なりの見解を深めることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅡ（2）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語BⅡ（1）」に引き続き「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視するが、「書く」技能のみならず、情報を自分の言葉でわかりやすく伝えるための「話す」技能等、四技能をそれぞれバランスよく身につける。具体的には、文章の序論・本論・結論の型の表現や分析・説明でよく使われる表現等を講義形式で学びつつ、新聞記事の要約・引用の実践、自分の意見の発表とグループワークやディスカッションを通じて説明・意見し合う等の活動を通じて、専門科目を日本語で学習できるアカデミックな日本語能力や主体的に学びを進め、深めていく力、伝えたい事柄を相手と共有することができる力を身につけることを目指す。	講義15時間 演習15時間

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅠ（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心にして四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。本科目では、「意見を述べる」「ストーリーを述べる」「興味を引く話し方」の手法を講義形式で学びながら、自らが関心を持つテーマについて自ら探究し、その結果を発表する機会や、意見を述べる表現を利用したグループワーク等を中心に行う演習の機会を多く設定する。授業を通じて、日本語能力の向上と共に、課題発見解決能力の向上、さらには成果の発表を通じて自分なりの見解を深めることを目指す。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅡ（3）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視する。具体的には、本の講読・ディスカッションを繰り返し行い、地域や話し手、文化や状況等に応じた日本語の変化を学ぶ。さらには読解や言語表現について講義形式による学習を通じてアカデミック・ライティングのポイントを理解することを目的とする。同時に、社会的事象から課題を発見し、レジュメの作成やディスカッションができるようになること、社会的な問題に関して自らの意見を述べる主張文や大学の授業で課されるレポート・論文等を書けるようになることを目標とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅠ（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「聞く」「話す」技能を中心にして四技能をバランスよく伸長することを重視した科目である。「日本語BⅠ（3）」に引き続き、日本語を通して自らが関心を持つテーマについて、問いを立て、話し合う活動を通じて、他者と日本語で対話を行うための技法も学ぶ。具体的には、日本における就職活動の枠組みをテーマとして、企業・業界の分析およびその説明、自己アピール、面接、複数種類のディスカッション等について演習を中心に行いながら、それぞれの場面に応じた適切な日本語表現についても講義形式で学ぶ。これらを通じて、日本語能力の向上と共に、自分自身やグループとしての考えを深め、適切に表現できるようになることを目的とする。	講義15時間 演習15時間
特別科目	各学部共通・日本語科目等	Bコース	日本語BⅡ（4）		本科目は外国人留学生を対象とする。本科目は、「日本語BⅡ（3）」に引き続き、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能のうち、特に「書く」技能を重視する。具体的には、講義および演習形式にて短文や中文、長文の読解をそれぞれ行い、担当教員や他の学生によるフィードバック、グループによる話し合いを通じて言語表現やアカデミックライティングのポイントについて理解を深める。同時に、社会的な問題に関して自らの意見を述べる主張文、そして大学の授業で課されるレポート・論文がの作成能力の向上を目標とする。また、パワーポイントを用いた発表・ディスカッションを通じて、伝えたい内容を要点を押さえながら口頭で表現できるようになることも目標とする。	講義15時間 演習15時間
健康・スポーツ科目			健康・スポーツ科学論		本科目では、講義形式にて、スポーツなどの身体活動は、人生を豊かにする重要な文化の1つであるとともに、少子高齢化社会で問題とされる健康の維持・増進にかかわる重要なファクターであることを学ぶ。具体的には、スポーツを中心とした身体活動の重要性等を健康・文化の面から解説し、単に運動の場面に限らず、様々な活動に活用できるような科学的知識等を取り扱う。本科目における学習を通じて、理論的側面から、スポーツを中心とした身体活動の重要性を理解することによって、運動への意識を高め、生涯にわたって運動・スポーツに積極的に関わる資質や能力を高めるとともに、健康の保持や増進につながる知識を学び、自己管理・健康管理能力を向上することを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ実習Ｉａ		本科目では、実習形式にて、「健康・スポーツ実習Ｉｂ」へ発展的に続く基礎を養うべく、身体運動を通しての健康維持・リフレッシュ、スポーツの文化的側面の理解などのために、競技を通して生涯スポーツの基礎を習得し、ルールを守ることや安全への配慮など、スポーツに対する正しい態度・行動を身につけ、多くの人々と楽しさや達成感を共有することで社会性を学ぶ。具体的には、種目の基礎技術を習得し、特性をつかみ、グループでの練習やゲームを通して基礎技術向上を図る。準備運動には、ウォーミングアップのみならず、コーディネーショントレーニングなどの基礎運動スキルの向上を目指した運動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、履修者同士の活発なコミュニケーションや個々が課題・目標を持って積極的に練習するマインドを養うことを到達目標とする。	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ実習Ｉｂ		本科目では、実習形式にて、「健康・スポーツ実習Ｉａ」で培った基礎の上により発展的な内容を展開し、身体運動を通しての健康維持・リフレッシュ、スポーツの文化的側面の理解などのために、競技を通して生涯スポーツの基礎を習得し、ルールを守ることや安全への配慮など、スポーツに対する正しい態度・行動を身につけ、多くの人々と楽しさや達成感を共有することで社会性を学ぶ。具体的には、種目の基礎的運動スキルの向上を目指し、様々な観点から運動を考える。準備運動には、ウォーミングアップのみならず、コーディネーショントレーニングなどの基礎運動スキルの向上を目指した運動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、履修者同士の活発なコミュニケーションや個々が課題・目標を持って積極的に練習するマインドを養うことを到達目標とする。	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ実習Ⅱａ		本科目では、実習形式にて、生涯にわたりスポーツに親しむことのできる基礎的な体力・技術を習得し、自らの能力を余すことなく発揮すると共に、周囲と協力しながら安全に配慮し、スポーツを実施する技能や知識を習得する術を学ぶ。具体的には、ペア・少人数グループなどを組み、多様な経験や考えを持つ仲間と協力しながら、練習方法や試合方法を工夫し、自分たちで活動を楽しむことのできる授業運営等を取り扱う。本科目における学習を通じて、種目に関する知識と技術を学び、自ら進んでスポーツに親しめること、運動を行う時、怪我や事故を起こさないために必要な身体や用具に関する準備と後始末について、正しい知識を学び実践できるようになること、種目に対する経験や技能の差がある中で、誰もがその活動を楽しむことが出来る様にルールや基本技能を習得し、練習や模擬試合を通して自分のみならず周囲の競技能力向上を図れることを到達目標とする。	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ実習Ⅱｂ		本科目では、実習形式にて、種目のルールを理解し、ゲームを楽しむための方法を学ぶ。これらにともなって、体力の亢進をはかり、コミュニケーションスキルやマナーを学ぶ。具体的には、種目を楽しめるよう、″Play and Stay″の学習スタイルを用いながら、レベル別にゲームを中心に授業展開すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、個々人のレベルにかかわらず、クラス全体として楽しめるゲームマネジメントを構築できるようになることを到達目標とする。	
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ実習Ⅲａ		本科目では、実習形式にて、前期及び夏季集中授業にて、種目に対する知的理解度を深めながら技能の向上を図る術を学ぶ。具体的には、教養スポーツあるいは健康スポーツとしての側面から展開する。授業の形態として、学内授業では、種目の基礎的な技能や理論の学習を中心とし、集中授業においては、民間の練習場等での授業を通して、種目全般の基礎技能の向上と実践的かつ応用的な技術と理論の学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、種目の基礎的技術を習得すること、基礎的なルール・マナーを習得すること、スポーツ環境を作り出す能力、健康や体力を維持・増進できる能力、スポーツの文化性を理解できる能力などを習得しながら、総合的に生涯スポーツ実践のための基礎能力を身につけることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
健康・スポーツ科目			健康・スポーツ実習Ⅲｂ		本科目では、実習形式にて、後期及び冬季集中授業にて、種目に関する基礎技術、プレーに不可欠なマナーやルールについてを学ぶ。具体的には、学内授業では陸上での運動を通して、種目に必要とされるバランス感覚や、ストレッチングなどで柔軟性を養うことで、実習に向けての準備を行い、講義や実習を通して技術理論、用具の扱い方、天候や自然に関する知識を学ぶ。実習では、基礎的技術を習得することを第一のテーマとし、安全管理に関わる、ルール・マナー、自然環境への理解等を取り扱う。本科目における学習を通じて、安全なプレー技術を習得すること、安全行動の実践ができるようになること、種目を取り巻く自然環境への理解・配慮を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	人文科学	哲学概論		本科目では、講義形式にて、哲学が、われわれが自明視している知識の前提そのものを問い直す営みであることと、その哲学的な問いがどのようなものかを学ぶ。具体的には、哲学者たちの文章の抜粋を読み、彼らがどのような問題を自らの課題としてきたかを確認する。哲学におけるいくつかの主要な問題を取りあげ、それが簡単には解きがたい問題である由来を明らかにすること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、哲学の問いが、他の学問・科学での問いに対してどのような独自性を持っているかを説明できるようになること、主要な哲学者が自らの哲学的課題として立てた問題がどのようなものであるかを説明できるようになること、われわれが何かを「知っている」というときに暗黙のうちに仮定していることを明確にし、その根拠を問いただそうとする態度を身につけることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	人文科学	日本史概論		本科目では、講義形式にて、日本史の学習を通して、歴史を同時代の価値観で理解する内在的理解と歴史を踏まえた現代に対する洞察力を学ぶ。具体的には、各時代におけるキーワードを掲げて、古代から現代に至るまでの日本史を概括し、日本が歩んできた歴史とは何かを考える。内容は最新の研究成果を踏まえたものとなり、日々更新されていく歴史像等を取り扱う。本科目における学習を通じて、古代から現代に至る日本史の諸問題について内在的理解に基づき説明することができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	人文科学	アジア史概論		本科目では、講義形式にて、東アジアの近現代史を中国と日本、アメリカ、ロシアといった多様な国々、地域の連関から理解し、近現代中国のあゆみとその歴史的特徴、日中関係の複雑性を学ぶ。具体的には、東アジア国際関係史。中国を中心とした東アジアの近現代史を国際関係に重点をおいて講義する。伝統的中華世界の繁栄と衰退、西洋列強と日本の進出、ロシア革命の影響など1920年代までの対外関係を論じた後、満州事変から第２次世界大戦終結に至る東アジア国際関係の展開を中国外交を主軸としてより詳しく講義する。中国と日本のほか、アメリカ、ソ連、英独仏など諸列強の対応、国際機構及び国際世論の動向等を取り扱う。本科目における学習を通じて、東アジアの近現代史についての基本的な理解を得て、現代の中国や近代日本の対外関係について、歴史的文脈を踏まえた柔軟で深みのある見方ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	人文科学	欧米史概論		本科目では、講義形式にて、古代から現代に至る欧米の歴史を通じて、経済・社会・文化の相互関係を理解し、とくに経済の規範や構造が時代によっていかに変容してきたのかを学ぶ。具体的には、古代地中海世界の交易・奴隷制・富と市民、中世社会における荘園制・都市経済・キリスト教的な経済思想と労働観、そして大航海時代、重商主義、産業革命を経て形成される近代資本主義社会の成立まで、欧米社会における社会・経済の展開を歴史的にたどる。グローバル化などのテーマにも触れ、前近代と近現代の連続性と断絶について、最新の研究成果をふまえて考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、欧米史の概略を理解し、主要な社会的・経済的変化を歴史的に説明できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	基本科目	人文科学	心理学概論		本科目では、講義形式にて、心理学的視点から、人と社会との関係について基礎的知識を学ぶ。具体的には、現代社会に生きる「自分」は何者か、自己とは何か、性格の特徴はあるか、物事に対する考え方や行動の仕組みはどうなっているか。私たちがたどってきた社会的背景がいかに「自分」に影響しているか、実証データから考えていくこと等を取り扱う。本科目における学習を通じて、「自分」に焦点を当て、個人の心理行動プロセスについて理解し、説明できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	人文科学	総合教育科目演習Ⅰ（人文）		本科目では、演習形式にて、大学での勉強や社会生活において重要な論理的思考力を養う術を学ぶ。具体的には、テクニカルな論理学ではなく、日常生活とも関連した論理の基本を学ぶ。他者がどのように根拠から結論を導いているのかを的確に見抜き、評価できるようになり、さらに自ら論理的な議論を構築方法を学ぶ。論理的思考力は日本語運用能力とも密接に関連しており、論理的で明確な文章を書くためのトレーニングも行う。文書作成のための基本ツールとしてWord講習会も実施する。授業では、接続表現を手がかりに議論の筋道を把握し、論理学の基本や推論技術を学ぶ。その後、論理的で明解な議論を展開するため、定型に沿った論説文作成の練習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、議論の論理的筋道を的確に捉え、建設的な批判を行う力を養うことを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	社会科学	政治学概論		本科目では、講義形式にて、現代社会における一市民として、実社会における政治の重要性や政治が関わる領域の現状を理解し、問題点を考察するための批判的視点を学ぶ。具体的には、前半では、現代の自由民主主義という政治原理がいかにして形成されてきたのかを近代市民社会の成立過程、およびいくつかのトピックスから解き明かし、後半では、現代の自由民主主義体制において、政治の関わる諸領域や、政策の問題点を説明し考察すること、特に、政治主体、政治制度、政治意識、政治文化、国際関係などを取りあげた、その現状と問題点等を取り扱う。本科目における学習を通じて、自由民主主義という政治原理がいかにして確立されてきたのか、また、政治学の基礎的な用語を理解し、現代の日本および国際がどのような状況あるのかを理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	社会科学	社会学概論		本科目では、講義形式にて、社会学の基礎的な理論や概念を理解し、現実の社会的課題や社会問題に対して、複眼的かつ柔軟に考察する術を学ぶ。具体的には、日常生活における様々な具体例を通じて、社会学の基礎的な理論や概念、社会学的なものの見方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、社会学的なものの見方や考え方を身につけることで、人間形成のプロセスや社会問題への関心を深め、立場の異なる他者への想像力を養うことを目標とし、講義で習得した社会学的な概念を一時的な「分かったつもり」で終わらせず、学生生活や卒業後の生活の中で実地に応用できるような姿勢を涵養することを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	社会科学	法学概論		本科目では、講義形式にて、法学の全体像をつかみ、基本的な知識を身につけるとともに、自分にとって身近な問題と法律を結びつけて考えることを学ぶ。具体的には、私たちが社会生活を営む上で、さまざまな社会集団に属しており、これらの集団内部や集団間の利害を調整し、社会生活を維持するためのルール（社会規範）の一つが法であることを学ぶ。実際の事案（特に最高裁判所の判決）を取り上げながらの、人権と統治についての学習等を取り扱う。本科目における学習を通じて、法律の全体像をつかみ、基本的な用語と考え方を理解し、社会の仕組みや社会のできごとに関心をもち、憲法と結びつけて考えたり説明することができるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	基本科目	社会科学	社会人類学概論		本科目では、講義形式にて、これまで社会人類学が蓄積してきた異文化に関する基礎理論を学び、人類学的な「ものの見方」を学ぶ。具体的には、社会人類学の方法は異なる社会に身を置き、現地の人々と長期間共に暮らすというフィールドワークを行うところに特徴があり、そして人々の営みをエスノグラフィー（民族誌）に記述し、数やグラフに還元できない具体的な全体像としての社会と人間の関係性をとらえる学問であること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、社会人類学の文献を自ら繙読する上で重要となる基礎用語を正しく理解することを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	社会科学	総合教育科目演習Ⅰ（社会）		本科目では、演習形式にて、現代日本の政治状況が、いかにして成立してきたのかを理解し、現代日本における政治状況の問題が何であるのかを学ぶ。具体的には、現代日本の政治・社会の成立過程を、戦後から現代までの政治過程から読み解き、55年体制といわれる自民党一党支配の特徴、1993年の非自民連立政権とそれに続く自民党連立政権、2001年～2006年にわたる小泉政権、さらに2009年以降の民主党政権下の政治過程を考察し、政党、政治家、官僚、有権者、利益団体、NPOなどの行動とその問題点等を取り扱う。本科目における学習を通じて、問題を解決するために政治は何を為すべきなのかを考える力を養うことを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	自然科学	地球科学概論		本科目では、講義形式にて、地球上で起こる自然現象のしくみを理解し、特に気候変動の原因や影響に関する知識を学ぶ。具体的には、前半は、地球を構成する要素である固体地球（岩石圏）、大気圏、海洋（水圏）、生物圏に関する基礎知識を身につけるための講義を行う。後半は、地球上で起った様々な時間スケールの気候変動および現在進行中の気候変動（地球温暖化）等を取り扱う。本科目における学習を通じて、地球の内部構造・大気・海洋・生物圏に関する基礎知識を養うこと、過去に起こった様々な時間スケールの気候変動とその要因を説明し、現在進行中の気候変動について正しい認識をもてるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	自然科学	生命科学概論		本科目では、講義形式にて、人間を取り巻く生物現象として、チャールズ・ダーウィンとアルフレッド・ウォーレスによって発案された進化論を解説し、現代進化論の基本的な考え方を学ぶ。具体的には、進化論の重要性から始まり、生物を自己複製子として捉え、遺伝暗号やタンパク質合成を学ぶ。チャールズ・ダーウィンによる進化論の成立、適応と自然選択を中心に進化を探る。また、自然選択と遺伝子の概念について、生殖質の不滅性やメンデル遺伝学、モーガンの研究を扱う。オスとメス、有性生殖の維持理由、進化の実例として工業黒化や農業害虫、ダーウィンフィンチを学び、種分化や隔離機構について考察する。進化論が現実をどう説明するか等を取り扱う。本科目における学習を通じて、自己複製子としての生物の特性を理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	自然科学	微分積分Ⅰ		本科目では、講義形式にて、1変数関数の微分に関する基本事項を解説し、主に高校数学Ⅲで扱う微分法を学ぶ。具体的には、関数の極限、積や商の微分法、合成関数の微分法を学び、分数関数、無理関数、指数関数、対数関数についての微分法、ならびに関数のグラフのかきかた等を取り扱う。本科目における学習を通じて、微分の考え方を理解し、導関数を計算できるようになること、ならびに微分を用いて極値を求め、関数のグラフの概形をかけるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	基本科目	自然科学	微分積分Ⅱ		本科目では、講義形式にて、経済学で必要とされる数学のうち、多変数関数の微分、ならびに1変数関数の高次近似などを学ぶ。具体的には、多変数関数の偏微分の定義、ならびに計算方法を中心に扱う。偏微分法の応用として、2変数関数の極値、陰関数、ならびにラグランジュの未定乗数法を扱い、1変数関数の高次近似等を取り扱う。本科目における学習を通じて、多変数関数の偏微分について理解できるようになること、偏微分法を利用して極値問題を解けるようになること、ならびに1変数関数の高次近似を理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	自然科学	線形代数Ⅰ		本科目では、講義形式にて、経済学部における専門教育科目を学ぶために必要となる数学のうち、行列についての基礎的な事項を学ぶ。具体的には、行列の基本的な演算を扱い、さらに行列の基本変形を用いた連立1次方程式の解法ならびにn次正方行列の行列式等を取り扱う。本科目における学習を通じて、行列の演算ができ、正則行列について理解して逆行列を計算できるようになること、行の基本変形を用いて連立1次方程式を解けるようになること、行列の階数や行列式の性質を理解して行列式を計算できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	自然科学	線形代数Ⅱ		本科目では、講義形式にて、経済学部における専門教育科目を学ぶために必要となる数学のうち、ベクトル、行列に関する内容を学ぶ。具体的には、線形独立と線形従属、線形変換の概念とその表現、合成変換や直交変換、さらに正方行列の固有値と固有ベクトル、ならびに行列の対角化等を取り扱う。本科目における学習を通じて、線形独立と線形従属、線形変換、ならびに固有値と固有ベクトルについて理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	自然科学	確率・統計Ⅰ		本科目では、講義形式にて、経済学で必要とされる数学のうち、確率に関連した項目を学ぶ。具体的には、確率について基本的な内容を解説し、高校では別々の教科書で扱われている内容を再構成し、高校数学では扱われていない内容や統計学の基礎となる二項分布・正規分布等を取り扱う。本科目における学習を通じて、条件付き確率と事象の独立や確率変数とその平均・分散・標準偏差について理解し、さらに二項分布・正規分布を理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	基本科目	自然科学	確率・統計Ⅱ		本科目では、講義形式にて、数理統計学の基礎となる確率論を理解し、統計学の初歩を自由に扱えるようになるための術を学ぶ。具体的には、離散分布・連続分布の基本から始め、二項分布・ポアソン分布・正規分布などの代表的な分布を学び、母集団と標本、中心極限定理、推定や検定、回帰分析に至るまでの統計的手法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、様々な確率分布についてそれらの特徴を理解できるようになること、ならびに推定・検定などの統計的手法を習得できるようになることを到達目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	基本科目	自然科学	総合教育科目演習Ⅰ（自然）		本科目では、演習形式にて、エネルギー資源とはどの様なものなのか、正しい知識を身につけ、そのうえで人間の経済活動と環境問題との関係に関する考え方を学ぶ。具体的には、現代のエネルギー・環境問題を題材として、基礎知識の習得のための座学、文献・インターネットによる調査、グループによるディスカッション・プレゼンテーション・ディベート・レポート作成等を取り扱う。本科目における学習を通じて、化石燃料・原子力・再生可能エネルギーとはどのようなものかを説明できるようになること、インターネットを用いた情報検索の方法を習得できるようになること、様々な情報をもとに自分の考えをまとめ、論理的に人に伝えることができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目			倫理学		本科目では、講義形式にて、倫理学における主要なトピックや学説を通じて、倫理的な問題を学ぶ。具体的には、倫理学においてどのようなことが論じられているかを学び、道徳が存立する根拠の問題を扱い、それについての様々な見解を紹介、検討し、倫理的規範についての理論として代表的な、カント倫理学（義務論）、功利主義、徳倫理学等を取り扱う。本科目における学習を通じて、倫理的判断の客観性に関する議論において何が論点となっているのか、さらに、義務論、功利主義など主要な規範倫理学の立場の違いや現代の正義論における基本的な論点を説明できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目			日本史		本科目では、講義形式にて、各時代におけるキーワードを掲げて古代から現代に至るまでの日本史を概括し、古代から現代まで日本が歩んできた歴史とは何かをを学ぶ。具体的には、最新の研究成果を踏まえた講義内容として、日々更新されていく歴史像等を取り扱う。本科目における学習を通じて、受講者が、古代から現代に至る日本史の事象や諸問題に関する事項を、内在的理解に基づき説明することができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目			アジア史		本科目では、講義形式にて、中国を中心とした東アジアの近現代史を国際関係を学ぶ。具体的には、伝統的中華世界の繁栄と衰退、西洋列強と日本の進出、ロシア革命の影響など、1920年代までの対外関係を論じた後、満州事変から第２次世界大戦終結に至る東アジア国際関係の展開を中国外交を主軸としてより詳しく講義する。中国と日本のほか、アメリカ、ソ連、英独仏など諸列強の対応、国際機構及び国際世論の動向等を取り扱う。本科目における学習を通じて、東アジアの近現代史についての基本的な理解を得て、現代の中国や近代日本の対外関係について、歴史的文脈を踏まえた柔軟で深みのある見方ができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目			欧米史		本科目では、講義形式にて、過去の歴史を学ぶことから、現在の国際情勢を正確に認識し、分析する術を学ぶ。具体的には、我々人間は何度戦争を経験しても同じ戦争を起こしそうになることを知る。第二次世界大戦の体験者が鬼籍に入ってしまっていることもあるが、問題なのは我々が戦争の「過去」から学んでいるとは言い難いということ、危機に対して鈍感になっているということを学ぶ。本講義では「戦争の記憶」とどう向き合うかという問いから出発し、戦争犯罪人の処罰、旧東西ドイツ、日本の戦争の捉え方、国民の歴史認識、戦後補償問題や追悼の仕方、近隣諸国との関係等を取り扱う。本科目における学習を通じて、時事問題に関心をもち、他国で起きた問題も身近なこととして考えられるようになることを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	心理学		本科目では、講義形式にて、脳、知覚、認知、学習、人格、発達、臨床といった心理学の諸領域における重要な概念・知見をを学ぶ。具体的には、心理学実験のデモンストレーションや映像資料も使用し双方向に行う。知識を伝えるだけでなく、心理学の知識に基づき自ら考える活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、心理学の専門知識に基づきながら様々な問題について自らの考えを述べることができるようになること、心に関する事象・問題について自ら調べ考える態度を持てるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	文学A		本科目では、講義形式にて、詩・小説・戯曲などの文学作品を読み、作品が生まれた時代を背景と照らし合わせつつ、その意義を学ぶ。具体的には、作品の精読を行ないながら、ある言葉がその時代にどのように使われていたのか、作品を歴史的文脈に位置づけるとともに、文学理論や作品批評と受容の変遷等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文学作品を丁寧に読解する能力を養うこと、言葉をある特定の文化および時代特有の産物であるとともに、文学作品が文化・歴史を作っていくものでもあるという観点を持てるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	文学B		本科目では、講義形式にて、文学作品を読みながら、刻一刻と変わる社会と文学の関係についてを学ぶ。具体的には、文学作品の精読を基本としつつ、作家の伝記的事実を作品解釈に持ち込むことの意義や、ジャンルという概念、あるいは特定のジャンルの盛衰といった作品内外の要因との関係性等を取り扱う。本科目における学習を通じて、作品が生み出された歴史的背景を理解し、同時にそれらの作品がどう歴史を捉え、語り、作り上げてきたかを検討し、文学を単なるエンターテインメントではなく、時代特有の産物として捉える視点を養うことを到達目標とする。	
総合教育科目	政治学		本科目では、講義形式にて、現代の政治原理としての自由民主主義の成立過程とその現代的意義、および自由民主主義体制における諸問題を学ぶ。具体的には、前半では、現代の自由民主主義という政治原理がいかにして形成されてきたのかを近代市民社会の成立過程、およびいくつかのトピックスから解き明かす。後半では、現代の自由民主主義体制において政治の関わる諸領域や、政策の問題点等を取り扱う。本科目における学習を通じて、自由主義・民主主義という原理ならびに、主要国の政治制度の基本を説明ができ、他の主要国と比べて日本の政治の特徴を把握できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	社会学		本科目では、講義形式にて、社会学の基礎的な理論や概念を理解した上で、現実の社会的課題や社会問題に対し、複眼的かつ柔軟に考察する思考力を養う術を学ぶ。具体的には、人間の形づくる社会生活や集団を対象とし、社会的存在としての私たち自身の行動と「社会」との関係について明らかにするため、日常生活における様々な具体例を通じて、社会学の基礎的な理論や概念、社会学的なものの見方等を取り扱う。本科目における学習を通じて、社会学的なものの見方や考え方を身につけることで，人間形成のプロセスや社会問題への関心を深め，立場の異なる他者への想像力を養うことが到達目標である．講義で習得した社会学的な概念を一時的な「分かったつもり」で終わらせず，学生生活や卒業後の生活の中で実地に応用できるような態度を涵養することを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	法学		本科目では、講義形式にて、さまざまな社会集団内部や集団間の利害を調整し、社会生活を維持するためのルール（社会規範）の一つが法であることを学ぶ。具体的には、憲法もまた社会規範の一つで、とりわけ近代市民革命以降は、個人の尊厳を核心的価値として、その実現のために、人権保障と統治機構を規定していることを学び、実際の事案（特に最高裁判所の判決）を取り上げながら、人権と統治等を取り扱う。本科目における学習を通じて、憲法の全体像をつかみ、基本的な用語と考え方を理解できるようになること、さらに、社会の仕組みや社会のできごとに関心をもち、憲法と結びつけて考えたり説明したりすることができるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	社会人類学		本科目では、講義形式にて、人間の形づくる社会生活や集団を対象とし、社会的存在としての私たち自身の行動と「社会」との関係について明らかにするため、日常生活における様々な具体例を通じて、社会学の基礎的な理論や概念、社会学的なものの見方についてを学ぶ。具体的には、社会人類学の方法は異なる社会に身を置き、現地の人々と長期間共に暮らすというフィールドワークを行うところに特徴があることを学び、人々の営みをエスノグラフィー（民族誌）に記述し、数やグラフに還元できない具体的な全体像としての社会と人間の関係を考察する手段等を取り扱う。本科目における学習を通じて、社会人類学の文献を自ら繙読する上で重要となる基礎用語を正しく理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	人権論		本科目では、講義形式にて、現代の人権概念の成立過程および基本理念を学ぶ。具体的には、人権とは何かを序論で紹介し、人権思想の成立過程を探る。生きる権利、身分制社会の変革、イギリス革命やアメリカ・フランス革命における「人権宣言」を学ぶ。続いて、植民地や女性、帝国主義に対する人権宣言の裏切りについて考察する。植民地支配や女性の地位、労働組合や離婚権を巡る議論を取り上げ、帝国主義と人権の矛盾を検討する。さらに、自由権から社会権、人民の自決権、女性・子どもの人権の発展を学び、最終回で人権思想の展開等を取り扱う。本科目における学習を通じて、人権を自分自身に関わる重要な権利として認識し、考えられるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	地球科学		本科目では、講義形式にて、地球の表面や内部で起こる様々な自然現象を理解するために、地球がどのような要素で構成され、それらがどのような相互作用をして、現在の地球の姿が成り立っているのかという、地球や自然現象に関する基礎知識を学ぶ。具体的には、固体である地球は、内部に地殻・マントル・核という層状の構造を持ち、地球の表面は大気や海洋に覆われているが、これらの地球の要素の状況について、基礎的な講義を行い、そして、プレートテクトニクス、火山活動、地震現象、気象現象など地球上で起きている様々な変動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、各個人が地球と自然現象について理解を深め、地球や自然環境に関心を持ち、その保全に関する意識が向上することを到達目標とする。	
総合教育科目	生命科学		本科目では、講義形式にて、19世紀に進化論が成立したことに始まり、遺伝子という概念の歴史的変遷；生殖質独立説、メンデル遺伝学、モーガン等の染色体理論、ワトソンとクリックによる「２重らせん」の発見の意義を学ぶ。具体的には、チャールズ・ダーウィンとアルフレッド・ウォーレスによって発案された進化論を解説し、現代進化論の基本的な考え方、生物を自己複製子として捉えるという考え方や、オスとメス、有性生殖が維持される理由、進化の実例として工業黒化、擬態の問題、種分化、隔離機構等を取り扱う。本科目における学習を通じて、進化が現実をどう説明するのかを考察し、自己複製子としての生物の特性を理解できるようになることを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	物理科学		本科目では、講義形式にて、比較的身近な現象にも科学的な説明が難しい不思議なものが多く潜んでおり、そのような現象に対する素朴な疑問の重要性と、その疑問に答える物理学的なものの見方を学ぶ。具体的には、身近な力学現象に対する素朴な疑問を取り上げ、それらに対して物理学がどのように答えるのかを解説し、真の科学と擬似科学との違いや、フラクタルと呼ばれる比較的新しい概念等を取り扱う。本科目における学習を通じて、真の科学とは何かを知り、なにげない身近な力学現象が、力学によってどのように科学的に説明されるのか、また、フラクタル等の比較的新しい概念を理解し、科学そのものや簡単な力学現象を、少なくとも定性的に自分で説明できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	地球環境論		本科目では、講義形式にて、より大きな時間・空間スケールで環境問題を総合的にとらえるための基礎を学ぶ。具体的には、気候と気象の基本から始まり、気候変動に関するさまざまな側面を学ぶ。気候変動の歴史として地球史や人類史を振り返り、気候システムについてエネルギー、水、炭素、窒素、相互作用とフィードバックを探る。気候変動の要因として自然要因、土地被覆変化、温室効果ガスを取り上げ、気候変動の検出法として気象観測、同位体、氷床コア、年輪、花粉、気候変動の実態等を取り扱う。本科目における学習を通じて、地球史から人類史のスケールで気候変動の概要および気候変動の仕組みと要因を理解し、気候変動の検出方法と実態を説明できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	地誌学		本科目では、講義形式にて、系統地理学と地誌学はどう違うのか、「世界遺産」を中心に地理的事象をとりあげながら具体的に検討する術を学ぶ。具体的には、2022年度からスタートした高等学校の新課程では「地理総合」が必履修科目となり、地理学習に注目が集まっている現状をふまえつつ、地理の面白さとは何か等を取り扱う。本科目における学習を通じて、地理学のひとつの柱である地誌学に関する基本的な知識を得るとともに、世界や日本の地域の諸相をどうとらえるか、自分なりの方法をつかむことを到達目標とする。	
総合教育科目	国際教養A		本科目では、講義形式にて、「教養」とはなにか、なぜ必要か、について考え、さらにヨーロッパにおける教養という観点を学ぶ。具体的には、教養とはなにかを考えることで、教養の必要性を自分なりに導き、そのうえで国際的にはどのような内容が一般教養とされているのかを具体的に知ることで、より多角的な視点等を取り扱う。本科目における学習を通じて、一般教養の自身の専門知識をどのように補助しうるのかを自分なりに考え、言葉にし、フランスにおいてどのような内容が教養とされているのかを知り、理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	国際教養B		本科目では、講義形式にて、欧米世界の文化的側面の知識習得を通して、欧米世界の状況をより深く理解し、「現代」を考える上でのさまざまな視点を学ぶ。具体的には、近代化する社会と文学の関連を主題に、19世紀、科学技術の発展を基盤にして繁栄し、現代世界のルーツというべきイギリスの隆盛と斜陽の過程を、科学技術の発展、心の問題、排外主義などをキーワードに、当時の歴史的・社会的状況と関連させた文学作品等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文学作品はそれが書かれた当時の社会状況の産物であるのみならず、その時代の科学、思想、歴史が複雑に絡み合ったものであり、現代の世界を考える上での重要な視座を提供するものであることを理解できるようになること、19世紀後半の近代化の理念が現代のルーツになっていることを理解できるようになることを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	国際教養C		本科目では、講義形式にて、中国文化を学ぶことを通じて、東アジアの状況をより深く理解し、現代を考える上でのさまざまな視点を学ぶ。具体的には、近代化・西洋化する社会と文学との関連をテーマとして当時の文学作品を読み解いたり、日本文学との関連等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文学作品は作者一人の作品であると同時に、それが書かれた当時の社会状況と密接な関連を持つものであり、現代の世界を考える上で重要な視座を提供すると理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	国際教養D		本科目では、講義形式にて、歴史的・文化的背景など多角的な観点から欧米の文学・藝術を学ぶ。具体的には、作中にその全体と同一内容のテクストが現れる「紋中紋手法」にも言及しつつ、古典から現代の小説まで、枠構造を持った内外の様々な文学作品等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文学作品は単独で成立している訳ではなく、作品やジャンル同士の間、あるいは、作品を取り巻く思想や社会などとの間には複雑な関係が存在し、ここでは、「枠物語」という共通の、しかし様々なヴァリアントが存在する構造による諸作品を分析・比較することによって、社会と文化の様相を総合的に考察する力を習得することを到達目標とする。	
総合教育科目	国際教養E		本科目では、講義形式にて、欧米世界の文化的側面の知識習得を通して、欧米世界の状況をより深く理解し、「現代」を考える上でのさまざまな視点を学ぶ。具体的には、近代化する社会と文学の関連を主題に、20世紀前半、急激に繁栄したアメリカと、次第に衰えていくイギリスにおいて、科学技術へのアンビヴァレントな思想とともに、理想社会の理念がどのように扱われたかを、当時の歴史的・社会的状況と関連させた文学作品等を取り扱う。本科目における学習を通じて、文学作品はそれが書かれた当時の社会状況の産物であるのみならず、その時代の科学、思想、歴史が複雑に絡み合ったものであり、現代の世界を考える上での重要な視座を提供するものであることを理解することをめざし、加えて、20世紀前半に明らかになる近代化の矛盾の多くが現代においても未解決であることを理解できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	言語と文化A		本科目では、講義形式にて、比較神話学の斬新な発想と、「インド＝ヨーロッパ神話」と「ユーラシア神話」の観点から「英雄（ヒーロー）」の神話的諸相を学ぶ。具体的には、ユーラシア大陸の両端に位置する日本とヨーロッパには、よく似た神話伝承が見つかること、そのルーツをインド＝ヨーロッパ語族の時代以前のユーラシア大陸に求めようとするのが「ユーラシア神話」であることを学び、「インド＝ヨーロッパ神話」と「ユーラシア神話」の観点から「英雄（ヒーロー）」の神話的諸相等を取り扱う。本科目における学習を通じて、「英雄」の懐胎・誕生から、「英雄」のたどる通過儀礼と一連の試練、「英雄」の死と死後の行方にいたるまでの9段階を、さまざまな実例とともに分析することを到達目標とする。	
総合教育科目	言語と文化B		本科目では、講義形式にて、英語の発音上達のため、英語音声学、特にアメリカの標準的な発音を学ぶ。具体的には、アメリカの標準的な発音に加え、様々な英語の受容能力を高めるため、アメリカ発音における変異やイギリスなどほかの英語変種の発音等を取り扱う。本科目における学習を通じて、辞書などの音声表記を正しく使用し、与えられた英語音声から、用いられているアクセントとイントネーションを記述することができるようになること、ならびに、自身の発音をわずかでも上達させることを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	言語と文化C		本科目では、講義形式にて、東アジア文化・文明の基礎である漢字の理解を通じて、東アジア漢字文化圏に対する学際的な興味関心を養い、他者の価値観を尊重する力を学ぶ。具体的には、漢字の構造、字体の成立、分類、変遷および漢字の伝播と展開、漢字の刺激を受けて中国周辺で生み出された各種文字、そして現代での漢字の使用状況といった事項等を取り扱う。本科目における学習を通じて、グローバルな視野と多様性を培い、ひいては現実の経済的な課題探求能力と解決力を導き出すための基礎力を養うことを到達目標とする。	
総合教育科目	言語と文化D		本科目では、講義形式にて、ヴァルター・ベンヤミンの著作を介して、1920年代ドイツの政治・社会・文化について知見を深め、「近代」に孕まれた多様な問題を批判的に考察する方法を学ぶ。具体的には、ヴァルター・ベンヤミンの著作を適宜参照しながらヴァイマール共和国の歴史を概観する、そのうえで、ドイツの文化的最盛期とされるいわゆる「黄金の1920年代」の実相（民主政の動揺、経済危機と社会的分断、ジャーナリズムと政治的プロパガンダ、知識人の没落、ナチズムの台頭、etc）を多角的、複眼的に観察し、現代に引き継がれた「近代」の問題点について考察する活動等を取り扱う。本科目における学習を通じて、ヴァイマール共和国期の経験をサンプルとして、「近代」とはなにかについて、また、「近代」のうちに孕まれ現代に引き継がれた様々な問題について批判的に考察するための視座を獲得できるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	言語と文化E		本科目では、講義形式にて、英語の発音上達のため、英語音声学、特にイギリスの標準的な発音を学ぶ。具体的には、イギリス発音概説や標準的な発音に加え、様々な英語の受容能力を高めるため、教科書的発音から離れる近年の傾向や、イギリス国内の変種、アメリカ・オーストラリアなど他の変種、更に世界諸英語の発音等を取り扱う。本科目における学習を通じて、辞書などの音声表記を正しく使用し、与えられた英語音声から、用いられているアクセントとイントネーションを記述することができるようになること、ならびに、自身の発音をわずかでも上達させ、世界の様々な英語発音を聞くのに慣れることを到達目標とする。	
総合教育科目	総合教育科目演習Ⅱ（人文）		本科目では、演習形式にて、西洋の倫理思想史における古典的著作を読み解く術を学ぶ。具体的には、指定図書を精読し、理解したうえで、自分自身の生き方について力を引き出し、各自が読み取った内容を自分なりの形で表現し、議論すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、議論の筋道を分析し、個々の議論のポイントを的確につかみ、要約することができるようになること、ならびに、「徳」という概念を手がかりとして現代の倫理的問題にアプローチできるようになることを到達目標とする。	
総合教育科目	総合教育科目演習Ⅱ（社会）		本科目では、演習形式にて、社会におけるミクロレベルの個人行動が、いかにしてマクロレベルで社会のメカニズムを構成し、さらには社会変動をもたらすのかを、どのように数学モデルから理解するかを学ぶ。具体的には、経済学、政治学、社会学などで紹介されることの多い人間の行動や社会現象の事例を数学を用いて表現されたモデル等を取り扱う。本科目における学習を通じて、社会科学を学んでいく上で重要な人間同士の関係から成り立つ社会の見る目を涵養すること、ならびに、数理モデルの基礎を理解し、自分の研究対象を自在に数理モデルとして構築し、演繹モデルの含意を理解できるようになることを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	総合教育科目演習Ⅱ（自然）		本科目では、演習形式にて、Microsoft Excelを用いてデータを分析し、現象を読み解く術を学ぶ。具体的には、気候データや経済・エネルギー統計データを題材として、Microsoft Excelを用いたグラフの作成方法、統計的な解析手法等を取り扱う。本科目における学習を通じて、Microsoft Excelを用いて、統計解析やグラフの作成ができるようになること及び、数字の羅列データから実際の現象を読み解き、考察する力を身につけることを到達目標とする。	
教職科目	外国史		本科目では、講義形式にて、世界史を学ぶことで、グローバル化の進む現代世界において、歴史的観点から物事を把握する力を身に付けると共に、異文化に対する理解を深め、多角・多層的、批判的に物事を考える術を学ぶ。具体的には、古代から現代に至る世界の歴史を扱うが、細かい知識の修得を目的とするのではなく、歴史の全体像を俯瞰することで歴史的なものの見方を学び、現代の世界に対する多様な理解をできるようにすること、現在は過去の積み重ねの上にあり、歴史を知ることは現代の世界のなりたちを知る上でも極めて重要であること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、歴史を学ぶことで、長期的で多角的な視野を身につけられること、歴史上の史資料を読み解いていくことで、情報リテラシーを身につけられること、様々な歴史観・世界観を知ることで、批判的な思考をできるようになることを到達目標とする。	
教職科目	人文地理学		本科目では、講義形式にて、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職に就いた場合に必要とされる「地理」の知識や教養を学ぶ。具体的には、人文地理学が人間の諸活動の地域的分布や相互関係、生活様式などを考察していくことを目的としていることを理解したうえで、まず地理学研究において必要となる地図に関する講義を行う。続いて、人文地理学の分野の中から、人口・都市・産業・観光・交通の諸分野について講義すること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員としての「地理」の知識や教養を身に付けることができるようになること、地図を正しく読むことができるようになること、地域のことを正しく理解できるようになることを到達目標とする。	
教職科目	自然地理学		本科目では、講義形式にて、自然環境の主要な要素である地形・気候・植生・水文などについて、自然地理学的な視点から理解を深め、地図や地理学で利用する図表を適切に活用する術を学ぶ。具体的には、基礎となる地図について概説し、世界や日本における地形の成り立ち、地震や火山活動によってもたらされる自然災害について具体例を紹介する。また、地球の熱収支や大気の大循環など気候の成り立ちについて説明し、アジアモンスーンの影響下の日本の気候の特徴や、気象災害をもたらす大気現象や、気候と植生の関係、水循環、地球温暖化等を取り扱う。本科目における学習を通じて、日本及び世界に分布する多様な地形・気候・植生・水などの自然環境について、その特徴や成り立ちを理解し、他者に説明できるようになること、自然災害や地球環境問題を正しく理解し、その発生メカニズムや特徴について、他者に説明できるようになることを到達目標とする。	
教職科目	社会科・地理歴史科教育法1		本科目では、演習形式にて、中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を学ぶ。具体的には、我が国の社会系教科の成立と展開、学習指導要領の変遷、新教育課程における社会科・地理歴史科の学習内容と構造などの検討を通して、社会科・地理歴史科の目的、意義、課題を明らかにすることや、教材研究や教材づくり、学習指導案作成の仕方の演習を通して授業づくりの基礎等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学習指導要領に示された当該教科の目標や学習内容についての理解を深めるとともに、その学習内容の背景にある学問領域との関係を理解し、教材研究や学習指導案の作成に活用できるようになることを到達目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職科目	社会科・地理歴史科教育法2		本科目では、「社会科・地理歴史科教育法1」に引き続き演習形式にて、中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を学ぶ。具体的には、多様な学習指導や情報機器の活用法、授業研究や評価問題の作成の方法や、戦後のすぐれた社会科や地理歴史科の授業実践や教育実習生の授業分析の検討を通して、社会科・地理歴史科の授業づくりのポイントについての理解を深めるとともに、模擬授業を通して社会科の授業実践力の基礎等を取り扱う。本科目における学習を通じて、具体的な授業場面を想定した授業設計の方法を身に付けるとともに、模擬授業を通して社会科・地理歴史科の授業実践力の基礎を身につけることを到達目標とする。	
教職科目	社会科・公民科教育法1		本科目では、演習形式にて、中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を学ぶ。具体的には、我が国の社会系教科の成立と展開、学習指導要領の変遷、新教育課程における社会科・公民科の学習内容と構造などの検討を通して、社会科・公民科の目的、意義、課題を明らかにすることや、教材研究や教材づくり、学習指導案作成の仕方の演習を通して社会科授業づくりの基礎等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学習指導要領に示された当該教科の目標や学習内容についての理解を深めるとともに、その学習内容の背景にある学問領域との関係を理解し、教材研究や学習指導案の作成に活用できるようになることを到達目標とする。	
教職科目	社会科・公民科教育法2		本科目では、「社会科・公民科教育法1」に引き続き演習形式にて、中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を学ぶ。具体的には、多様な学習指導や情報機器の活用法、授業研究や評価問題の作成の方法や、戦後のすぐれた社会科や公民科の教育実践や教育実習生の授業分析の検討を通して、社会科・公民科の授業づくりのポイントについての理解を深めるとともに、模擬授業を通して社会科の授業実践力の基礎等を取り扱う。本科目における学習を通じて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けるとともに、模擬授業を通して社会科・公民科の授業実践力の基礎を養うことを到達目標とする。	
教職科目	職業指導Ⅰ		本科目では、講義形式にて、産業・社会・経済激変の時代の中、職業指導は就職、進学を含め多様化している状況において、生徒の生き方の探究と自己実現の道をサポートできる、豊かな人間性と専門性を身につけた教員となる術を学ぶ。学校における職業選択や職業適性に関する指導に際しては、職業に就こうとする生徒の自己実現に向けて、人間としてのあり方や生き方を探求させるために、高等学校における教育活動全体を通して、計画的・組織的・系統的に指導する必要がある。このような背景の下で、本科目では生徒の主体的な進路選択における課題を明らかにし、学校における進路指導・キャリア教育のあるべき姿等を取り扱う。本科目における学習を通じて、生徒の主体的な進路選択における課題を明らかにし学校教育において進路指導のあるべき姿を考察できるようになることを到達目標とする。	
教職科目	職業指導Ⅱ		本科目では、「職業指導Ⅰ」に引き続き講義形式にて、産業・社会・経済激変の時代の中、職業指導は就職、進学を含め多様化している状況において、生徒の生き方の探究と自己実現の道をサポートできる、豊かな人間性と専門性を身につけた教員となる術を学ぶ。具体的には、生徒の主体的な進路選択能力を高め、望ましい職業観・勤労観が育成されるよう現状の課題を的確に把握し、学校教育における進路指導・キャリア教育のあるべき姿等を取り扱う。本科目における学習を通じて、学校における教育活動全体を通して、計画的・組織的・系統的にキャリア教育に携わることができることを到達目標とする。	

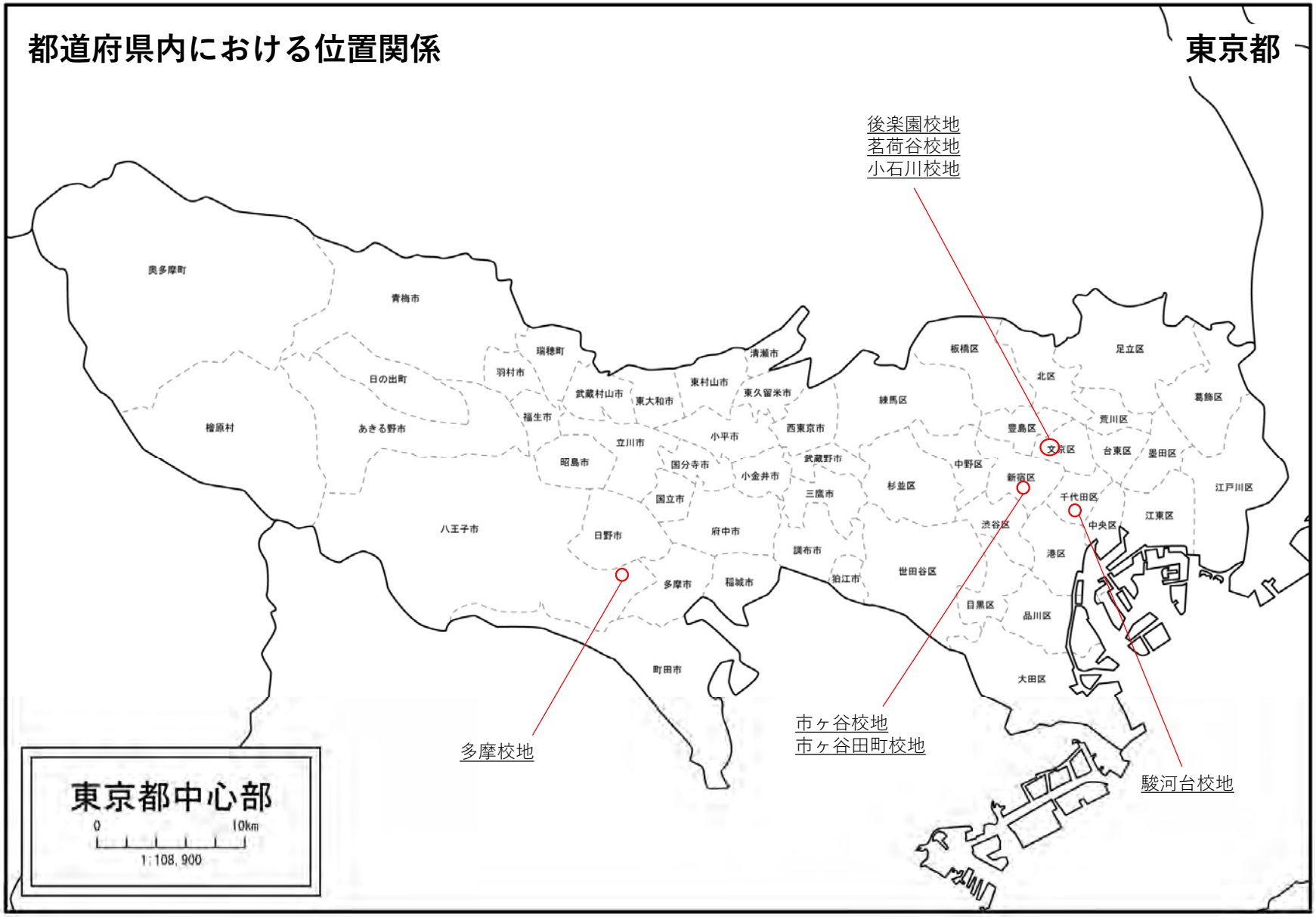
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職科目	商業科教育法1		本科目では、演習形式にて、高等学校商業科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を学ぶ。具体的には、わが国におけるこれまでの商業教育の歴史をたどり、今日の商業教育の目標・内容・指導方法などについて研究と学習を行う。商業教育の歴史を踏まえ、商業教育の意義、必要性を論じ、商業教育の内容を検討し、指導法を実践的に学ぶ。商業科教育の現状とこれからの商業教育の課題について研究し、解決方法をさぐること等を取り扱う。本科目における学習を通じて、商業教育に関する十分な知識、それを指導する能力、教員として望ましい態度を身につけることを到達目標とする。	
教職科目	商業科教育法2		本科目では、「商業科教育法1」に引き続き演習形式にて、高等学校商業科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を学ぶ。具体的には、わが国におけるこれまでの商業教育の歴史をたどりつつ、今日の商業教育の目標・内容・指導方法などについて研究と学習を行い、商業科教育の課題とその解決方法も考察する。また、商業教育の歴史を踏まえ、商業教育の意義、必要性を論じ、商業教育の内容を検討し、指導法を実践的に学ぶ。本科目における学習を通じて、将来、商業科教員として教育実践できることを達成するために、資質の育成と向上を目指し、商業教育に関する十分な知識、指導能力を身につけ、商業科教員としての望ましい態度を会得することを到達目標とする。	

学校法人中央大学　設置認可等に関わる組織の移行表

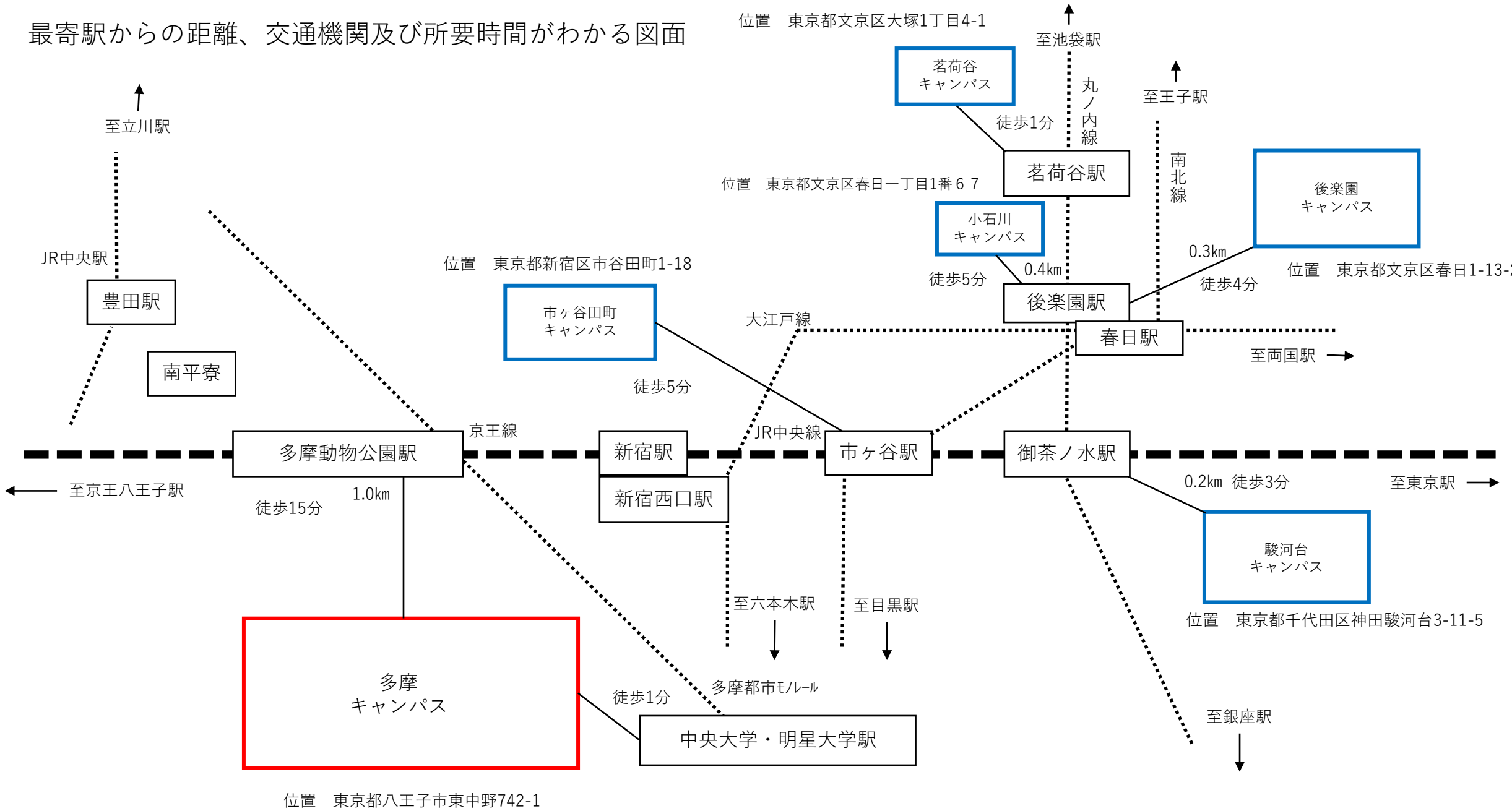
令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
中央大学				中央大学				
法学部				法学部				
法律学科	882	－	3,528	法律学科	882	－	3,528	
政治学科	389	－	1,556	政治学科	389	－	1,556	
国際企業関係法学科	168	－	672	国際企業関係法学科	168	－	672	
経済学部				経済学部				
経済学科	467	－	1,868		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
経済情報システム学科	180	－	720		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
国際経済学科	265	－	1,060		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
公共・環境経済学科	150	－	600		0	－	0	令和9年4月学生募集停止
				経済学科	542	－	2,168	学部の学科の設置（届出）
				社会経済学科	520	－	2,080	学部の学科の設置（届出）
商学部				商学部				
経営学科	300	－	1,200	経営学科	300	－	1,200	
会計学科	300	－	1,200	会計学科	300	－	1,200	
国際マーケティング学科	300	－	1,200	国際マーケティング学科	300	－	1,200	
金融学科	120	－	480	金融学科	120	－	480	
基幹理工学部				基幹理工学部				
数学科	70	－	280	数学科	70	－	280	
物理学科	70	－	280	物理学科	70	－	280	
応用化学科	145	－	580	応用化学科	145	－	580	
生命科学科	75	－	300	生命科学科	75	－	300	
社会理工学部				社会理工学部				
都市環境学科	90	－	360	都市環境学科	90	－	360	
ビジネスデータサイエンス学科	115	－	460	ビジネスデータサイエンス学科	115	－	460	
人間総合理工学科	75	－	300	人間総合理工学科	75	－	300	
先進理工学部				先進理工学部				
精密機械工学科	145	－	580	精密機械工学科	145	－	580	
電気電子情報通信工学科	135	－	540	電気電子情報通信工学科	135	－	540	
情報工学科	100	－	400	情報工学科	100	－	400	
文学部				文学部				
人文社会学科	990	－	3,960	人文社会学科	990	－	3,960	
総合政策学部				総合政策学部				
政策科学科	150	－	600	政策科学科	150	－	600	
国際政策文化学科	150	－	600	国際政策文化学科	150	－	600	
国際経営学部				国際経営学部				
国際経営学科	300	－	1,200	国際経営学科	300	－	1,200	
国際情報学部				国際情報学部				
国際情報学科	150	－	600	国際情報学科	150	－	600	
				スポーツ情報学部				学部の設置（届出）
				スポーツ情報学科	295	－	1,180	
通信教育部	3,000	－	12,000	通信教育部	3,000	－	12,000	
（法学部通信教育課程）				（法学部通信教育課程）				
計	9,281	－	37,124	計	9,576	－	38,304	
中央大学大学院				中央大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
公法専攻（M）	8	－	16	公法専攻（M）	8	－	16	
民事法専攻（M）	20	－	40	民事法専攻（M）	20	－	40	
刑事法専攻（M）	10	－	20	刑事法専攻（M）	10	－	20	
国際企業関係法専攻（M）	20	－	40	国際企業関係法専攻（M）	20	－	40	
政治学専攻（M）	15	－	30	政治学専攻（M）	15	－	30	
公法専攻（D）	3	－	9	公法専攻（D）	3	－	9	
民事法専攻（D）	7	－	21	民事法専攻（D）	7	－	21	
刑事法専攻（D）	5	－	15	刑事法専攻（D）	5	－	15	
国際企業関係法専攻（D）	10	－	30	国際企業関係法専攻（D）	10	－	30	
政治学専攻（D）	3	－	9	政治学専攻（D）	3	－	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻（M）	50	－	100	経済学専攻（M）	50	－	100	
経済学専攻（D）	10	－	30	経済学専攻（D）	10	－	30	
商学研究科				商学研究科				
商学専攻（M）	25	－	50	商学専攻（M）	25	－	50	
商学専攻（D）	5	－	15	商学専攻（D）	5	－	15	
理工学研究科				理工学研究科				
数学専攻（M）	25	－	50	数学専攻（M）	25	－	50	
物理学専攻（M）	25	－	50	物理学専攻（M）	25	－	50	
都市人間環境学専攻（M）	60	－	120	都市人間環境学専攻（M）	60	－	120	
精密工学専攻（M）	52	－	104	精密工学専攻（M）	52	－	104	
電気電子情報通信工学専攻（M）	45	－	90	電気電子情報通信工学専攻（M）	45	－	90	
応用化学専攻（M）	45	－	90	応用化学専攻（M）	45	－	90	
ビジネスデータサイエンス専攻（M）	30	－	60	ビジネスデータサイエンス専攻（M）	30	－	60	
情報工学専攻（M）	40	－	80	情報工学専攻（M）	40	－	80	
生命科学専攻（M）	25	－	50	生命科学専攻（M）	25	－	50	
数学専攻（D）	3	－	9	数学専攻（D）	3	－	9	
物理学専攻（D）	3	－	9	物理学専攻（D）	3	－	9	
都市人間環境学専攻（D）	5	－	15	都市人間環境学専攻（D）	5	－	15	
精密工学専攻（D）	3	－	9	精密工学専攻（D）	3	－	9	
応用化学専攻（D）	3	－	9	応用化学専攻（D）	3	－	9	
ビジネスデータサイエンス専攻（D）	3	－	9	ビジネスデータサイエンス専攻（D）	3	－	9	
生命科学専攻（D）	2	－	6	生命科学専攻（D）	2	－	6	
電気・情報系専攻（D）	7	－	21	電気・情報系専攻（D）	7	－	21	

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科			
国文学専攻(M)	10	－	20
英文学専攻(M)	10	－	20
独文学専攻(M)	5	－	10
仏文学専攻(M)	5	－	10
中国言語文化専攻(M)	5	－	10
日本史学専攻(M)	7	－	14
東洋史学専攻(M)	5	－	10
西洋史学専攻(M)	5	－	10
哲学専攻(M)	5	－	10
社会学専攻(M)	5	－	10
社会情報学専攻(M)	5	－	10
教育学専攻(M)	5	－	10
心理学専攻(M)	8	－	16
国文学専攻(D)	5	－	15
英文学専攻(D)	5	－	15
独文学専攻(D)	3	－	9
仏文学専攻(D)	3	－	9
中国言語文化専攻(D)	3	－	9
日本史学専攻(D)	5	－	15
東洋史学専攻(D)	3	－	9
西洋史学専攻(D)	3	－	9
哲学専攻(D)	3	－	9
社会学専攻(D)	3	－	9
社会情報学専攻(D)	3	－	9
教育学専攻(D)	3	－	9
心理学専攻(D)	4	－	12
総合政策研究科			
総合政策専攻(M)	40	－	80
総合政策専攻(D)	10	－	30
国際情報研究科			
国際情報専攻(M)	25		50
法務研究科			
法務専攻(P)	160	－	480
戦略経営研究科			
戦略経営専攻(P)	80	－	160
ビジネス科学専攻(D)	12	－	36
計	1,020	－	2,340

令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科				
国文学専攻(M)	10	－	20	
英文学専攻(M)	10	－	20	
独文学専攻(M)	5	－	10	
仏文学専攻(M)	5	－	10	
中国言語文化専攻(M)	5	－	10	
日本史学専攻(M)	7	－	14	
東洋史学専攻(M)	5	－	10	
西洋史学専攻(M)	5	－	10	
哲学専攻(M)	5	－	10	
社会学専攻(M)	5	－	10	
社会情報学専攻(M)	5	－	10	
教育学専攻(M)	5	－	10	
心理学専攻(M)	8	－	16	
国文学専攻(D)	5	－	15	
英文学専攻(D)	5	－	15	
独文学専攻(D)	3	－	9	
仏文学専攻(D)	3	－	9	
中国言語文化専攻(D)	3	－	9	
日本史学専攻(D)	5	－	15	
東洋史学専攻(D)	3	－	9	
西洋史学専攻(D)	3	－	9	
哲学専攻(D)	3	－	9	
社会学専攻(D)	3	－	9	
社会情報学専攻(D)	3	－	9	
教育学専攻(D)	3	－	9	
心理学専攻(D)	4	－	12	
総合政策研究科				
総合政策専攻(M)	40	－	80	
総合政策専攻(D)	10	－	30	
国際情報研究科				
国際情報専攻(M)	25		50	
法務研究科				
法務専攻(P)	160	－	480	
戦略経営研究科				
戦略経営専攻(P)	80	－	160	
ビジネス科学専攻(D)	12	－	36	
計	1,020	－	2,340	

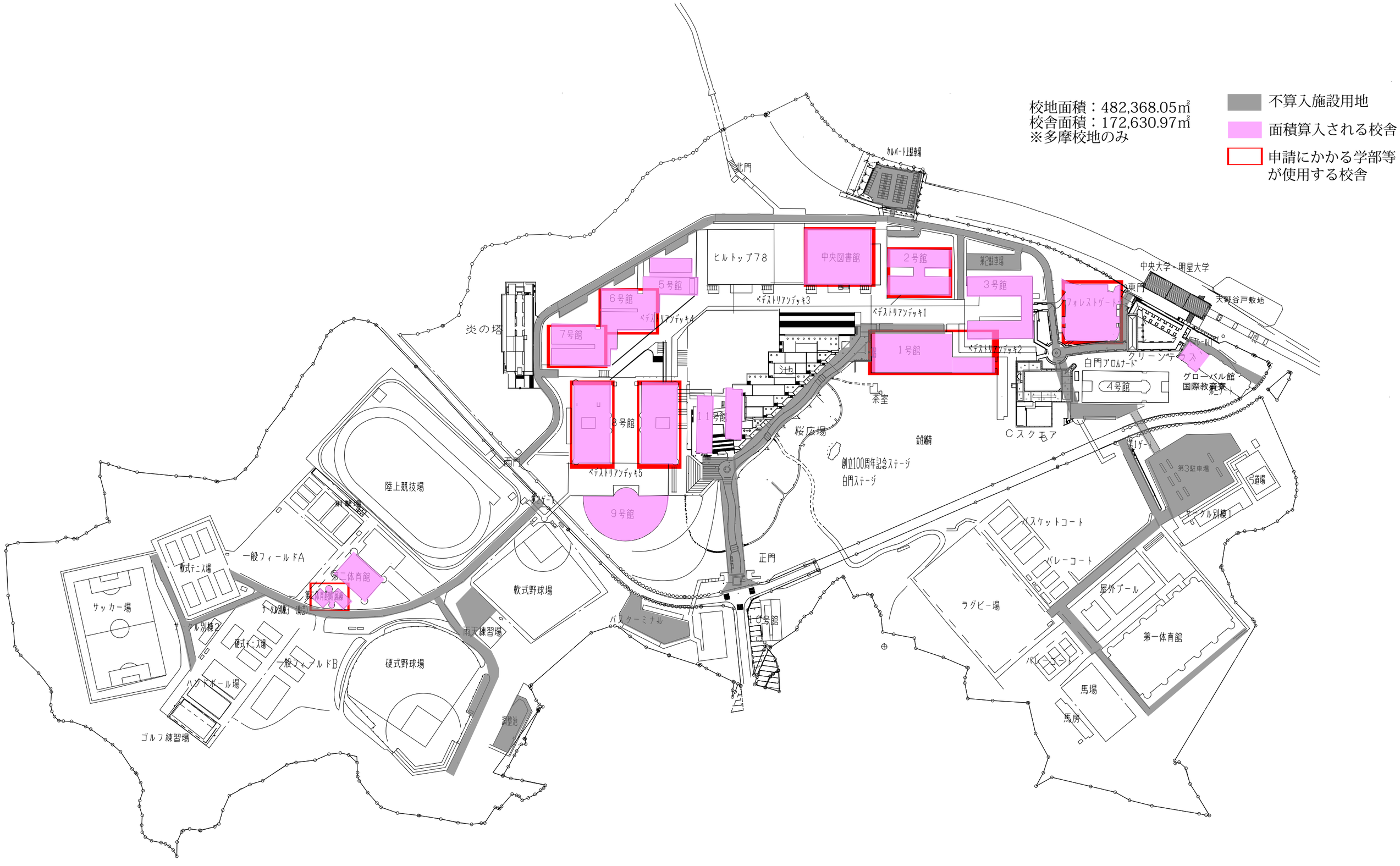

都道府県内における位置関係
東京都
後楽園校地
茗荷谷校地
小石川校地
多摩校地
市ヶ谷校地
市ヶ谷田町校地
駿河台校地
東京都中心部
0
10km
1:108,900
奥多摩町
青梅市
瑞穂町
羽村市
日の出町
武蔵村山市
東大和市
東村山市
東久留米市
清瀬市
檜原村
あきる野市
福生市
立川市
小平市
西東京市
昭島市
国分寺市
武蔵野市
小金井市
国立市
三鷹市
八王子市
日野市
府中市
調布市
多摩市
稲城市
狛江市
町田市
板橋区
練馬区
北区
足立区
葛飾区
荒川区
豊島区
文京区
台東区
墨田区
中野区
杉並区
新宿区
千代田区
江戸川区
江東区
渋谷区
中央区
港区
世田谷区
目黒区
品川区
大田区

最寄駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



―図面―2―

校舎、運動場等の配置図


校地面積：482,368.05㎡
校舎面積：172,630.97㎡
※多摩校地のみ
不算入施設用地
面積算入される校舎
申請にかかる学部等が使用する校舎
北門
カルバート上駐車場
ヒルトップ78
中央図書館
2号館
第2駐車場
3号館
中央大学・明星大学
東門
天野谷戸敷地
フォレストゲート
クリーンテラス
5号館
6号館
ベデストリアンデッキ3
ベデストリアンデッキ4
ベデストリアンデッキ1
ベデストリアンデッキ2
炎の塔
7号館
1号館
白門プロムナード
4号館
グローバル館・国際教養棟
茶室
8号館
11号館
桜広場
Cスクエア
創立100周年記念ステージ
白門ステージ
西門
ベデストリアンデッキ5
9号館
第1ゲート
第3駐車場
弓道場
陸上競技場
射撃場
第3ゲート
サークル別棟1
バスケットコート
一般フィールドA
軟式テニス場
第二体育館
正門
軟式野球場
バレーコート
屋外プール
サッカー場
サークル別棟2
硬式テニス場
雨天練習場
バスターミナル
10号館
ラグビー場
第一体育館
一般フィールドB
ハンドボール場
硬式野球場
馬場
馬房
ゴルフ練習場
調整池

校舎の平面図

（公開用ファイルから省略）

■スポーツ情報学部（仮称）開設のための工事_工程表（仮）

補足：共用部分である６号館、第二体育館付属棟に関する工程表として添付。

| No | トピック | 2025年（令和7年） | | | | | | | | 2026年（令和8年） | | | | | | | |

学則

中央大学学則

規程第二百九十三号

目次

第一章　総則（第一条・第二条）

第二章　本大学の組織

　第一節　教育と研究の組織（第三条―第七条）

　第二節　運営の機関及び教職員（第八条―第十六条）

　第三節　外国人研究者（第十六条の二）

第三章　修学の期間

　第一節　修業年限（第十七条）

　第二節　学年、学期及び授業日（第十八条―第二十条）

第四章　入学、留学、休学、退学及び除籍

　第一節　入学、留学等（第二十一条―第二十八条）

　第二節　休学、退学及び除籍（第二十九条―第三十一条の二）

第五章　教育課程及び履修方法（第三十二条―第三十六条の二）

第六章　試験及び成績（第三十七条―第四十一条）

第七章　卒業及び学士の学位（第四十二条―第四十五条）

第八章　奨学（第四十六条）

第九章　教員、職員及び学生の責務

　第一節　通則（第四十七条・第四十八条）

　第二節　学生の守るべき事項（第四十九条・第五十条）

第十章　賞罰（第五十一条・第五十二条）

第十一章　学費等

　第一節　入学検定料及び審査料（第五十三条・第五十四条）

　第二節　学費、科目等履修費及び聴講料（第五十五条―第五十八条の二）

　第三節　手数料（第五十九条）

　第四節　学費等の返還制限（第六十条）

第十二章　科目等履修生及び聴講生（第六十一条・第六十一条の二）

第十二章の二　外国人留学生（第六十一条の三）

第十三章　公開講座（第六十二条）

第十四章　改正（第六十三条）

第十五章　雑則（第六十四条）
附則

第一章　総則

（この学則の目的）

第一条　この学則は、大学の本旨に基づいて、学校法人中央大学の設置する中央大学（以下「本大学」という。）における教育・研究の組織及び運営について必要な基準を定めることを目的とする。

（本大学の使命）

第二条　本大学は、その伝統及び私立大学の特性を生かしつつ、教育基本法の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授け、深く専門の理論及び応用を教授・研究し、もつて個性ゆたかな人間の育成を期するとともに、文化の創造・発展と、社会・人類の福祉に貢献することを使命とする。

第二章　本大学の組織

第一節　教育と研究の組織

（学部及び学科）

第三条　本大学に、次の学部を置く。

法学部
経済学部
商学部
基幹理工学部
社会理工学部
先進理工学部
文学部
総合政策学部
国際経営学部
国際情報学部

２　前項の学部に、別表第一に掲げる学科を置く。

（学部の教育研究上の目的）

第三条の二　前条第一項に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　法学部　法学及び政治学の分野に関する理論と諸現象にかかる教育研究を行い、幅広

い教養と深い専門的知識に裏打ちされた理解力、分析力及び問題解決能力を涵養し、現代社会のさまざまな分野において活躍することのできる人材を養成する。

二　経済学部　経済学及びその関連領域にかかる教育研究を行い、広く国際的で豊かな教養・学識と専門能力を有し、社会のさまざまな分野においてその学識と能力を発揮することのできる人材を養成する。

三　商学部　商学にかかる各専門分野及びその関連領域における理論並びに実務に関する教育研究を行い、広く豊かな学識と優れた専門能力を有し、ビジネスをはじめとする各分野を通じて社会に貢献できる人材を養成する。

四　基幹理工学部　理学並びに工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、数学、自然科学（物理学・化学・生物学）、および工学の分野に関する理論と諸現象についての確実な知識と応用力を身につけ、新しい課題への果敢な挑戦力を持ち、人類共通の知的資産たる科学技術を継承し、自らの新発見を通じて積極的に社会貢献できる人材を養成する。

五　社会理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、科学技術に関する理論や技術に幅広く精通し、社会が抱える多様で複雑な課題に対してそれらを応用し、複眼的な視点から適切な解決策を見出すことで、より良い社会の実現に貢献できる学際的人材を養成する。

六　先進理工学部　工学の分野に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、人・モノ・自然を結びつける仕組みを先導または協働して考案し、この世界に実現することを通じて、科学技術分野の諸課題の解決、ならびに持続的かつ包摂的な社会の構築に積極的に貢献できる人材を養成する。

七　文学部　人文科学及び社会科学の諸分野に関する教育と研究を行う。専門の教育における知的訓練を経て得られた学識と広汎な分野の教育から得られた幅広い教養を持ち、多様な社会に対応し得る人材を養成する。

八　総合政策学部　人文科学、社会科学、自然科学、工学及びその他の関連諸分野を総合する観点から、現代社会における政策に関する理論及び諸現象にかかる教育研究を行い、「政策と文化の融合」の理念の下に不確実でグローバルな時代に必要とされる高度な知識を持ち、文化的背景を理解して現代社会が抱える諸問題を解決し、より良い社会を構築しうる人材を養成する。

九　国際経営学部　経済学、経営学に関する理論と関連領域にかかる教育研究を行い、急速に変化する国際企業経営に必要となる企業経営やグローバル経済にかかる専門知識

を駆使し、国際地域研究を通じた学びと高い語学運用能力で国際社会を舞台に活躍できる実践知を備えた人材を養成する。

十　国際情報学部　情報及び情報に関連する法律・規範に関する理論と社会における諸現象にかかる教育研究を行う。専門分野における高度な知識を有し、複雑さを極めてグローバルな性格を有する情報の諸問題に対する解決策を立案し、提案し、かつ実現することで公正な社会を構築しうる人材を養成し、社会に貢献する。

（学生定員）

第四条　第三条の学部及び学科の学生定員は、別表第一に掲げるとおりとする。

（通信教育課程）

第五条　法学部に、通信教育課程を置く。

２　通信教育課程に関する特則は、別に定める。

（大学院）

第六条　本大学に、大学院を置く。

２　大学院に関する特則は、別に定める。

（附属施設）

第七条　本大学に、附属の図書館を置く。

２　本大学には、前項のほか、附属の研究所、センターその他必要な教育・研究施設を置くことができる。

３　附属施設に関する規則は、別に定める。

第二節　運営の機関及び教職員

（学長）

第八条　本大学に、学長を置く。

２　学長は、本大学の全般に関する事項をつかさどり、本大学を代表する。

（副学長）

第八条の二　本大学に、学長の職務を助けるため、副学長を置くことができる。

２　副学長に関する細目は、別に定める。

（学部長）

第九条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に学部長を置く。

２　学部長は、その学部に関する事項をつかさどり、その学部を代表する。

３　学部長の任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。

４　学部長が欠けたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（学部長補佐）

第九条の二　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、学部長の業務を補佐するために、学部長補佐を置くことができる。

２　学部長補佐に関する細目は、別に定める。

（学部長会議）

第十条　本大学に、各学部間の連絡協議のため、学部長会議を置く。

（教授会）

第十一条　各学部（基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部を除く。）に、教授会を置く。

２　教授会は、その学部の教授、准教授及び助教をもつて組織する。この場合において、教授会を組織する助教の範囲は、当該学部が定めるところによる。

３　教授会は、その学部に関する次の事項について審議し、その意見を学長に述べるものとする。

一　学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること

二　学位の授与に関すること

三　その他その学部の教育研究に関する重要事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要と認めるものとして別に定める事項

４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について、審議し、又は、学長等の求めに応じて、学長等に意見を述べることができる。

（理工学術院）

第十一条の二　本大学に理工学術院を置き、理工学術院は、所属する教員により基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部の教育研究に係る運営を行う。

２　理工学術院に理工学術院長を置く。

３　理工学術院に、理工学術院長の業務を補佐するために、理工学術院長補佐を置くことができる。

４　理工学術院に教授会を置く。

５　理工学術院長の位置付け及び任期並びに理工学術院に置かれる教授会に関する組織及び審議事項、連合教授会については、第九条第二項から第四項、第九条の二第二項、第十一条第二項から第四項及び第十二条の規定を適用する。この場合において、第九条第二項から第四項中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と、「その学部」とあるのは「理工

学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第九条の二第二項中「学部長補佐」とあるのは「理工学術院長補佐」と、第十一条第二項中「その学部」及び「当該学部」とあるのは「理工学術院」と、第十一条第三項中「その学部」とあるのは「理工学術院並びに基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部」と、第十一条第四項及び第十二条中「学部長」とあるのは「理工学術院長」と読み替える。

6　理工学術院、理工学術院長及び理工学術院教授会に関する細目は、この学則に定めるもののほか、別に定める。

（連合教授会）

第十二条　学長、学部長又は教授会が、各学部に共通する重要事項について連絡協議する必要を認めたときは、連合教授会を開くことができる。

（共同の委員会）

第十三条　教授会が必要と認めるときは、他の教授会と共同して、共同の委員会を設けることができる。

（運営の手続き等）

第十四条　学部長会議、教授会、連合教授会及び共同の委員会に関する運営の手続きその他必要な事項については、別に定める。

（教職員）

第十五条　本大学に、専任の教授、准教授、助教、事務職員及び技術職員を置く。

2　本大学に、前項のほか、必要に応じ非常勤の教員（客員教授を含む。）及び臨時の職員を置く。

（名誉教授）

第十六条　本大学は、別に定める細則により、教員であつた者に対し、名誉教授の称号を授与することができる。

第三節　外国人研究者

（外国人研究者）

第十六条の二　本大学に、外国人研究者を置くことができる。

2　外国人研究者の受入れについては、別に定める。

第三章　修学の期間

第一節　修業年限

（修業年限）

第十七条　学部の修業年限は、四年とする。ただし、第四十三条第二項の規定により卒業を

認められた者については、この限りでない。

２　卒業に必要な単位を修得するために在学できる年数は、通算して八年を限度とする。

３　在学できる年数の計算においては、第十九条に定める学期を〇・五年として計算する。

４　再入学及び編入学をした者の在学できる年数については、別に定める。

５　第二項の規定は、留学した者にも適用する。

第二節　学年、学期及び授業日

（学年）

第十八条　学年は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。ただし、後期の始めに入学した場合の学年は、九月二十一日に始まり、翌年の九月二十日に終わるものとする。

（学期）

第十九条　学年は、二期に分け、次の各号のとおりとする。

一　前期　四月一日から九月二十日まで

二　後期　九月二十一日から翌年三月三十一日まで

（休業日）

第二十条　授業を行わない日（以下「休業日」という。）は、次のとおりとする。ただし、必要があるときは、休業日を変更し、又は臨時に休業することがある。

一　日曜日

二　国民の祝日に関する法律に定める休日

三　本大学の創立記念日　七月八日

四　夏季休業　七月二十一日から九月二十日まで

五　冬季休業　十二月二十五日から翌年一月七日まで

六　春季休業　翌年二月十五日から三月三十一日まで

２　休業日の変更又は臨時の休業日については、そのつど公示する。

第四章　入学、留学、休学、退学及び除籍

第一節　入学、留学等

（入学の時期）

第二十一条　入学の時期は、四月一日とする。ただし、教授会の議を経て学長が決定した場合は、入学の時期を後期の学期の始めとすることができる。

（入学の資格）

第二十二条　学部の第一年次に入学する者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

一　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

二　通常の課程による十二年の学校教育を修了した者

三　外国において学校教育における十二年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五　専修学校の高等課程(修業年限が三年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六　文部科学大臣の指定した者

七　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧大学入学資格検定に合格した者を含む。)

八　学校教育法第九十条第二項の規定により他の大学に入学した者であつて、本大学における教育を受けるにふさわしい学力があると本大学が認めたもの

九　本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、十八歳に達したもの

（入学の志願）

第二十三条　入学を志願する者は、入学願書その他の出願書類に入学検定料を添えて願い出て、かつ、入学試験又はこれに代わる選考（以下「入学の選考」という。）を受けなければならない。

（入学の手続き）

第二十四条　入学の選考に合格した者は、入学の手続きをすることができる。

２　入学の手続きをする者は、別に定める入学手続要項により、保証人連署の誓約書その他必要な入学書類に学費を添えて、手続きをしなければならない。

（保証人）

第二十五条　保証人は、父、母又はその他の成年者で独立の生計を営む者でなければならない。

２　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

３　学生は、保証人の変更又はその氏名若しくは居住地に変更があつたときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

（学生証）

第二十六条　入学（編入学を含む。）の手続を終えた者（以下「新入生」という。）には、学生証を交付する。

（編入学及び転部科）

第二十七条　第二十二条から第二十四条までの規定にかかわらず、編入学及び転部科の資格、志願及び手続については、別に定める。

（他の大学における授業科目の履修）

第二十七条の二　本大学は、教育上有益と認めるときは、別に定める細則により、学生が他の大学の授業科目を履修することを許可することができる。

（留学）

第二十七条の三　前条の規定は、学生が外国の大学へ留学する場合に準用する。

（二重学籍の禁止）

第二十八条　本大学の学部・学科には、他大学又は本大学のその他の学部・学科と併せて在学することはできない。

第二節　休学、退学及び除籍

（休学）

第二十九条　傷病、海外留学その他やむを得ない事由によつて、学期のうち二カ月以上修学することができない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、休学の許可を受けて、休学することができる。

２　休学の期間は、休学の許可を受けた日から、その学期の終了日までとし、休学の期間が終了した翌日に復学するものとする。

３　前項の期間中に休学の事由が消滅しない者は、その理由を附して、保証人と連署の休学願を提出し、許可を受けて引き続き休学することができる。

４　休学の許可を受けた日にかかわらず、休学の期間は学期ごとに〇・五年として計算し、通算して四年を超えることはできない。

５　休学の期間は、第十七条第一項に定める修業年限には算入しない。

６　休学の期間は、第十七条第二項に定める在学できる年数に算入する。

７　休学の期間については、学費を減免することができる。

（退学）

第三十条　病気その他の事由によつて退学しようとする者は、保証人と連署の退学届に学生証を添えて、退学の手続きをしなければならない。

（除籍）

第三十一条　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

一　新入生で、指定された期限までに履修届を提出しない者、その他本大学において修学する意志がないと認められる者

二　第五十六条第二項に定める期限までに、学費を完納しない者

三　在学できる年数を超える者

四　退学の決定をされた者

（再入学）

第三十一条の二　前条の規定（第三号の規定を除く。）により除籍された者が、再入学を希望するときは、その理由を附して、保証人と連署の再入学願を提出し、再入学の許可を受けることができる。

２　第五十二条の規定により退学の処分を受けた者の再入学については、特に反省が顕著であると認められたときでなければ許可しない。

第五章　教育課程及び履修方法

（授業）

第三十二条　本大学の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第二に掲げるとおりとする。

２　前項後段のほか、文学部に学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格取得のために必要な授業科目を置く。

３　前項の授業科目の名称、単位数、年次配当及び履修方法は、別表第二の二、第二の三、第二の四及び第二の五に掲げるとおりとする。

（メディアを利用して行う授業科目）

第三十二条の二　前条に規定する授業については、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

２　多様なメディアを高度に利用して行う授業科目及び履修方法等は、各教授会が別に定める。

（単位の計算方法及び授業期間）

第三十三条　各授業科目の単位は、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、次の基準並びに授業による教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して計算する。

一　講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で別に定める時間の授業

をもつて一単位とする。

二　実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

三　講義、演習、実験、実習又は実技のいずれかの授業科目について、二以上の方法の併用により行う場合は、その組合せに応じ、前二号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもつて一単位とする。

2　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3　各授業科目の授業は、十四週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（履修の手続き）

第三十四条　学生は、その学年に履修しようとする授業科目について、指定された期限までに履修届を提出のうえ、履修しなければならない。

（単位の授与）

第三十五条　授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価（以下「試験」という。）に合格した者には、所定の単位を与える。

（他の大学において修得した単位）

第三十五条の二　第二十七条の二の規定により履修した授業科目について修得した単位は、六十単位を超えない範囲で各教授会が定めるところにより、本大学において修得したものとみなすことができる。

（外国の大学において修得した単位）

第三十五条の三　前条の規定は、学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

（入学前に修得した単位）

第三十五条の四　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学の一年次に入学する前に第六十一条に規定する本大学の科目等履修生として修得した単位を、本大学入学後に本大学の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本大学は、教育上有益と認めるときは、本大学に編入学した者が、本大学に入学する前に本大学、他大学、短期大学その他の中央大学学則施行規則（以下、「施行規則」という。）第三条に定める学校等において修得した単位を本大学において修得したものとみなすこ

とができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第三十五条の五　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、各教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、第三十五条の二及び第三十五条の三により本大学において修得したものとみなす単位数並びに施行規則第十五条第一項により修得した単位と合わせて六十単位を超えないものとする。

（メディアを利用して行う授業で修得した単位）

第三十五条の六　第三十二条の二に規定する授業の方法により修得した単位については、第四十三条第一項第二号に規定する卒業に必要な単位のうち、六十単位を超えないものとする。

（教育職員免許を取得しようとする者の履修方法）

第三十六条　教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を履修しなければならない。

２　前項の履修により、本大学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第三に掲げるとおりとする。

（学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭資格を取得しようとする者の履修方法）

第三十六条の二　学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、それぞれの資格取得のために必要な授業科目を履修しなければならない。ただし、司書教諭の資格を取得しようとする者は、現に教育職員免許状を取得するために必要な授業科目を履修している者でなければならない。

第六章　試験及び成績

（試験の方法）

第三十七条　試験は、筆記又は口述によるものとする。ただし、論文の提出その他の方法によることができる。

（試験の時期）

第三十八条　試験は、学年末又は学期末において行う。ただし、必要があると認めるときは、その他の時期においても行うことができる。

（受験の条件）

第三十九条　試験は、履修した授業科目でなければ、受けることができない。

２　学費及び必要な手数料を納入しない者は、試験を受けることができない。

３　休学又は停学の期間中は、試験を受けることができない。

（成績の表示）

第四十条　試験の成績は、S、A、B、C及びEで示し、S、A、B及びCを合格とし、Eを不合格とする。

（成績の通知）

第四十一条　前条の成績は、学生に通知する。

第七章　卒業及び学士の学位

（卒業に必要な単位）

第四十二条　各学部の卒業に必要な単位は、別表第二に掲げるとおりとする。

（卒業の要件）

第四十三条　卒業の要件は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、休学の期間中は卒業できない。

一　四年以上在学すること

二　卒業に必要な単位を修得していること

２　各教授会の定めるところにより、学部の学生として三年以上在学した者が、前項第二号に定める卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前項第一号の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

（卒業の時期）

第四十三条の二　卒業の時期は、学年末とする。ただし、教授会の議を経て学長が決定した場合は、卒業の時期を他の時期とすることができる。

（学士の学位）

第四十四条　卒業の要件を備えた者には、学士の学位を授与し、卒業証書・学位記を交付する。

（専攻分野の名称）

第四十五条　学士の学位に付する専攻分野の名称は、その学部又は学科に従つて、別表第三の二に掲げるとおりとする。

第八章　奨学

（奨学）

第四十六条　能力があるにもかかわらず経済的理由によつて修学が困難な者及び特に学力が優れている者には、奨学の方法を講ずることができる。

２　奨学の方法は、奨学金の貸与及び給付とする。

３　奨学の方法に関する規程は、別に定める。

第九章　教員、職員及び学生の責務

第一節　通則

（相互の尊重と協力）

第四十七条　教員、職員及び学生（科目等履修生及び聴講生を含む。以下同じ。）は、個人の尊厳を重んじ、学問の自由を尊重し、それぞれの職責・地位に即しつつ、相互の信頼と協力によつて、本大学の使命を達成するように努めなければならない。

（環境の保持）

第四十八条　教員、職員及び学生は、本大学の使命にかんがみ、教育と研究にふさわしい環境が保持されるよう自ら努めるとともに、本大学の正常な運営に協力しなければならない。

第二節　学生の守るべき事項

（学生の守るべき事項）

第四十九条　学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

一　登校するときは、必ず学生証（科目等履修生証及び聴講生証を含む。）を携帯し、教職員から学生証の提示を求められた場合には、これを提示すること。

二　教育・研究に支障を及ぼし、又は他の者の個人の尊厳若しくは人格を侵害するような言動をしないこと。

三　その他学生としての本分に反しないこと。

（変更届）

第五十条　学生は、その氏名、居住地又は本籍に変更があつたときは、速やかに変更届を提出しなければならない。

第十章　賞罰

（表彰）

第五十一条　学生として表彰に価する行為があつたときは、表彰することができる。

（懲戒）

第五十二条　学則に違反し、その他不都合な行為のあつた学生に対しては、行為の軽重と教育上の必要を考慮して、訓告、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対してでなければ行うことができない。

一　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

二　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

三　正当の理由がなくて出席の常でない者

四　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

2　前項に定める訓告、停学又は退学の処分は、学長が別に定めるところにより行うものとする。

第十一章　学費等

第一節　入学検定料及び審査料

（入学検定料）

第五十三条　入学（再入学及び編入学を含む。）又は転部科を志願する者は、別表第四に掲げる入学検定料を納めなければならない。ただし、推薦入学の選考において、二段階選考を実施する場合は、別表第四の二に掲げる入学検定料を納めなければならない。

2　前項本文の規定にかかわらず、本大学は、特別の理由がある場合に、別に定めるところにより入学検定料を減額することがある。

（審査料）

第五十四条　第六十一条に規定する科目等履修生又は第六十一条の二に規定する聴講生となることを願い出る者は、別表第四の三に掲げる審査料を納めなければならない。ただし、第六十一条第五項に規定する履修期間又は第六十一条の二第四項に規定する聴講期間を超えて継続して履修又は聴講を願い出る者については、審査料を免除する。

2　前項の規定にかかわらず、同一年度に第六十一条又は第六十一条の二に基づき二つ以上の学部に履修又は聴講を願い出る者の審査料は、重複して納入することを要しない。

第二節　学費、科目等履修費及び聴講料

（学費）

第五十五条　学費は次のとおりとし、納入額は別表第五、別表第六及び別表第七に掲げるとおりとする。

一　入学金

二　授業料

三　実験実習料

四　教育充実費

五　施設設備費

六　教職履修料

七　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

2　学費の減免措置については、別に定める。

（納期）

第五十六条　前条第一項に規定する学費は、毎学年、次に掲げる区分に従い、当該各号に定める期日までに全納しなければならない。ただし、授業料、実験実習料又は教育充実費及び施設設備費についてやむを得ない事由により全納できないときは、前期と後期の二期に分納することができる。

一　四月一日に入学した者　六月三十日

二　九月二十一日に入学した者　一月十四日

２　前項ただし書に定める分納の期限は次の各号のとおりとする。

一　四月一日に入学した者

前期　六月三十日

後期　一月十四日

二　九月二十一日に入学した者

後期　一月十四日

前期　六月三十日

３　前項各号に定める期日までにやむを得ない事由により学費を納入することができない場合は、保証人と連署の延納願を提出して許可を受け、次に掲げる期日までに学費を納入した場合に限り、前項各号の期限までに学費が納入されたものとみなす。

一　前期　七月十四日

二　後期　一月二十八日

（特殊学費）

第五十七条　再入学その他特殊な場合の学費については、別に定める。

（科目等履修費）

第五十八条　第六十一条に規定する科目等履修生の科目等履修費は次のとおりとし、納入額は別に定める。

一　登録料

二　科目履修料

三　教職履修料

四　学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料

（聴講料）

第五十八条の二　第六十一条の二に規定する聴講生の聴講料の納入額は、別に定める。

第三節　手数料

（手数料）

第五十九条　手数料の種類及び納入額については、別に定める。

第四節　学費等の返還制限

（学費等の返還制限）

第六十条　納入した学費等は、返還しない。

第十二章　科目等履修生及び聴講生

（科目等履修生）

第六十一条　各教授会（中央大学教育職員の養成に関する運営委員会（以下「教職運営委員会」という。）を含む。）は、本大学の学部学生以外の者が単位の修得を目的として、別表第四の三に掲げる審査料を添えて特定の授業科目の履修を願い出た場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、科目等履修生として当該授業科目の履修を許可することができる。

2　前項により履修を願い出ることができる者は、第二十二条に定める入学の資格を有する者でなければならない。ただし、教授会が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める者については、この限りでない。

3　前項の規定にかかわらず、教育職員の免許並びに学芸員、社会教育主事、司書及び司書教諭の資格を取得するために必要な授業科目の単位の修得を目的として履修を願い出ることができる者は、学士の学位（大学院に在学する者を含む。）を有する者であつて、教職運営委員会又は文学部教授会がそれぞれ定める要件を満たす者でなければならない。

4　履修を許可された者は、所定の期日までに、別に定める科目等履修費を納入し、履修の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、科目等履修生証を交付する。

5　科目等履修生として、授業科目を履修できる期間は、六カ月又は一年とする。

6　科目等履修生が各学部において一学年度に履修できる単位は、三十単位を超えない範囲で当該教授会において定める。ただし、第三項の規定により科目等履修生となつた者の一学年度に履修できる単位の上限は、必要に応じて教職運営委員会又は文学部教授会において定めるものとする。

7　前項本文の規定にかかわらず、科目等履修生が二学部以上の授業科目を履修する場合において、一学年度に履修できる単位は、各学部を通算して三十単位を超えることはできない。ただし、第三項の規定により科目等履修生となつた者の一学年度に履修できる単位の上限については、この限りでない。

8　科目等履修生が、授業科目を履修し、その試験又はこれに代わる学習の評価（以下「試

験」という。）に合格したときには、所定の単位を与える。当該試験の成績は、科目等履修生に通知する。

9　科目等履修生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。

（聴講生）

第六十一条の二　各教授会は、別表第四の三に定める審査料を添えて、特定の授業科目について聴講を願い出た者がいる場合には、教育に支障がないときに限り、別に定める審査基準により、聴講生として当該授業科目の聴講を許可することができる。

2　聴講を願い出る者の資格は、各教授会が定める。

3　聴講を許可された者は、所定の期日までに、別に定める聴講料を納入し、聴講の手続をしなければならない。当該手続を終えた者には、聴講生証を交付する。

4　聴講生として、授業科目を聴講できる期間は、六カ月又は一年とする。

5　聴講生が聴講した授業科目について試験を受けたときは、請求により成績証明書を交付する。ただし、授業科目の単位は与えない。

6　聴講生の受入れに関するその他の細目は、別に定める。

第十二章の二　外国人留学生

（外国人留学生）

第六十一条の三　外国人留学生の受入れについては、別に定める。

2　外国人留学生で、外国の大学を卒業した者又はこれに準ずる者は、第三年次に編入学を認めることができる。

3　外国人留学生については、学修の必要に応じて別表第二に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて特別の科目を置くことができる。

4　前項に定める特別の科目として日本語科目を置く。

5　日本語科目の名称、単位数及び履修の基本方法は、別表第二の六に掲げるとおりとする。

第十三章　公開講座

（公開講座）

第六十二条　本大学は、正規の授業のほか、適時、公開講座を開設する。

第十四章　改正

（改正）

第六十三条　この学則の改正は、教授会の議を経なければならない。

第十五章　雑則

（施行の細目）

第六十四条　この学則に特別の定めがあるものを除くほか、この学則の実施の手続きその他この執行について必要な細目は、別に定める。

附　則

（　省　略　）

附　則（規程第三千二百五十五号）

（施行期日）

1　この学則は、令和九年四月一日から施行する。

（経過措置）

2　この学則による改正後の別表第六にかかわらず、令和六年度以前の入学生の学費は、次のとおりとする。

（第五十五条関係）（学費）

（単位・円）

学部	費目／年度	授　業　料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	—	二六八、九〇〇
経済学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	一五、〇〇〇	二一八、九〇〇
商学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	一八、〇〇〇	二一八、九〇〇

理工学部	令和九年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十一年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十二年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
	令和十三年度	一、一七五、七〇〇	一〇九、六〇〇	—	二九七、七〇〇
文学部	令和九年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十一年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十二年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
	令和十三年度	八二三、四〇〇	—	—	二一八、九〇〇
総合政策学部	令和九年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十一年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十二年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
	令和十三年度	一、〇二九、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二六七、一〇〇
国際経営学部	令和九年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
	令和十年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
	令和十一年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
	令和十二年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
	令和十三年度	九四三、六〇〇	—	五〇、〇〇〇	二一六、四〇〇
国際情報学部	令和九年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十一年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十二年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇
	令和十三年度	一、〇一六、八〇〇	—	五〇、〇〇〇	二三三、二〇〇

（文学部人文社会学科心理学専攻に係る教育充実費の経過措置）

3　改正後の別表第六の文学部の教育充実費は、令和八年度以前の入学生には適用しない。

（中央大学学則の一部を改正する学則の一部改正）

4　中央大学学則の一部を改正する学則（規程第三千百二十二号）の一部を次のように改正

する。

附則中第二項及び表を削り、第三項を第二項とする。

改正　令和三・一〇・一五（規程第二千九百三十号）　令和五・一・一六（規程第三千十九号）

以上

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	542	2,168
	社会経済学科	520	2,080
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
総計		6,281	25,124

別表第二（第三十二条第二項関係）

（法学部　省略）

経済学部経済学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
学科科目	
学科導入科目	
経済入門	2
基礎ミクロ経済学	4
基礎数学	2
統計リテラシー	2
基礎マクロ経済学	4
学科基礎科目	
経済政策論	4
中級ミクロ経済学	4
人口論	4
空間経済学	4
金融論	4
公共経済学	4
国際経済学	4
財政学	4
中級マクロ経済学	4
環境経済学	4
国際金融論	4
国際開発論	4
学科発展科目	
ゲーム理論Ⅰ	2
計量経済学	4
実践経済データ分析Ⅰ	2
実践経済データ分析Ⅱ	2
実践経済データ分析Ⅲ	2
実践経済データ分析Ⅳ	2
ゲーム理論Ⅱ	2
公共政策	4
交通経済論	4
国際公共政策	4

世界経済論	4
国際経済政策	4
地方財政論	4
労働経済学	4
経済変動論	2
数理経済学	2
公益企業論	4
環境会計論	4
外国為替論	4
金融制度論	4
学科関連科目	
経済数学Ⅰ	2
Economics SeminarⅠ	2
国際協力論	2
経済数学Ⅱ	2
アジア経済論Ⅰ	2
アジア経済論Ⅱ	2
産業組織論Ⅰ	2
産業組織論Ⅱ	2
費用便益分析	2
開発と環境	2
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
健康経済学Ⅰ	2
健康経済学Ⅱ	2
租税論	2
国際投資論	2
日本経済論Ⅰ	2
日本経済論Ⅱ	2
社会と環境	2
企業と環境	2
開発金融論	2
環境リスク論	2
中国経済論	2
Economics SeminarⅡ	2
EU経済論Ⅰ	2
EU経済論Ⅱ	2
米国経済論Ⅰ	2
米国経済論Ⅱ	2

多国籍企業論	2
学部科目	
学部基礎科目	
入門演習	2
会計入門	2
簿記入門	2
統計学	4
国民経済計算論	2
西洋経済史	4
日本経済史	4
経済学史	4
社会思想史	4
産業構造論	4
学部発展科目	
社会保障論	4
労使関係論	4
農業経済論	4
地域システム	4
ジェンダーと労働Ⅰ	2
ジェンダーと労働Ⅱ	2
流通システムⅠ	2
流通システムⅡ	2
経営戦略論Ⅰ	2
経営戦略論Ⅱ	2
経営組織論Ⅰ	2
経営組織論Ⅱ	2
アジア経営論	2
システムデザイン	4
国際経営論Ⅰ	2
国際経営論Ⅱ	2
ICT応用演習	4
証券市場論	2
生産システムⅠ	2
生産システムⅡ	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
先端産業論	2

ベンチャー起業論	2
社会福祉論	4
中小企業論	4
経済統計	4
応用統計	4
演習１	4
演習２	4
演習３	6
自由選択科目	
行政	
行政学	4
地方自治論	2
法律	
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
民法Ⅰａ	2
民法Ⅰｂ	2
商法Ⅰａ	2
商法Ⅰｂ	2
行政法Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
商法Ⅱａ	2
商法Ⅱｂ	2
国際法Ⅰ	2
国際法Ⅱ	2
関連科目	
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2
総合講座Ⅳ	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1

グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2
インターンシップ	4
特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習Ａ(1)	2
AI・データサイエンス演習Ａ(2)	2
AI・データサイエンス演習Ｂ(1)	2
AI・データサイエンス演習Ｂ(2)	2

AI・データサイエンス演習Ｃ(1)	2
AI・データサイエンス演習Ｃ(2)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	
Ｉ系	
英語１ａ	1
英語１ｂ	1
英語２ａ	1
英語２ｂ	1
ドイツ語１ａ	1
ドイツ語１ｂ	1
ドイツ語２ａ	1
ドイツ語２ｂ	1
フランス語１ａ	1
フランス語１ｂ	1
フランス語２ａ	1
フランス語２ｂ	1
中国語１ａ	1
中国語１ｂ	1
中国語２ａ	1
中国語２ｂ	1
スペイン語１ａ	1
スペイン語１ｂ	1
スペイン語２ａ	1
スペイン語２ｂ	1
朝鮮語１ａ	1
朝鮮語１ｂ	1
朝鮮語２ａ	1
朝鮮語２ｂ	1
英語３ａ	1
英語３ｂ	1
英語４ａ	1
英語４ｂ	1
ドイツ語３ａ	1
ドイツ語３ｂ	1
ドイツ語４ａ	1
ドイツ語４ｂ	1
フランス語３ａ	1

フランス語３ｂ	1
フランス語４ａ	1
フランス語４ｂ	1
中国語３ａ	1
中国語３ｂ	1
中国語４ａ	1
中国語４ｂ	1
スペイン語３ａ	1
スペイン語３ｂ	1
スペイン語４ａ	1
スペイン語４ｂ	1
朝鮮語３ａ	1
朝鮮語３ｂ	1
朝鮮語４ａ	1
朝鮮語４ｂ	1
Ⅱ系	
オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1
特設英語１ａ	1
特設英語１ｂ	1
特設英語２ａ	1
特設英語２ｂ	1
特設中国語１ａ	1
特設中国語１ｂ	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	1

オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	1
特設ドイツ語１ａ	1
特設ドイツ語１ｂ	1
特設ドイツ語２ａ	1
特設ドイツ語２ｂ	1
特設フランス語１ａ	1
特設フランス語１ｂ	1
特設フランス語２ａ	1
特設フランス語２ｂ	1
特設中国語２ａ	1
特設中国語２ｂ	1
特設スペイン語１ａ	1
特設スペイン語１ｂ	1
特設スペイン語２ａ	1
特設スペイン語２ｂ	1
Ⅲ系	
上級英語１	2
上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2
上級英語６	2
上級ドイツ語１ａ	1
上級ドイツ語１ｂ	1
上級ドイツ語２ａ	1
上級ドイツ語２ｂ	1
上級フランス語１ａ	1
上級フランス語１ｂ	1
上級フランス語２ａ	1
上級フランス語２ｂ	1
上級中国語１ａ	1
上級中国語１ｂ	1
上級中国語２ａ	1

上級中国語２ｂ	1
上級スペイン語１ａ	1
上級スペイン語１ｂ	1
上級スペイン語２ａ	1
上級スペイン語２ｂ	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰａ	1
健康・スポーツ実習Ⅰｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅱａ	1
健康・スポーツ実習Ⅱｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅲａ	2
健康・スポーツ実習Ⅲｂ	2
総合教育科目	
基本科目	
人文科学	
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4
哲学概論	4
日本史概論	4
アジア史概論	4
欧米史概論	4
心理学概論	4
社会科学	
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
政治学概論	4
社会学概論	4
法学概論	4
社会人類学概論	4
自然科学	
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
地球科学概論	4
生命科学概論	4
微分積分Ⅰ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅰ	2
線形代数Ⅱ	2
確率・統計Ⅰ	2
確率・統計Ⅱ	2
倫理学	2

日本史	2
アジア史	2
欧米史	2
心理学	2
文学A	2
文学B	2
政治学	2
社会学	2
法学	2
社会人類学	2
人権論	2
地球科学	2
生命科学	2
物理科学	2
地球環境論	2
地誌学	2
国際教養A	2
国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4
教職科目	
日本史	2
外国史	2
人文地理学	2
自然地理学	2
地誌学	2
社会科・地理歴史科教育法１	2
社会科・地理歴史科教育法２	2
社会科・公民科教育法１	2
社会科・公民科教育法２	2

職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
商業科教育法１	2
商業科教育法２	2
大学院科目	
上級ミクロ経済学Ⅰ	2
上級ミクロ経済学Ⅱ	2
上級マクロ経済学Ⅰ	2
上級マクロ経済学Ⅱ	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、124単位とする。

イ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　68単位を必修とする。ただし、卒業に必要な単位数に含めることができるのは122単位（外国人留学生については、120単位）を限度とする。

（２）　「経済入門」、「基礎ミクロ経済学」、「統計リテラシー」、「基礎マクロ経済学」を必修とする。

（３）　「経済政策論」から「中級マクロ経済学」までの授業科目の中から20単位、「環境経済学」から「国際開発論」までの授業科目の中から４単位、学科発展科目から12単位、学部発展科目から12単位を必修とする。

（４）　「会計入門」から「産業構造論」までの授業科目の中から８単位を必修とする。ただし、「西洋経済史」「日本経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。

（５）　自由選択科目には、大学院科目から修得した単位を含める。

（６）「キャリア・デザイン・ワークショップ」「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位を必修とする。

（２）　英語６単位、Ⅰ系からその他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ⅰb」までを必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

経済学部社会経済学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
学科科目	
学科導入科目	
経済入門	2
現代経済学入門	4
基礎数学	2
統計リテラシー	2

マルクス経済学	4
学科基礎科目	
独占資本主義論	4
社会政策	4
経営学	4
人口分析	4
財政学	4
金融論	4
学科発展科目	
財務会計論	4
計量経済学	4
ICTスキル	4
管理会計論	4
社会保障論	4
労使関係論	4
農業経済論	4
地域システム	4
地方財政論	4
社会福祉論	4
金融制度論	4
中小企業論	4
経済統計	4
応用統計	4
学科関連科目	
入門ICT演習	2
国際関係論Ⅰ	2
国際関係論Ⅱ	2
データ分析演習	2
ジェンダーと労働Ⅰ	2
ジェンダーと労働Ⅱ	2
流通システムⅠ	2
流通システムⅡ	2
経営戦略論Ⅰ	2
経営戦略論Ⅱ	2
経営組織論Ⅰ	2
経営組織論Ⅱ	2
アジア経営論	2
システムデザイン	4
国際経営論Ⅰ	2

国際経営論Ⅱ	2
ICT応用演習	4
証券市場論	2
生産システムⅠ	2
生産システムⅡ	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
先端産業論	2
ベンチャー起業論	2
学部科目	
学部基礎科目	
入門演習	2
会計入門	2
西洋経済史	4
日本経済史	4
簿記入門	2
経済学史	4
社会思想史	4
統計学	4
情報科学	4
国民経済計算論	2
情報数学	4
産業構造論	4
学部発展科目	
国際経済学	4
公共経済学	4
国際金融論	4
環境経済学	4
公共政策	4
交通経済論	4
国際公共政策	4
世界経済論	4
国際経済政策	4
労働経済学	4
経済変動論	2
数理経済学	2
アジア経済論Ⅰ	2

アジア経済論Ⅱ	2
産業組織論Ⅰ	2
産業組織論Ⅱ	2
費用便益分析	2
開発と環境	2
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
健康経済学Ⅰ	2
健康経済学Ⅱ	2
租税論	2
国際投資論	2
日本経済論Ⅰ	2
日本経済論Ⅱ	2
社会と環境	2
企業と環境	2
開発金融論	2
環境リスク論	2
中国経済論	2
Economics SeminarⅡ	2
EU経済論Ⅰ	2
EU経済論Ⅱ	2
米国経済論Ⅰ	2
米国経済論Ⅱ	2
多国籍企業論	2
公益企業論	4
環境会計論	4
外国為替論	4
演習１	4
演習２	4
演習３	6
自由選択科目	
行政	
行政学	4
地方自治論	2
法律	
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
民法Ⅰａ	2
民法Ⅰｂ	2

商法Ⅰa	2
商法Ⅰb	2
行政法Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
商法Ⅱa	2
商法Ⅱb	2
国際法Ⅰ	2
国際法Ⅱ	2
関連科目	
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2
総合講座Ⅳ	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2
インターンシップ	4
特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
ＦＬＰ演習Ａ	4

ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	
Ⅰ系	
英語１ａ	1
英語１ｂ	1
英語２ａ	1
英語２ｂ	1
ドイツ語１ａ	1
ドイツ語１ｂ	1
ドイツ語２ａ	1
ドイツ語２ｂ	1
フランス語１ａ	1
フランス語１ｂ	1
フランス語２ａ	1

フランス語２ｂ	1
中国語１ａ	1
中国語１ｂ	1
中国語２ａ	1
中国語２ｂ	1
スペイン語１ａ	1
スペイン語１ｂ	1
スペイン語２ａ	1
スペイン語２ｂ	1
朝鮮語１ａ	1
朝鮮語１ｂ	1
朝鮮語２ａ	1
朝鮮語２ｂ	1
英語３ａ	1
英語３ｂ	1
英語４ａ	1
英語４ｂ	1
ドイツ語３ａ	1
ドイツ語３ｂ	1
ドイツ語４ａ	1
ドイツ語４ｂ	1
フランス語３ａ	1
フランス語３ｂ	1
フランス語４ａ	1
フランス語４ｂ	1
中国語３ａ	1
中国語３ｂ	1
中国語４ａ	1
中国語４ｂ	1
スペイン語３ａ	1
スペイン語３ｂ	1
スペイン語４ａ	1
スペイン語４ｂ	1
朝鮮語３ａ	1
朝鮮語３ｂ	1
朝鮮語４ａ	1
朝鮮語４ｂ	1
Ⅱ系	
オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1

オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1
特設英語１ａ	1
特設英語１ｂ	1
特設英語２ａ	1
特設英語２ｂ	1
特設中国語１ａ	1
特設中国語１ｂ	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	1
特設ドイツ語１ａ	1
特設ドイツ語１ｂ	1
特設ドイツ語２ａ	1
特設ドイツ語２ｂ	1
特設フランス語１ａ	1
特設フランス語１ｂ	1
特設フランス語２ａ	1
特設フランス語２ｂ	1
特設中国語２ａ	1
特設中国語２ｂ	1

特設スペイン語１ａ	1
特設スペイン語１ｂ	1
特設スペイン語２ａ	1
特設スペイン語２ｂ	1
Ⅲ系	
上級英語１	2
上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2
上級英語６	2
上級ドイツ語１ａ	1
上級ドイツ語１ｂ	1
上級ドイツ語２ａ	1
上級ドイツ語２ｂ	1
上級フランス語１ａ	1
上級フランス語１ｂ	1
上級フランス語２ａ	1
上級フランス語２ｂ	1
上級中国語１ａ	1
上級中国語１ｂ	1
上級中国語２ａ	1
上級中国語２ｂ	1
上級スペイン語１ａ	1
上級スペイン語１ｂ	1
上級スペイン語２ａ	1
上級スペイン語２ｂ	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰａ	1
健康・スポーツ実習Ⅰｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅱａ	1
健康・スポーツ実習Ⅱｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅲａ	2
健康・スポーツ実習Ⅲｂ	2
総合教育科目	
基本科目	
人文科学	
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4

哲学概論	4
日本史概論	4
アジア史概論	4
欧米史概論	4
心理学概論	4
社会科学	
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
政治学概論	4
社会学概論	4
法学概論	4
社会人類学概論	4
自然科学	
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
地球科学概論	4
生命科学概論	4
微分積分Ⅰ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅰ	2
線形代数Ⅱ	2
確率・統計Ⅰ	2
確率・統計Ⅱ	2
倫理学	2
日本史	2
アジア史	2
欧米史	2
心理学	2
文学A	2
文学B	2
政治学	2
社会学	2
法学	2
社会人類学	2
人権論	2
地球科学	2
生命科学	2
物理科学	2
地球環境論	2
地誌学	2
国際教養A	2

国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4
教職科目	
外国史	2
人文地理学	2
自然地理学	2
社会科・地理歴史科教育法１	2
社会科・地理歴史科教育法２	2
社会科・公民科教育法１	2
社会科・公民科教育法２	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
商業科教育法１	2
商業科教育法２	2
大学院科目	
ポリティカルエコノミーⅠ	2
ポリティカルエコノミーⅡ	2
経済学史概論	2
経済史概論	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、124単位とする。

イ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　64単位を必修とする。ただし、卒業に必要な単位数に含めることができるのは122単位（外国人留学生については、120単位）を限度とする。

（２）　「経済入門」、「現代経済学入門」、「統計リテラシー」、「マルクス経済学」を必修とする。

（３）　学科基礎科目から12単位、学科発展科目から12単位、「国際経済学」から「環境経済学」までの授業科目の中から４単位、「公共政策」から「演習３」までの授業科目の中から12単位を必修とする。

（４）　「会計入門」から「産業構造論」までの授業科目の中から12単位を必修とする。ただし、「西洋経済史」「日本経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の12単位に含めることができるのは４単位とする。

（５）　自由選択科目には、大学院科目から修得した単位を含める。

（６）　「キャリア・デザイン・ワークショップ」「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位を必修とする。

（２）　英語６単位、Ｉ系からその他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）　「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までを必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

（商学部、基幹理工学部、社会理工学部、先進理工学部、文学部、総合政策学部、

国際経営学部、国際情報学部　省略）

教職基幹科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
教育の理念と歴史	2
教職の基礎	2
教育と社会・制度	2
発達と学習の心理	2

特別支援教育の基礎	2
道徳教育の理論と方法	2
教育課程と総合的な学習の時間	2
生徒指導と特別活動	2
教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む）	2
教育相談と進路指導	2
教育実習Ⅰ（事前・事後指導の１単位を含む。）	3
教育実習Ⅱ	2
教職実践演習	2
学校インターンシップ１	1
学校インターンシップ２	1

二　履修方法

ア　「教育の理念と歴史」から「特別支援教育の基礎」まで、「教育課程と総合的な学習の時間」から「教育実習Ⅰ（事前・事後指導の１単位を含む。）」まで、「教職実践演習」を各教科必修とする。

イ　「道徳教育の理論と方法」、「教育実習Ⅱ」は、免許状相当教科必修とする（中一種免）。

ウ　「学校インターンシップ１」、「学校インターンシップ２」は各教科選択とする。

別表第二の二（第三十二条第四項関係）

学芸員資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	2
社会教育概論（２）	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館実習	3
博物館情報・メディア論	2
博物館教育論	2
古文書学（１）	2
古文書学（２）	2
古文書学（３）	2
美術史概論A	2
美術史概論B	2
古文書学演習（１）	2
古文書学演習（２）	2
古文書学演習（３）	2
考古学実習	2
美術史美術館入門演習（１）	4
美術史美術館入門演習（２）	4
考古学A	2
考古学B	2
記録史料学A	2
記録史料学B	2
日本文化史A	2
日本文化史B	2
東洋美術史A	2
東洋美術史B	2
東洋考古学A	2
東洋考古学B	2
日本美術史（近世以前）	2
日本美術史（近現代）	2
西洋美術史（近代以前）	2
西洋美術史（近現代）	2

民俗学（学史・理論）	2
民俗学（記録・分析）	2

二　履修方法

（1）　「博物館概論」から「博物館教育論」までを必修とする。

（2）　「社会教育概論(1)」、「社会教育概論(2)」までの授業科目の中から２単位、「古文書学(1)」から「美術史概論B」までの授業科目の中から２単位、「古文書学演習(1)」から「美術史美術館入門演習（2）」までの授業科目の中から２単位、「考古学A」から「民俗学（記録・分析）」までの授業科目の中から８単位を必修とする。

別表第二の三（第三十二条第四項関係）

社会教育主事資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	２
社会教育概論（２）	２
生涯学習経営論（１）	２
生涯学習経営論（２）	２
生涯学習支援論（１）	２
生涯学習支援論（２）	２
社会教育演習（１）	２
社会教育演習（２）	２
社会教育実習	１
社会教育特講（１）	２
社会教育特講（２）	２
社会教育特講（３）	２
社会教育特講（４）	２
キャリア教育論	２
生涯教育論	２
生涯発達心理学	２
健康教育学	２
図書館サービス概論	２
博物館教育論	２

二　履修方法

（１）　「社会教育概論（１）」から「社会教育実習」までを必修とする。

（２）　「社会教育特講（１）」から「博物館教育論」までの授業科目の中から８単位を必修とする。

別表第二の四（第三十二条第四項関係）

司書資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
社会教育概論（１）	２
社会教育概論（２）	２
図書館情報学概論	２
図書館情報技術論	２
図書館・情報センター経営論	２
図書館サービス概論	２
情報サービス論	２
児童サービス論	２
情報サービス演習（１）	２
情報サービス演習（２）	２
図書館情報資源概論	２
情報資源組織論	２
情報資源組織演習（１）	２
情報資源組織演習（２）	２
専門資料論	２
学校図書館サービス論	２
アーカイブ論	２
図書・図書館史	２
図書館情報学実習	２

二　履修方法

（１）　「社会教育概論（１）」、「社会教育概論（２）」、「図書館情報学概論」から「情報資源組織演習（２）」までを必修とする。

（２）　「専門資料論」から「図書館情報学実習」までの授業科目の中から４単位を必修とする。

別表第二の五（第三十二条第四項関係）

司書教諭資格取得のために必要な授業科目

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
学校図書館論	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

二　履修方法

「学校図書館論」から「情報メディアの活用」までを必修とする。

別表第二の六（第六十一条の三第五項関係）

外国人留学生に関する特別科目（日本語科目）

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
日本語ＡⅠ（１）	1
日本語ＡⅡ（１）	1
日本語ＡⅢ（１）	1
日本語ＡⅣ（１）	1
日本語ＡⅠ（２）	1
日本語ＡⅡ（２）	1
日本語ＡⅢ（２）	1
日本語ＡⅣ（２）	1
日本語ＡⅠ（３）	1
日本語ＡⅡ（３）	1
日本語ＡⅢ（３）	1
日本語ＡⅣ（３）	1
日本語ＡⅠ（４）	1
日本語ＡⅡ（４）	1
日本語ＡⅢ（４）	1
日本語ＡⅣ（４）	1
日本語ＢⅠ（１）	1
日本語ＢⅡ（１）	1
日本語ＢⅠ（２）	1
日本語ＢⅡ（２）	1
日本語ＢⅠ（３）	1
日本語ＢⅡ（３）	1
日本語ＢⅠ（４）	1
日本語ＢⅡ（４）	1
日本語（読解）１ａ	1
日本語（読解）１ｂ	1
日本語（表現）１ａ	1
日本語（表現）１ｂ	1
日本語（読解）２ａ	1
日本語（読解）２ｂ	1
日本語（表現）２ａ	1
日本語（表現）２ｂ	1

二　履修方法

ア　日本語Ａのみを履修する日本語Ａコース（16単位必修）、日本語Ｂのみを履修する日本語Ｂコース（８単位必修）及び開講されている日本語科目から４単位を履修する日本語Ｃコース（４単位必修）を置き、いずれの方法で履修するかは、各学部が各人について指定する。

イ　修得した日本語の単位は、各学部の定めるところにより別表第二に掲げる外国語科目の卒業に必要な単位に代えることができる。

ウ　日本語Ａコース、日本語Ｂコース及び日本語Ｃコースのいずれかのコースを履修した者で、日本語の修得単位で外国語科目の卒業に必要な単位を充足しない者は、別表第二に掲げる外国語科目（本人が国籍を有する国の公用語を除く。）を履修しなければならない。当該外国語の履修の範囲及びその履修の方法については、各学部の定めるところによる。

エ　「日本語（読解）１a」から「日本語（表現）２b」までの授業科目は基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部に設置し、当該３学部に在学する外国人留学生に限り履修することができる。また、設置科目及び修得単位の扱いについては、基幹理工学部、社会理工学部及び先進理工学部が学科ごとに別に定める。

三　備考

この表に掲げる授業科目の履修は、外国人留学生に限る。

別表第三（第三十六条第二項関係）

学部	学科	免許状の種類及び教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	国際企業関係法学科	社会	公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
	社会経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
商学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業
	会計学科	社会	公民・商業
	国際マーケティング学科		商業
	金融学科		商業
基幹理工学部	数学科	数学	数学
	物理学科	数学・理科	数学・理科
	応用化学科	理科	理科
	生命科学科	理科	理科
社会理工学部	ビジネスデータサイエンス学科	数学	数学
先進理工学部	精密機械工学科	数学	数学・工業
	電気電子情報通信工学科	数学	数学・工業・情報
	情報工学科	数学	数学・情報
文学部	人文社会学科	国語	国語
		英語	英語
		ドイツ語	ドイツ語
		フランス語	フランス語
		中国語	中国語
		社会	地理歴史
			公民
総合政策学部	政策科学科	社会	公民
	国際政策文化学科	社会	公民

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 社会経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）

別表第四（第五十三条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
入学検定料	○○○、三五〇
推薦入学検定料	○○○、三五〇

別表第四の二（第五十三条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
第一次推薦入学検定料	○○○、一五〇
第二次推薦入学検定料	○○○、二〇〇

別表第四の三（第五十四条第一項関係）

（単位・円）

費目	金額
審査料A	○○○、一一〇
審査料B	○○○、五〇〇

（注）一　審査料Aは、第六十一条に基づく審査料
二　審査料Bは、第六十一条の二に基づく審査料

別表第五（第五十五条関係）

（単位・円）

入学金	○○○、二四〇

別表第六（第五十五条関係）

（単位・円）

学部	費目／年度	授業料	実験実習料	教育充実費	施設設備費
法学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	―――――	２８５，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	―――――	２９０，８００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	―――――	２９６，６００
経済学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	１５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	１５，０００	２４１，４００
商学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	１８，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	１８，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	１８，０００	２４１，４００
基幹理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
社会理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
先進理工学部	令和９年度	１，２４７，５００	１０９，６００	―――――	３１５，７００
	令和１０年度	１，２７２，４００	１０９，６００	―――――	３２２，０００
	令和１１年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１２年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
	令和１３年度	１，２９７，８００	１０９，６００	―――――	３２８，４００
文学部	令和９年度	８７３，６００	―――――	２５，０００	２３２，１００
	令和１０年度	８９１，０００	―――――	２５，０００	２３６，７００
	令和１１年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
	令和１２年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
	令和１３年度	９０８，８００	―――――	２５，０００	２４１，４００
総合政策学部	令和９年度	１，１４３，８００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，１６６，６００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１２年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１３年度	１，１８９，９００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際経営学部	令和９年度	１，００１，２００	―――――	５０，０００	２３２，１００
	令和１０年度	１，０２１，２００	―――――	５０，０００	２３６，７００
	令和１１年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１２年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
	令和１３年度	１，０４１，６００	―――――	５０，０００	２４１，４００
国際情報学部	令和９年度	１，０７８，９００	―――――	５０，０００	２４７，３００
	令和１０年度	１，１００，４００	―――――	５０，０００	２５２，２００
	令和１１年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
	令和１２年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００
	令和１３年度	１，１２２，４００	―――――	５０，０００	２５７，２００

（注）文学部は、当該年度において人文社会学科心理学専攻の第二年次以上に在学する者について教育充実費を要する。

別表第七（第五十五条関係）

（単位・円）

教職履修料	
学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭履修料	全学部	一八、〇〇〇
	文学部	八、〇〇〇

（注）　司書・司書教諭を併せて履修する場合の履修料は一資格とみなす。

変更事項を記載した書類

変更事項を記載した書類

＜変更の事由＞

・経済学部経済学科及び社会経済学科設置関連

現代が直面する多様で深刻な社会課題に対し、経済学と関連諸領域の高度な専門知識をもって適切な解決策を提示しうる人材を養成するため、今般、経済学部の現行４学科（経済学科、経済情報システム学科、国際経済学科及び公共・環境経済学科）を令和９年４月から募集停止し、その収容定員の再配分をもって新たに経済学部経済学科及び社会経済学科を設置するため。

＜変更点＞

別表第１、別表第２、別表第３、別表第３の２

以上

変更部分の新旧対照表

中央大学学則現行・改正案対照表

改正箇所は、アンダーラインで表示

現行	改正案
中央大学学則 規程第二百九十三号	中央大学学則 規程第二百九十三号
（学生定員） 第四条　第三条の学部及び学科の学生定員は、別表第一に掲げるとおりとする。	（学生定員） 第四条　（現行どおり。）
（授業） 第三十二条　本大学は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。	（授業） 第三十二条　（現行どおり。）
２　本大学の授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。授業科目の名称、単位数及び履修方法は、別表第二に掲げるとおりとし、年次配当その他については各教授会が別に定める。	２　（現行どおり。）
３　前項後段のほか、文学部に学芸員・社会教育主事・司書及び司書教諭の資格取得のために必要な授業科目を置く。	３　（現行どおり。）
４　前項の授業科目の名称、単位数及び履修方法は、別表第二の二、第二の三、第二の四及び第二の五に掲げるとおりとし、年次配当その他については各教授会が別に定める。	４　（現行どおり。）

（教育職員免許を取得しようとする者の履修方法） 第三十六条　教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目及び必要な授業科目を履修しなければならない。 ２　前項の履修により、本大学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表第三に掲げるとおりとする。 （専攻分野の名称） 第四十五条　学士の学位に付する専攻分野の名称は、その学部又は学科に従つて、別表第三の二に掲げるとおりとする。	（教育職員免許を取得しようとする者の履修方法） 第三十六条　（現行どおり。） ２　（現行どおり。） （専攻分野の名称） 第四十五条　（現行どおり。） 附　則（規程番号第三千二百三十九号） （施行期日） １　この学則は、令和九年四月一日から施行する。 （経過措置） ２　改正後のこの学則は、令和九年度以降の入学生から適用し、令和八年度以前の入学生については、なお従前の例による。 ３　令和八年度以前に置く経済学部経済学科、経済学部経済情報システム学科、経済学部国際経済学科及び経済学部公共・環境経済学科については、令和九年度から学生募集を停止し、当該学科に在学する者がいなくなるまでの間は存続する。
別表第一（第四条関係） 【別紙１参照】	別表第一（第四条関係） 【別紙２参照】
別表第二（第三十二条第二項関係） 経済学部	別表第二（第三十二条第二項関係） 経済学部

【別紙３参照】 （略） 別表第三（第三十六条第二項関係） 【別紙５参照】 別表第三の二（第四十五条関係） 【別紙７参照】	【別紙４参照】 （略） 別表第三（第三十六条第二項関係） 【別紙６参照】 別表第三の二（第四十五条関係） 【別紙８参照】

別紙１（現行）

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	467	1,868
	経済情報システム学科	180	720
	国際経済学科	265	1,060
	公共・環境経済学科	150	600
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
総計		6,281	25,124

別紙２（改正案）

別表第一（第四条関係）

（単位・人）

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法律学科	882	3,528
	国際企業関係法学科	168	672
	政治学科	389	1,556
	計	1,439	5,756
経済学部	経済学科	542	2,168
	社会経済学科	520	2,080
	計	1,062	4,248
商学部	経営学科	300	1,200
	会計学科	300	1,200
	国際マーケティング学科	300	1,200
	金融学科	120	480
	計	1,020	4,080
基幹理工学部	数学科	70	280
	物理学科	70	280
	応用化学科	145	580
	生命科学科	75	300
	計	360	1,440
社会理工学部	都市環境学科	90	360
	ビジネスデータサイエンス学科	115	460
	人間総合理工学科	75	300
	計	280	1,120
先進理工学部	精密機械工学科	145	580
	電気電子情報通信工学科	135	540
	情報工学科	100	400
	計	380	1,520
文学部	人文社会学科	990	3,960
	計	990	3,960
総合政策学部	政策科学科	150	600
	国際政策文化学科	150	600
	計	300	1,200
国際経営学部	国際経営学科	300	1,200
	計	300	1,200
国際情報学部	国際情報学科	150	600
	計	150	600
総計		6,281	25,124

別紙３（現行）

別表第二（第三十二条第二項関係）

経済学部経済学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
導入科目	
入門演習	2
経済入門	2
基礎数学A１	2
基礎数学B１	2
基礎数学A２	2
基礎数学B２	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
基礎科目	
基礎マクロ経済学	4
基礎ミクロ経済学	4
日本経済史	4
西洋経済史	4
マルクス経済学	4
経済政策論	4
経済学史	4
経済学科科目	
学科基本科目	
財政学	4
金融論Ⅰ	4
社会政策	4
社会思想史	4
中級マクロ経済学	4
中級ミクロ経済学	4
独占資本主義論	4
統計学	4
国際金融論	4
国際経済学	4
公共経済学	4
経済数学	4

経済変動論	4
金融論Ⅱ	4
マクロ会計論	2
日本経済論	4
産業組織論	4
租税論	4
計量経済学	4
証券市場論	4
地方財政論	4
経済総合クラスター演習	2
経済総合クラスター特殊講義	2
人口論	4
環境経済学	4
産業社会学	2
労働経済学	4
労使関係論	4
人口分析	4
社会保障論	4
社会福祉論	4
健康経済学	4
ジェンダーと労働	4
空間経済学	4
社会と環境	2
ヒューマンエコノミークラスター演習	2
ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	2
関連科目	
経営学	4
産業構造論	4
ICTスキル	4
簿記論	4
入門統計演習	2
入門ICT演習	2
地域システム	4
財務会計論	4
管理会計論	4
経営戦略論	4
経営組織論	4
交通経済論	4

農業経済論	4
中小企業論	4
公益企業論	4
生産システム	4
流通システム	4
環境会計論	4
先端産業論	2
ベンチャー起業論	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
企業経済クラスター特殊講義	2
情報数学	4
情報科学	4
応用統計	4
経済統計	4
システムデザイン	4
ICT応用演習	4
データ分析演習	2
経済情報クラスター特殊講義	2
世界経済論	4
国際経済政策	4
国際開発論	4
国際関係論	4
Economics Seminar Ⅰ	2
外国為替論	4
国際経営論	4
米国経済論	4
EU経済論	4
国際投資論	2
地域経済統合論	2
Economics SeminarⅡ	2
資源論	2
貿易・国際金融クラスター特殊講義	2
国際協力論	2
アジア経済論	4
開発と環境	2
多国籍企業論	2

中国経済論	2
開発金融論	2
アジア経営論	2
経済開発クラスター特殊講義	2
公共政策	4
国際公共政策	4
行政学	4
地方自治論	2
都市経営論	2
非営利組織論	2
地域ガバナンス論	2
費用便益分析	2
公共クラスター特殊講義	2
環境科学Ⅰ	2
環境科学Ⅱ	2
環境倫理学	2
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
企業と環境	2
環境リスク論	2
環境クラスター特殊講義	2
学部共通科目	
法律プログラム	
憲法	4
民法Ⅰ	4
商法Ⅰ	4
民法Ⅱ	4
商法Ⅱ	4
行政法	4
経済法	4
労働法	4
知的財産法	4
国際法	4
外国書講読（英）	4
外国書講読（独）	4
外国書講読（仏）	4
外国書講読（中）	4
学部共通インターンシップⅠ	2
学部共通インターンシップⅡ	2

インターンシップ	4
海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2
特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
演習１	4
演習２	4
課題演習	4
演習３	6
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2
総合講座Ⅳ	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	6
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2

グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A(１)	2
AI・データサイエンス演習A(２)	2
AI・データサイエンス演習B(１)	2
AI・データサイエンス演習B(２)	2
AI・データサイエンス演習C(１)	2
AI・データサイエンス演習C(２)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	
Ⅰ系	
英語１a	1
英語１b	1
英語２a	1
英語２b	1
英語３a	1
英語３b	1
英語４a	1
英語４b	1
ドイツ語１a	1
ドイツ語１b	1
ドイツ語２a	1
ドイツ語２b	1
ドイツ語３a	1
ドイツ語３b	1
ドイツ語４a	1
ドイツ語４b	1

フランス語１a	1
フランス語１b	1
フランス語２a	1
フランス語２b	1
フランス語３a	1
フランス語３b	1
フランス語４a	1
フランス語４b	1
中国語１a	1
中国語１b	1
中国語２a	1
中国語２b	1
中国語３a	1
中国語３b	1
中国語４a	1
中国語４b	1
スペイン語１a	1
スペイン語１b	1
スペイン語２a	1
スペイン語２b	1
スペイン語３a	1
スペイン語３b	1
スペイン語４a	1
スペイン語４b	1
朝鮮語１a	1
朝鮮語１b	1
朝鮮語２a	1
朝鮮語２b	1
朝鮮語３a	1
朝鮮語３b	1
朝鮮語４a	1
朝鮮語４b	1
Ⅱ系	
オーラル・コミュニケーション（英語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３b）	1

オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２b）	1
特設英語１a	1
特設英語１b	1
特設英語２a	1
特設英語２b	1
特設ドイツ語１a	1
特設ドイツ語１b	1
特設ドイツ語２a	1
特設ドイツ語２b	1
特設フランス語１a	1
特設フランス語１b	1
特設フランス語２a	1
特設フランス語２b	1
特設中国語１a	1
特設中国語１b	1
特設中国語２a	1
特設中国語２b	1
特設スペイン語１a	1
特設スペイン語１b	1
特設スペイン語２a	1

特設スペイン語２b	1
Ⅲ系	
上級英語１	2
上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2
上級英語６	2
上級ドイツ語１a	1
上級ドイツ語１b	1
上級ドイツ語２a	1
上級ドイツ語２b	1
上級フランス語１a	1
上級フランス語１b	1
上級フランス語２a	1
上級フランス語２b	1
上級中国語１a	1
上級中国語１b	1
上級中国語２a	1
上級中国語２b	1
上級スペイン語１a	1
上級スペイン語１b	1
上級スペイン語２a	1
上級スペイン語２b	1
上級朝鮮語１a	1
上級朝鮮語１b	1
上級朝鮮語２a	1
上級朝鮮語２b	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰa	1
健康・スポーツ実習Ⅰb	1
健康・スポーツ実習Ⅱa	1
健康・スポーツ実習Ⅱb	1
健康・スポーツ実習Ⅲa	2
健康・スポーツ実習Ⅲb	2
健康・スポーツ実習Ⅳ	2
総合教育科目	
基本科目	

人文科学	
哲学概論	4
倫理学	2
日本史Ⅰ	2
アジア史Ⅰ	2
欧米史Ⅰ	2
社会心理学Ⅰ	2
文学Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4
社会科学	
政治学概論	4
政治学Ⅰ	2
社会学Ⅰ	2
法学Ⅰ	2
社会人類学Ⅰ	2
人権論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
自然科学	
地球科学概論	4
生命科学Ⅰ	2
地球科学Ⅰ	2
物理科学Ⅰ	2
微分積分Ⅰ	2
線形代数Ⅰ	2
地球環境論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
日本史Ⅱ	2
アジア史Ⅱ	2
欧米史Ⅱ	2
社会心理学Ⅱ	2
文学Ⅱ	2
地誌学	2
政治学Ⅱ	2
社会学Ⅱ	2
法学Ⅱ	2
社会人類学Ⅱ	2
人権論Ⅱ	2
生命科学Ⅱ	2
地球科学Ⅱ	2

物理科学Ⅱ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅱ	2
地球環境論Ⅱ	2
国際教養A	2
国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4
教職科目	
外国史	2
人文地理学	2
自然地理学	2
社会科・地理歴史科教育法１	2
社会科・地理歴史科教育法２	2
社会科・公民科教育法１	2
社会科・公民科教育法２	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
商業科教育法１	2
商業科教育法２	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、133単位とする。

イ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　62単位を必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは128単位（外国人留学生については、126単位）を限度とする。

（３）　「基礎マクロ経済学」、「基礎ミクロ経済学」を必修とする。また、「日本経済史」から「経済学史」までの授業科目の中から８単位を必修とする。ただし、「日本経済史」、「西洋経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。

（４）　「財政学」から「社会思想史」までの授業科目の中から８単位、「中級マクロ経済学」から「独占資本主義論」までの授業科目の中から４単位、「統計学」から「ヒューマンエコノミークラスター特殊講義」までの授業科目の中から12単位を必修とする。

（５）　「キャリア・デザイン・ワークショップ」、「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位（外国人留学生については、16単位）を必修とする。

（２）　英語６単位、その他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）　「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までの授業科目を必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

経済学部経済情報システム学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
導入科目	
入門演習	2
経済入門	2
基礎数学A１	2
基礎数学B１	2
基礎数学A２	2
基礎数学B２	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
基礎科目	
基礎マクロ経済学	4

基礎ミクロ経済学	4
日本経済史	4
西洋経済史	4
マルクス経済学	4
経済政策論	4
経済学史	4
経済情報システム学科科目	
学科基本科目	
統計学	4
経営学	4
産業構造論	4
ICTスキル	4
空間経済学	4
簿記論	4
入門統計演習	2
入門ICT演習	2
地域システム	4
財務会計論	4
管理会計論	4
産業社会学	2
経営戦略論	4
経営組織論	4
産業組織論	4
交通経済論	4
農業経済論	4
中小企業論	4
公益企業論	4
労働経済学	4
生産システム	4
流通システム	4
環境会計論	4
先端産業論	2
ベンチャー起業論	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
企業経済クラスター演習	2
企業経済クラスター特殊講義	2

情報数学	4
情報科学	4
計量経済学	4
応用統計	4
経済統計	4
システムデザイン	4
マクロ会計論	2
ICT応用演習	4
データ分析演習	2
経済情報クラスター演習	2
経済情報クラスター特殊講義	2
関連科目	
財政学	4
金融論Ⅰ	4
社会政策	4
社会思想史	4
中級マクロ経済学	4
中級ミクロ経済学	4
独占資本主義論	4
経済数学	4
経済変動論	4
金融論Ⅱ	4
日本経済論	4
租税論	4
証券市場論	4
地方財政論	4
経済総合クラスター特殊講義	2
人口論	4
環境経済学	4
労使関係論	4
人口分析	4
社会保障論	4
社会福祉論	4
健康経済学	4
ジェンダーと労働	4
社会と環境	2
ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	2
国際経済学	4
国際金融論	4

世界経済論	4
国際経済政策	4
国際開発論	4
国際関係論	4
Economics　Seminar Ⅰ	2
外国為替論	4
国際経営論	4
米国経済論	4
EU経済論	4
国際投資論	2
地域経済統合論	2
Economics　SeminarⅡ	2
資源論	2
貿易・国際金融クラスター特殊講義	2
国際協力論	2
アジア経済論	4
開発と環境	2
多国籍企業論	2
中国経済論	2
開発金融論	2
アジア経営論	2
経済開発クラスター特殊講義	2
公共経済学	4
公共政策	4
国際公共政策	4
行政学	4
地方自治論	2
都市経営論	2
非営利組織論	2
地域ガバナンス論	2
費用便益分析	2
公共クラスター特殊講義	2
環境科学Ⅰ	2
環境科学Ⅱ	2
環境倫理学	2
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
企業と環境	2
環境リスク論	2

環境クラスター特殊講義	2
学部共通科目	
法律プログラム	
憲法	4
民法Ⅰ	4
商法Ⅰ	4
民法Ⅱ	4
商法Ⅱ	4
行政法	4
経済法	4
労働法	4
知的財産法	4
国際法	4
外国書講読（英）	4
外国書講読（独）	4
外国書講読（仏）	4
外国書講読（中）	4
学部共通インターンシップⅠ	2
学部共通インターンシップⅡ	2
インターンシップ	4
海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2
特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
演習１	4
演習２	4
課題演習	4
演習３	6
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2

総合講座Ⅳ	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	6
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A(１)	2
AI・データサイエンス演習A(２)	2
AI・データサイエンス演習B(１)	2
AI・データサイエンス演習B(２)	2
AI・データサイエンス演習C(１)	2
AI・データサイエンス演習C(２)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2

大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	
Ⅰ系	
英語１a	1
英語１b	1
英語２a	1
英語２b	1
英語３a	1
英語３b	1
英語４a	1
英語４b	1
ドイツ語１a	1
ドイツ語１b	1
ドイツ語２a	1
ドイツ語２b	1
ドイツ語３a	1
ドイツ語３b	1
ドイツ語４a	1
ドイツ語４b	1
フランス語１a	1
フランス語１b	1
フランス語２a	1
フランス語２b	1
フランス語３a	1
フランス語３b	1
フランス語４a	1
フランス語４b	1
中国語１a	1
中国語１b	1
中国語２a	1
中国語２b	1
中国語３a	1
中国語３b	1
中国語４a	1
中国語４b	1
スペイン語１a	1
スペイン語１b	1
スペイン語２a	1
スペイン語２b	1

スペイン語３a	1
スペイン語３b	1
スペイン語４a	1
スペイン語４b	1
朝鮮語１a	1
朝鮮語１b	1
朝鮮語２a	1
朝鮮語２b	1
朝鮮語３a	1
朝鮮語３b	1
朝鮮語４a	1
朝鮮語４b	1
Ⅱ系	
オーラル・コミュニケーション（英語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３b）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２b）	1

特設英語１a	1
特設英語１b	1
特設英語２a	1
特設英語２b	1
特設ドイツ語１a	1
特設ドイツ語１b	1
特設ドイツ語２a	1
特設ドイツ語２b	1
特設フランス語１a	1
特設フランス語１b	1
特設フランス語２a	1
特設フランス語２b	1
特設中国語１a	1
特設中国語１b	1
特設中国語２a	1
特設中国語２b	1
特設スペイン語１a	1
特設スペイン語１b	1
特設スペイン語２a	1
特設スペイン語２b	1
Ⅲ系	
上級英語１	2
上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2
上級英語６	2
上級ドイツ語１a	1
上級ドイツ語１b	1
上級ドイツ語２a	1
上級ドイツ語２b	1
上級フランス語１a	1
上級フランス語１b	1
上級フランス語２a	1
上級フランス語２b	1
上級中国語１a	1
上級中国語１b	1
上級中国語２a	1
上級中国語２b	1

上級スペイン語１a	1
上級スペイン語１b	1
上級スペイン語２a	1
上級スペイン語２b	1
上級朝鮮語１a	1
上級朝鮮語１b	1
上級朝鮮語２a	1
上級朝鮮語２b	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰa	1
健康・スポーツ実習Ⅰb	1
健康・スポーツ実習Ⅱa	1
健康・スポーツ実習Ⅱb	1
健康・スポーツ実習Ⅲa	2
健康・スポーツ実習Ⅲb	2
健康・スポーツ実習Ⅳ	2
総合教育科目	
基本科目	
人文科学	
哲学概論	4
倫理学	2
日本史Ⅰ	2
アジア史Ⅰ	2
欧米史Ⅰ	2
社会心理学Ⅰ	2
文学Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4
社会科学	
政治学概論	4
政治学Ⅰ	2
社会学Ⅰ	2
法学Ⅰ	2
社会人類学Ⅰ	2
人権論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
自然科学	
地球科学概論	4
生命科学Ⅰ	2

地球科学Ⅰ	2
物理科学Ⅰ	2
微分積分Ⅰ	2
線形代数Ⅰ	2
地球環境論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
日本史Ⅱ	2
アジア史Ⅱ	2
欧米史Ⅱ	2
社会心理学Ⅱ	2
文学Ⅱ	2
地誌学	2
政治学Ⅱ	2
社会学Ⅱ	2
法学Ⅱ	2
社会人類学Ⅱ	2
人権論Ⅱ	2
生命科学Ⅱ	2
地球科学Ⅱ	2
物理科学Ⅱ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅱ	2
地球環境論Ⅱ	2
国際教養A	2
国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4
教職科目	
日本史	2
外国史	2

人文地理学	2
自然地理学	2
地誌学	2
社会科・地理歴史科教育法１	2
社会科・地理歴史科教育法２	2
社会科・公民科教育法１	2
社会科・公民科教育法２	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
商業科教育法１	2
商業科教育法２	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、133単位とする。

イ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　62単位を必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは128単位（外国人留学生については、126単位）を限度とする。

（３）　「基礎マクロ経済学」、「基礎ミクロ経済学」を必修とする。また、「日本経済史」から「経済学史」までの授業科目の中から８単位を必修とする。ただし、「日本経済史」、「西洋経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。

（４）　学科基本科目の中から12単位、「簿記論」から「経済情報クラスター特殊講義」までの授業科目の中から12単位を必修とする。

（５）　「キャリア・デザイン・ワークショップ」、「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位（外国人留学生については、16単位）を必修とする。

（２）　英語６単位、その他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）　「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ⅰb」までの授業科目を必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

経済学部国際経済学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
導入科目	
入門演習	2
経済入門	2
基礎数学A１	2
基礎数学B１	2
基礎数学A２	2
基礎数学B２	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
基礎科目	
基礎マクロ経済学	4
基礎ミクロ経済学	4
日本経済史	4
西洋経済史	4
マルクス経済学	4
経済政策論	4
経済学史	4
国際経済学科科目	
学科基本科目	
国際経済学	4
国際金融論	4
世界経済論	4
国際経済政策	4
国際開発論	4
国際関係論	4
金融論Ⅰ	4
Economics　Seminar Ⅰ	2
外国為替論	4
国際経営論	4
米国経済論	4
EU経済論	4

国際公共政策	4
交通経済論	4
国際投資論	2
地域経済統合論	2
Economics　SeminarⅡ	2
資源論	2
貿易・国際金融クラスター演習	2
貿易・国際金融クラスター特殊講義	2
人口論	4
産業構造論	4
国際協力論	2
アジア経済論	4
日本経済論	4
中小企業論	4
農業経済論	4
空間経済学	4
開発と環境	2
多国籍企業論	2
中国経済論	2
開発金融論	2
アジア経営論	2
経済開発クラスター演習	2
経済開発クラスター特殊講義	2
関連科目	
財政学	4
社会政策	4
社会思想史	4
中級マクロ経済学	4
中級ミクロ経済学	4
独占資本主義論	4
経済数学	4
経済変動論	4
金融論Ⅱ	4
マクロ会計論	2
産業組織論	4
租税論	4
計量経済学	4
証券市場論	4
地方財政論	4

経済総合クラスター特殊講義	2
環境経済学	4
産業社会学	2
労働経済学	4
労使関係論	4
人口分析	4
社会保障論	4
社会福祉論	4
健康経済学	4
ジェンダーと労働	4
社会と環境	2
ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	2
統計学	4
経営学	4
ICTスキル	4
簿記論	4
入門統計演習	2
入門ICT演習	2
地域システム	4
財務会計論	4
管理会計論	4
経営戦略論	4
経営組織論	4
公益企業論	4
生産システム	4
流通システム	4
環境会計論	4
先端産業論	2
ベンチャー起業論	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
企業経済クラスター特殊講義	2
情報数学	4
情報科学	4
応用統計	4
経済統計	4
システムデザイン	4

ICT応用演習	4
データ分析演習	2
経済情報クラスター特殊講義	2
公共経済学	4
公共政策	4
行政学	4
地方自治論	2
都市経営論	2
非営利組織論	2
地域ガバナンス論	2
費用便益分析	2
公共クラスター特殊講義	2
環境科学Ⅰ	2
環境科学Ⅱ	2
環境倫理学	2
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
企業と環境	2
環境リスク論	2
環境クラスター特殊講義	2
学部共通科目	
法律プログラム	
憲法	4
民法Ⅰ	4
商法Ⅰ	4
民法Ⅱ	4
商法Ⅱ	4
行政法	4
経済法	4
労働法	4
知的財産法	4
国際法	4
外国書講読（英）	4
外国書講読（独）	4
外国書講読（仏）	4
外国書講読（中）	4
学部共通インターンシップⅠ	2
学部共通インターンシップⅡ	2
インターンシップ	4

海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2
特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
演習１	4
演習２	4
課題演習	4
演習３	6
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2
総合講座Ⅳ	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	6
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1

グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A(１)	2
AI・データサイエンス演習A(２)	2
AI・データサイエンス演習B(１)	2
AI・データサイエンス演習B(２)	2
AI・データサイエンス演習C(１)	2
AI・データサイエンス演習C(２)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	
Ⅰ系	
英語１a	1
英語１b	1
英語２a	1
英語２b	1
英語３a	1
英語３b	1
英語４a	1
英語４b	1
ドイツ語１a	1
ドイツ語１b	1
ドイツ語２a	1
ドイツ語２b	1
ドイツ語３a	1
ドイツ語３b	1
ドイツ語４a	1
ドイツ語４b	1
フランス語１a	1

フランス語１b	1
フランス語２a	1
フランス語２b	1
フランス語３a	1
フランス語３b	1
フランス語４a	1
フランス語４b	1
中国語１a	1
中国語１b	1
中国語２a	1
中国語２b	1
中国語３a	1
中国語３b	1
中国語４a	1
中国語４b	1
スペイン語１a	1
スペイン語１b	1
スペイン語２a	1
スペイン語２b	1
スペイン語３a	1
スペイン語３b	1
スペイン語４a	1
スペイン語４b	1
朝鮮語１a	1
朝鮮語１b	1
朝鮮語２a	1
朝鮮語２b	1
朝鮮語３a	1
朝鮮語３b	1
朝鮮語４a	1
朝鮮語４b	1
Ⅱ系	
オーラル・コミュニケーション（英語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３b）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１a）	1

オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２b）	1
特設英語１a	1
特設英語１b	1
特設英語２a	1
特設英語２b	1
特設ドイツ語１a	1
特設ドイツ語１b	1
特設ドイツ語２a	1
特設ドイツ語２b	1
特設フランス語１a	1
特設フランス語１b	1
特設フランス語２a	1
特設フランス語２b	1
特設中国語１a	1
特設中国語１b	1
特設中国語２a	1
特設中国語２b	1
特設スペイン語１a	1
特設スペイン語１b	1
特設スペイン語２a	1
特設スペイン語２b	1

Ⅲ系	
上級英語１	2
上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2
上級英語６	2
上級ドイツ語１a	1
上級ドイツ語１b	1
上級ドイツ語２a	1
上級ドイツ語２b	1
上級フランス語１a	1
上級フランス語１b	1
上級フランス語２a	1
上級フランス語２b	1
上級中国語１a	1
上級中国語１b	1
上級中国語２a	1
上級中国語２b	1
上級スペイン語１a	1
上級スペイン語１b	1
上級スペイン語２a	1
上級スペイン語２b	1
上級朝鮮語１a	1
上級朝鮮語１b	1
上級朝鮮語２a	1
上級朝鮮語２b	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰa	1
健康・スポーツ実習Ⅰb	1
健康・スポーツ実習Ⅱa	1
健康・スポーツ実習Ⅱb	1
健康・スポーツ実習Ⅲa	2
健康・スポーツ実習Ⅲb	2
健康・スポーツ実習Ⅳ	2
総合教育科目	

基本科目	
人文科学	
哲学概論	4
倫理学	2
日本史Ⅰ	2
アジア史Ⅰ	2
欧米史Ⅰ	2
社会心理学Ⅰ	2
文学Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4
社会科学	
政治学概論	4
政治学Ⅰ	2
社会学Ⅰ	2
法学Ⅰ	2
社会人類学Ⅰ	2
人権論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
自然科学	
地球科学概論	4
生命科学Ⅰ	2
地球科学Ⅰ	2
物理科学Ⅰ	2
微分積分Ⅰ	2
線形代数Ⅰ	2
地球環境論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
日本史Ⅱ	2
アジア史Ⅱ	2
欧米史Ⅱ	2
社会心理学Ⅱ	2
文学Ⅱ	2
地誌学	2
政治学Ⅱ	2
社会学Ⅱ	2
法学Ⅱ	2
社会人類学Ⅱ	2
人権論Ⅱ	2
生命科学Ⅱ	2

地球科学Ⅱ	2
物理科学Ⅱ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅱ	2
地球環境論Ⅱ	2
国際教養A	2
国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、133単位とする。

イ　専門教育科目は、以下のとおりとする。

（1）　62単位を必修とする。

（2）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは128単位（外国人留学生については、126単位）を限度とする。

（3）　「基礎マクロ経済学」、「基礎ミクロ経済学」を必修とする。また、「日本経済史」から「経済学史」までの授業科目の中から８単位を必修とする。ただし、「日本経済史」、「西洋経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。

（4）　「国際経済学」を必修とする。「国際金融論」から「国際開発論」 までの授業科目の中から８単位、「国際関係論」から「経済開発クラスター特殊講義」までの授業科目の中から12単位を必修とする。

（5）　「キャリア・デザイン・ワークショップ」、「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位（外国人留学生については、16単位）を必修とする。

（２）　英語６単位、その他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）　「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までの授業科目を必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

経済学部公共・環境経済学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
導入科目	
入門演習	2
経済入門	2
基礎数学A１	2
基礎数学B１	2
基礎数学A２	2
基礎数学B２	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
基礎科目	
基礎マクロ経済学	4
基礎ミクロ経済学	4
日本経済史	4
西洋経済史	4
マルクス経済学	4
経済政策論	4
経済学史	4
公共・環境経済学科科目	
学科基本科目	
公共経済学	4
財政学	4
環境経済学	4
公共政策	4
国際公共政策	4
行政学	4
地域システム	4
国際関係論	4
租税論	4
地方財政論	4
社会保障論	4
健康経済学	4
地方自治論	2
都市経営論	2
非営利組織論	2
地域ガバナンス論	2

費用便益分析	2
公共クラスター演習	2
公共クラスター特殊講義	2
人口論	4
環境科学Ⅰ	2
環境科学Ⅱ	2
環境倫理学	2
環境会計論	4
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
開発と環境	2
社会と環境	2
企業と環境	2
環境リスク論	2
環境クラスター演習	2
環境クラスター特殊講義	2
関連科目	
金融論Ⅰ	4
社会政策	4
社会思想史	4
中級マクロ経済学	4
中級ミクロ経済学	4
独占資本主義論	4
経済数学	4
経済変動論	4
金融論Ⅱ	4
マクロ会計論	2
日本経済論	4
産業組織論	4
計量経済学	4
証券市場論	4
経済総合クラスター特殊講義	2
産業社会学	2
労働経済学	4
労使関係論	4
人口分析	4
社会福祉論	4
ジェンダーと労働	4
ヒューマンエコノミークラスター特殊講義	2

統計学	4
経営学	4
産業構造論	4
ICTスキル	4
空間経済学	4
簿記論	4
入門統計演習	2
入門ICT演習	2
財務会計論	4
管理会計論	4
経営戦略論	4
経営組織論	4
交通経済論	4
農業経済論	4
中小企業論	4
公益企業論	4
生産システム	4
流通システム	4
先端産業論	2
ベンチャー起業論	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
企業経済クラスター特殊講義	2
情報数学	4
情報科学	4
応用統計	4
経済統計	4
システムデザイン	4
ICT応用演習	4
データ分析演習	2
経済情報クラスター特殊講義	2
国際経済学	4
国際金融論	4
世界経済論	4
国際経済政策	4
国際開発論	4
Economics　Seminar Ⅰ	2

外国為替論	4
国際経営論	4
米国経済論	4
EU経済論	4
国際投資論	2
地域経済統合論	2
Economics　SeminarⅡ	2
資源論	2
貿易・国際金融クラスター特殊講義	2
国際協力論	2
アジア経済論	4
多国籍企業論	2
中国経済論	2
開発金融論	2
アジア経営論	2
経済開発クラスター特殊講義	2
学部共通科目	
法律プログラム	
憲法	4
民法Ⅰ	4
商法Ⅰ	4
民法Ⅱ	4
商法Ⅱ	4
行政法	4
経済法	4
労働法	4
知的財産法	4
国際法	4
外国書講読（英）	4
外国書講読（独）	4
外国書講読（仏）	4
外国書講読（中）	4
学部共通インターンシップⅠ	2
学部共通インターンシップⅡ	2
インターンシップ	4
海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2

特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
演習１	4
演習２	4
課題演習	4
演習３	6
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2
総合講座Ⅳ	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
短期留学プログラム（英語で学ぶ経済学）	6
キャリア・デザイン・ワークショップ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
FLP演習A	4
FLP演習B	4
FLP演習C	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1

短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A(１)	2
AI・データサイエンス演習A(２)	2
AI・データサイエンス演習B(１)	2
AI・データサイエンス演習B(２)	2
AI・データサイエンス演習C(１)	2
AI・データサイエンス演習C(２)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	
Ⅰ系	
英語１a	1
英語１b	1
英語２a	1
英語２b	1
英語３a	1
英語３b	1
英語４a	1
英語４b	1
ドイツ語１a	1
ドイツ語１b	1
ドイツ語２a	1
ドイツ語２b	1
ドイツ語３a	1
ドイツ語３b	1
ドイツ語４a	1
ドイツ語４b	1
フランス語１a	1
フランス語１b	1
フランス語２a	1

フランス語２b	1
フランス語３a	1
フランス語３b	1
フランス語４a	1
フランス語４b	1
中国語１a	1
中国語１b	1
中国語２a	1
中国語２b	1
中国語３a	1
中国語３b	1
中国語４a	1
中国語４b	1
スペイン語１a	1
スペイン語１b	1
スペイン語２a	1
スペイン語２b	1
スペイン語３a	1
スペイン語３b	1
スペイン語４a	1
スペイン語４b	1
朝鮮語１a	1
朝鮮語１b	1
朝鮮語２a	1
朝鮮語２b	1
朝鮮語３a	1
朝鮮語３b	1
朝鮮語４a	1
朝鮮語４b	1
Ⅱ系	
オーラル・コミュニケーション（英語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３a）	1
オーラル・コミュニケーション（英語３b）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２a）	1

オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１b）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２a）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２b）	1
特設英語１a	1
特設英語１b	1
特設英語２a	1
特設英語２b	1
特設ドイツ語１a	1
特設ドイツ語１b	1
特設ドイツ語２a	1
特設ドイツ語２b	1
特設フランス語１a	1
特設フランス語１b	1
特設フランス語２a	1
特設フランス語２b	1
特設中国語１a	1
特設中国語１b	1
特設中国語２a	1
特設中国語２b	1
特設スペイン語１a	1
特設スペイン語１b	1
特設スペイン語２a	1
特設スペイン語２b	1
Ⅲ系	
上級英語１	2

上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2
上級英語６	2
上級ドイツ語１a	1
上級ドイツ語１b	1
上級ドイツ語２a	1
上級ドイツ語２b	1
上級フランス語１a	1
上級フランス語１b	1
上級フランス語２a	1
上級フランス語２b	1
上級中国語１a	1
上級中国語１b	1
上級中国語２a	1
上級中国語２b	1
上級スペイン語１a	1
上級スペイン語１b	1
上級スペイン語２a	1
上級スペイン語２b	1
上級朝鮮語１a	1
上級朝鮮語１b	1
上級朝鮮語２a	1
上級朝鮮語２b	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰa	1
健康・スポーツ実習Ⅰb	1
健康・スポーツ実習Ⅱa	1
健康・スポーツ実習Ⅱb	1
健康・スポーツ実習Ⅲa	2
健康・スポーツ実習Ⅲb	2
健康・スポーツ実習Ⅳ	2
総合教育科目	
基本科目	
人文科学	
哲学概論	4
倫理学	2

日本史Ⅰ	2
アジア史Ⅰ	2
欧米史Ⅰ	2
社会心理学Ⅰ	2
文学Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4
社会科学	
政治学概論	4
政治学Ⅰ	2
社会学Ⅰ	2
法学Ⅰ	2
社会人類学Ⅰ	2
人権論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
自然科学	
地球科学概論	4
生命科学Ⅰ	2
地球科学Ⅰ	2
物理科学Ⅰ	2
微分積分Ⅰ	2
線形代数Ⅰ	2
地球環境論Ⅰ	2
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
日本史Ⅱ	2
アジア史Ⅱ	2
欧米史Ⅱ	2
社会心理学Ⅱ	2
文学Ⅱ	2
地誌学	2
政治学Ⅱ	2
社会学Ⅱ	2
法学Ⅱ	2
社会人類学Ⅱ	2
人権論Ⅱ	2
生命科学Ⅱ	2
地球科学Ⅱ	2
物理科学Ⅱ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅱ	2

地球環境論Ⅱ	2
国際教養A	2
国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4
教職科目	
日本史	2
外国史	2
人文地理学	2
自然地理学	2
地誌学	2
社会科・地理歴史科教育法１	2
社会科・地理歴史科教育法２	2
社会科・公民科教育法１	2
社会科・公民科教育法２	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、133単位とする。

イ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　62単位を必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは128単位（外国人留学生については、126単位）を限度とする。

（３）　「基礎マクロ経済学」、「基礎ミクロ経済学」を必修とする。また、「日本経済史」から「経済学史」までの授業科目の中から８単位を必修とする。ただし、「日本経済史」、「西洋経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。

（４）　学科基本科目の中から16単位、「地域システム」から「環境クラスター特殊講義」までの授業科目の中から８単位を必修とする。

（５）　「キャリア・デザイン・ワークショップ」、「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位（外国人留学生については、16単位）を必修とする。

（２）　英語６単位、その他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）　「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までの授業科目を必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

別紙４　（改正案）

別表第二（第三十二条第二項関係）

経済学部経済学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
学科科目	
学科導入科目	
経済入門	2
基礎ミクロ経済学	4
基礎数学	2
統計リテラシー	2
基礎マクロ経済学	4
学科基礎科目	
経済政策論	4
中級ミクロ経済学	4
人口論	4
空間経済学	4
金融論	4
公共経済学	4
国際経済学	4
財政学	4
中級マクロ経済学	4
環境経済学	4
国際金融論	4
国際開発論	4
学科発展科目	
ゲーム理論Ⅰ	2
計量経済学	4
実践経済データ分析Ⅰ	2
実践経済データ分析Ⅱ	2
実践経済データ分析Ⅲ	2
実践経済データ分析Ⅳ	2
ゲーム理論Ⅱ	2
公共政策	4
交通経済論	4
国際公共政策	4
世界経済論	4
国際経済政策	4
地方財政論	4
労働経済学	4
経済変動論	2
数理経済学	2
公益企業論	4
環境会計論	4
外国為替論	4
金融制度論	4
学科関連科目	

経済数学Ⅰ	2
Economics SeminarⅠ	2
国際協力論	2
経済数学Ⅱ	2
アジア経済論Ⅰ	2
アジア経済論Ⅱ	2
産業組織論Ⅰ	2
産業組織論Ⅱ	2
費用便益分析	2
開発と環境	2
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
健康経済学Ⅰ	2
健康経済学Ⅱ	2
租税論	2
国際投資論	2
日本経済論Ⅰ	2
日本経済論Ⅱ	2
社会と環境	2
企業と環境	2
開発金融論	2
環境リスク論	2
中国経済論	2
Economics SeminarⅡ	2
EU経済論Ⅰ	2
EU経済論Ⅱ	2
米国経済論Ⅰ	2
米国経済論Ⅱ	2
多国籍企業論	2
学部科目	
学部基礎科目	
入門演習	2
会計入門	2
簿記入門	2
統計学	4
国民経済計算論	2
西洋経済史	4
日本経済史	4
経済学史	4
社会思想史	4
産業構造論	4
学部発展科目	
社会保障論	4
労使関係論	4
農業経済論	4
地域システム	4
ジェンダーと労働Ⅰ	2
ジェンダーと労働Ⅱ	2
流通システムⅠ	2
流通システムⅡ	2

経営戦略論Ⅰ	2
経営戦略論Ⅱ	2
経営組織論Ⅰ	2
経営組織論Ⅱ	2
アジア経営論	2
システムデザイン	4
国際経営論Ⅰ	2
国際経営論Ⅱ	2
ICT応用演習	4
証券市場論	2
生産システムⅠ	2
生産システムⅡ	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
先端産業論	2
ベンチャー起業論	2
社会福祉論	4
中小企業論	4
経済統計	4
応用統計	4
演習１	4
演習２	4
演習３	6
自由選択科目	
行政	
行政学	4
地方自治論	2
法律	
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
民法Ⅰa	2
民法Ⅰb	2
商法Ⅰa	2
商法Ⅰb	2
行政法Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
商法Ⅱa	2
商法Ⅱb	2
国際法Ⅰ	2
国際法Ⅱ	2
関連科目	
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2
総合講座Ⅳ	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1

グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2
インターンシップ	4
特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習Ａ(1)	2
AI・データサイエンス演習Ａ(2)	2
AI・データサイエンス演習Ｂ(1)	2
AI・データサイエンス演習Ｂ(2)	2
AI・データサイエンス演習Ｃ(1)	2
AI・データサイエンス演習Ｃ(2)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	

Ⅰ系	
英語１ａ	1
英語１ｂ	1
英語２ａ	1
英語２ｂ	1
ドイツ語１ａ	1
ドイツ語１ｂ	1
ドイツ語２ａ	1
ドイツ語２ｂ	1
フランス語１ａ	1
フランス語１ｂ	1
フランス語２ａ	1
フランス語２ｂ	1
中国語１ａ	1
中国語１ｂ	1
中国語２ａ	1
中国語２ｂ	1
スペイン語１ａ	1
スペイン語１ｂ	1
スペイン語２ａ	1
スペイン語２ｂ	1
朝鮮語１ａ	1
朝鮮語１ｂ	1
朝鮮語２ａ	1
朝鮮語２ｂ	1
英語３ａ	1
英語３ｂ	1
英語４ａ	1
英語４ｂ	1
ドイツ語３ａ	1
ドイツ語３ｂ	1
ドイツ語４ａ	1
ドイツ語４ｂ	1
フランス語３ａ	1
フランス語３ｂ	1
フランス語４ａ	1
フランス語４ｂ	1
中国語３ａ	1
中国語３ｂ	1
中国語４ａ	1
中国語４ｂ	1
スペイン語３ａ	1
スペイン語３ｂ	1
スペイン語４ａ	1
スペイン語４ｂ	1
朝鮮語３ａ	1
朝鮮語３ｂ	1
朝鮮語４ａ	1
朝鮮語４ｂ	1
Ⅱ系	

オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1
特設英語１ａ	1
特設英語１ｂ	1
特設英語２ａ	1
特設英語２ｂ	1
特設中国語１ａ	1
特設中国語１ｂ	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	1
特設ドイツ語１ａ	1
特設ドイツ語１ｂ	1
特設ドイツ語２ａ	1
特設ドイツ語２ｂ	1
特設フランス語１ａ	1
特設フランス語１ｂ	1
特設フランス語２ａ	1
特設フランス語２ｂ	1
特設中国語２ａ	1
特設中国語２ｂ	1
特設スペイン語１ａ	1
特設スペイン語１ｂ	1
特設スペイン語２ａ	1
特設スペイン語２ｂ	1
Ⅲ系	
上級英語１	2
上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2

上級英語６	2
上級ドイツ語１ａ	1
上級ドイツ語１ｂ	1
上級ドイツ語２ａ	1
上級ドイツ語２ｂ	1
上級フランス語１ａ	1
上級フランス語１ｂ	1
上級フランス語２ａ	1
上級フランス語２ｂ	1
上級中国語１ａ	1
上級中国語１ｂ	1
上級中国語２ａ	1
上級中国語２ｂ	1
上級スペイン語１ａ	1
上級スペイン語１ｂ	1
上級スペイン語２ａ	1
上級スペイン語２ｂ	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰａ	1
健康・スポーツ実習Ⅰｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅱａ	1
健康・スポーツ実習Ⅱｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅲａ	2
健康・スポーツ実習Ⅲｂ	2
総合教育科目	
基本科目	
人文科学	
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4
哲学概論	4
日本史概論	4
アジア史概論	4
欧米史概論	4
心理学概論	4
社会科学	
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
政治学概論	4
社会学概論	4
法学概論	4
社会人類学概論	4
自然科学	
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
地球科学概論	4
生命科学概論	4
微分積分Ⅰ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅰ	2

線形代数Ⅱ	2
確率・統計Ⅰ	2
確率・統計Ⅱ	2
倫理学	2
日本史	2
アジア史	2
欧米史	2
心理学	2
文学A	2
文学B	2
政治学	2
社会学	2
法学	2
社会人類学	2
人権論	2
地球科学	2
生命科学	2
物理科学	2
地球環境論	2
地誌学	2
国際教養A	2
国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4
教職科目	
日本史	2
外国史	2
人文地理学	2
自然地理学	2
地誌学	2
社会科・地理歴史科教育法１	2
社会科・地理歴史科教育法２	2
社会科・公民科教育法１	2
社会科・公民科教育法２	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
商業科教育法１	2
商業科教育法２	2
大学院科目	
上級ミクロ経済学Ⅰ	2
上級ミクロ経済学Ⅱ	2

上級マクロ経済学Ⅰ	2
上級マクロ経済学Ⅱ	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、124単位とする。

イ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　68単位を必修とする。ただし、卒業に必要な単位数に含めることができるのは122単位（外国人留学生については、120単位）を限度とする。

（２）　「経済入門」、「基礎ミクロ経済学」、「統計リテラシー」、「基礎マクロ経済学」を必修とする。

（３）　「経済政策論」から「中級マクロ経済学」までの授業科目の中から20単位、「環境経済学」から「国際開発論」までの授業科目の中から４単位、学科発展科目から12単位、学部発展科目から12単位を必修とする。

（４）　「会計入門」から「産業構造論」までの授業科目の中から８単位を必修とする。ただし、「西洋経済史」「日本経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の８単位に含めることができるのは４単位とする。

（５）　自由選択科目には、大学院科目から修得した単位を含める。

（６）「キャリア・デザイン・ワークショップ」「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位を必修とする。

（２）　英語６単位、Ⅰ系からその他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ⅰb」までを必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

経済学部社会経済学科

一　授業科目及び単位数

授業科目	単位数
専門教育科目	
学科科目	
学科導入科目	
経済入門	2
現代経済学入門	4
基礎数学	2
統計リテラシー	2
マルクス経済学	4
学科基礎科目	
独占資本主義論	4
社会政策	4
経営学	4
人口分析	4
財政学	4
金融論	4
学科発展科目	
財務会計論	4
計量経済学	4
ICTスキル	4
管理会計論	4
社会保障論	4
労使関係論	4
農業経済論	4
地域システム	4
地方財政論	4
社会福祉論	4
金融制度論	4
中小企業論	4
経済統計	4
応用統計	4
学科関連科目	
入門ICT演習	2
国際関係論Ⅰ	2
国際関係論Ⅱ	2
データ分析演習	2
ジェンダーと労働Ⅰ	2
ジェンダーと労働Ⅱ	2
流通システムⅠ	2
流通システムⅡ	2
経営戦略論Ⅰ	2
経営戦略論Ⅱ	2
経営組織論Ⅰ	2
経営組織論Ⅱ	2
アジア経営論	2
システムデザイン	4
国際経営論Ⅰ	2

国際経営論Ⅱ	2
ICT応用演習	4
証券市場論	2
生産システムⅠ	2
生産システムⅡ	2
監査論Ⅰ	2
監査論Ⅱ	2
税務会計論Ⅰ	2
税務会計論Ⅱ	2
先端産業論	2
ベンチャー起業論	2
学部科目	
学部基礎科目	
入門演習	2
会計入門	2
西洋経済史	4
日本経済史	4
簿記入門	2
経済学史	4
社会思想史	4
統計学	4
情報科学	4
国民経済計算論	2
情報数学	4
産業構造論	4
学部発展科目	
国際経済学	4
公共経済学	4
国際金融論	4
環境経済学	4
公共政策	4
交通経済論	4
国際公共政策	4
世界経済論	4
国際経済政策	4
労働経済学	4
経済変動論	2
数理経済学	2
アジア経済論Ⅰ	2
アジア経済論Ⅱ	2
産業組織論Ⅰ	2
産業組織論Ⅱ	2
費用便益分析	2
開発と環境	2
環境政策Ⅰ	2
環境政策Ⅱ	2
健康経済学Ⅰ	2
健康経済学Ⅱ	2
租税論	2
国際投資論	2

日本経済論Ⅰ	2
日本経済論Ⅱ	2
社会と環境	2
企業と環境	2
開発金融論	2
環境リスク論	2
中国経済論	2
Economics SeminarⅡ	2
EU経済論Ⅰ	2
EU経済論Ⅱ	2
米国経済論Ⅰ	2
米国経済論Ⅱ	2
多国籍企業論	2
公益企業論	4
環境会計論	4
外国為替論	4
演習１	4
演習２	4
演習３	6
自由選択科目	
行政	
行政学	4
地方自治論	2
法律	
憲法Ⅰ	2
憲法Ⅱ	2
民法Ⅰａ	2
民法Ⅰｂ	2
商法Ⅰａ	2
商法Ⅰｂ	2
行政法Ⅰ	2
行政法Ⅱ	2
商法Ⅱａ	2
商法Ⅱｂ	2
国際法Ⅰ	2
国際法Ⅱ	2
関連科目	
総合講座Ⅰ	4
総合講座Ⅱ	4
総合講座Ⅲ	2
総合講座Ⅳ	2
キャリアデザイン	2
ビジネス・プロジェクト講座	2
グローカル・フィールド・スタディーズⅠ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅡ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅢ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅣ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅤ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅥ	1
グローカル・フィールド・スタディーズⅦ	1

グローカル・フィールド・スタディーズⅧ	1
特別講義Ⅰ	2
特別講義Ⅱ	2
特別講義Ⅲ	2
特別講義Ⅳ	2
特別講義Ⅴ	2
特別講義Ⅵ	2
海外インターンシップ演習	2
海外インターンシップ実習	2
インターンシップ	4
特殊講義Ⅰ	2
特殊講義Ⅱ	2
特殊講義Ⅲ	2
特殊講義Ⅳ	2
学術情報の探索・活用法	2
学部間共通科目	
ＦＬＰ演習Ａ	4
ＦＬＰ演習Ｂ	4
ＦＬＰ演習Ｃ	4
グローバル・テュートリアル	2
専門インターンシップ	1
グローバル総合講座	2
グローバル集中講義	1
グローバル遠隔ラーニング	2
グローバルアクティブラーニング	1
短期留学プログラムⅠ	4
短期留学プログラムⅡ	4
短期留学プログラムⅢ	2
短期留学プログラムⅣ	2
AI・データサイエンスと現代社会	2
AI・データサイエンス総合	2
AI・データサイエンスツールⅠ	2
AI・データサイエンスツールⅡ	2
AI・データサイエンスツールⅢ	2
AI・データサイエンスツールⅣ	2
AI・データサイエンス演習A(1)	2
AI・データサイエンス演習A(2)	2
AI・データサイエンス演習B(1)	2
AI・データサイエンス演習B(2)	2
AI・データサイエンス演習C(1)	2
AI・データサイエンス演習C(2)	2
大学生のための論文作成の技法（基礎編）	2
大学生のための論文作成の技法（発展編）	2
外国語科目	
Ⅰ系	
英語１ａ	1
英語１ｂ	1

英語２ａ	1
英語２ｂ	1
ドイツ語１ａ	1
ドイツ語１ｂ	1
ドイツ語２ａ	1
ドイツ語２ｂ	1
フランス語１ａ	1
フランス語１ｂ	1
フランス語２ａ	1
フランス語２ｂ	1
中国語１ａ	1
中国語１ｂ	1
中国語２ａ	1
中国語２ｂ	1
スペイン語１ａ	1
スペイン語１ｂ	1
スペイン語２ａ	1
スペイン語２ｂ	1
朝鮮語１ａ	1
朝鮮語１ｂ	1
朝鮮語２ａ	1
朝鮮語２ｂ	1
英語３ａ	1
英語３ｂ	1
英語４ａ	1
英語４ｂ	1
ドイツ語３ａ	1
ドイツ語３ｂ	1
ドイツ語４ａ	1
ドイツ語４ｂ	1
フランス語３ａ	1
フランス語３ｂ	1
フランス語４ａ	1
フランス語４ｂ	1
中国語３ａ	1
中国語３ｂ	1
中国語４ａ	1
中国語４ｂ	1
スペイン語３ａ	1
スペイン語３ｂ	1
スペイン語４ａ	1
スペイン語４ｂ	1
朝鮮語３ａ	1
朝鮮語３ｂ	1
朝鮮語４ａ	1
朝鮮語４ｂ	1
Ⅱ系	
オーラル・コミュニケーション（英語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（英語２ａ）	1

オーラル・コミュニケーション（英語２ｂ）	1
特設英語１ａ	1
特設英語１ｂ	1
特設英語２ａ	1
特設英語２ｂ	1
特設中国語１ａ	1
特設中国語１ｂ	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（ドイツ語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（フランス語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（中国語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（スペイン語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語１ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ａ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	1
オーラル・コミュニケーション（朝鮮語２ｂ）	1
特設ドイツ語１ａ	1
特設ドイツ語１ｂ	1
特設ドイツ語２ａ	1
特設ドイツ語２ｂ	1
特設フランス語１ａ	1
特設フランス語１ｂ	1
特設フランス語２ａ	1
特設フランス語２ｂ	1
特設中国語２ａ	1
特設中国語２ｂ	1
特設スペイン語１ａ	1
特設スペイン語１ｂ	1
特設スペイン語２ａ	1
特設スペイン語２ｂ	1
Ⅲ系	
上級英語１	2
上級英語２	2
上級英語３	2
上級英語４	2
上級英語５	2
上級英語６	2
上級ドイツ語１ａ	1
上級ドイツ語１ｂ	1

上級ドイツ語２ａ	1
上級ドイツ語２ｂ	1
上級フランス語１ａ	1
上級フランス語１ｂ	1
上級フランス語２ａ	1
上級フランス語２ｂ	1
上級中国語１ａ	1
上級中国語１ｂ	1
上級中国語２ａ	1
上級中国語２ｂ	1
上級スペイン語１ａ	1
上級スペイン語１ｂ	1
上級スペイン語２ａ	1
上級スペイン語２ｂ	1
健康・スポーツ科目	
健康・スポーツ科学論	2
健康・スポーツ実習Ⅰａ	1
健康・スポーツ実習Ⅰｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅱａ	1
健康・スポーツ実習Ⅱｂ	1
健康・スポーツ実習Ⅲａ	2
健康・スポーツ実習Ⅲｂ	2
総合教育科目	
基本科目	
人文科学	
総合教育科目演習Ⅰ（人文）	4
哲学概論	4
日本史概論	4
アジア史概論	4
欧米史概論	4
心理学概論	4
社会科学	
総合教育科目演習Ⅰ（社会）	4
政治学概論	4
社会学概論	4
法学概論	4
社会人類学概論	4
自然科学	
総合教育科目演習Ⅰ（自然）	4
地球科学概論	4
生命科学概論	4
微分積分Ⅰ	2
微分積分Ⅱ	2
線形代数Ⅰ	2
線形代数Ⅱ	2
確率・統計Ⅰ	2
確率・統計Ⅱ	2
倫理学	2
日本史	2
アジア史	2

欧米史	2
心理学	2
文学A	2
文学B	2
政治学	2
社会学	2
法学	2
社会人類学	2
人権論	2
地球科学	2
生命科学	2
物理科学	2
地球環境論	2
地誌学	2
国際教養A	2
国際教養B	2
国際教養C	2
国際教養D	2
国際教養E	2
言語と文化A	2
言語と文化B	2
言語と文化C	2
言語と文化D	2
言語と文化E	2
総合教育科目演習Ⅱ（人文）	4
総合教育科目演習Ⅱ（社会）	4
総合教育科目演習Ⅱ（自然）	4
教職科目	
外国史	2
人文地理学	2
自然地理学	2
社会科・地理歴史科教育法１	2
社会科・地理歴史科教育法２	2
社会科・公民科教育法１	2
社会科・公民科教育法２	2
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2
商業科教育法１	2
商業科教育法２	2
大学院科目	
ポリティカルエコノミーⅠ	2
ポリティカルエコノミーⅡ	2
経済学史概論	2
経済史概論	2

二　履修方法

ア　卒業に必要な単位数は、124単位とする。

イ　専門教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　64単位を必修とする。ただし、卒業に必要な単位数に含めることができるのは122単位（外国人留学生については、120単位）を限度とする。

（２）　「経済入門」、「現代経済学入門」、「統計リテラシー」、「マルクス経済学」を必修とする。

（３）　学科基礎科目から12単位、学科発展科目から12単位、「国際経済学」から「環境経済学」までの授業科目の中から４単位、「公共政策」から「演習３」までの授業科目の中から12単位を必修とする。

（４）　「会計入門」から「産業構造論」までの授業科目の中から12単位を必修とする。ただし、「西洋経済史」「日本経済史」の２科目とも単位を修得した場合には、必修の12単位に含めることができるのは４単位とする。

（５）　自由選択科目には、大学院科目から修得した単位を含める。

（６）　「キャリア・デザイン・ワークショップ」「学術情報の探索・活用法」は卒業に必要な単位数に含めない。

ウ　外国語科目については、以下のとおりとする。

（１）　14単位を必修とする。

（２）　英語６単位、Ｉ系からその他の外国語１カ国語６単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは28単位を限度とする。

（４）　外国人留学生の履修方法は別表第二の六による。

エ　健康・スポーツ科目については、以下のとおりとする。

（１）　「健康・スポーツ科学論」から「健康・スポーツ実習Ｉb」までを必修とする。

（２）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは７単位を限度とする。

オ　総合教育科目については、以下のとおりとする。

（１）　24単位を必修とする。

（２）　基本科目のうち、人文科学から４単位、社会科学から４単位、自然科学から４単位を必修とする。

（３）　卒業に必要な単位数に含めることができるのは36単位を限度とする。

カ　教職科目は卒業に必要な単位数に含めない。

キ　この学則に定めるもののほか、履修方法に関して必要な事項は別に定める。

別紙５（現行）

別表第三（第三十六条第二項関係）

学部	学科	免許状の種類及び教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	国際企業関係法学科	社会	公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
	経済情報システム学科	社会	公民・商業
	国際経済学科		
	公共・環境経済学科	社会	公民
商学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業
	会計学科	社会	公民・商業
	国際マーケティング学科		商業
	金融学科		商業
基幹理工学部	数学科	数学	数学
	物理学科	数学・理科	数学・理科
	応用化学科	理科	理科
	生命科学科	理科	理科
社会理工学部	ビジネスデータサイエンス学科	数学	数学
先進理工学部	精密機械工学科	数学	数学・工業
	電気電子情報通信工学科	数学	数学・工業・情報
	情報工学科	数学	数学・情報
文学部	人文社会学科	国語	国語
		英語	英語
		ドイツ語	ドイツ語
		フランス語	フランス語
		中国語	中国語
		社会	地理歴史
			公民
総合政策学部	政策科学科	社会	公民
	国際政策文化学科	社会	公民

別紙６（改正案）

別表第三（第三十六条第二項関係）

学部	学科	免許状の種類及び教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	国際企業関係法学科	社会	公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
	社会経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
商学部	経営学科	社会	地理歴史・公民・商業
	会計学科	社会	公民・商業
	国際マーケティング学科		商業
	金融学科		商業
基幹理工学部	数学科	数学	数学
	物理学科	数学・理科	数学・理科
	応用化学科	理科	理科
	生命科学科	理科	理科
社会理工学部	ビジネスデータサイエンス学科	数学	数学
先進理工学部	精密機械工学科	数学	数学・工業
	電気電子情報通信工学科	数学	数学・工業・情報
	情報工学科	数学	数学・情報
文学部	人文社会学科	国語	国語
		英語	英語
		ドイツ語	ドイツ語
		フランス語	フランス語
		中国語	中国語
		社会	地理歴史
			公民
総合政策学部	政策科学科	社会	公民
	国際政策文化学科	社会	公民

別紙７（現行）

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 経済情報システム学科 国際経済学科 公共・環境経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）

別紙８（改正案）

別表第三の二（第四十五条関係）

学部	学科	専攻分野の名称
法学部	法律学科 国際企業関係法学科 政治学科	学士（法学）
経済学部	経済学科 社会経済学科	学士（経済学）
商学部	経営学科 会計学科 国際マーケティング学科 金融学科	学士（商学）
基幹理工学部	数学科 物理学科	学士（理学）
	応用化学科	学士（工学）
	生命科学科	学士（理学）
社会理工学部	都市環境学科 ビジネスデータサイエンス学科 人間総合理工学科	学士（工学）
先進理工学部	精密機械工学科 電気電子情報通信工学科 情報工学科	学士（工学）
文学部	人文社会学科	学士（文学） 学士（史学） 学士（哲学） 学士（社会学） 学士（教育学）
総合政策学部	政策科学科 国際政策文化学科	学士（総合政策）
国際経営学部	国際経営学科	学士（国際経営学）
国際情報学部	国際情報学科	学士（国際情報）

中央大学教授会規程

規程第二百九十七号

（趣旨）

第一条　この規程は、中央大学学則第十四条に基づき、教授会の運営について、必要な事項を定める。

（招集）

第二条　教授会は、学部長（理工学術院長を含む。以下同じ。）が招集する。

２　学部長は、学長または教授会員の三分の一以上の者から、会議に付すべき議題を示して会議の招集を請求された場合は、すみやかに教授会を招集しなければならない。

３　会議の議長は、学部長とし、学部長に事故があるときは、出席教授会員の互選によつて議長を決定する。

（学長の出席）

第三条　学長は、教授会に出席して意見を述べることができる。

（開会）

第四条　教授会は、教授会員の過半数の出席がなければ開くことができない。

（議決）

第五条　教授会の議事について議決する場合には、出席教授会員の過半数の同意を要する。

（連合教授会）

第六条　連合教授会は、関係学部長が共同して招集する。

２　会議の議長は、学長とし、学長に事故があるときは、関係学部長の互選によつて議長を決定する。

（改正）

第七条　この規程の改正は、教授会の議を経なければならない。

（細則）

第八条　この規程に特別の定めがあるものを除くほか、この規程の実施のため必要な細目は、別に定める。

附　則

この規程は、昭和五十年四月一日から施行する。

附　則（規程第三千百三十九号）

この規程は、令和八年四月一日から施行する。